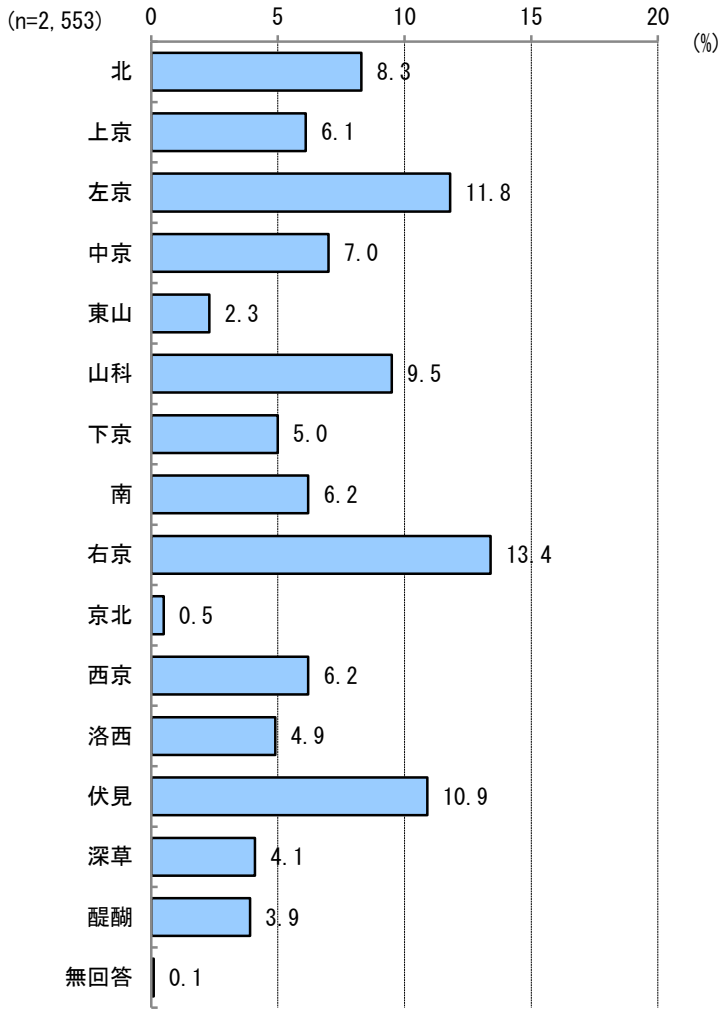
第２章　高齢者調査の結果

1　回答者の基本属性

（1）行政区

【図1-1　行政区】

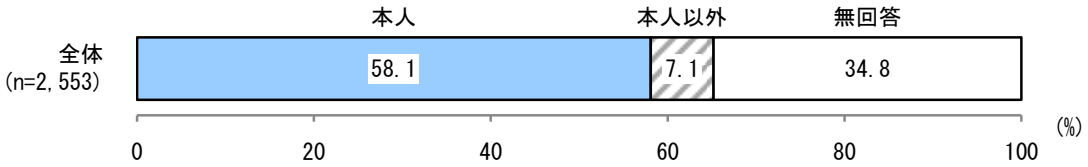


回答者が住む行政区は、「右京」が13.4%で最も多く、次いで「左京」が11.8%、「伏見」が10.9%、「山科」が9.5%となっています。（図1-1）

（2）調査票の記入者

Q　調査票を記入された方をお教えください。＜あてはまる方に○を付けてください。＞

【図1-2　調査票の記入者】

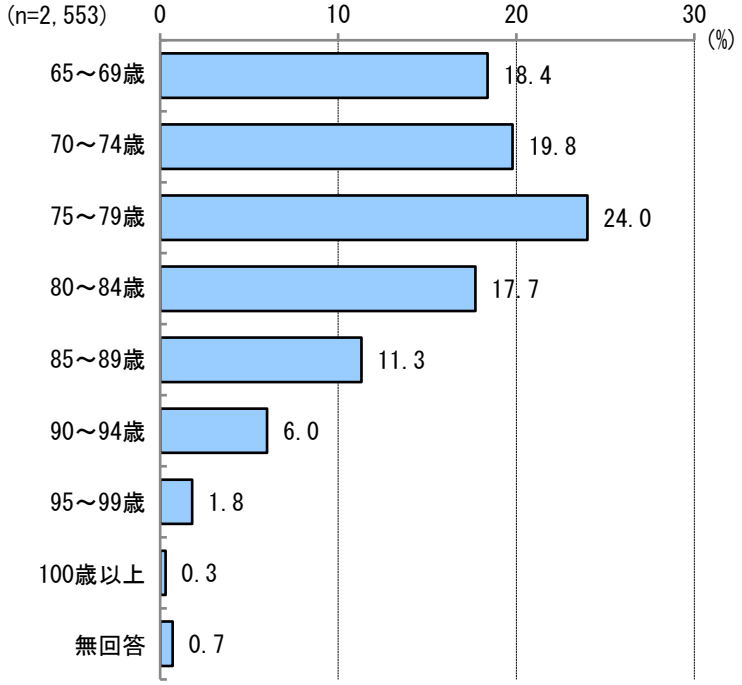


調査票の記入者は、「本人」が58.1%、「本人以外」が7.1%となっています。（図1-2）

（３）年齢

問１．あなた（あて名の御本人。以下の問も同じです。）の年齢をお教えください。<〇は１つ>

【図1-3　年齢】

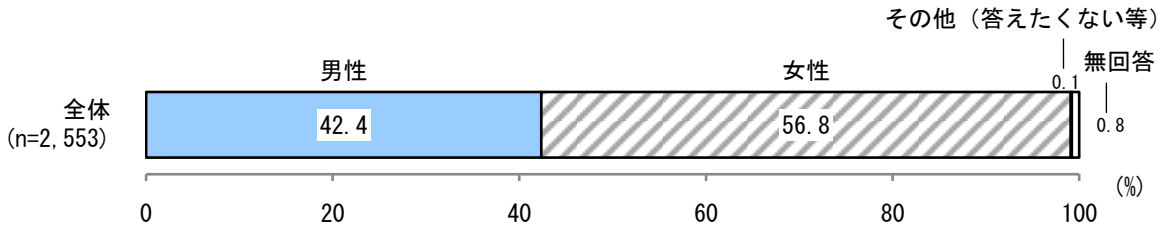


回答者の年齢は、「75～79歳」が24.0%で最も多く、次いで「70～74歳」が19.8%、「65～69歳」が18.4%となっています。（図1-3）

（４）性別

問２．あなたの性別をお教えください。＜〇は１つ＞

【図1-4　性別】

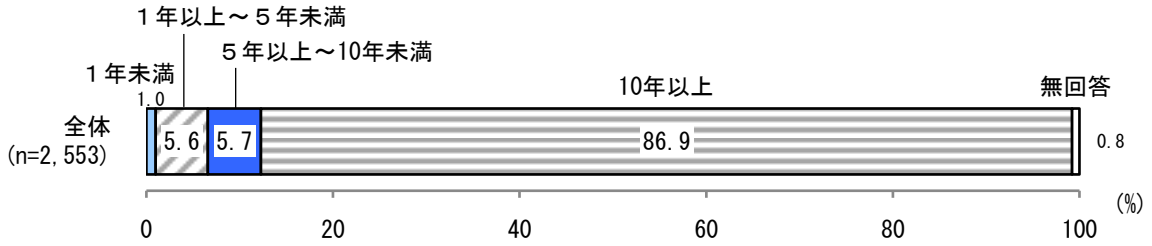


回答者の性別は、「男性」が42.4%、「女性」が56.8%となっています。（図1-4）

（５）居住年数

問３．あなたは現在の地域（学区）に何年お住まいですか。＜○は１つ＞

【図1-5　居住年数】

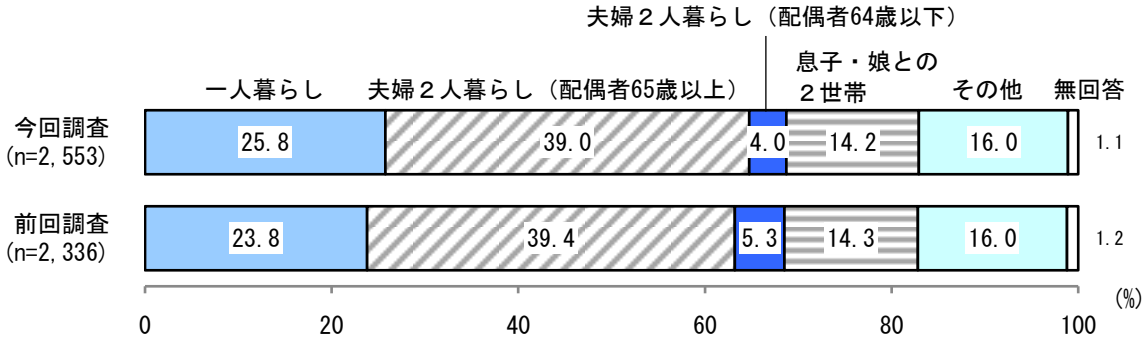


回答者の居住年数は、「10年以上」が86.9%で最も多く、次いで「５年以上～10年未満」が5.7%、「１年以上～５年未満」が5.6%となっています。（図1-5）

（６）家族構成

問４．あなたの家族構成をお教えください。＜○は１つ＞

【図1-6　家族構成】

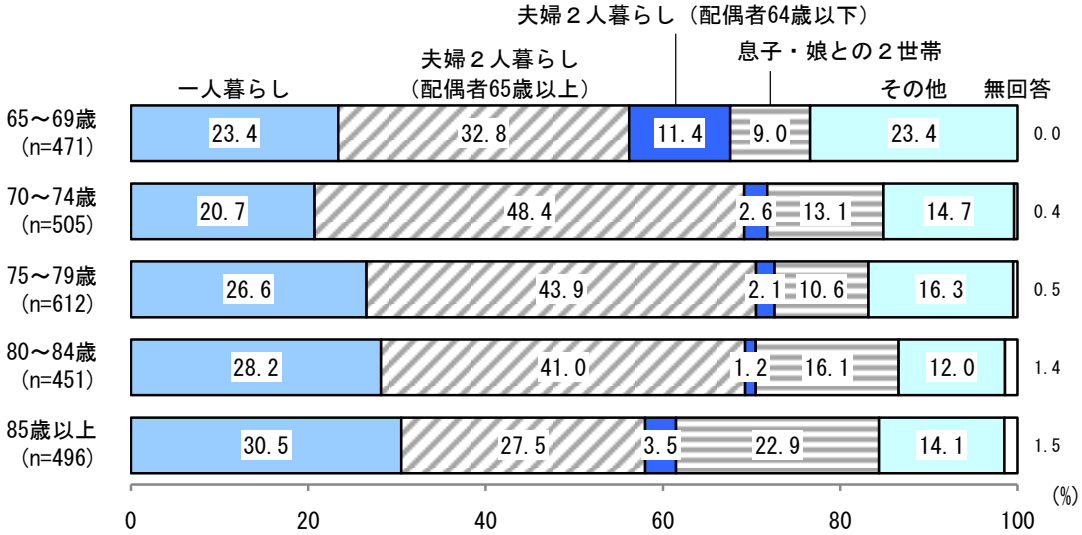


回答者の家族構成は、「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が39.0%で最も多く、次いで「一人暮らし」が25.8%、「息子・娘との２世帯」が14.2%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図1-6）

年齢別でみると、85歳以上では「一人暮らし」（30.5%）が最も多くなっており、「息子・娘との２世帯」（22.9%）が他の年代より高い割合になっています。（図1-6-1）

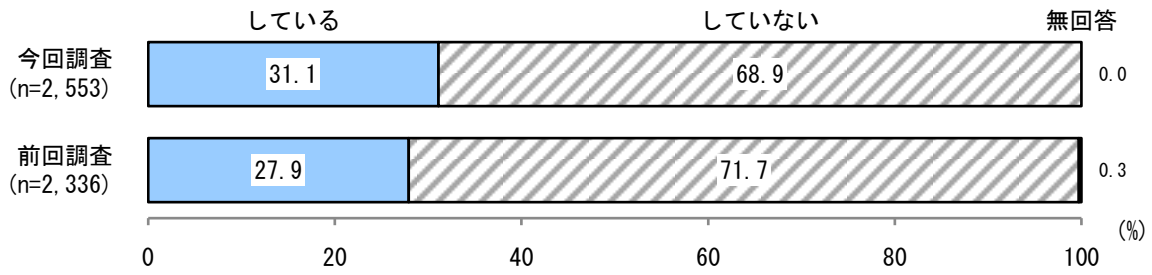
【図1-6-1　年齢別　家族構成】



（７）収入になる仕事の有無

問５．あなたは現在収入になる仕事をしていますか。＜○は１つ＞

【図1-7　仕事の有無】

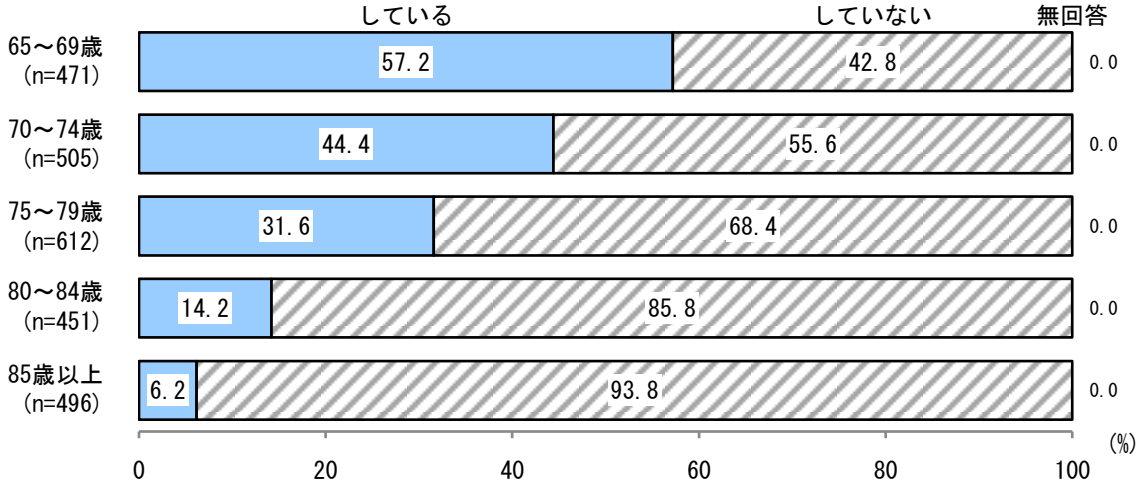


現在収入になる仕事をしているかについては、「している」が31.1%、「していない」が68.9%となっています。

前回調査と比較すると、「している」は3.2ポイント高くなっています。（図1-7）

年齢別でみると、仕事を「している」人の割合は、65～69歳が57.2%で最も高く、高齢になるほど割合が低くなっています。（図1-7-1）

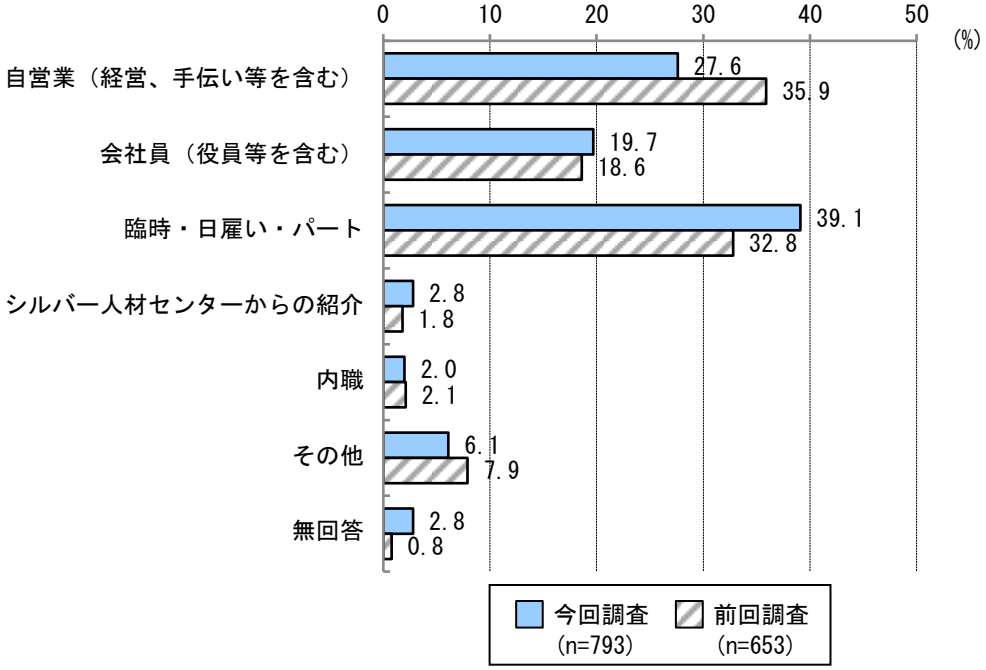
【図1-7-1　年齢別　仕事の有無】



（８）主な就労形態

問５－１．問５で「１．している」と回答した方にお聞きします。
主な就労形態は、次のどれですか。＜○は１つ＞

【図1-8　主な就労形態】

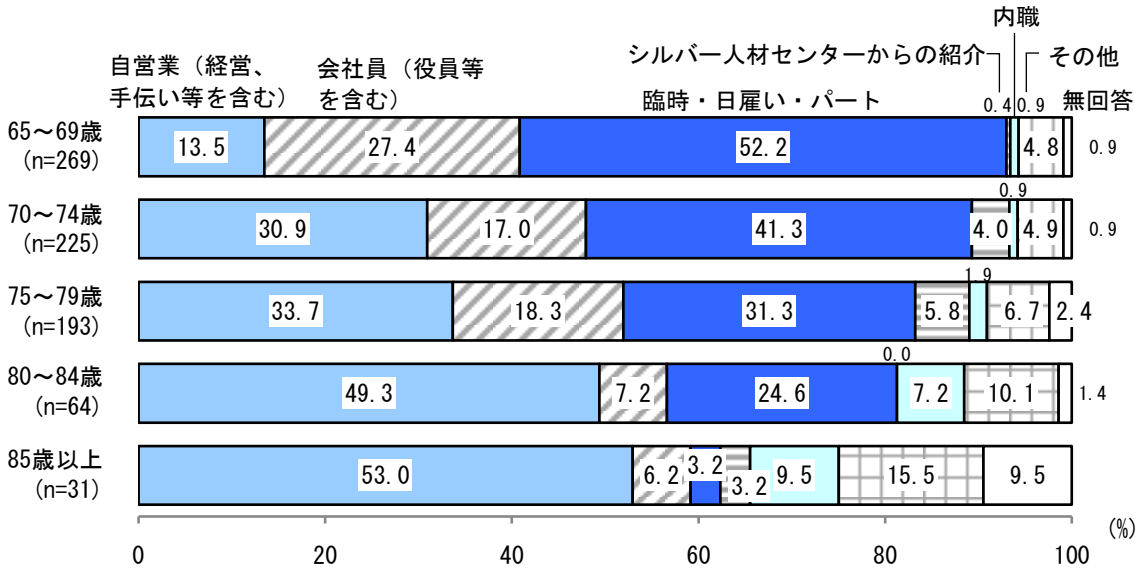


仕事をしていると回答した人に、主な就労形態をたずねたところ、「臨時・日雇い・パート」が39.1%で最も多く、次いで「自営業（経営、手伝い等を含む）」が27.6%、「会社員（役員等を含む）」が19.7%となっています。

前回調査と比較すると、「臨時・日雇い・パート」は6.3ポイント高くなっています。（図1-8）

年齢別でみると、74歳以下では「臨時・日雇い・パート」、75歳以降では「自営業（経営、手伝い等を含む）」が、それぞれ最も多くなっています。（図1-8-1）

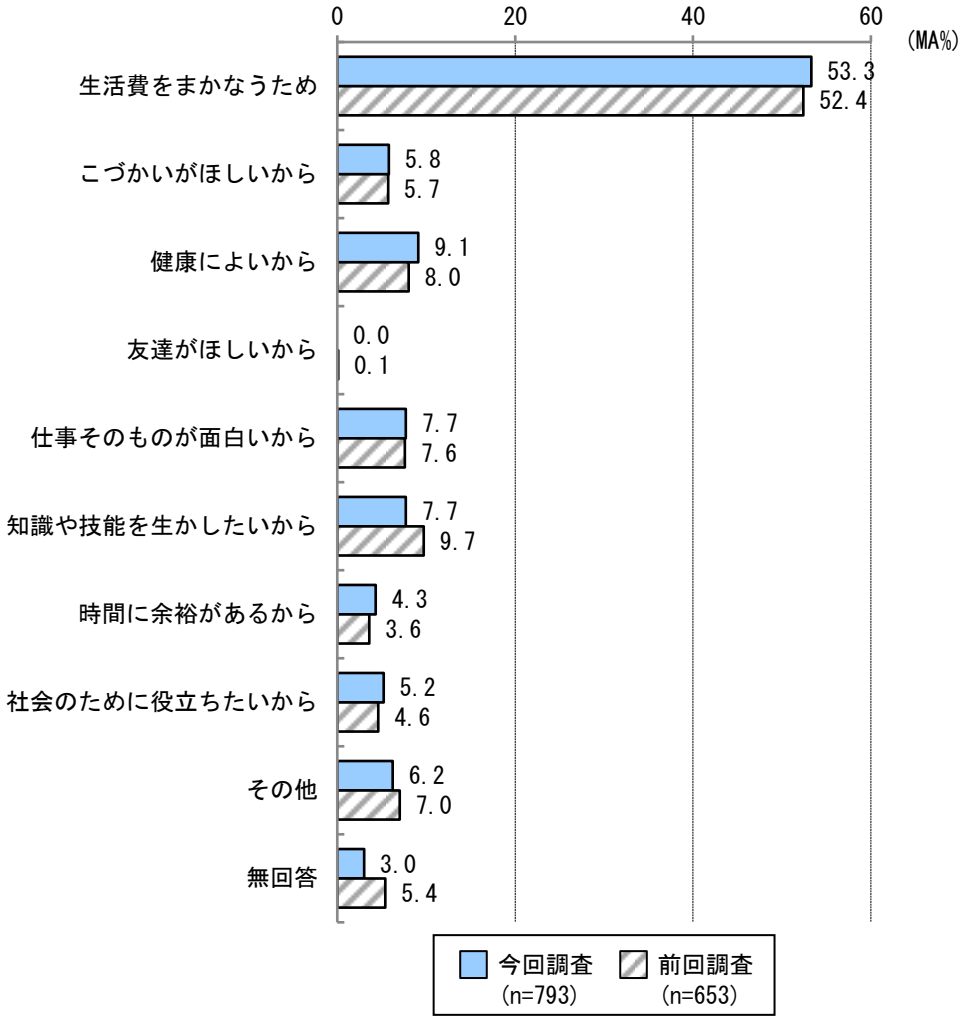
【図1-8-1　年齢別　主な就労形態】



（９）働いている主な理由

問５－２．問５で「１．している」と回答した方にお聞きします。
働いている主な理由は何ですか。＜○は１つ＞

【図1-9　働いている主な理由】



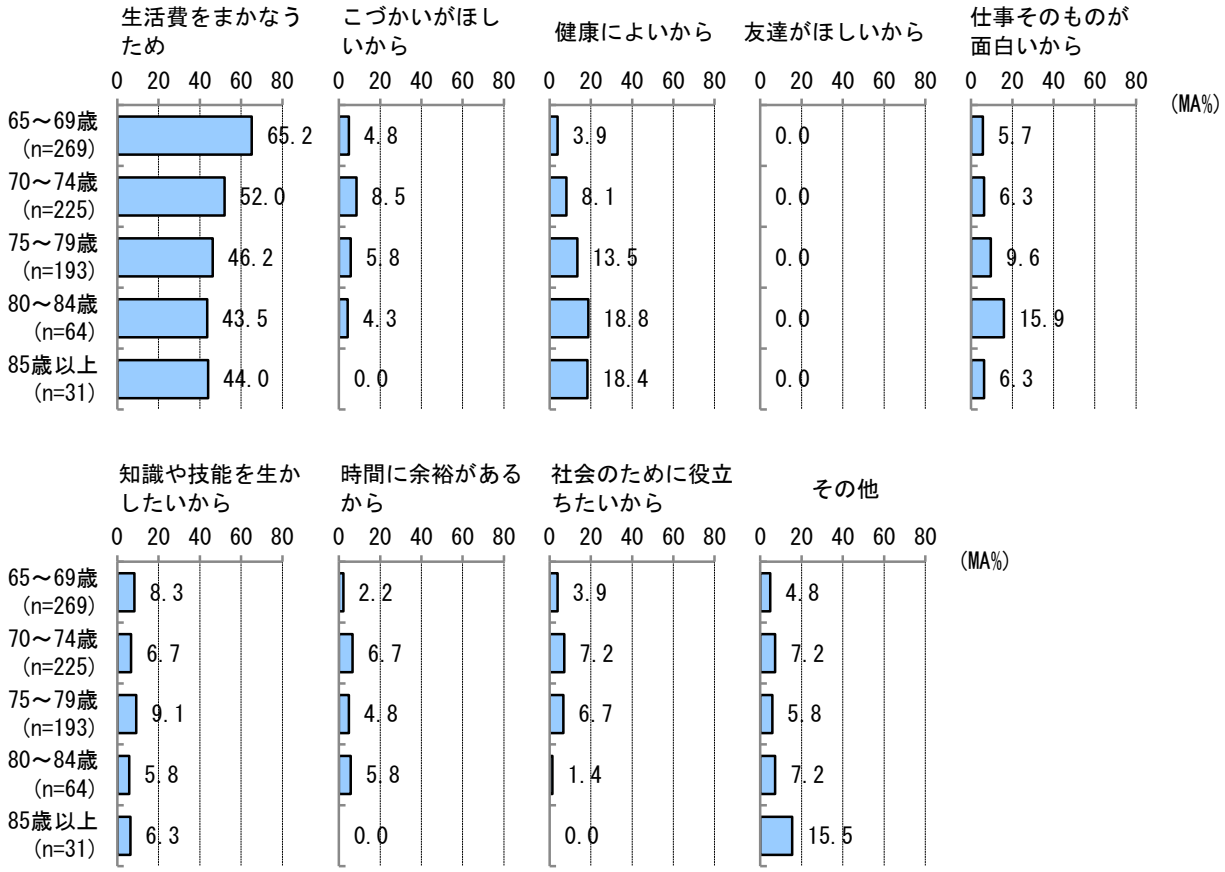
※複数回答をすべて有効としています。

仕事をしていると回答した人に、働いている主な理由をたずねたところ、「生活費をまかなうため」が53.3%で最も多く、次いで「健康によいから」が9.1%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図1-9)

年齢別でみると、いずれの年代も「生活費をまかなうため」が最も多く、高齢になるほど割合が低くなる傾向がみられます。また、「健康によいから」では、高齢になるほど割合が高くなる傾向がみられ、80～84歳（18.8%）が最も高い割合となっています。（図1-9-1）

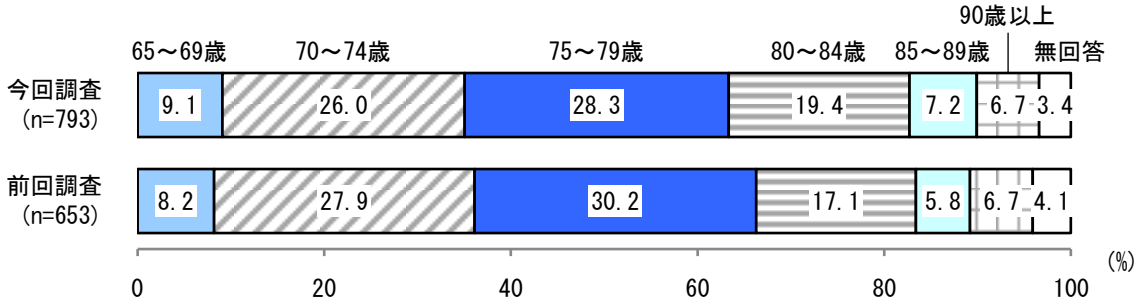
【図1-9-1　年齢別　働いている主な理由】



（10）何歳まで働きたいか

問５－３．問５で「１．している」と回答した方にお聞きします。
何歳まで働きたいですか。＜○は１つ＞

【図1-10　何歳まで働きたいか】

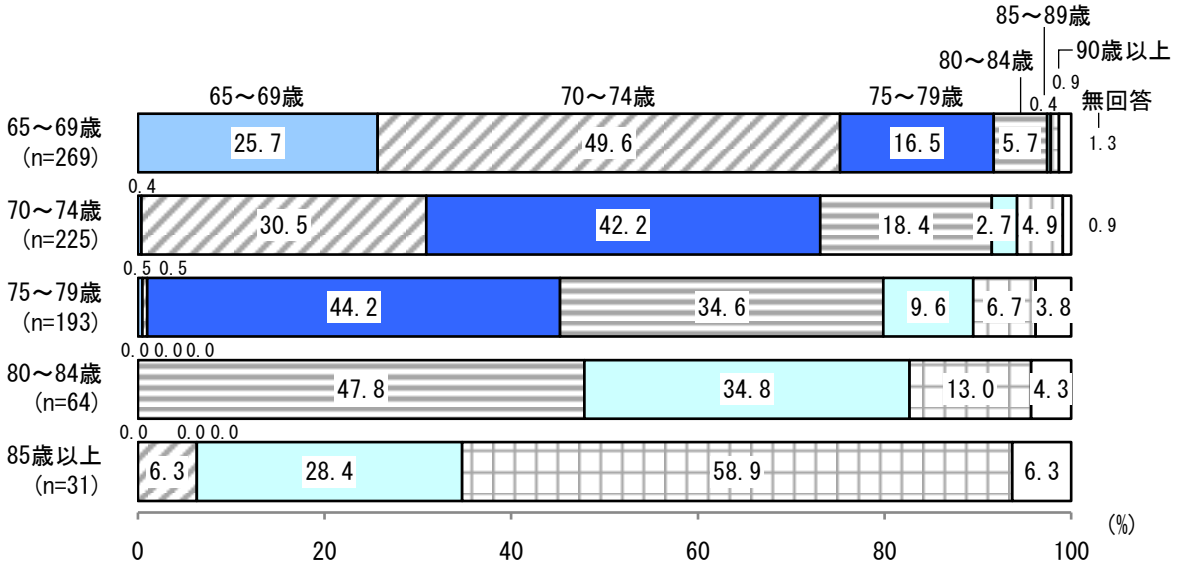


仕事をしていると回答した人に、何歳まで働きたいかたずねたところ、「75～79歳」が28.3%で最も多く、次いで「70～74歳」が26.0%、「80～84歳」が19.4%となっています。

前回調査と比較すると、「80～84歳」が2.3ポイント高くなっています。（図1-10）

年齢別でみると、65～69歳の人は「70～74歳」（49.6%）、70～74歳、75～79歳の人は「75～79歳」が、それぞれ最も多くなっています。（図1-10-1）

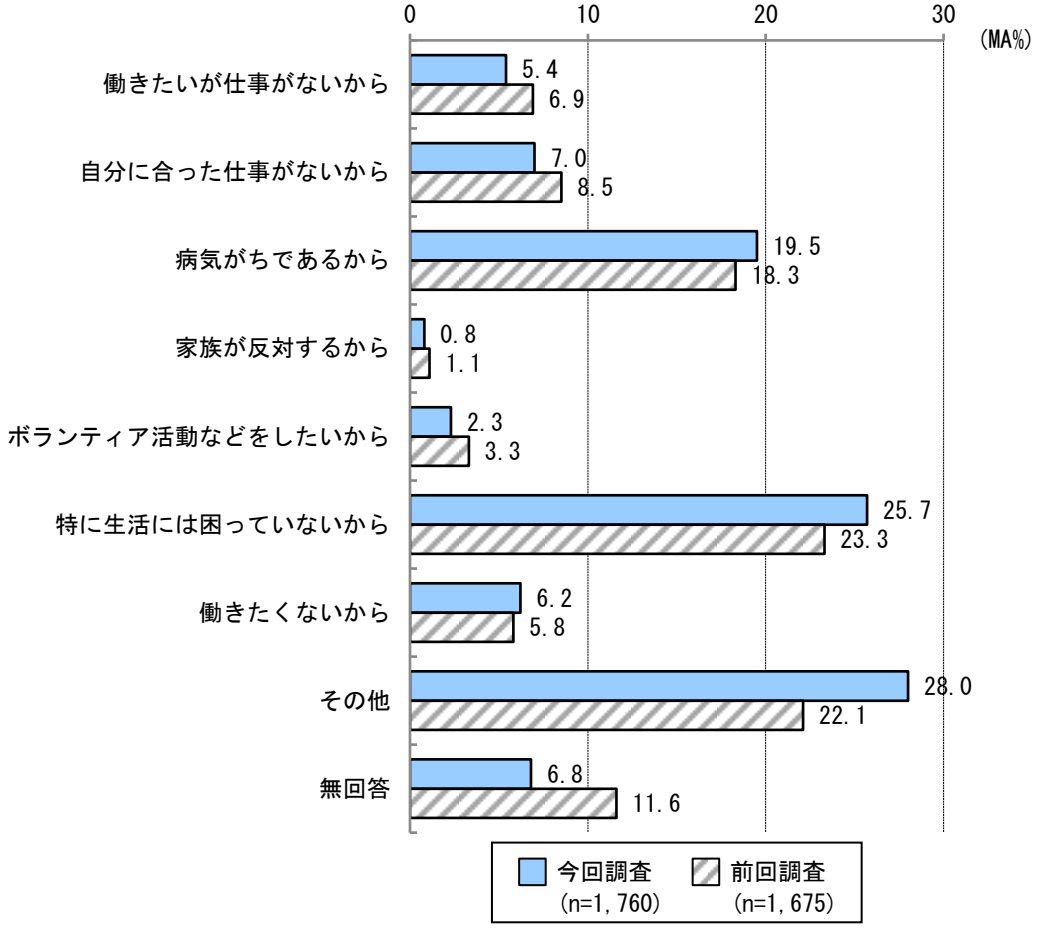
【図1-10-1　年齢別　何歳まで働きたいか】



（11）働いていない理由

問５－４．問５で「２．していない」と回答した方にお聞きします。
その主な理由はなんですか。<○は１つ>

【図1-11　働いていない理由】

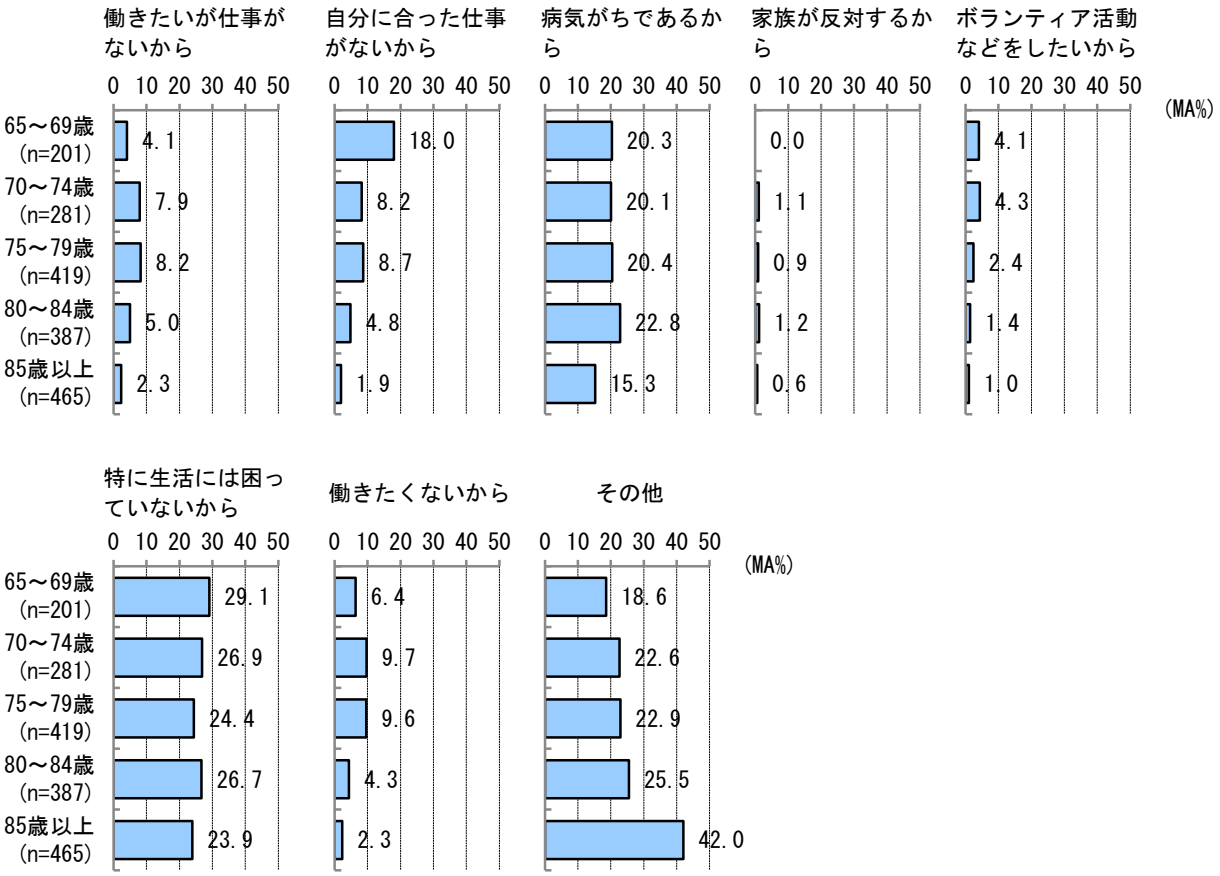


※複数回答をすべて有効としています。

仕事をしていないと回答した人に、働いていない理由をたずねたところ、「特に生活には困っていないから」が25.7%で最も多く、次いで「病気がちであるから」が19.5%となっており、「その他」（28.0%）では「高齢のため」等の理由が多く挙がっています。（図1-11）

年齢別でみると、「自分に合った仕事がないから」は、65～69歳が18.0%で最も高く、「病気がちであるから」では80～84歳が22.8%が最も高くなっています。また、「特に生活には困っていないから」では65～69歳（29.1%）で最も高くなっています。（図1-11-1）

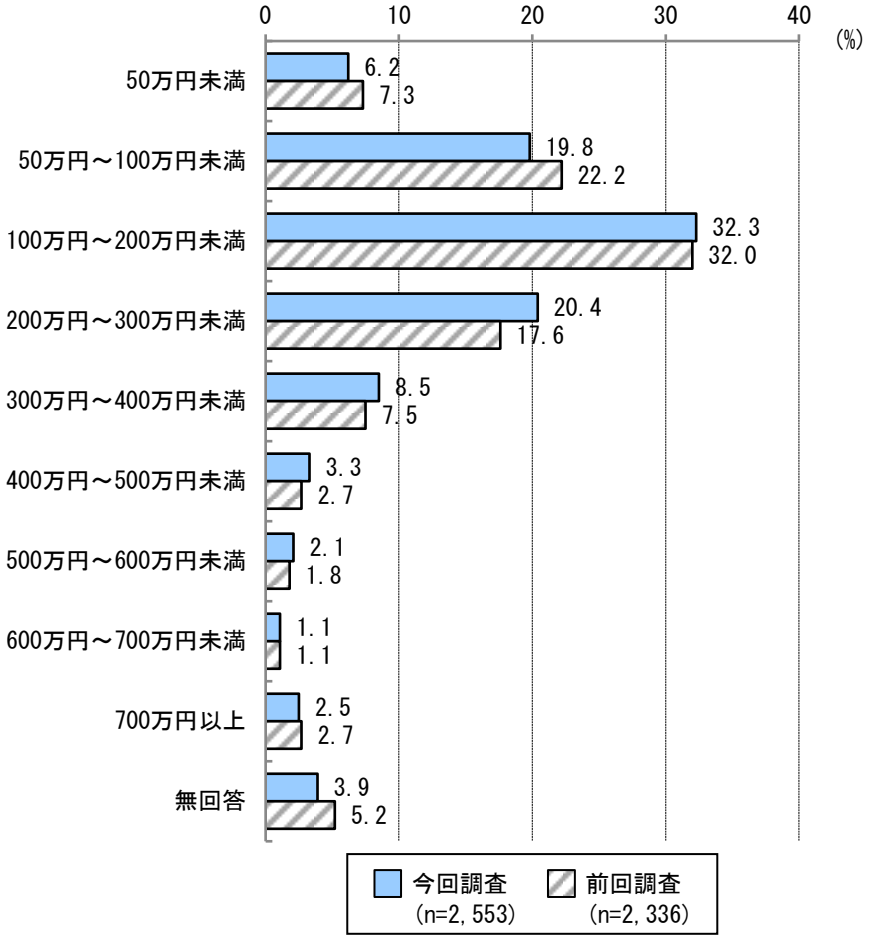
【図1-11-1　年齢別　働いていない理由】



（12）個人の年間総収入

問６．あなたの個人の年間総収入（年金収入を含む。税込。）はどのくらいですか。＜○は１つ＞

【図1-12　個人の年間総収入】



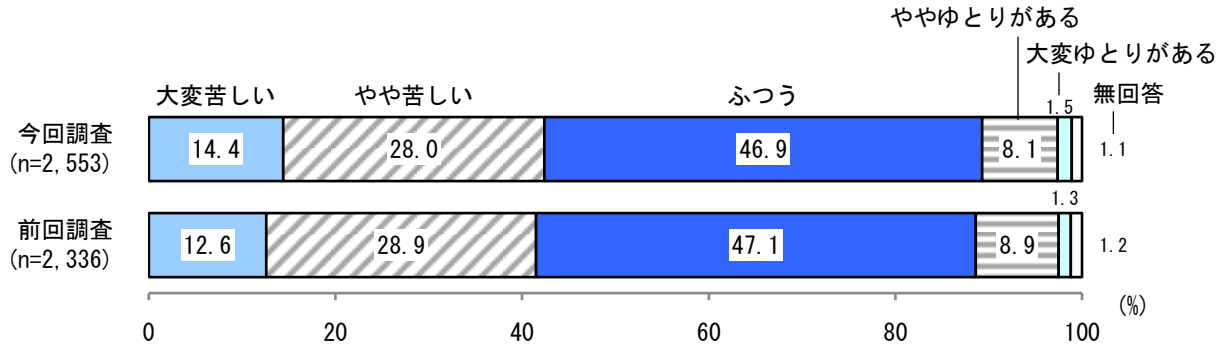
個人の年間総収入については、「100万円～200万円未満」が32.3%で最も多く、次いで「200万円～300万円未満」が20.4%、「50万円～100万円未満」が19.8%となっています。

前回調査と比較すると、「200万円～300万円未満」は2.8ポイント高くなっています。(図1-12)

（13）経済状況

問７．あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。＜○は１つ＞

【図1-13　経済状況】

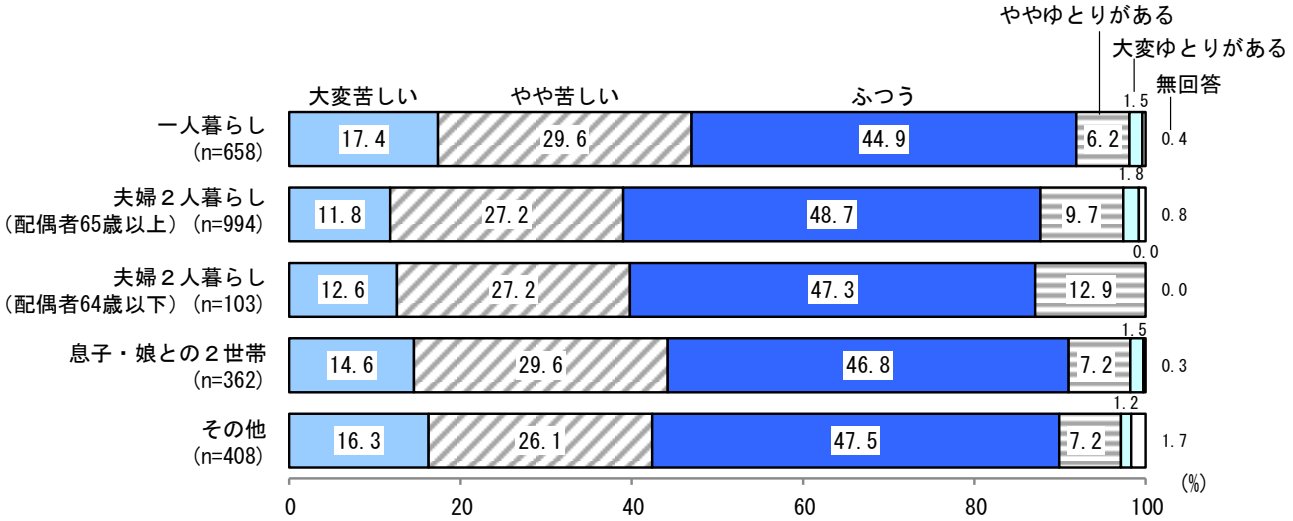


経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が46.9%で最も多い。次いで「やや苦しい」が28.0%、「大変苦しい」が14.4%となっており、両者を合わせた『苦しい』割合は42.4%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図1-13）

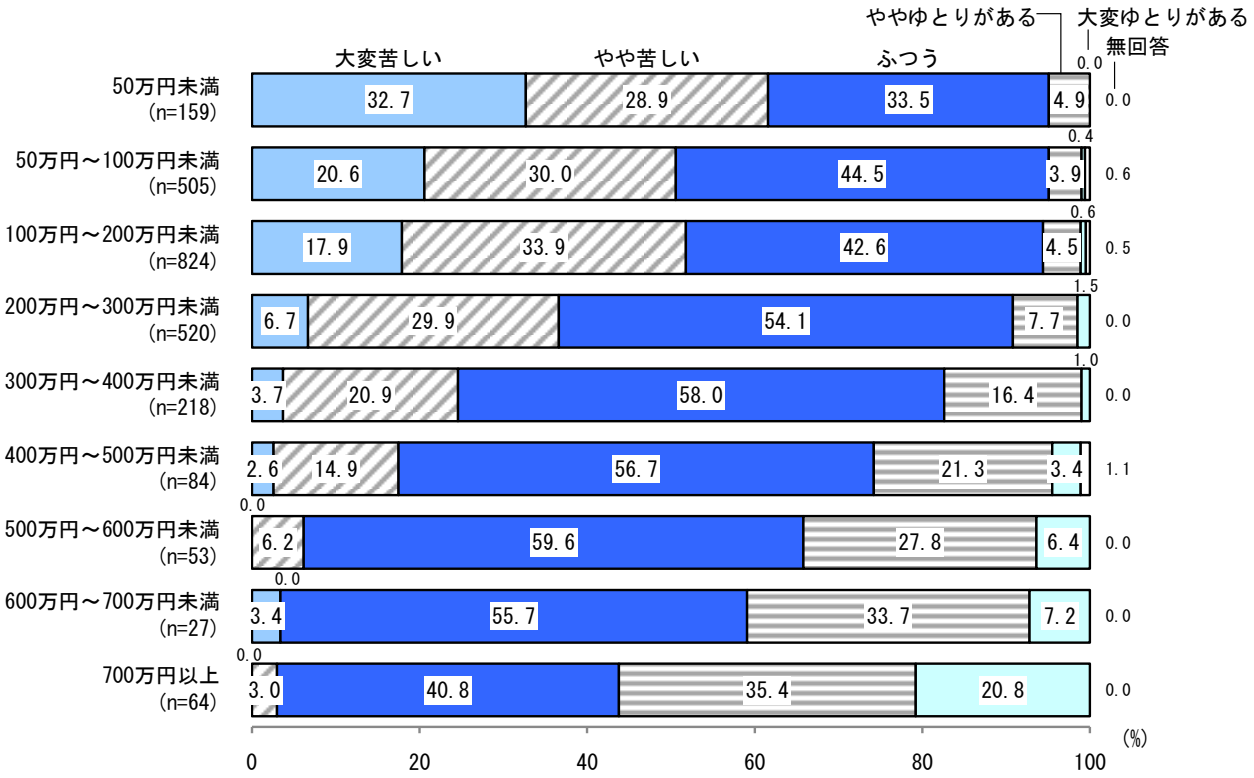
家族構成別でみると、『苦しい』割合は、一人暮らし世帯が47.0%で最も高くなっています。（図1-13-1）

【図1-13-1　家族構成別　経済状況】



個人の年間総収入別でみると、200万円未満の各世帯では『苦しい』が５割以上を占めています。（図1-13-2）

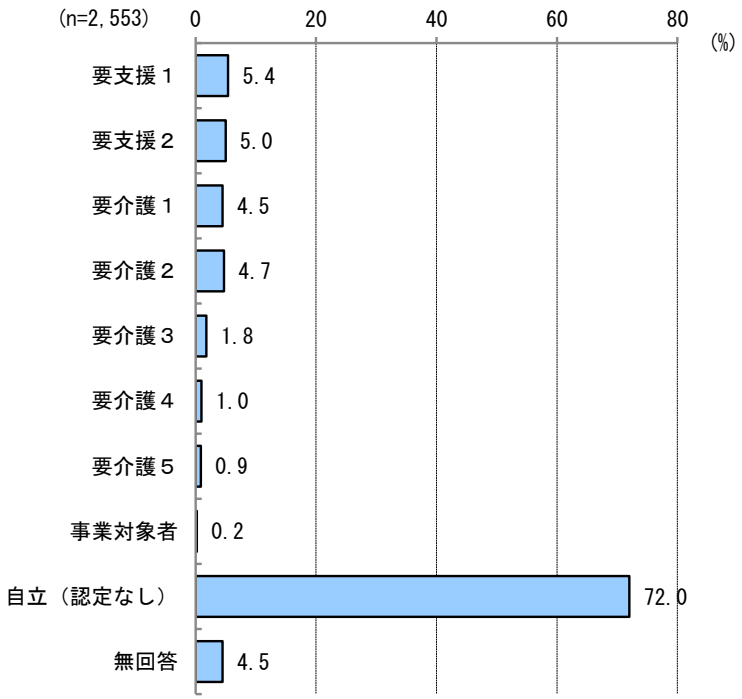
【図1-13-2　個人の年間総収入別　経済状況】



（14）要介護認定区分

問８．あなたの要介護認定区分は次のどれにあてはまりますか。<○は１つ>

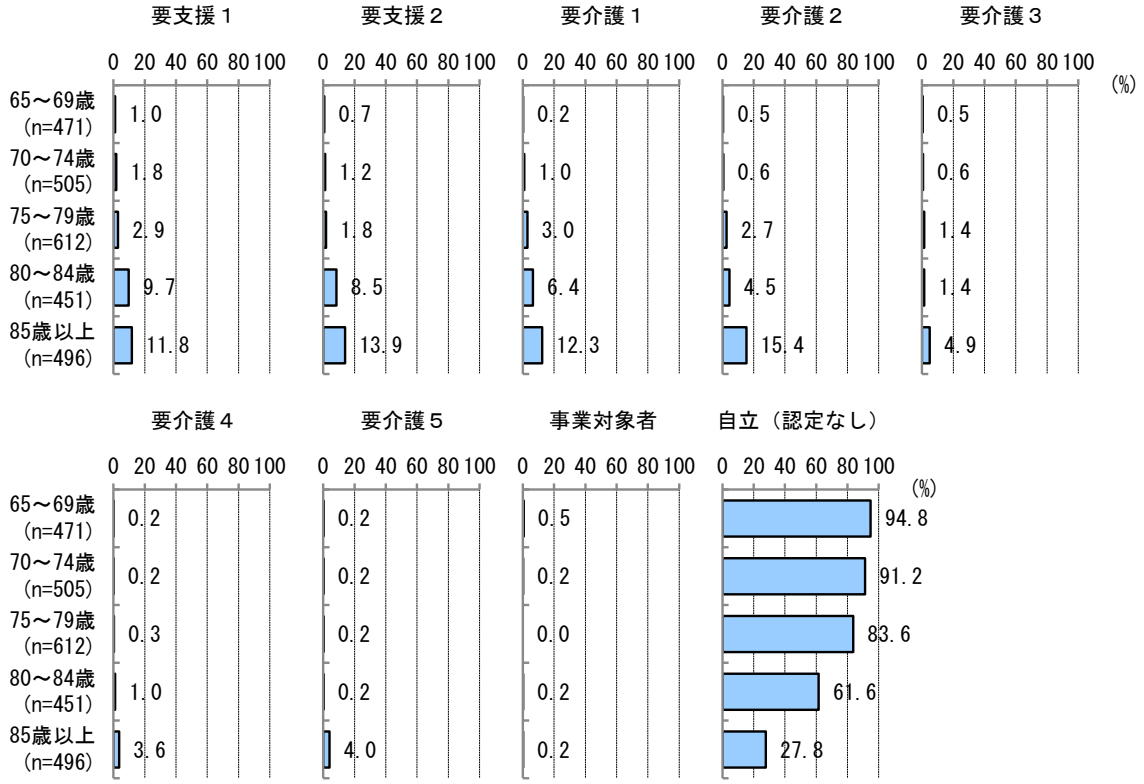
【図1-14　要介護認定区分】



回答者の要介護度については、「自立（認定なし）」が72.0%で最も多く、次いで「要支援１」が5.4%、「要支援２」が5.0%となっています。（図1-14）

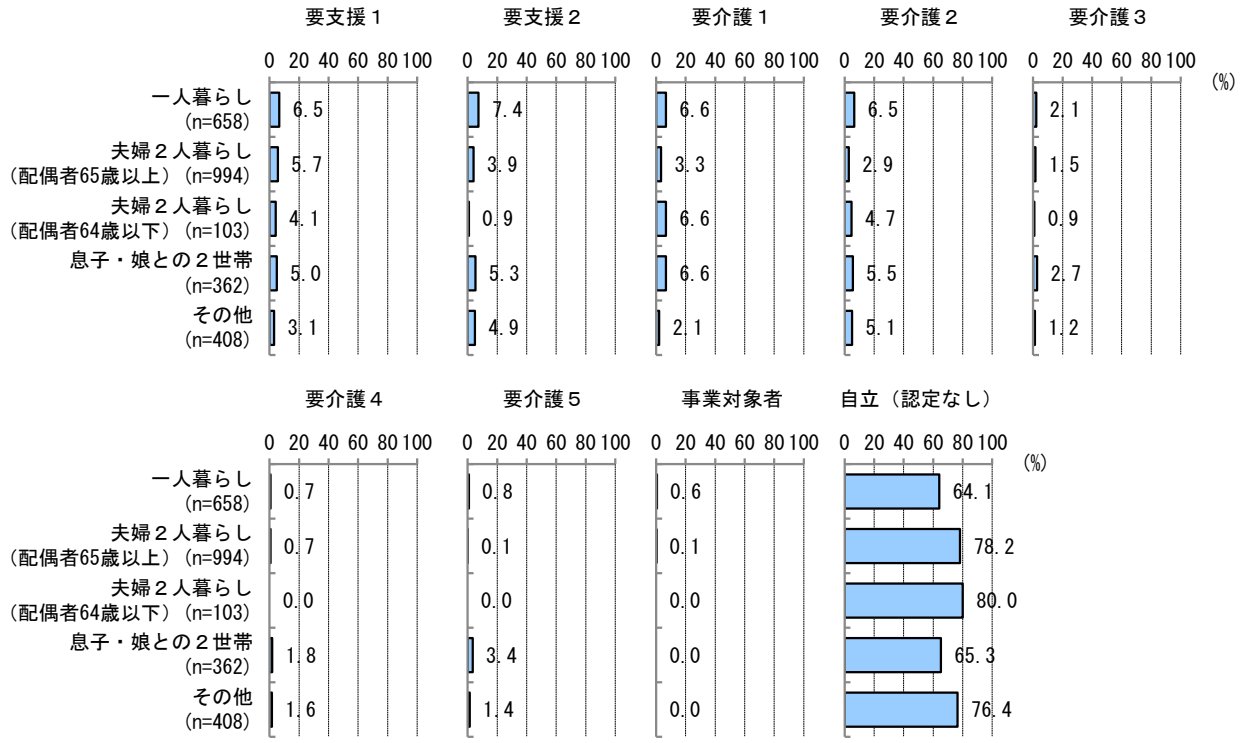
年齢別でみると、『要支援１・２』及び『要介護１～５』では、85歳以上の割合が最も高くなっています。（図1-14-1）

【図1-14-1　年齢別　要介護認定区分】



家族構成別でみると、『要支援１・２』、「要介護２」は一人暮らし世帯が最も高い割合になっています。（図1-14-2）

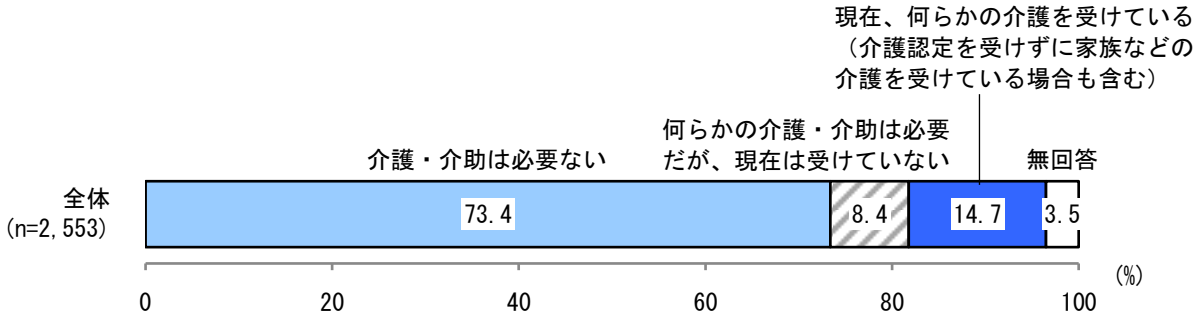
【図1-14-2　家族構成別　要介護認定区分】



（15）介護・介助の必要性の有無

問９．あなたは普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。＜○は１つ＞

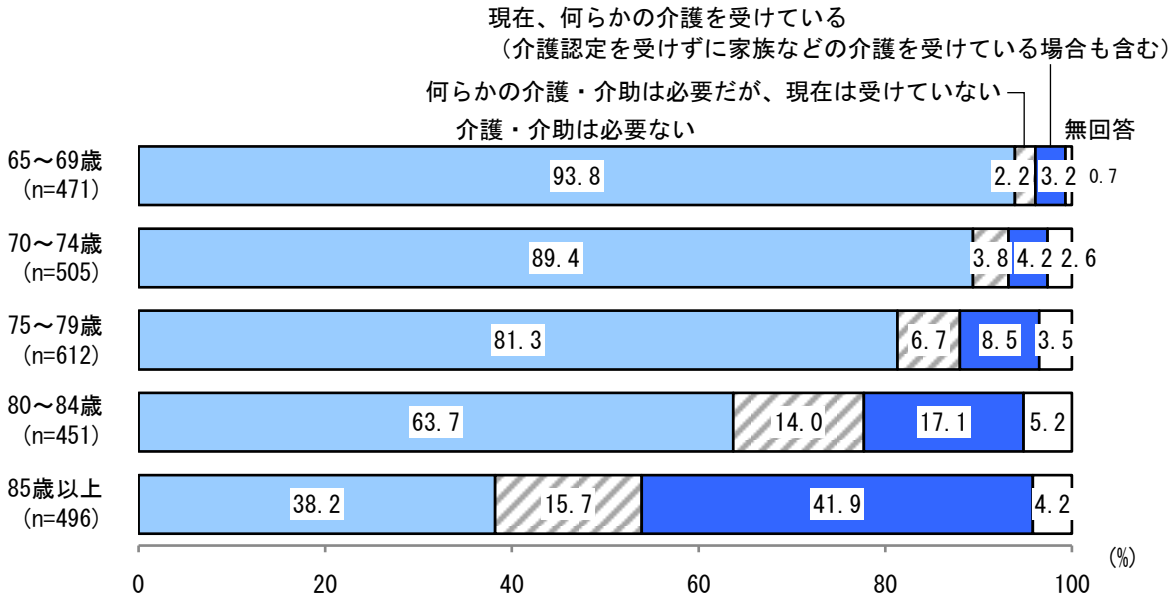
【図1-15　介護・介助の必要性の有無】



介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が73.4%で最も多く、次いで「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が14.7%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.4%となっています。（図1-15）

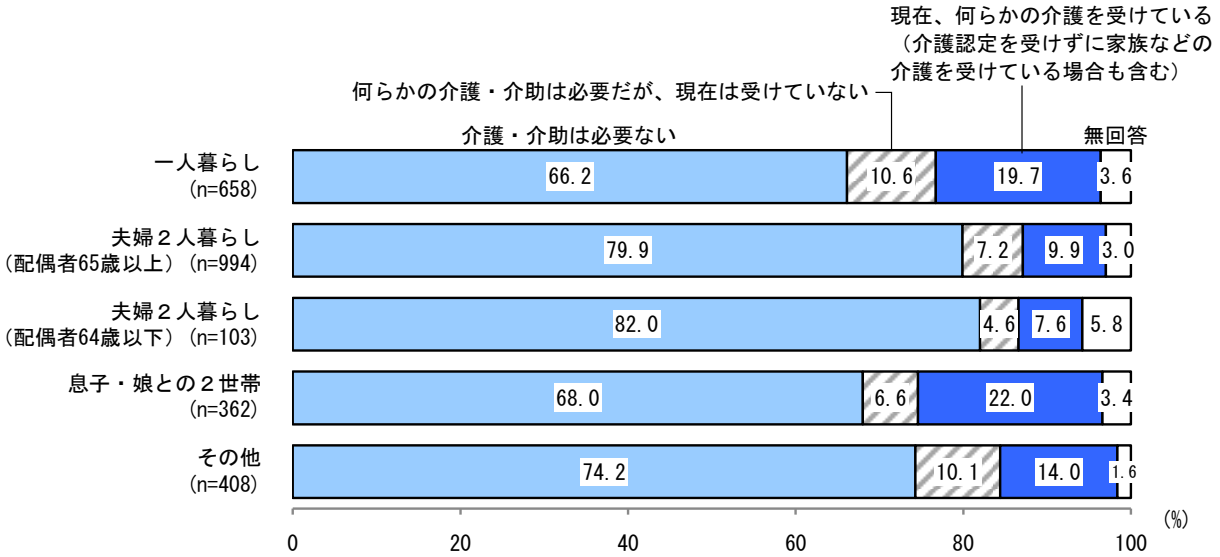
年齢別でみると、介護・介助を必要とする割合は、高齢になるほど高くなっています。なお、85歳以上では「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が41.9%と高い割合になっています。（図1-15-1）

【図1-15-1　年齢別　介護・介助の必要性の有無】



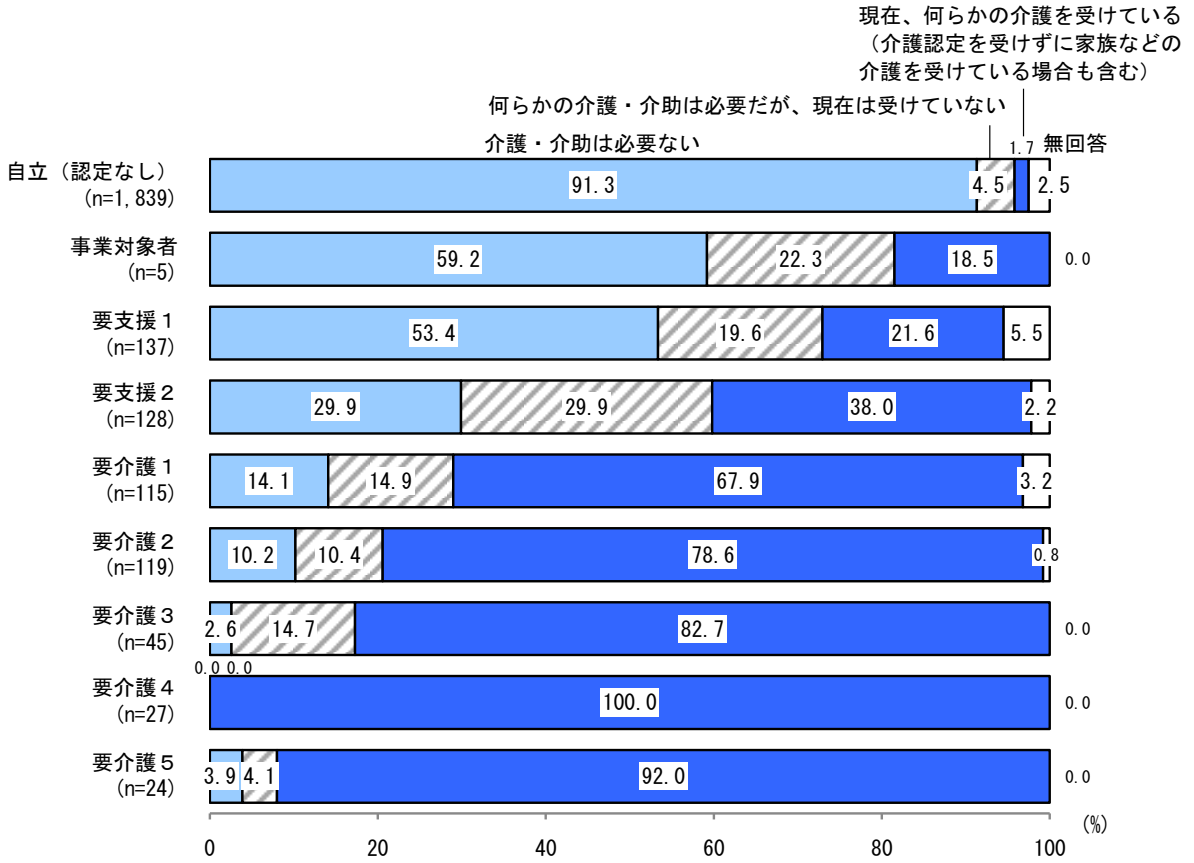
家族構成別でみると、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」割合では、息子・娘との２世帯が22.0%で最も高く、次いで一人暮らし世帯が19.7%となっています。また、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、一人暮らし世帯が10.6%と他の世帯より高い割合となっています。（図1-15-2）

【図1-15-2　家族構成別　介護・介助の必要性の有無】



要介護認定区分別でみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」割合は、要支援２が29.9%で最も高く、次いで事業対象者が22.3%となっています。（図1-15-3）

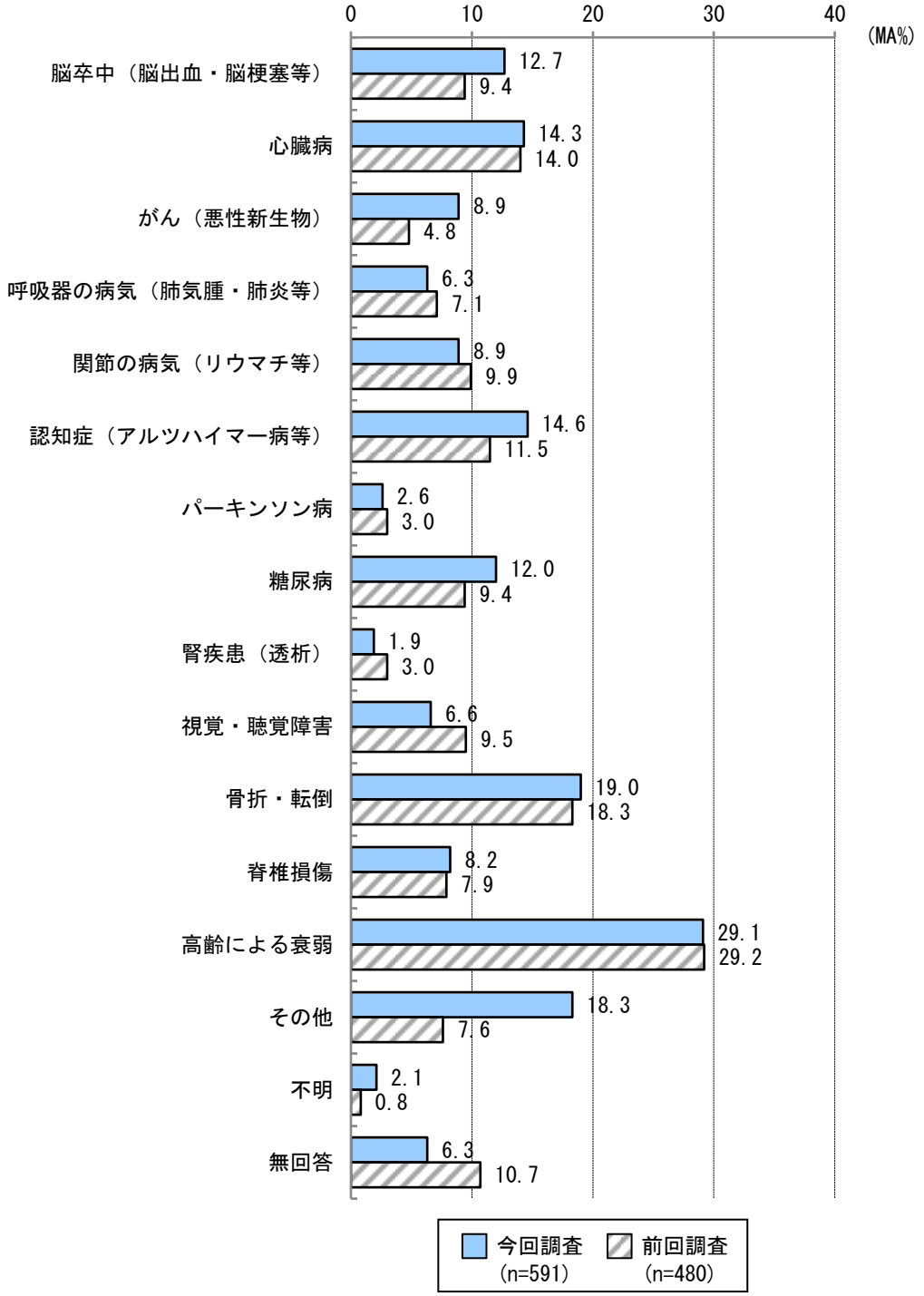
【図1-15-3　要介護認定区分別　介護・介助の必要性の有無】



（16）介護・介助が必要になった原因

問９－１．問９で「２.何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」又は、「３.現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。
介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。＜あてはまるものすべてに○＞

【図1-16　介護・介助が必要になった原因】

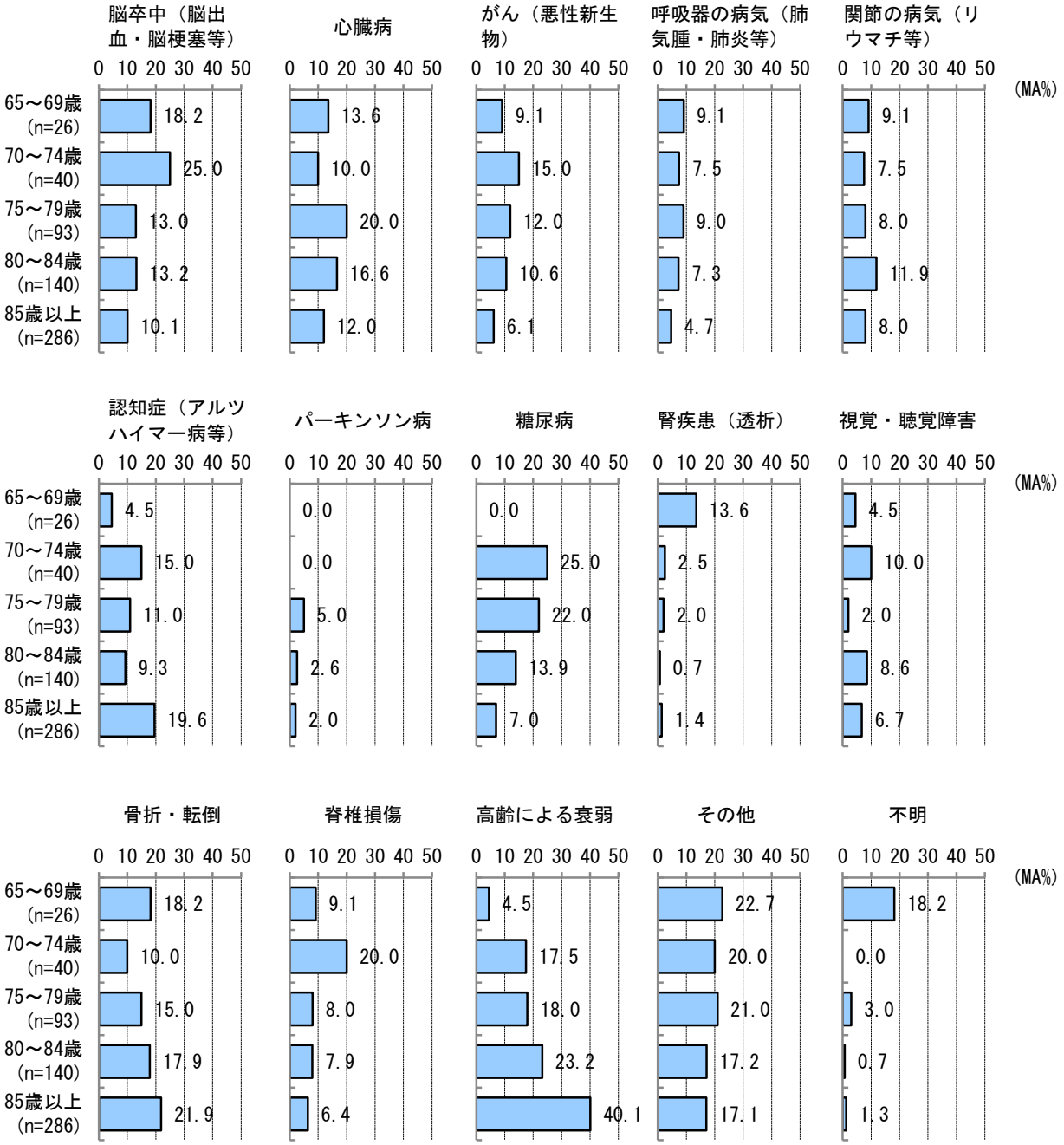


何らかの介護・介助が必要と回答した人に、必要となった原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が29.1%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が19.0%、「認知症（アルツハイマー病等）」が14.6%となっています。

前回調査と比較すると、「がん（悪性新生物）」が4.1ポイント、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が3.3ポイント、それぞれ高くなっています。（図1-16）

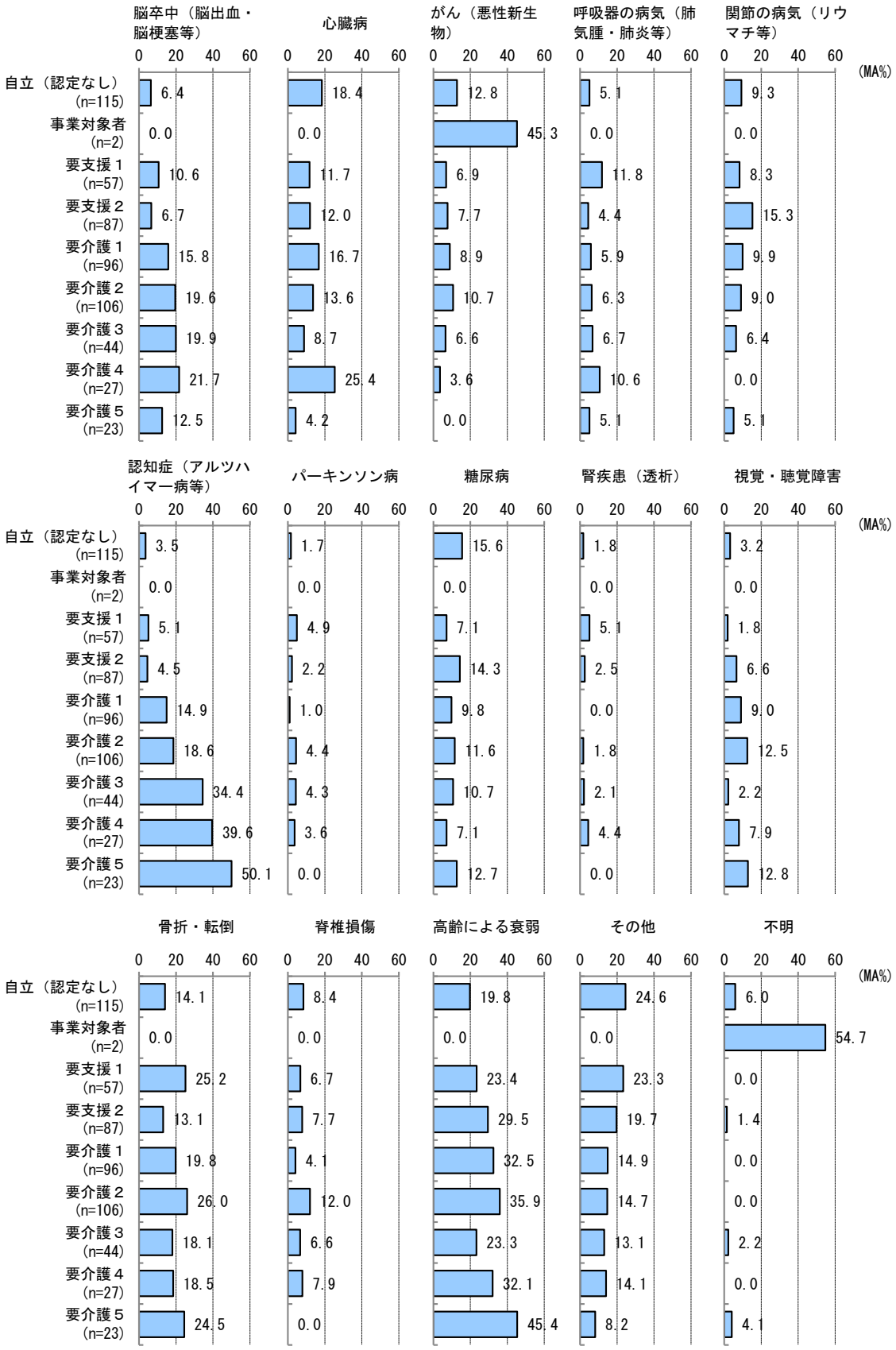
年齢別でみると、65～69歳は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」と「骨折・転倒」（ともに18.2%）、70～74歳は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」と「糖尿病」（ともに25.0%）、75～79歳は「糖尿病」（22.0%）、80歳以降では「高齢による衰弱」（80～84歳 23.2%、85歳以上 40.1%）が、それぞれ最も多くなっています。（図1-16-1）

【図1-16-1　年齢別　介護・介助が必要になった原因】



要介護認定区分別でみると、「高齢による衰弱」の他に、要支援１は「骨折・転倒」、要支援２は「関節の病気（リウマチ等）」、要介護１・２は「骨折・転倒」、要介護３以上になると「認知症（アルツハイマー病等）」が、それぞれ高い割合となっています。（図1-16-2）

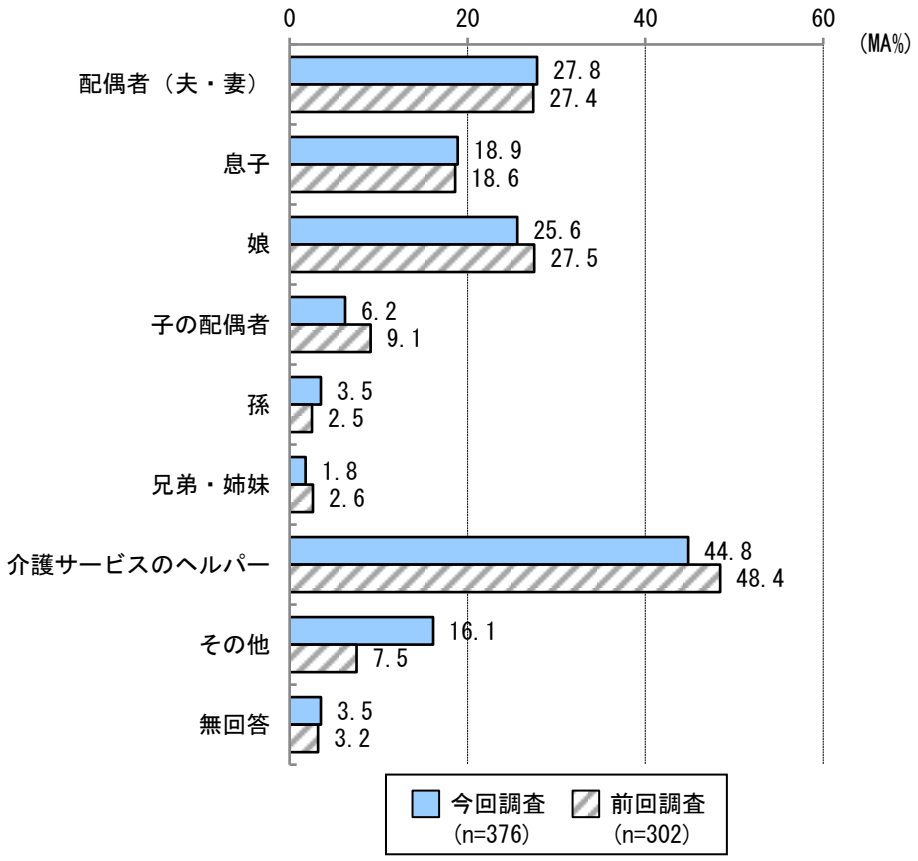
【図1-16-2　要介護認定区分別　介護・介助が必要になった原因】



（17）主な介護者・介助者

問９－２．問９で「３.現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。
主にどなたの介護・介助を受けていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

【図1-17　主な介護者・介助者】

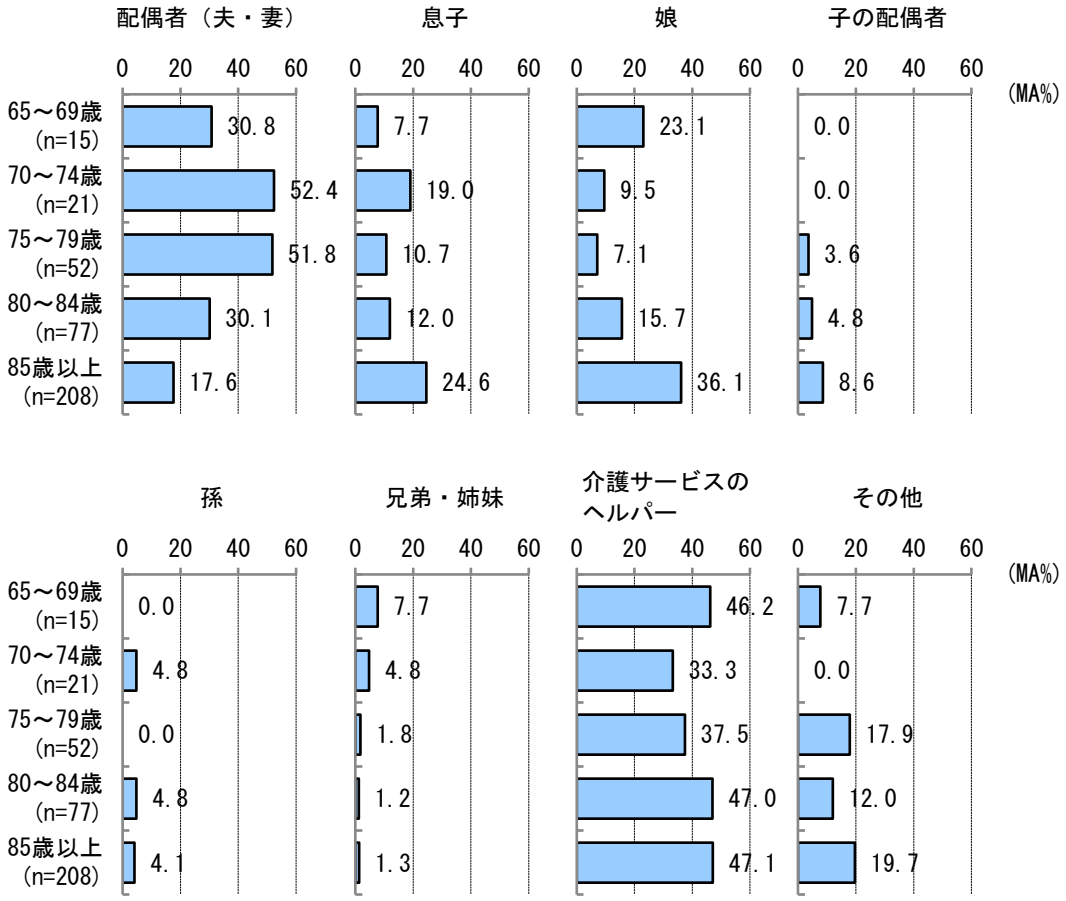


現在、何らかの介護を受けていると回答した人に、主な介護者・介助者をたずねたところ、「介護サービスのヘルパー」が44.8%で最も多く、次いで「配偶者（夫・妻）」が27.8%、「娘」が25.6%、「息子」が18.9%となっています。

前回調査と比較すると、「介護サービスのヘルパー」が3.6ポイント低くなっています。（図1-17）

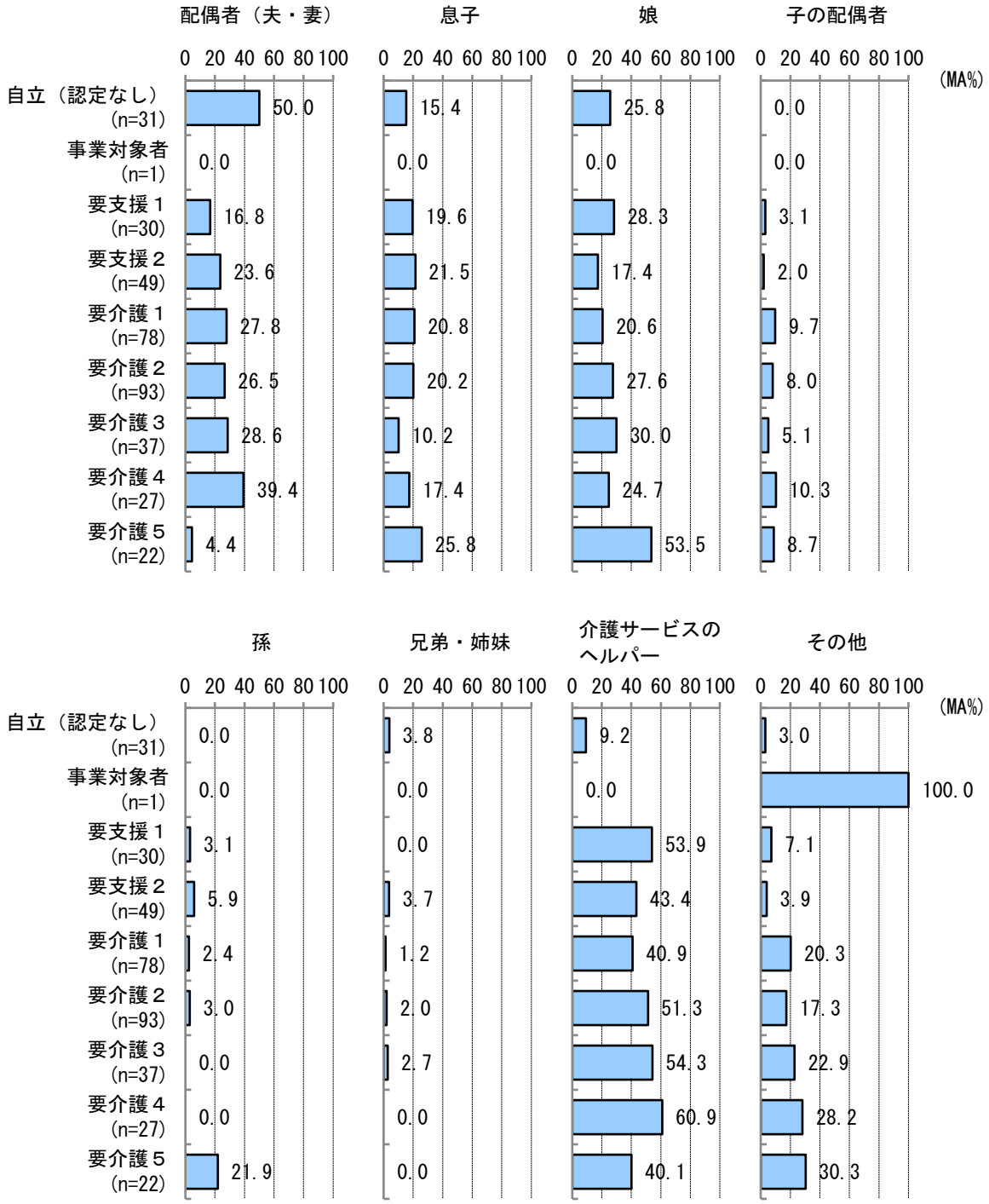
年齢別でみると、65～69歳では「介護サービスのヘルパー」（46.2%）が最も高くなっています。70歳以上では高齢になるほど、「配偶者（夫・妻）」の割合は低くなりますが、「子の配偶者」と「介護サービスのヘルパー」の割合が高くなる傾向がみられます。また、75歳以降になると「息子」と「娘」の割合が上昇する傾向がみられます。（図1-17-1）

【図1-17-1　年齢別　主な介護者・介助者】



要介護認定区分別でみると、認定者では「介護サービスのヘルパー」の他に、要支援１及び要介護２・３・５は「娘」が多く、要支援２及び要介護１・４は「配偶者（夫・妻）」が多い傾向がみられます。（図1-17-2）

【図1-17-2　要介護認定区分別　主な介護者・介助者】



2　運動について

（１）運動器の機能低下リスク

① 設問と評価

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の５つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしています。

具体的には、今回の調査票に含まれる以下の設問５問中３問以上に該当した場合に運動器の機能低下の「リスクあり」に該当します。

表　運動器に関する設問（基本チェックリスト）

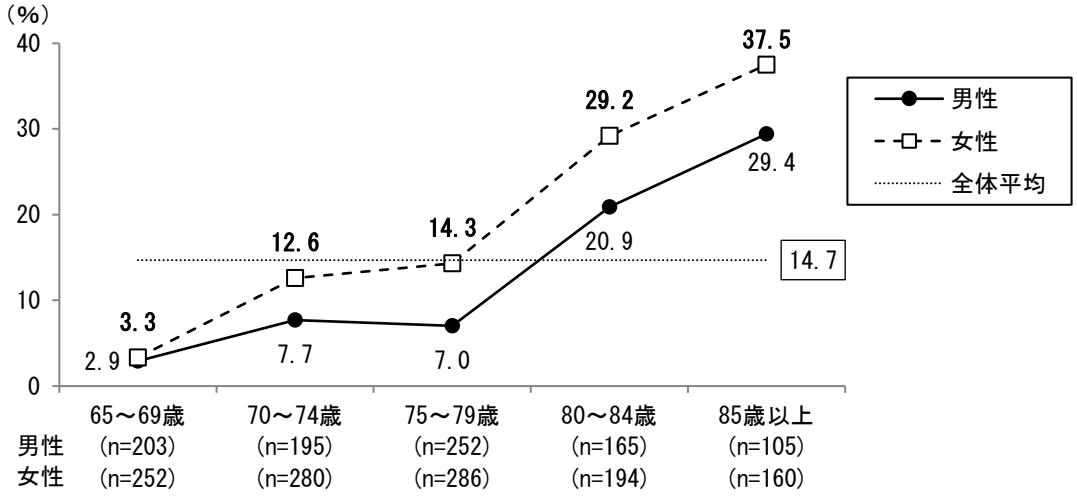
問番号	設問	該当する選択肢
問10	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	「できない」
問11	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「できない」
問13	１５分位続けて歩いていますか	「できない」
問15	過去１年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」「一度ある」
問16	転倒に対する不安は大きいですか	「とても不安である」 「やや不安である」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、運動器の機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で14.7%となっています。

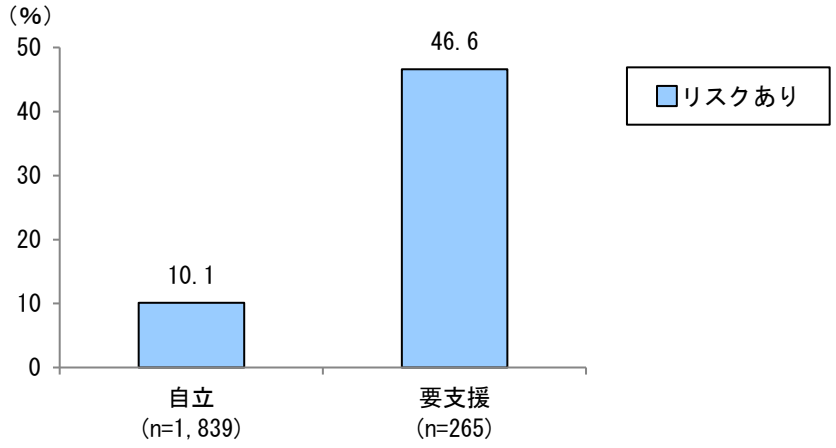
性・年齢別でみると、すべての年代で女性が男性より高い割合になっています。また、女性は80～84歳を境に、割合が大幅に上昇する傾向がみられます。（図2-1-1）

【図2-1-1　性・年齢別　運動器の機能低下リスクあり割合】



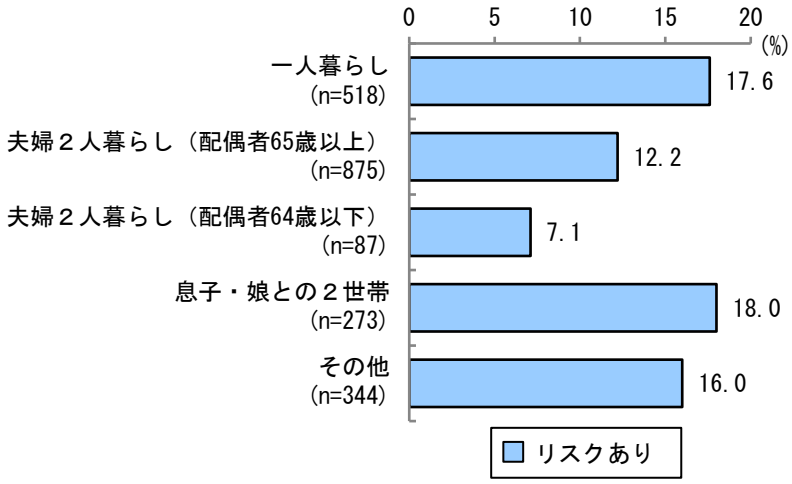
自立・要支援別でみると、自立が10.1%に対し、要支援者が46.6%と高くなっています。(図2-1-2)

【図2-1-2　自立・要支援別　運動器の機能低下リスクあり割合】



家族構成別でみると、息子・娘との２世帯が18.0%で最も高く、次いで一人暮らし世帯が17.6%となっています。(図2-1-3)

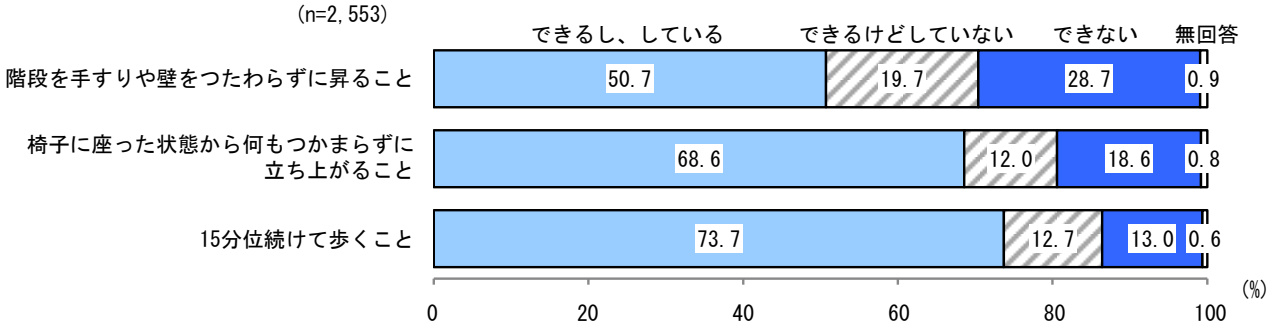
【図2-1-3　家族構成別　運動器の機能低下リスクあり割合】



③ 運動器の機能低下リスク判定に関係する項目の回答状況

問10. あなたは階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。<○は１つ>
問11. あなたは椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。<○は１つ>
問12. あなたは１５分位続けて歩いていますか。<○は１つ>

【図2-2　運動器の機能低下リスク判定に関係する項目】



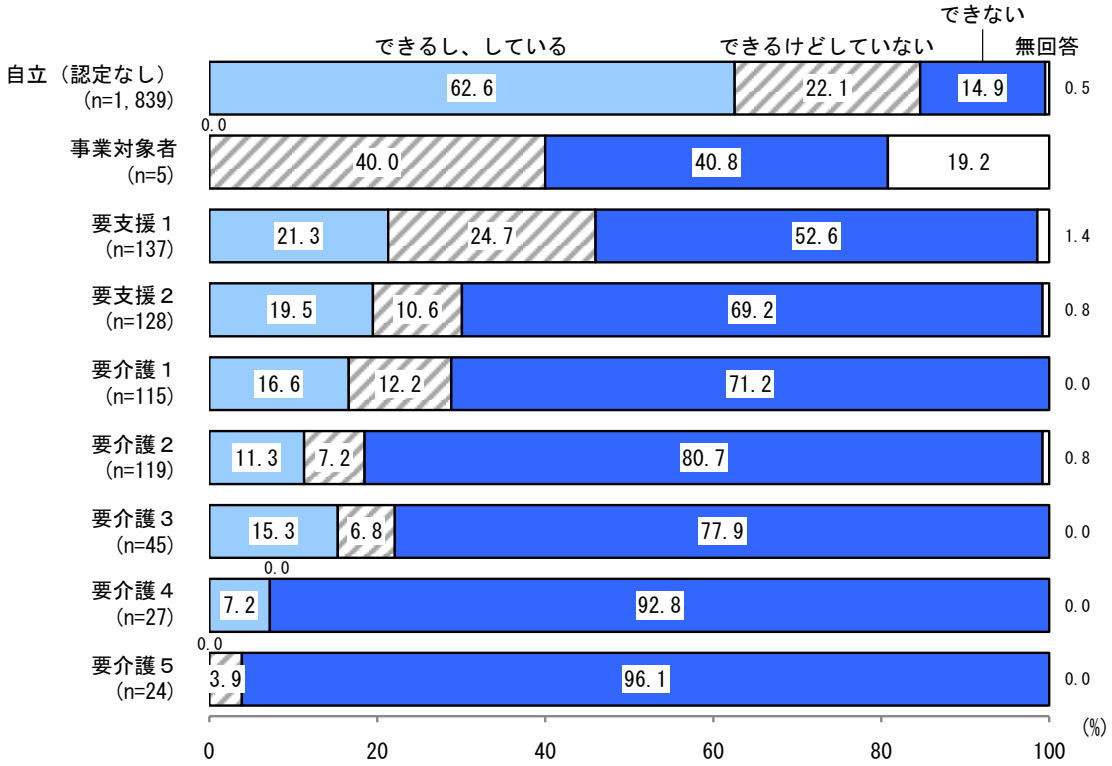
階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているかについては、「できるし、している」が50.7%を占めています。一方、「できない」は28.7%となっています。

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が68.6%を占めています。一方、「できない」は18.6%となっています。

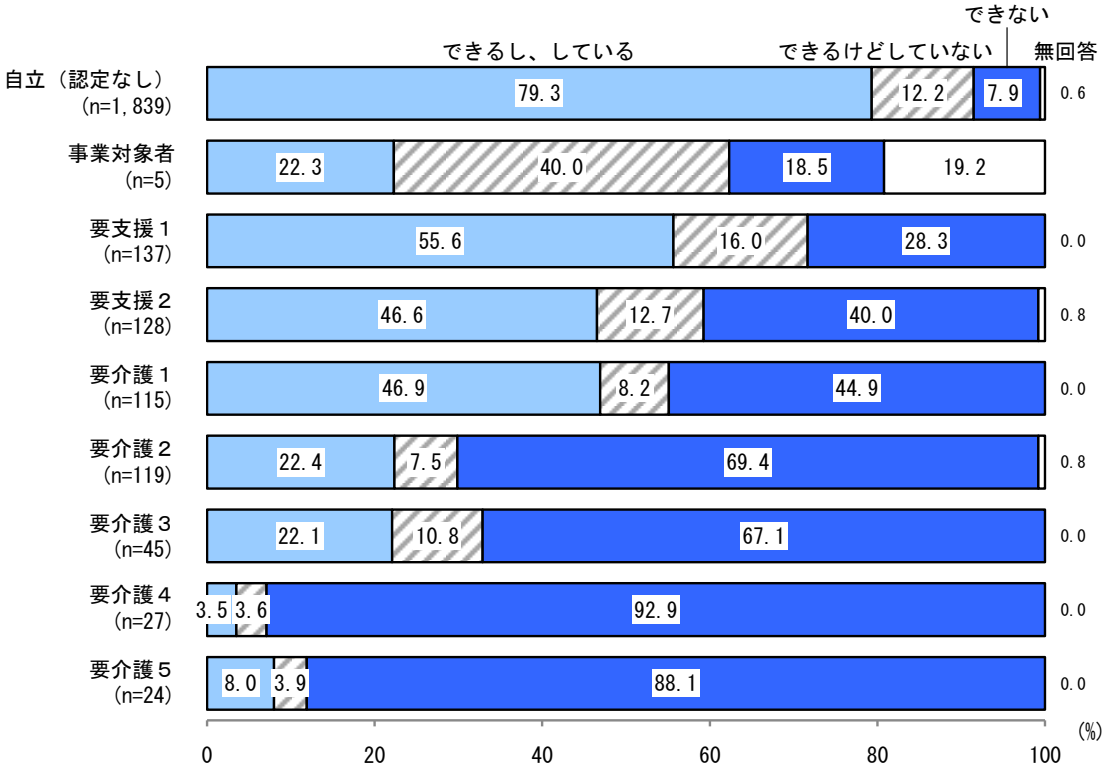
15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が73.7%を占めています。一方、「できない」は13.0%となっています。(図2-2)

要介護認定区分別でみると、要支援１・２・要介護１では“椅子から支えなしの起立”や“15分の継続歩行”は「できるし、している」が、“手すりなしの階段の昇降”は「できない」が、それぞれ最も多くなっています。要介護２以上となると、３項目とも「できない」が最も多くなっています。(図2-2-1、図2-2-2、図2-2-3)

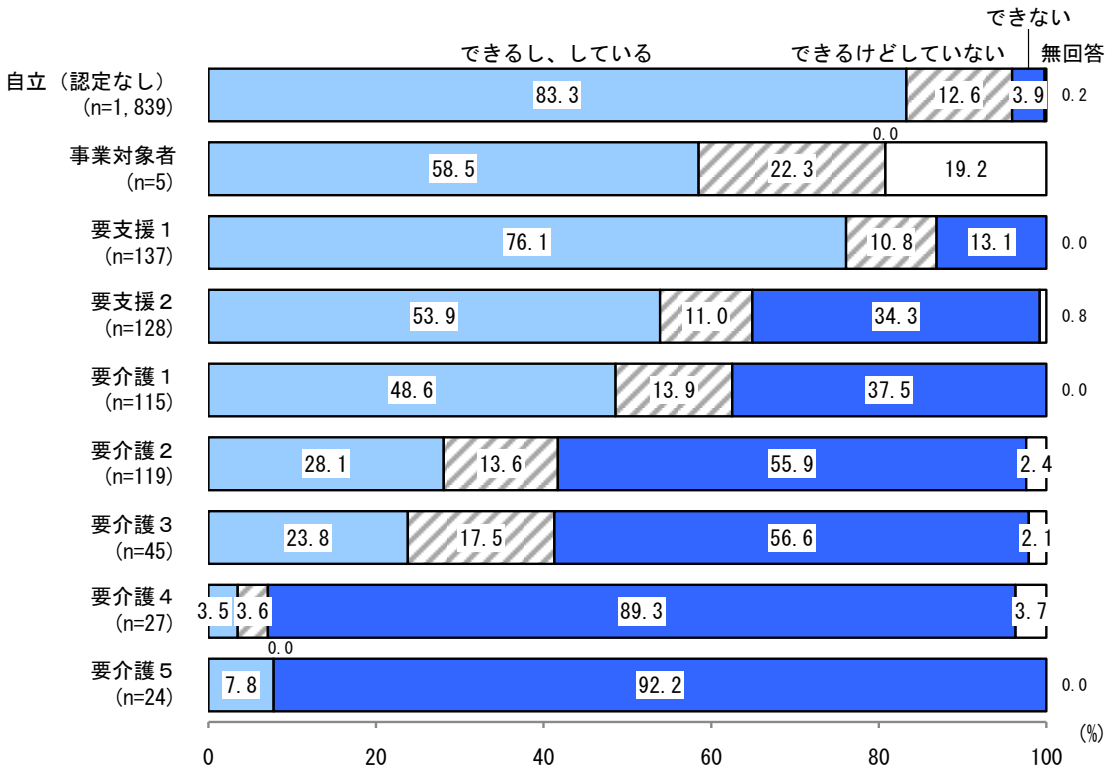
【図2-2-1　要介護認定区分別　階段を手すりや壁をつたわらずに昇ること】



【図2-2-2　要介護認定区分別　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること】



【図2-2-3　要介護認定区分別　15分位続けて歩くこと】



3　外出について

（1）閉じこもりリスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問２問中２問とも該当した場合に閉じこもりの「リスクあり」に該当します。

表　閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

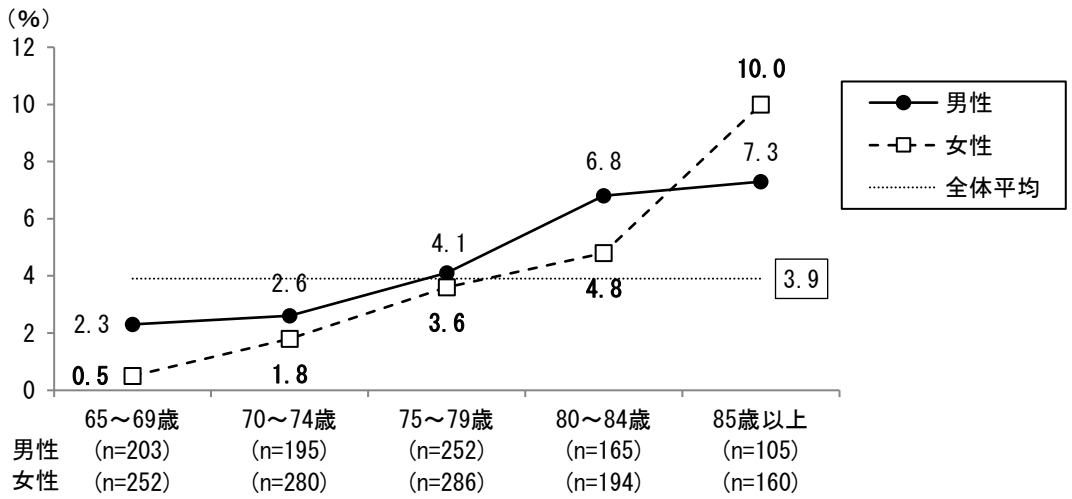
問番号	設問	該当する選択肢
問13	週に１回以上は外出していますか	「ほとんど外出しない」
問14	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「とても減っている」 「減っている」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、閉じこもりの「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で3.9%となっています。

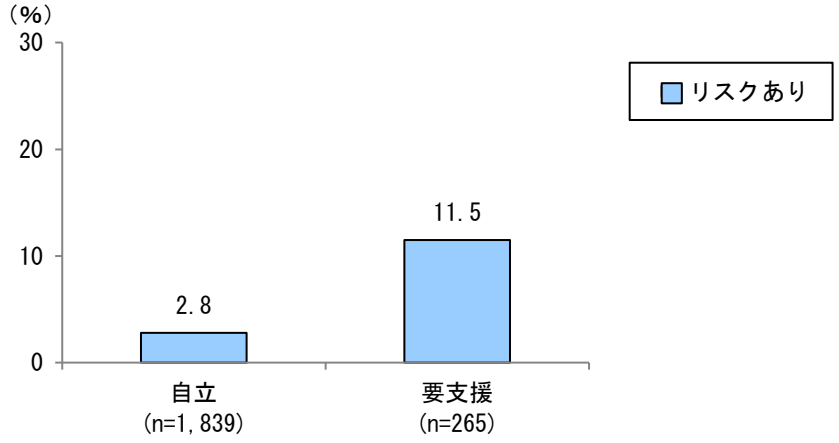
性・年齢別でみると、84歳以下までは、女性より男性のほうが高くなっていますが、85歳以上になると女性が男性を上回り、2.7ポイント高くなっています。（図3-1-1）

【図3-1-1　性・年齢別　閉じこもりリスク】



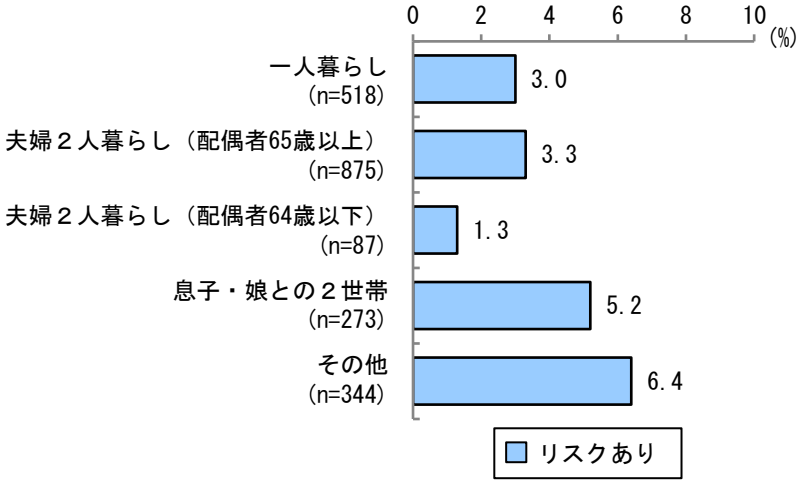
自立・要支援別でみると、自立が2.8%に対し、要支援者が11.5%と高くなっています。（図3-1-2）

【図3-1-2　自立・要支援別　閉じこもりリスク】



家族構成別でみると、息子・娘との２世帯が5.2%で最も高くなっています。（図3-1-3）

【図3-1-3　家族構成別　閉じこもりリスク】

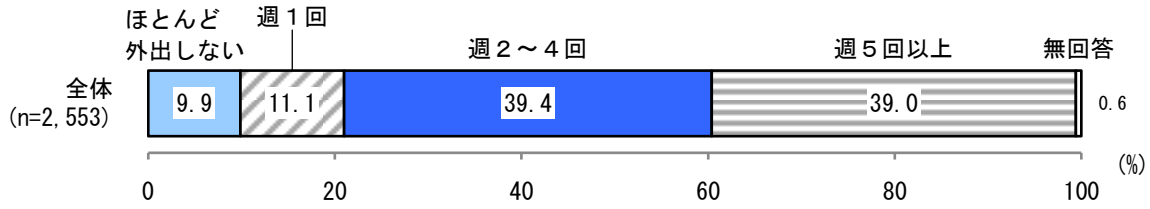


③ 閉じこもりリスク判定に関係する項目の回答状況

（ア）外出頻度

問13　あなたは週に１回以上は外出していますか。<○は１つ>

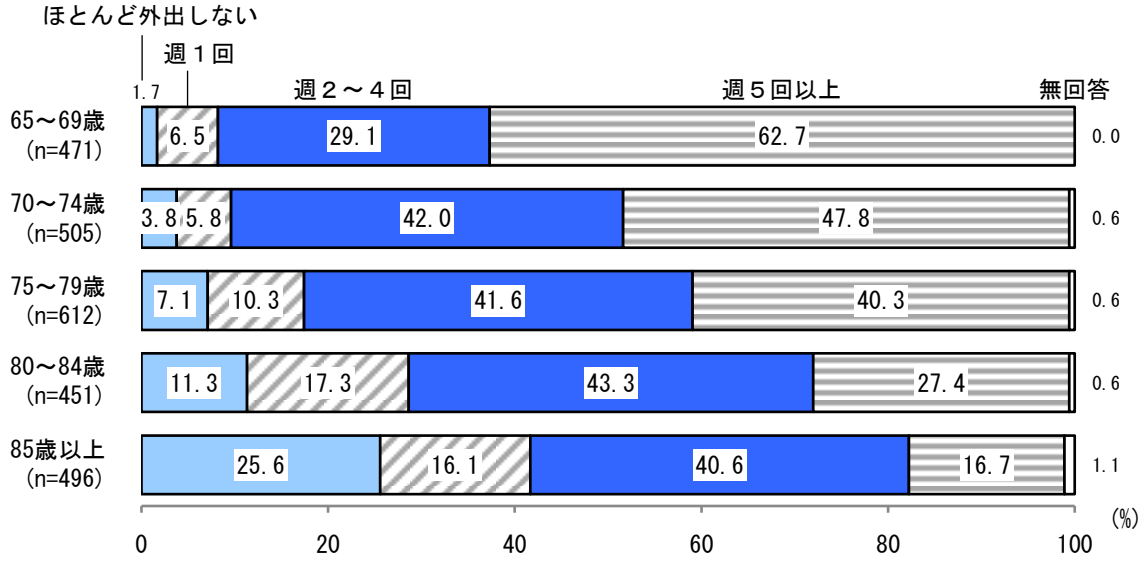
【図3-2　外出頻度】



週１回以上の外出をしているかについては、「週２～４回」が39.4%で最も多く、次いで「週５回以上」が39.0%、「週１回」が11.1%、「ほとんど外出しない」が9.9%となっています。（図3-2）

年齢別でみると、高齢になるほど外出の頻度が減少する傾向がみられます。なお、85歳以上では「ほとんど外出しない」が25.6%と高い割合になっています。（図3-2-1）

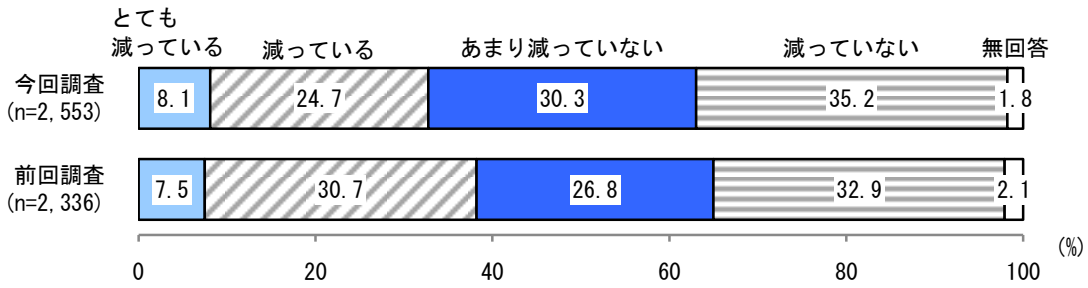
【図3-2-1　年齢別　外出頻度】



（イ）昨年と比べた外出回数の状況

問14　あなたは昨年と比べて外出の回数が減っていますか。<○は１つ>

【図3-3　昨年と比べた外出回数の状況】

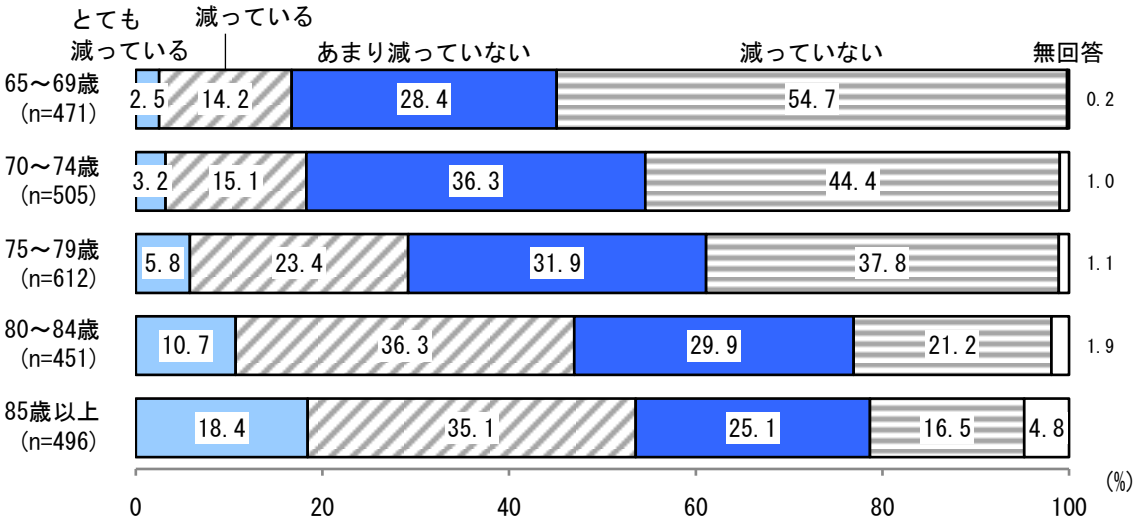


昨年と比べて外出回数が減っているかについては、「減っていない」が35.2%で最も多く、次いで「あまり減っていない」が30.3%、「減っている」が24.7%となっています。

前回調査と比較すると、「減っている」が6.0ポイント低くなっていますが、「あまり減っていない」が3.5ポイント、「減っていない」が2.3ポイント高くなっています。（図3-3）

年齢別でみると、高齢になるほど、昨年より外出が減った人が多い傾向がみられます。なお、85歳以上では「とても減っている」と「減っている」を合わせると５割以上となります。（図3-3-1）

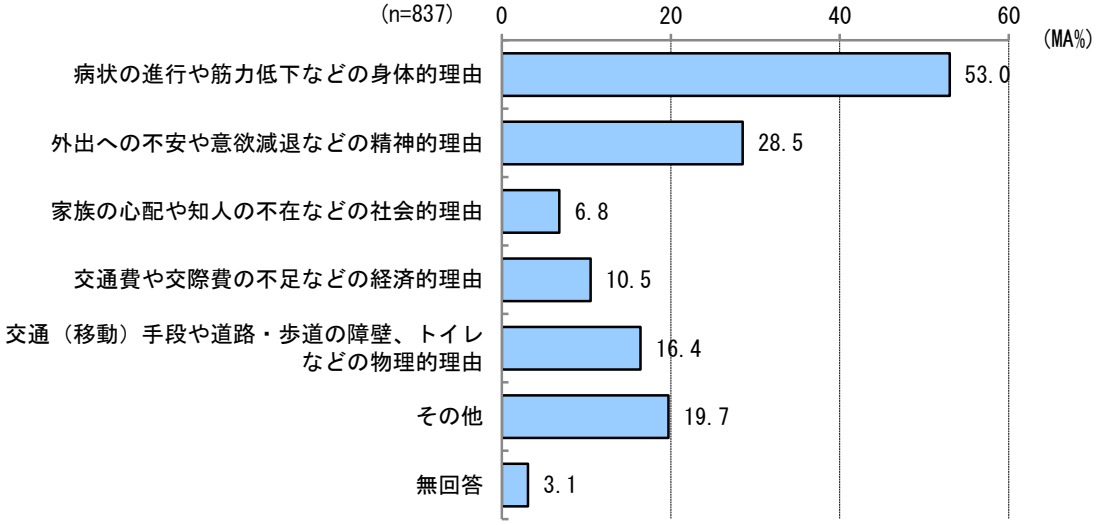
【図3-3-1　年齢別　昨年と比べた外出回数の状況】



（ウ）外出回数が減っている理由

問14－１　問14で「１．とても減っている」又は、「２．減っている」と回答した方にお聞きします。 主にどのような理由で減っていますか。<あてはまるものすべてに○>

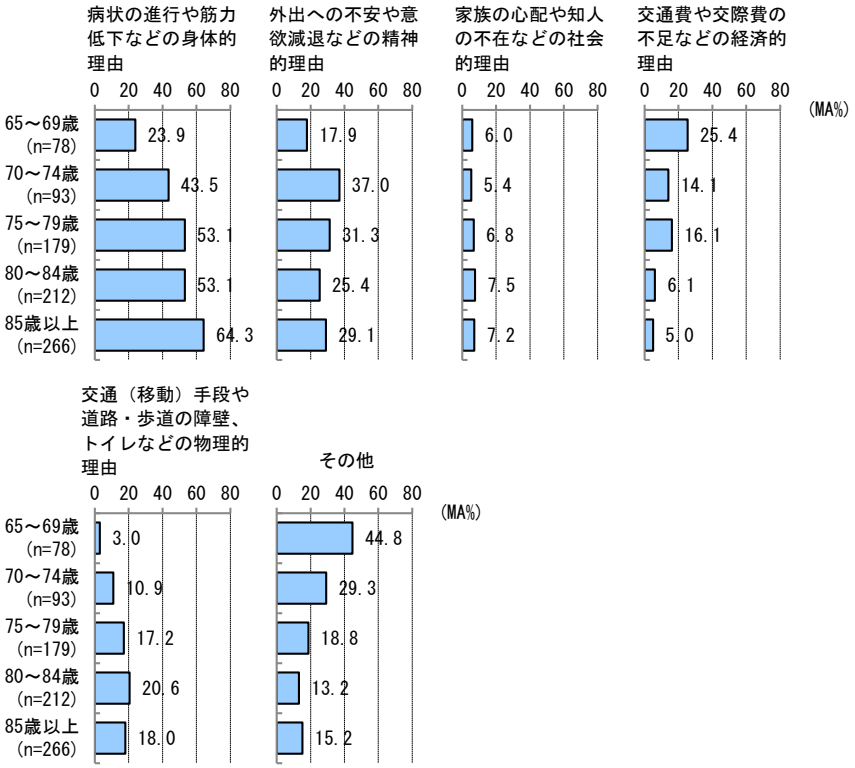
【図3-4　外出回数が減っている理由】



昨年と比べて外出回数が減っていると回答した人に、外出回数が減っている理由についてたずねたところ、「病状の進行や筋力低下などの身体的理由」が53.0%で最も多く、次いで「外出への不安や意欲減退などの精神的理由」が28.5%、「交通（移動）手段や道路・歩道の障壁、トイレなどの物理的理由」が16.4%となっています。（図3-4）

年齢別でみると、65～69歳は「交通費や交際費の不足などの経済的理由」が最も多いですが、70歳以上の年代は「病状の進行や筋力低下などの身体的理由」が最も多くなっています。（図3-4-1）

【図3-4-1　年齢別　外出回数が減っている理由】



4　転倒について

（1）転倒リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問に該当した場合に転倒の「リスクあり」に該当します。

表　転倒に関する設問（基本チェックリスト）

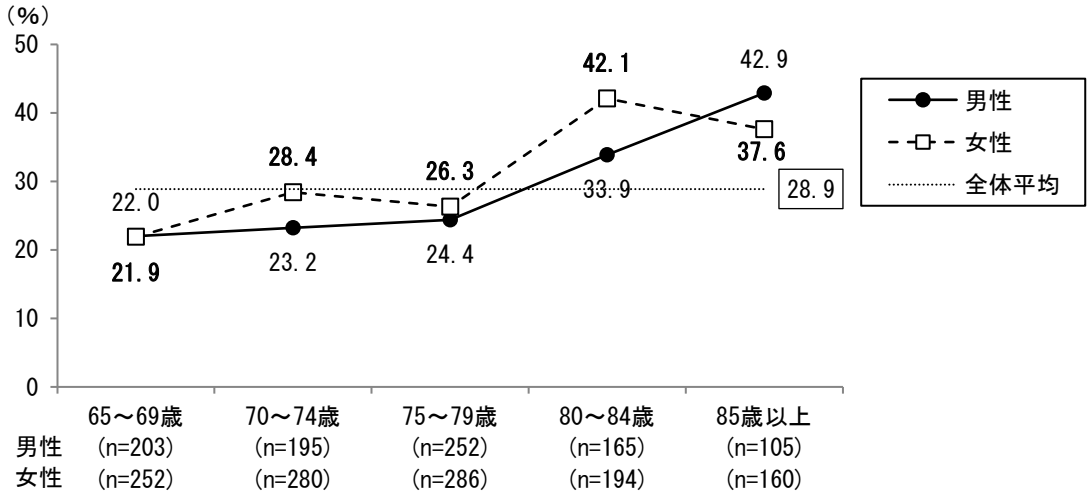
問番号	設問	該当する選択肢
問15	過去１年間に転んだ経験がありますか	「何度もある」「一度ある」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、転倒の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で28.9%となっています。

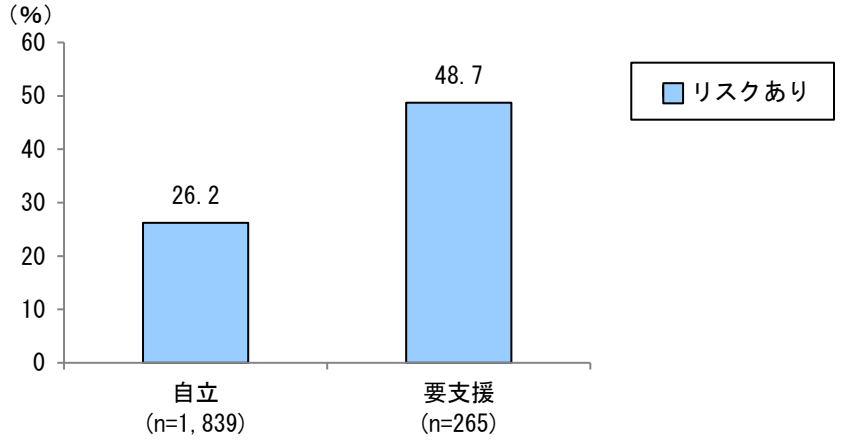
性・年齢別でみると、男性は年代が上がるほど割合も高くなっています。女性では70歳から84歳までの年代は男性より高くなっていますが、85歳以上では男性が女性を上回っています。（図4-1-1）

【図4-1-1　性・年齢別　転倒リスク】



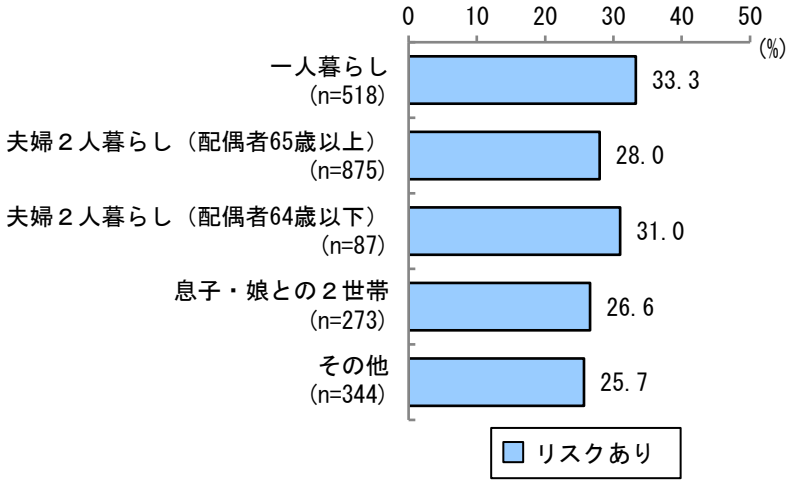
自立・要支援別でみると、自立が26.2%に対し、要支援者が48.7%と高くなっています。(図4-1-2)

【図4-1-2　自立・要支援別　転倒リスク】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯が33.3%で最も高くなっています。(図4-1-3)

【図4-1-3　家族構成別　転倒リスク】

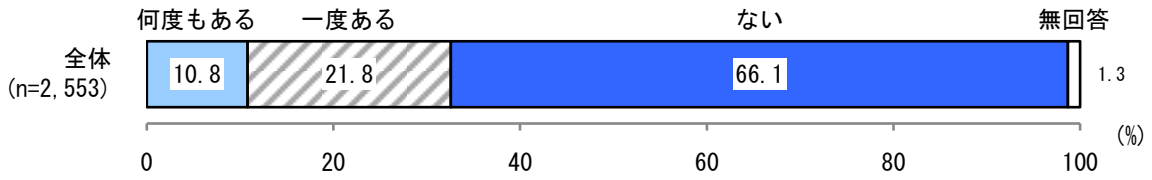


③ 転倒リスク判定に関係する項目の回答状況

（ア）過去１年間に転んだ経験

問15. あなたは過去１年間に転んだ経験がありますか。＜○は１つ＞

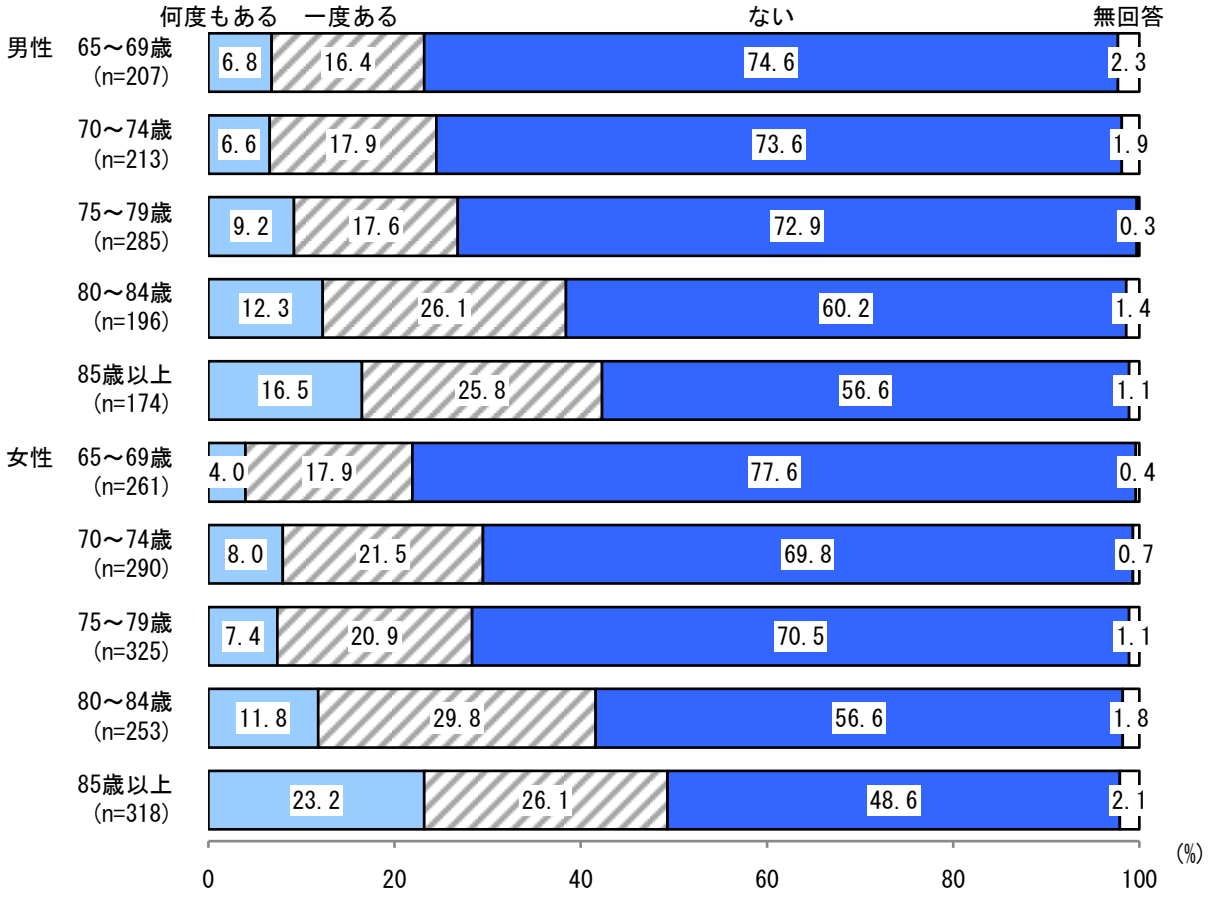
【図4-2　過去１年間に転んだ経験】



過去１年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が66.1%で最も多く、次いで「一度ある」が21.8%、「何度もある」が10.8%となっています。（図4-2）

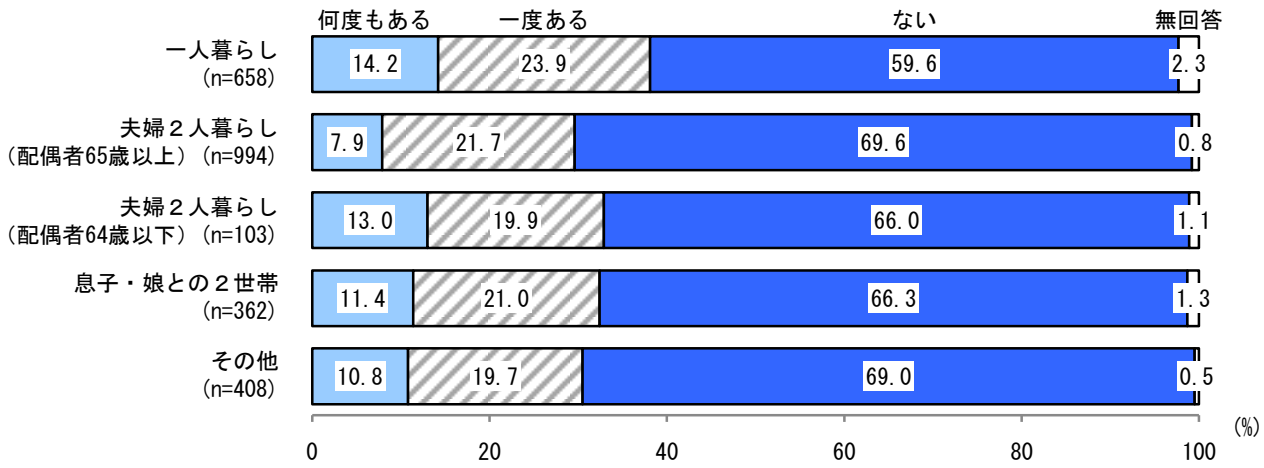
性・年齢別でみると、転倒経験者は、65～69歳は女性より男性のほうが高くなっていますが、70歳以上の年代では男性より女性のほうが多くみられます。また、「何度もある」割合は、男女とも79歳以下まで１割未満ですが、80歳以上になると１割を超えて高くなっています。一方、女性の「何度もある」割合は、85歳以上になると23.2%となっています。（図4-2-1）

【図4-2-1　性・年齢別　過去１年間に転んだ経験】



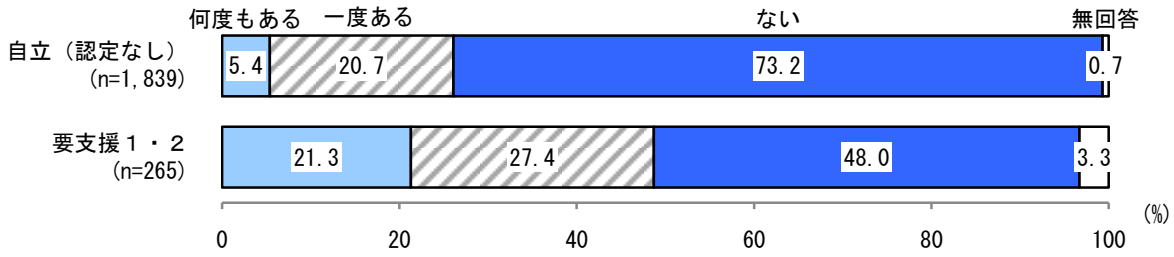
家族構成別でみると、転倒経験者は、一人暮らし世帯に多くみられます。（図4-2-2）

【図4-2-2　家族構成別　過去１年間に転んだ経験】



自立・要支援者別でみると、自立の人と比べて、要支援と認定された人では「何度もある」が15.9ポイント、「一度ある」が6.7ポイント高い割合になっています。（図4-2-3）

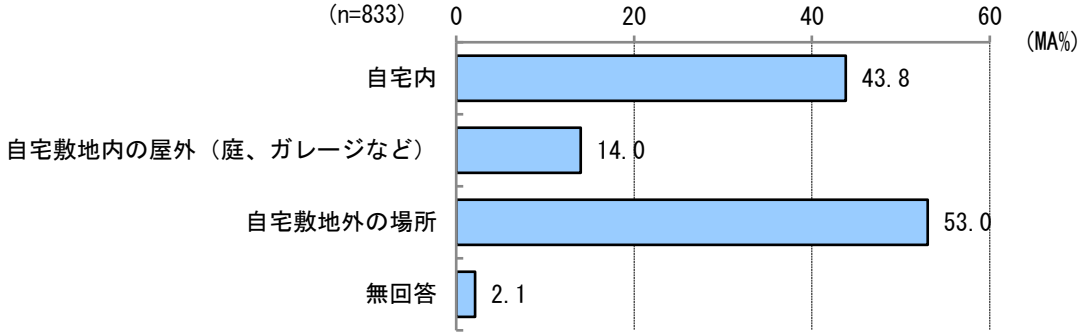
【図4-2-3　自立・要支援者別　過去１年間に転んだ経験】



（イ）転んだ場所

問15－１．問15で「１．何度もある」又は「２．一度ある」と回答した方にお聞きします。 主にどういった場所で転びましたか。＜あてはまるものすべてに○＞

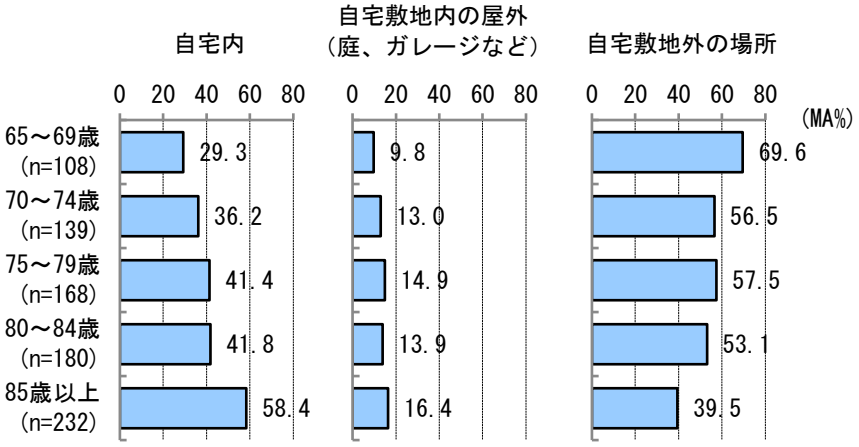
【図4-3　転んだ場所】



過去１年間に転んだ経験があると回答した人に、主に転んだ場所をたずねたところ、「自宅敷地外の場所」が53.0%で最も多く、次いで「自宅内」が43.8%、「自宅敷地内の屋外（庭、ガレージなど）」が14.0%となっています。（図4-3）

年齢別でみると、「自宅内」は高齢になるほど割合が高くなる傾向がみられ、一方で「自宅敷地外の場所」は高齢になるほど割合が低くなっています。（図4-3-1）

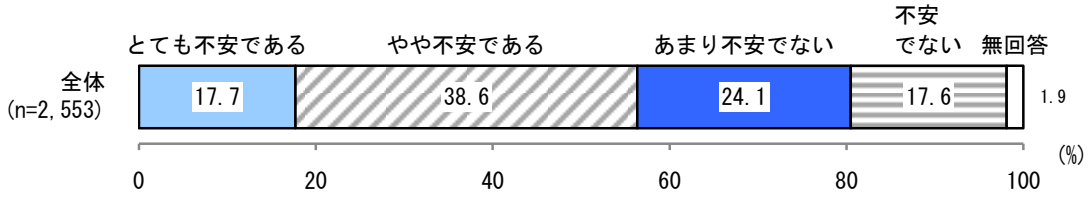
【図4-3-1　年齢別　転んだ場所】



（２）転倒に対する不安

問16. あなたは転倒に対する不安は大きいですか。＜○は１つ＞

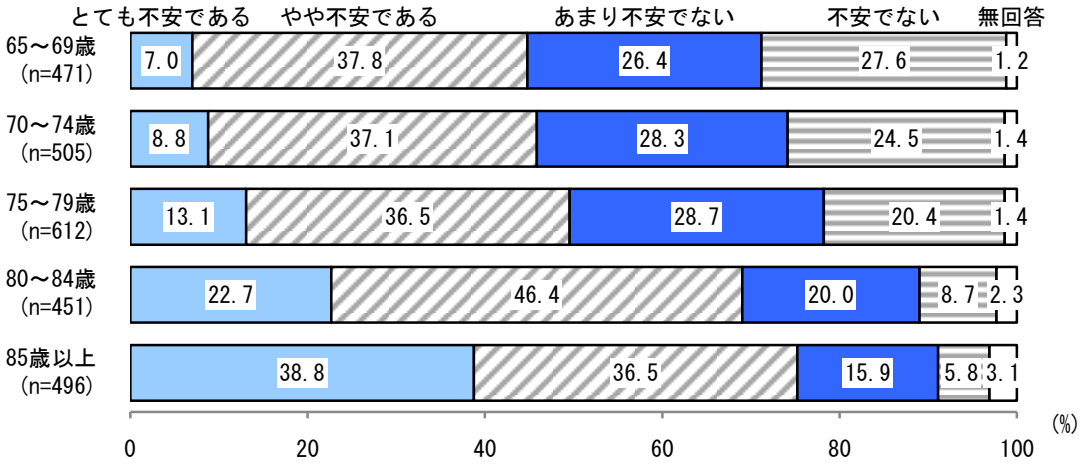
【図4-4　転倒に対する不安】



転倒に対する不安については、「やや不安である」が38.6%で最も多く、次いで「あまり不安でない」が24.1%、「とても不安である」が17.7%となっています。なお、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』割合は56.3%となっています。（図4-4）

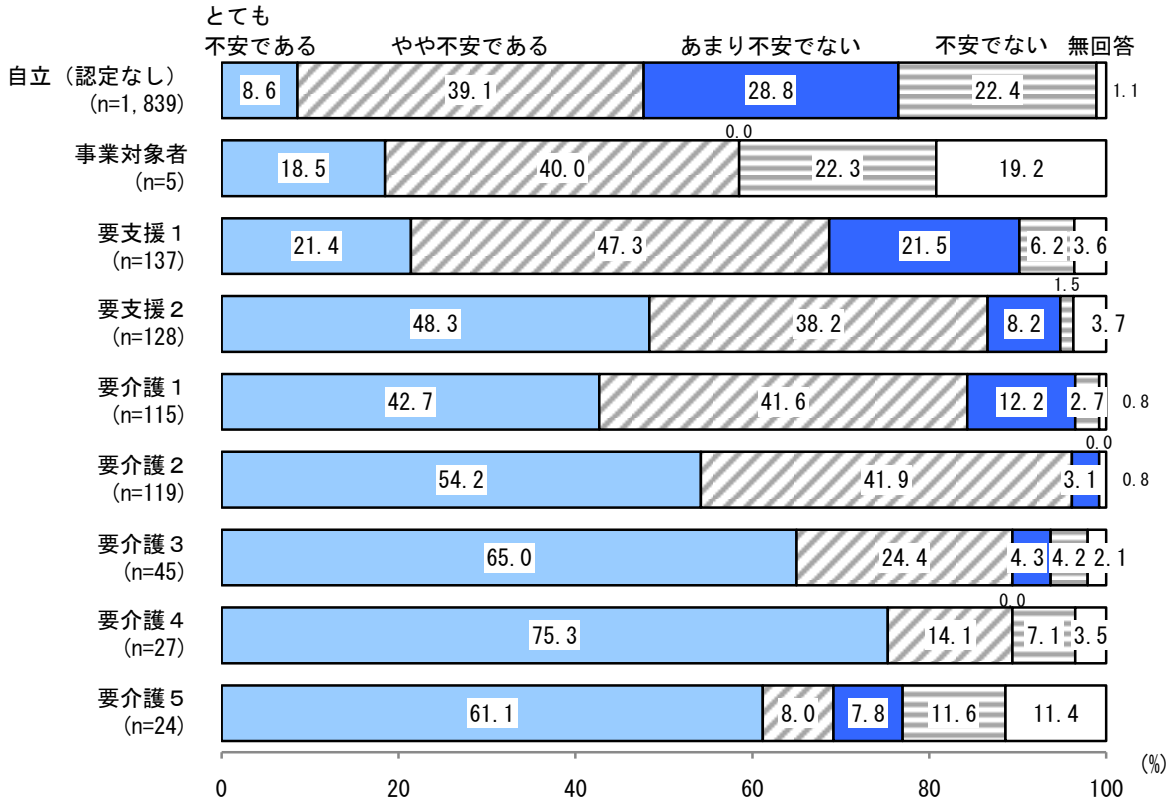
年齢別でみると、高齢になるほど、転倒に対する不安感が高くなる傾向がみられます。なお、80歳以降になると『不安である』割合が６割以上となっています。（図4-4-1）

【図4-4-1　年齢別　転倒に対する不安】



要介護認定区分別でみると、『不安である』割合は要介護２（96.1%）で最も高く、次いで要介護３と４（ともに89.4%）となっています。要介護２以上になると「とても不安である」は５割以上となります。（図4-4-2）

【図4-4-2　要介護認定区分別　転倒に対する不安】



5　口腔・栄養について

（１）栄養改善リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問２問中２問とも該当した場合に栄養改善の「リスクあり」に該当します。

表　栄養改善に関する設問（基本チェックリスト）

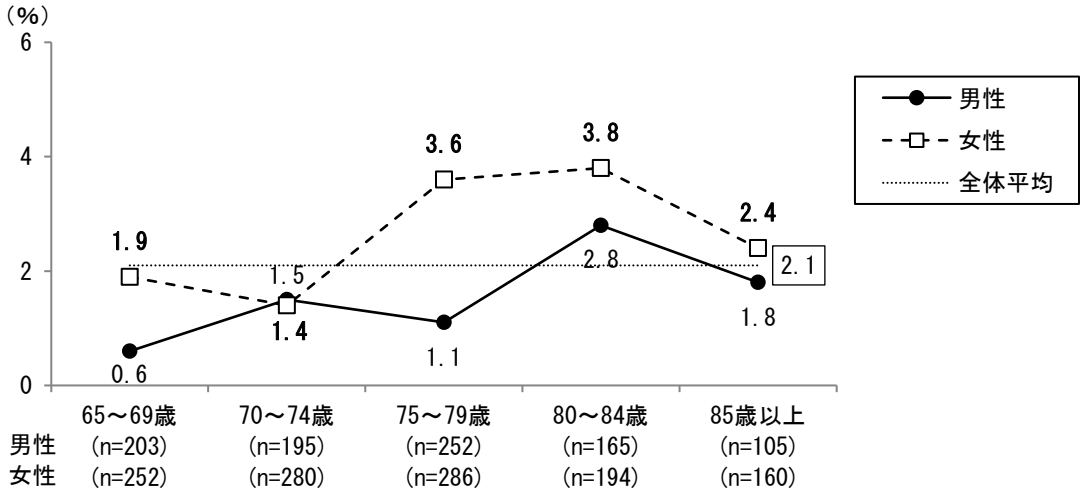
問番号	設問	該当する選択肢
問17	６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか	「あった」
問18	身長・体重 ＢＭＩ値＝体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））	18.5未満

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、栄養改善の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で2.1％となっています。

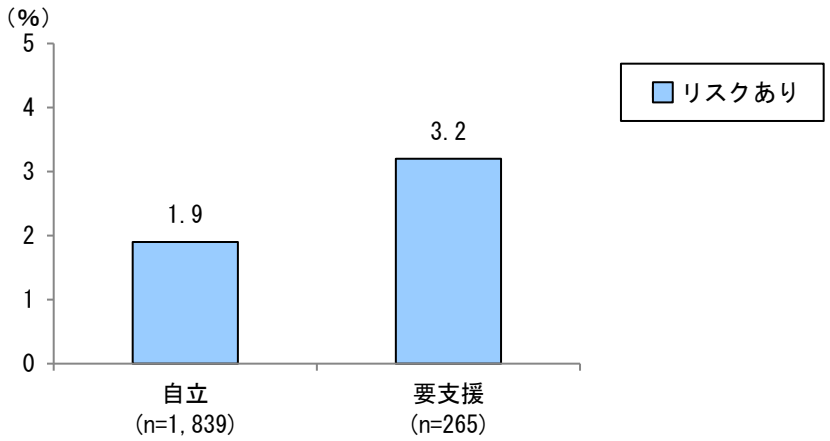
性・年齢別でみると、男性は79歳以下まで２％未満ですが、80～84歳になると３％弱に上昇しています。一方、女性は70～74歳は1.4％で最も低くなっていますが、75歳から84歳までの年代では３％台にまで上昇しています。（図5-1-1）

【図5-1-1　性・年齢別　栄養改善リスク】



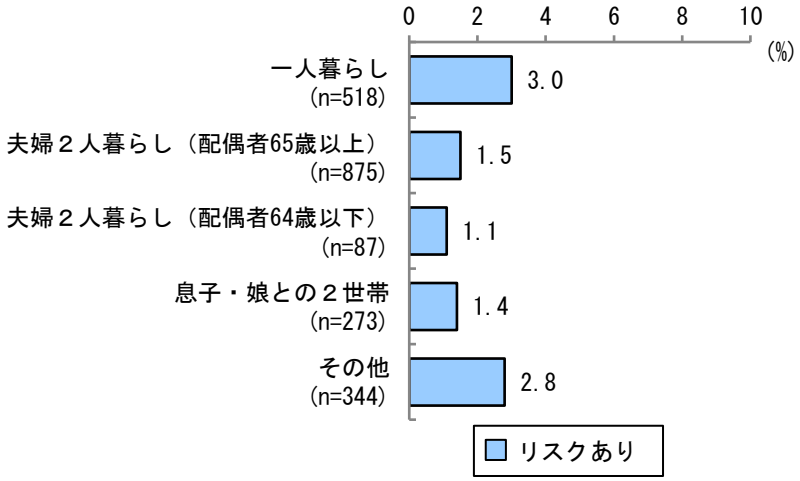
自立・要支援別でみると、自立が1.9%に対し、要支援者が3.2%と高くなっています。(図5-1-2)

【図5-1-2　自立・要支援別　栄養改善リスク】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯が3.0%で最も高くなっています。(図5-1-3)

【図5-1-3　家族構成別　栄養改善リスク】

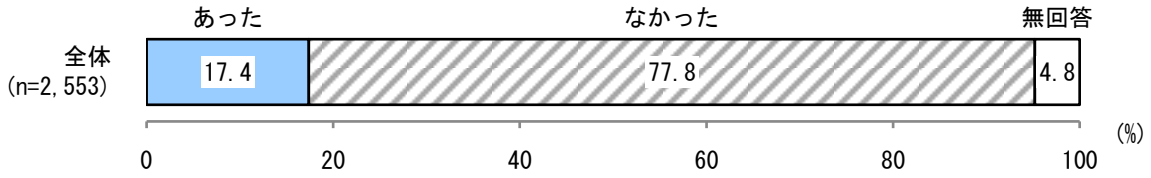


③ 栄養改善リスクに関係する項目の回答状況

（ア）６か月間での体重減少

問17. あなたは６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか。＜○は１つ＞

【図5-2　６か月間での体重減少】

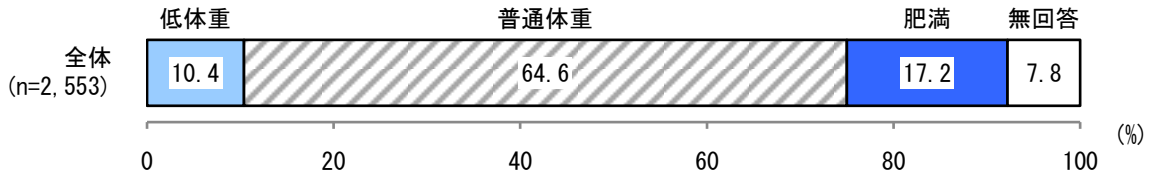


６か月間で２～３kg以上の体重減少があったかについては、「あった」が17.4%、「なかった」が77.8%となっています。（図5-2）

（イ）ＢＭＩ

問18. 身長・体重

【図5-3　ＢＭＩ】



＊ＢＭＩ＝体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））
18.5未満「低体重」、18.5～25.0未満「普通体重」、25.0以上「肥満」

回答された身長・体重から算出したＢＭＩについては、「低体重」が10.4%、「普通体重」が64.6%、「肥満」が17.2%となっています。（図5-3）

（２）口腔機能の低下リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問３問中２問以上に該当した場合に口腔機能の「リスクあり」に該当します。

表　口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

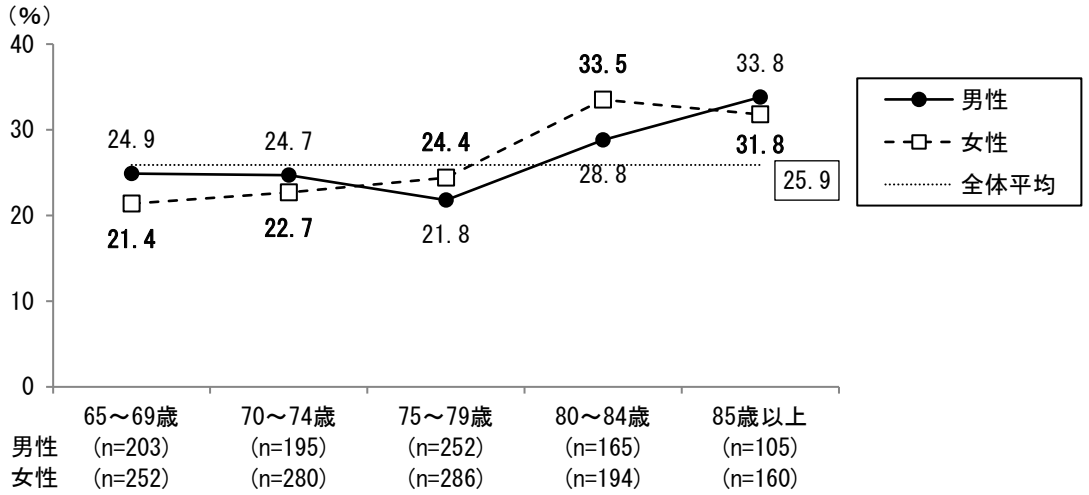
問番号	設問	該当する選択肢
問19	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「食べにくくなった」
問20	お茶や汁物等でむせることがありますか	「ある」
問21	口の渇きが気になりますか	「気になる」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、口腔機能の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で25.9%となっています。

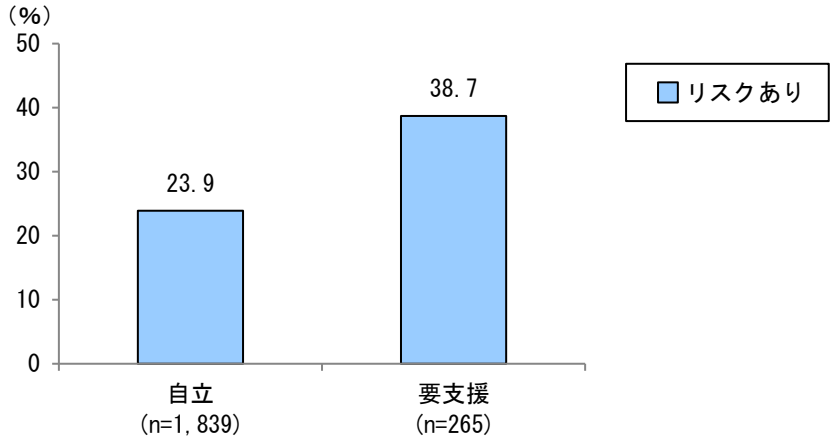
性・年齢別でみると、男性は79歳までは減少傾向にありましたが、上昇に転じ、85歳以上が33.8%と最も高くなっています。一方、女性は84歳までは割合が上昇し、80～84歳が33.5%と最も高くなっています。（図5-4-1）

【図5-4-1　性・年齢別　口腔機能の低下リスク】



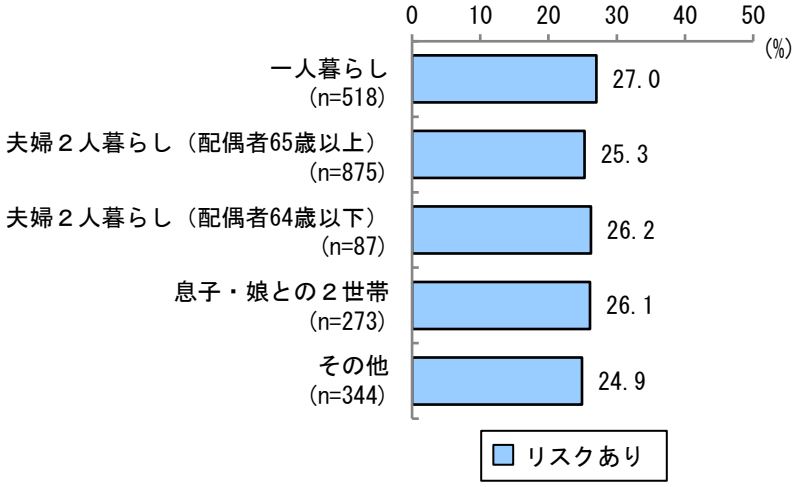
自立・要支援別でみると、自立が23.9%に対し、要支援者が38.7%と高くなっています。(図5-4-2)

【図5-4-2　自立・要支援別　口腔機能の低下リスク】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯が27.0%で最も高いですが、大きな差異はみられません。(図5-4-3)

【図5-4-3　家族構成別　口腔機能の低下リスク】

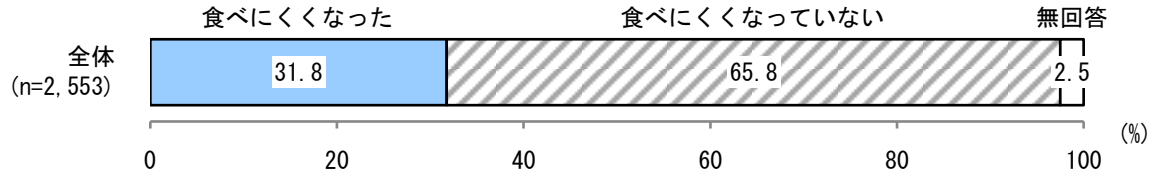


③ 口腔の機能低下リスク判定に関係する項目の回答状況

（ア）半年前に比べた固いものの食べにくさ

問19. あなたは半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。<○は１つ>

【図5-5　半年前に比べた固いものの食べにくさ】

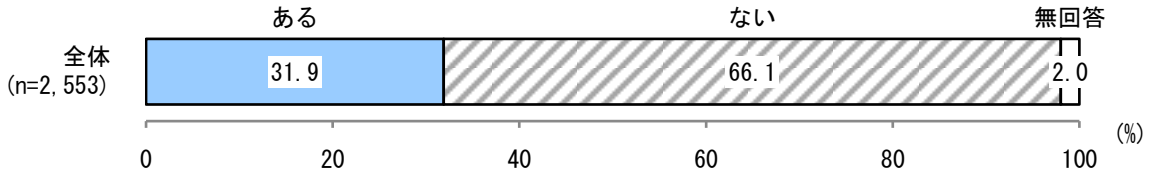


半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「食べにくくなった」が31.8%、「食べにくくなっていない」が65.8%となっています。(図5-5)

（イ）お茶や汁物等でむせること

問20. あなたはお茶や汁物等でむせることがありますか。<○は１つ>

【図5-6　お茶や汁物等でむせること】

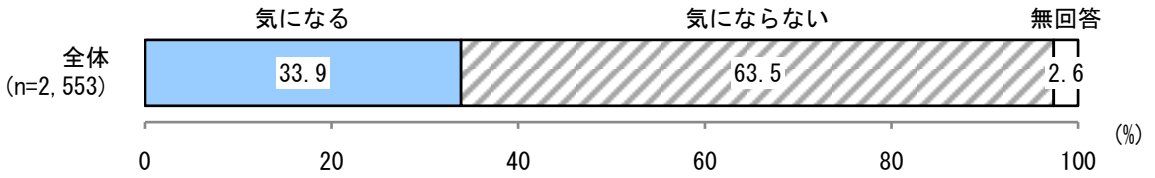


お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「ある」が31.9%、「ない」が66.1%となっています。(図5-6)

（ウ）口の渇き具合

問21. あなたは口の渇きが気になりますか。<○は１つ>

【図5-7　口の渇き具合】

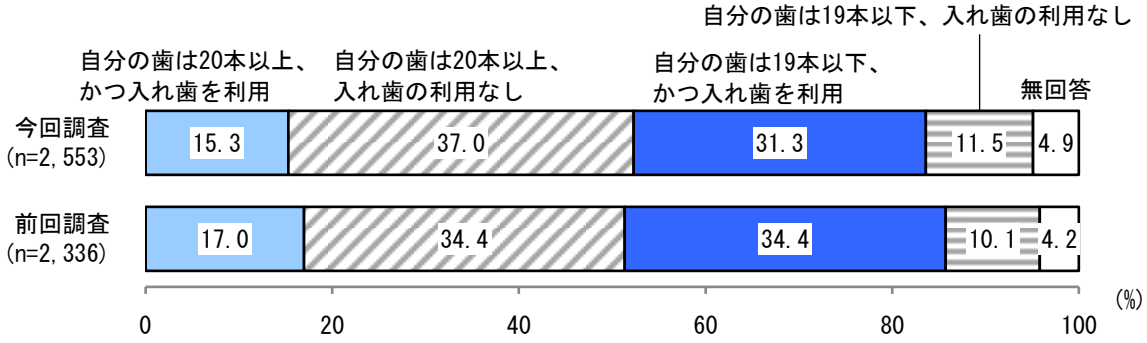


口の渇きが気になるかについては、「気になる」が33.9%、「気にならない」が63.5%となっています。(図5-7)

（３）歯の本数

問22. あなたの歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。）。＜○は１つ＞

【図5-8　歯の本数】

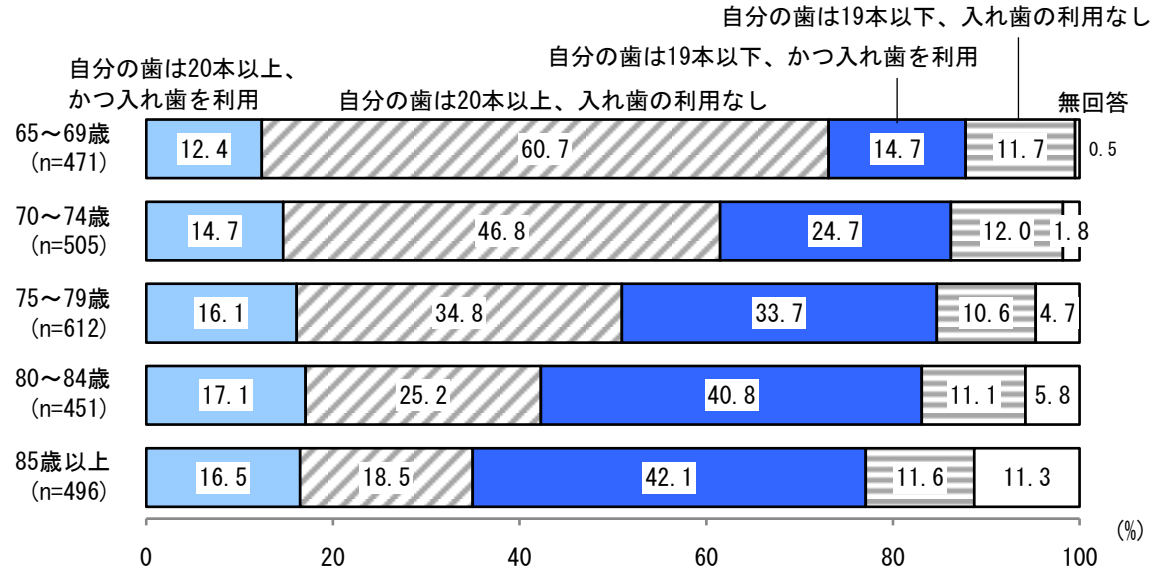


歯の本数については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が37.0%で最も多く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が31.3%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が15.3%となっています。

前回調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が2.6ポイント高くなっています。（図5-8）

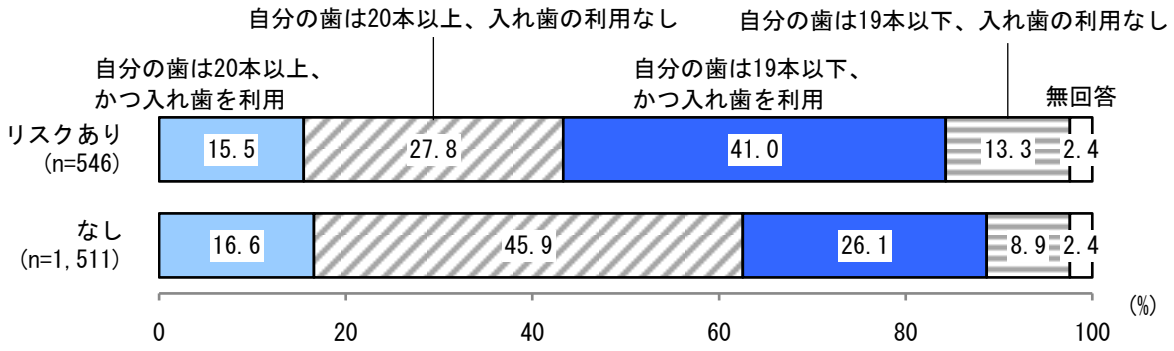
年齢別でみると、高齢になるほど「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が低くなる一方で、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高くなる傾向がみられます。また、80歳以降になると、自分の歯が20本以上ある割合が５割未満となり、入れ歯の利用率は５割以上となります。（図5-8-1）

【図5-8-1　年齢別　歯の本数】



口腔機能低下のリスク有無別でみると、リスクのない人に比べて、リスクありの人は、自分の歯が20本以上の割合が19.2ポイント低く、入れ歯の利用率が13.8ポイント高くなっています。(図5-8-2)

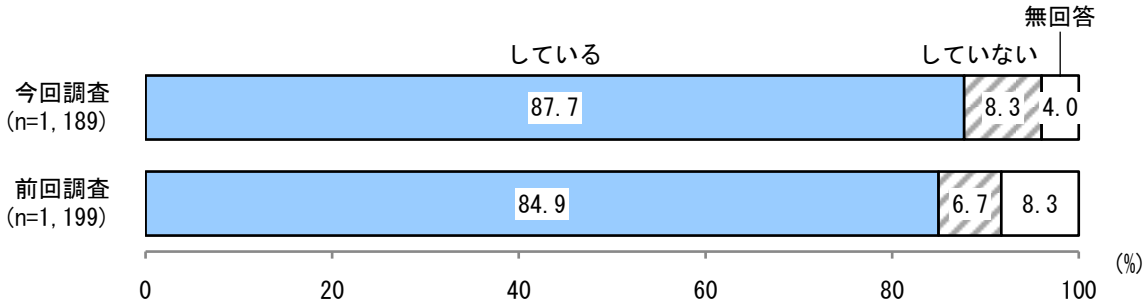
【図5-8-2　口腔機能低下のリスク有無別　歯の本数】



（4）入れ歯の手入れ

問22－1．問22で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」又は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方にお聞きします。
毎日入れ歯の手入れをしていますか。<○は1つ>

【図5-9　入れ歯の手入れ】

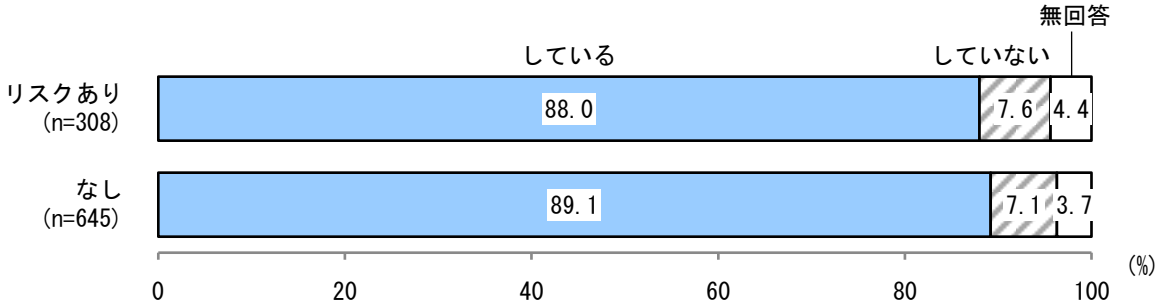


入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているかたずねたところ、「している」が87.7%、「していない」が8.3%となっています。

前回調査と比較すると、「している」が2.8ポイント高くなっています。(図5-9)

口腔機能低下のリスク有無別でみても、大きな差異はみられません。（図5-9-1）

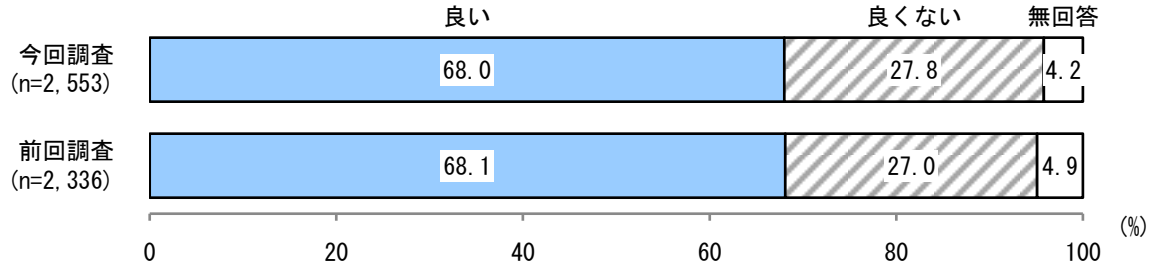
【図5-9-1　口腔機能低下のリスク有無別　入れ歯の手入れ】



（５）歯の噛み合わせ

問23. あなたの歯の噛み合わせは良いですか。<○は１つ>

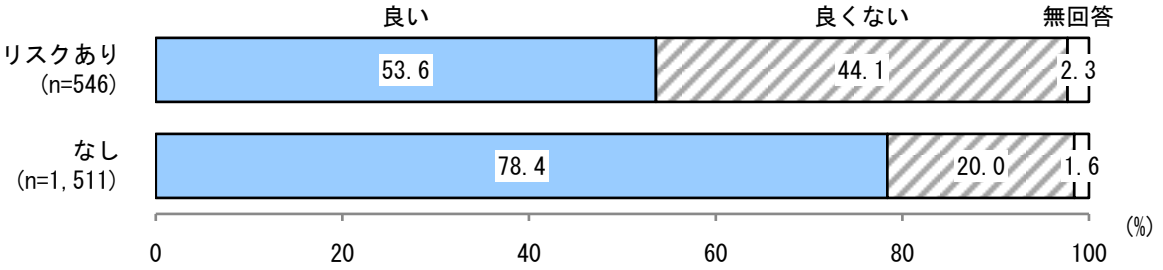
【図5-10　歯の噛み合わせ】



歯の噛み合わせは良いかについては、「良い」が68.0%、「良くない」が27.8%となっています。前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図5-10）

口腔機能低下のリスク有無別でみると、リスクのない人に比べて、リスクありの人は「良くない」が24.1ポイント高くなっています。（図5-10-1）

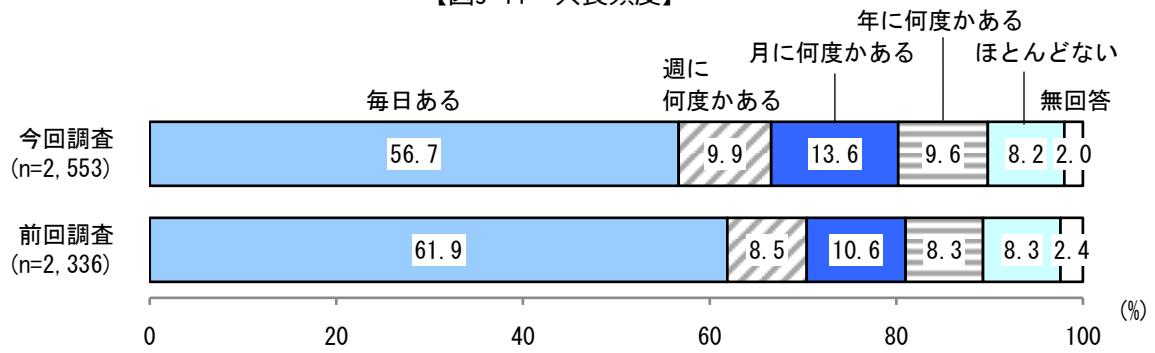
【図5-10-1　口腔機能低下のリスク有無別　歯の噛み合わせ】



（６）共食頻度

問24. あなたはどなたかと食事をともにする機会はありますか。<○は１つ>

【図5-11　共食頻度】

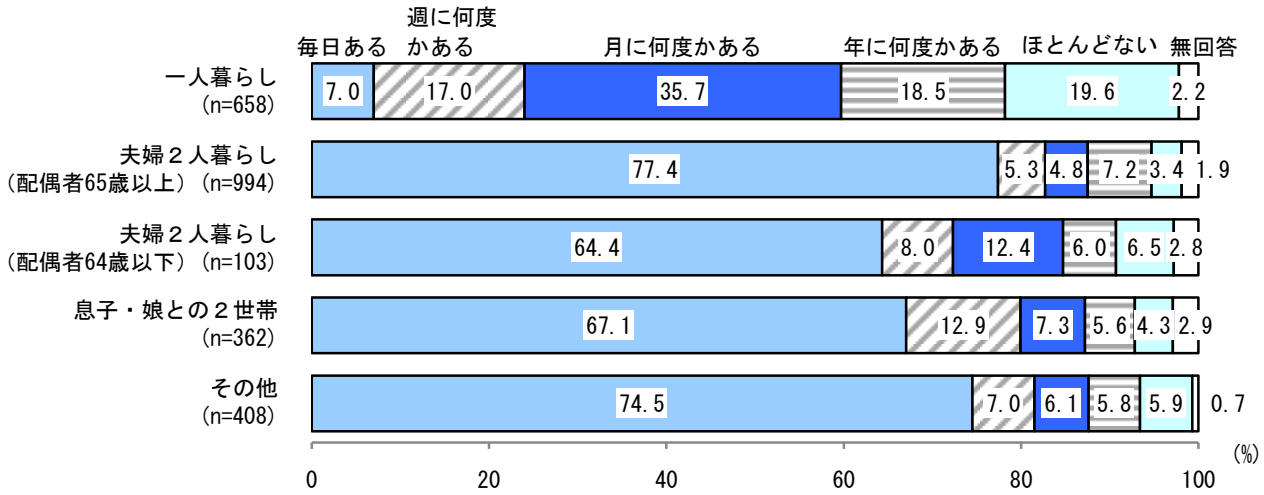


食事をともにする機会の頻度については、「毎日ある」が56.7%で最も多く、次いで「月に何度かある」が13.6%、「週に何度かある」が9.9%、「年に何度かある」が9.6%となっています。

前回調査と比較すると、「毎日ある」は5.2ポイント低くなっています。（図5-11）

家族構成別でみると、一人暮らし世帯では、「月に何度かある」が35.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が19.6%、「年に何度かある」が18.5%となっています。（図5-11-1）

【図5-11-1　家族構成別　共食頻度】



6　物忘れについて

（１）認知機能低下リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問１問に該当した場合に認知機能の「リスクあり」に該当します。

表　認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

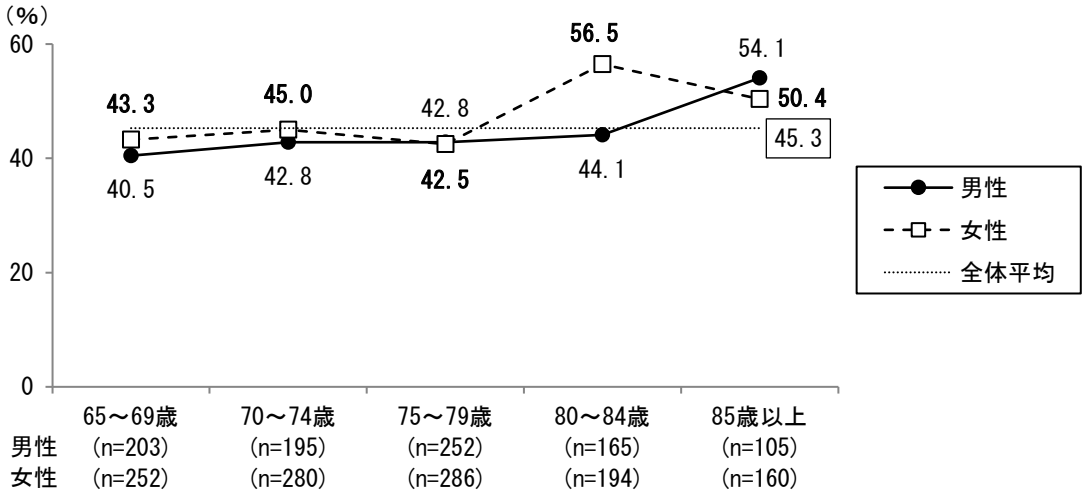
問番号	設問	該当する選択肢
問25	物忘れが多いと感じますか	「感じる」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、認知機能の「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で45.3%となっています。

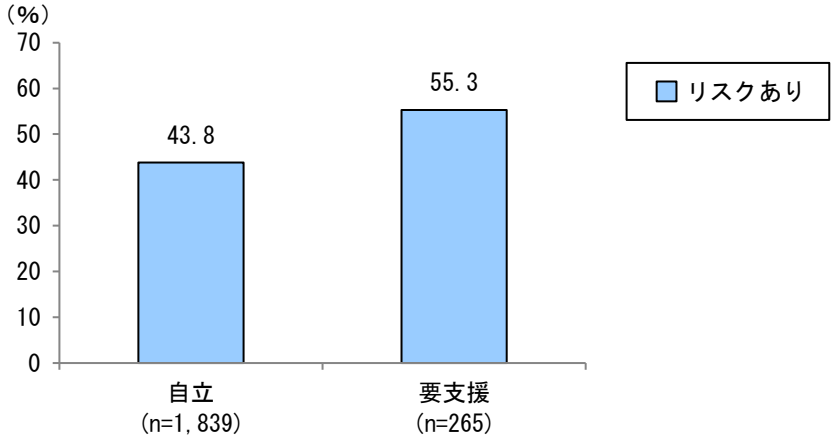
性・年齢別でみると、男女共に、年代にかかわらず５割前後で推移していますが、80～84歳では男性より女性のほうが12.4ポイント高くなっています。（図6-1-1）

【図6-1-1　性・年齢別　認知機能低下リスク】



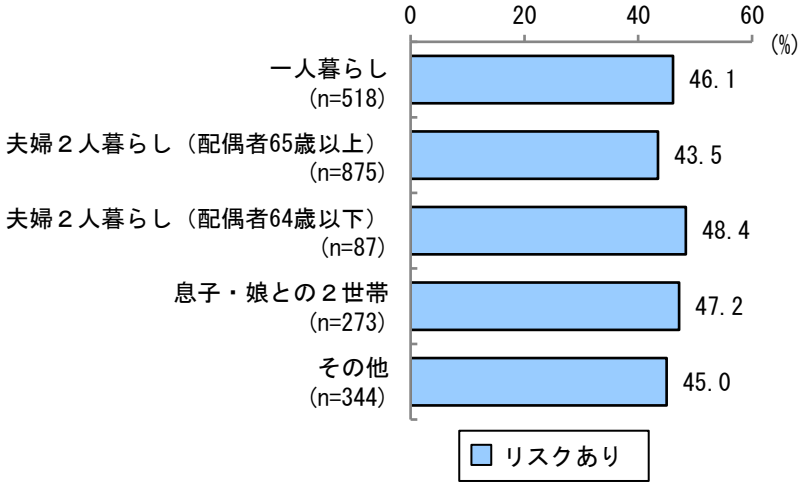
自立・要支援別でみると、自立が43.8%に対し、要支援者が55.3%と高くなっています。(図6-1-2)

【図6-1-2　自立・要支援別　認知機能低下リスク】



家族構成別でみると、夫婦２人暮らし世帯（配偶者64歳以下）が48.4%で最も高く、次いで息子・娘との２世帯が47.2%、一人暮らし世帯が46.1%となっています。(図6-1-3)

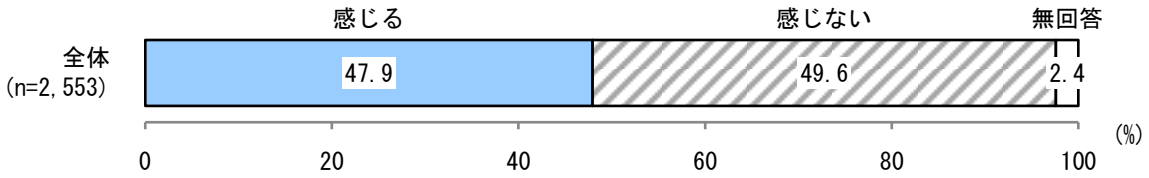
【図6-1-3　家族構成別　認知機能低下リスク】



③ 認知機能低下リスク判定に関係する項目の回答状況

問25. あなたは物忘れが多いと感じますか。<○は１つ>

【図6-2　物忘れの多さ】



物忘れが多いと感じるかについては、「感じる」が47.9%、「感じない」が49.6%となっています。(図6-2)

7　日常生活について

（1）手段的自立度（ＩＡＤＬ）

① 設問と評価

今回の調査票には、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。ここではそのうち、手段的自立度（問26～30）に関する結果についてみてみます。

各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」を回答した場合を１点として、５点満点で評価し、５点を「高い」、４点を「やや低い」、３点以下を「低い」として評価しています。

表　手段的自立度に関する設問（老研指標）

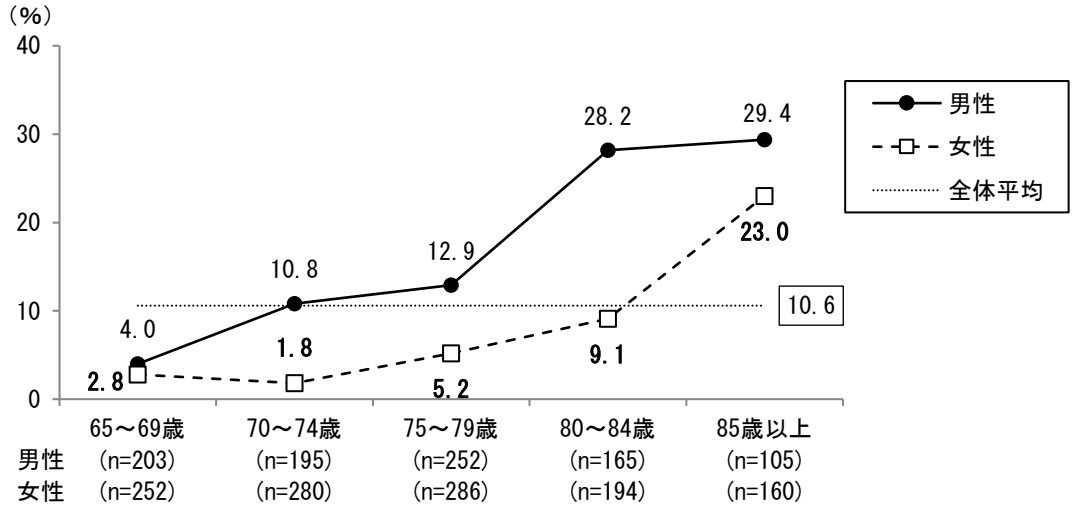
問番号	設問	該当する選択肢
問26	バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）	「できるし、している」「できるけどしていない」を１点とした各問の合計
問27	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問28	自分で食事の用意をしていますか	
問29	自分で請求書の支払いをしていますか	
問30	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

② 評価結果

４点以下を「低下者」とした評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、「低下者」に該当する人の割合は全体平均で10.6%となっています。

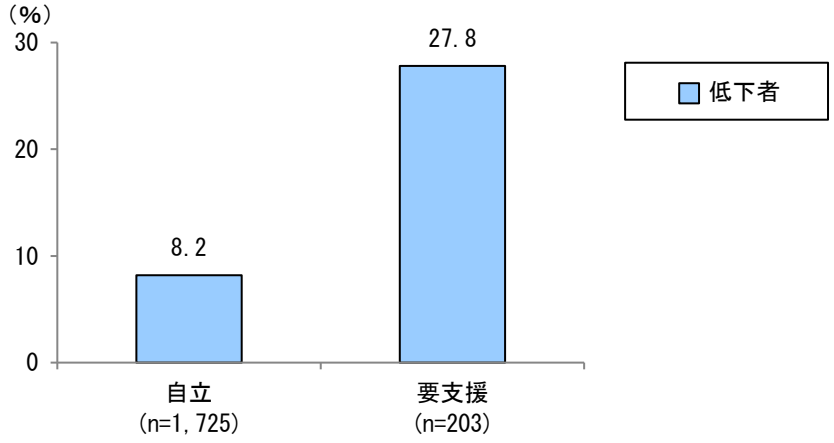
性・年齢別でみると、男性は上昇傾向がみられ、いずれの年代も女性より高くなっています。（図7-1-1）

【図7-1-1　性・年齢別　手段的自立度】



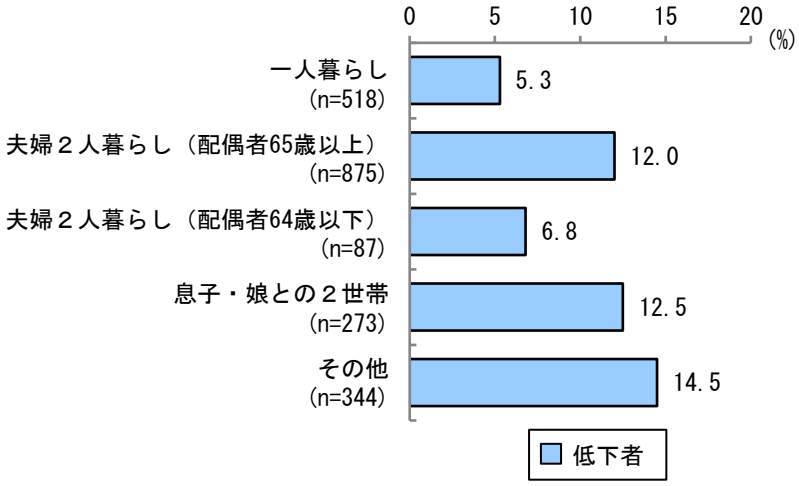
自立・要支援別でみると、自立が8.2%に対し、要支援者が27.8%と高くなっています。（図7-1-2）

【図7-1-2　自立・要支援別　手段的自立度】



家族構成別でみると、息子・娘との２世帯が12.5%で最も高く、次いで夫婦２人暮らし世帯（配偶者65歳以上）が12.0%となっています。また、一人暮らし世帯は5.3%と比較的低い割合になっています。（図7-1-3）

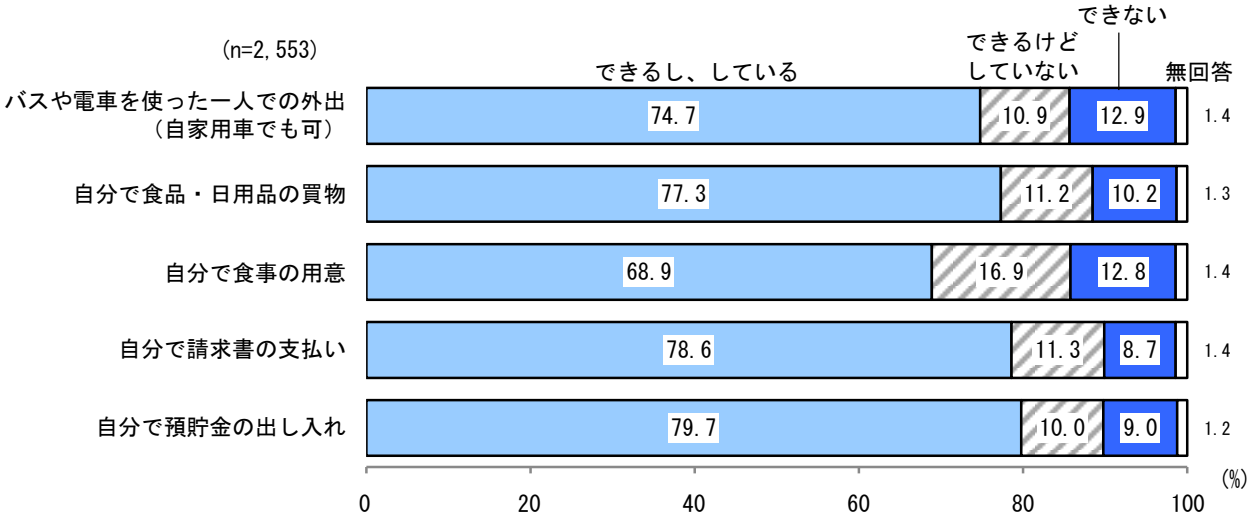
【図7-1-3　家族構成別　手段的自立度】



③ 手段的自立度評価に関係する項目の回答状況

問26. あなたはバスや電車を使って一人で外出していますか。（自家用車でも可）＜○は１つ＞
問27. あなたは自分で食品・日用品の買物をしていますか。＜○は１つ＞
問28. あなたは自分で食事の用意をしていますか。＜○は１つ＞
問29. あなたは自分で請求書の支払いをしていますか。＜○は１つ＞
問30. あなたは自分で預貯金の出し入れをしていますか。＜○は１つ＞

【図7-2　手段的自立度評価に関係する項目】



バスや電車を使って一人で外出しているかについては、「できるし、している」が74.7%で最も多く、次いで「できない」が12.9%、「できるけどしていない」が10.9%となっています。

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が77.3%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が11.2%、「できない」が10.2%となっています。

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が68.9%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が16.9%、「できない」が12.8%となっています。

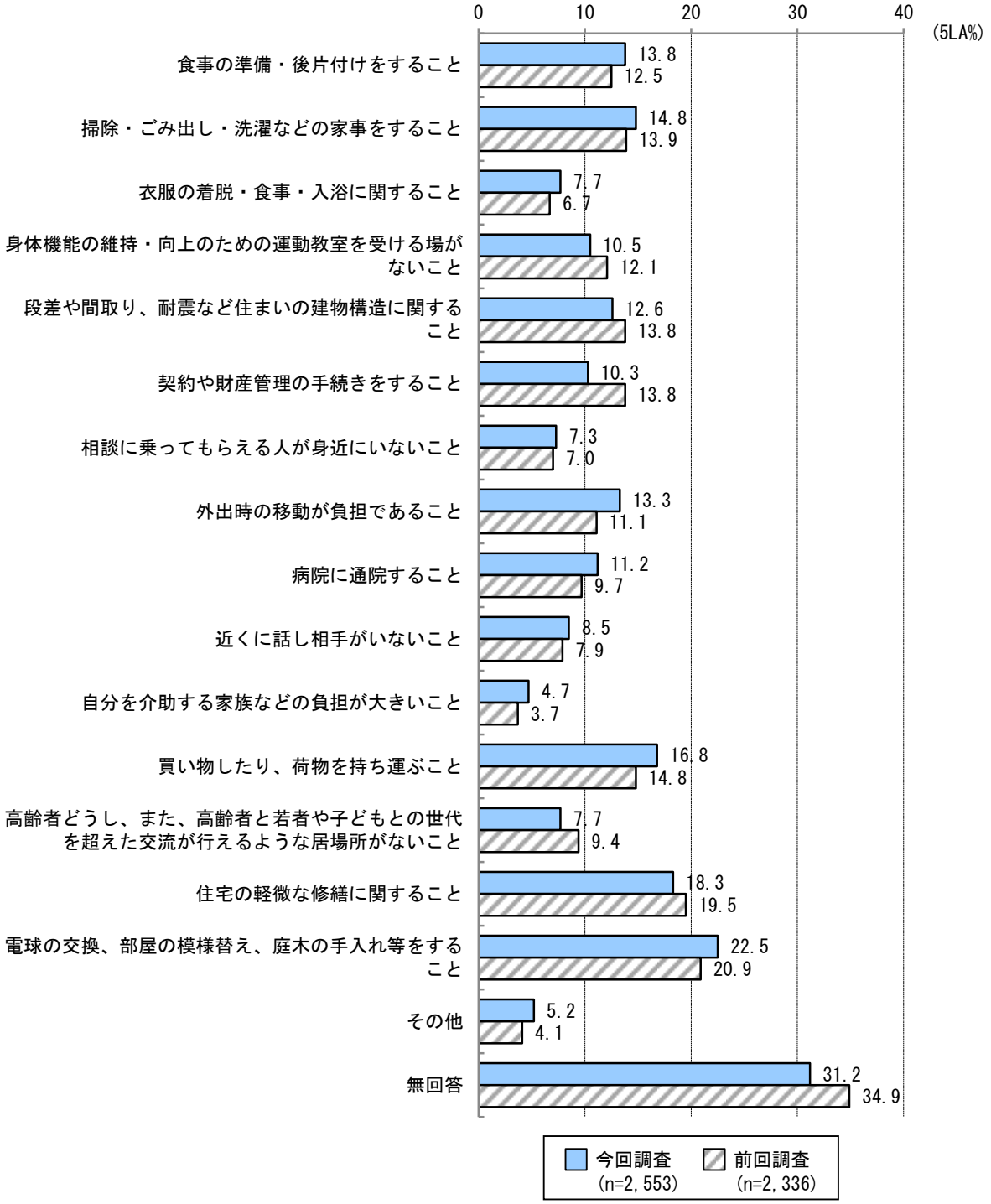
自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が78.6%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が11.3%、「できない」が8.7%となっています。

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が79.7%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が10.0%、「できない」が9.0%となっています。（図7-2）

（２）日常生活で不自由に感じていること

問31．現在、あなたが日常生活の中で不自由と感じているのはどんなことですか。
＜○は５つまで。うち最もそう感じるものに◎＞

【図7-3　日常生活で不自由に感じていること】

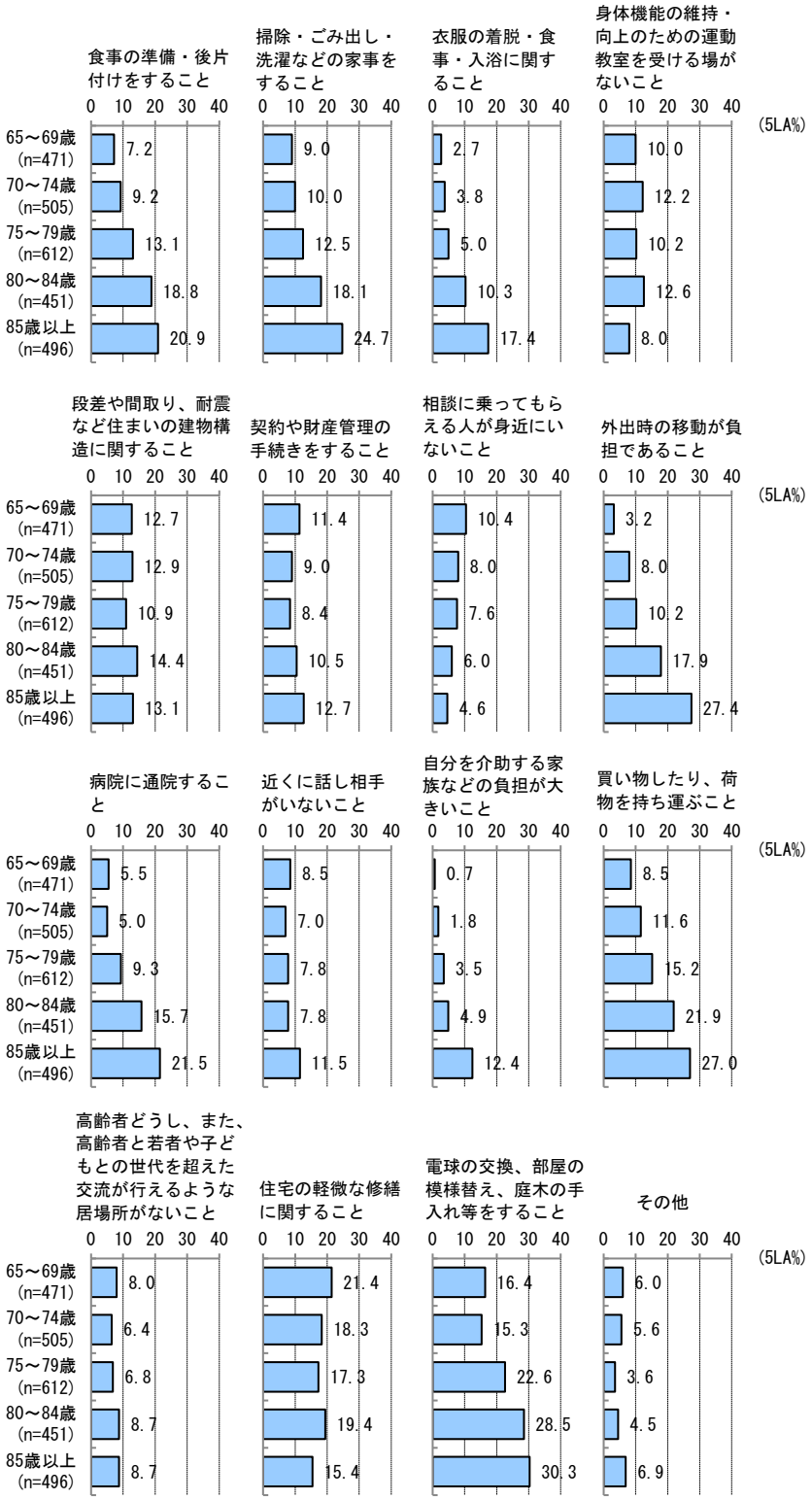


日常生活で不自由に感じていることについては、「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をすること」が22.5%で最も多く、次いで「住宅の軽微な修繕に関すること」が18.3%、「買い物したり、荷物を持ち運ぶこと」が16.8%となっています。

前回調査と比較すると、「契約や財産管理の手続きをすること」が3.5ポイント低くなっています。（図7-3）

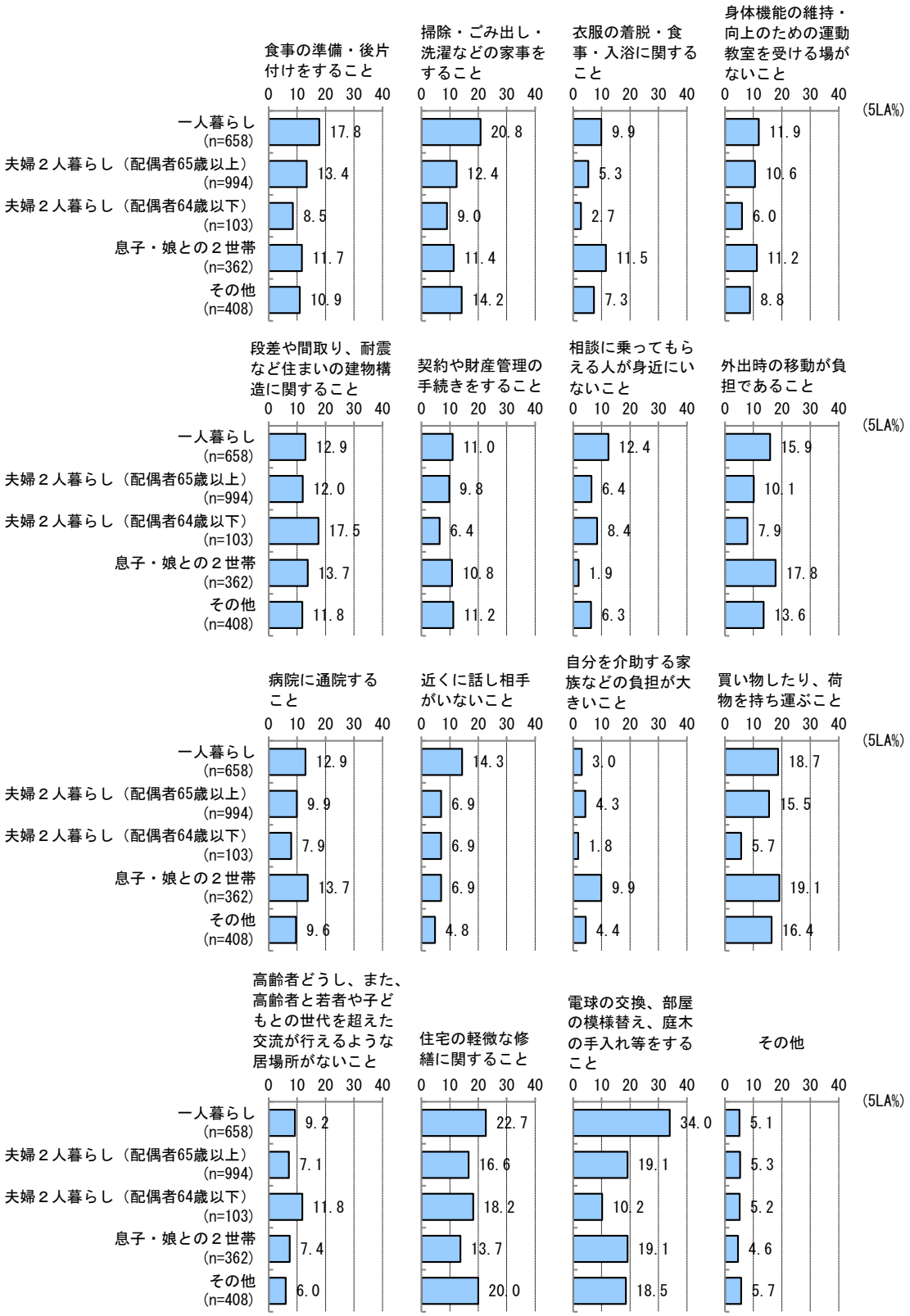
年齢別でみると、多くの項目で高齢になるほど割合が高くなる傾向にありますが、「身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと」、「段差や間取り、耐震など住まいの建物構造に関すること」、「契約や財産管理の手続きをすること」、「相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと」、「近くに話し相手がいないこと」、「高齢者どうし、また、高齢者と若者や子どもとの世代を超えた交流が行えるような居場所がないこと」、「住宅の軽微な修繕に関すること」、「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をすること」は、年齢による差が小さくなっています。（図7-3-1）

【図7-3-1　年齢別　日常生活で不自由に感じていること】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯では「食事の準備・後片付けをすること」、「掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること」、「身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと」、「相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと」、「近くに話し相手がいないこと」、「住宅の軽微な修繕に関すること」、「電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をすること」が、他の世帯と比べて高い割合になっています。（図7-3-2）

【図7-3-2　家族構成別　日常生活で不自由に感じていること】

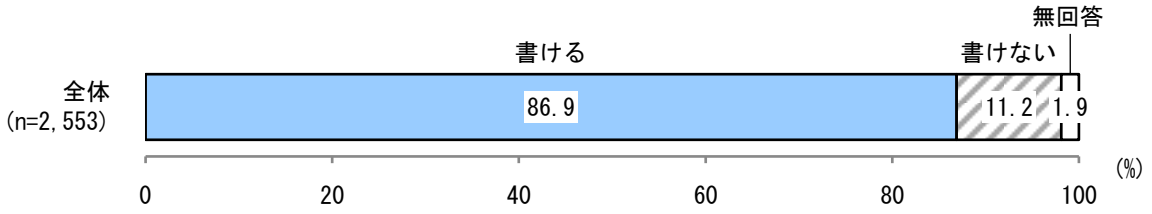


8　社会参加について

（１）年金などの書類が書けるか

問32.　あなたは年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。＜○は１つ＞

【図8-1　年金などの書類が書けるか】

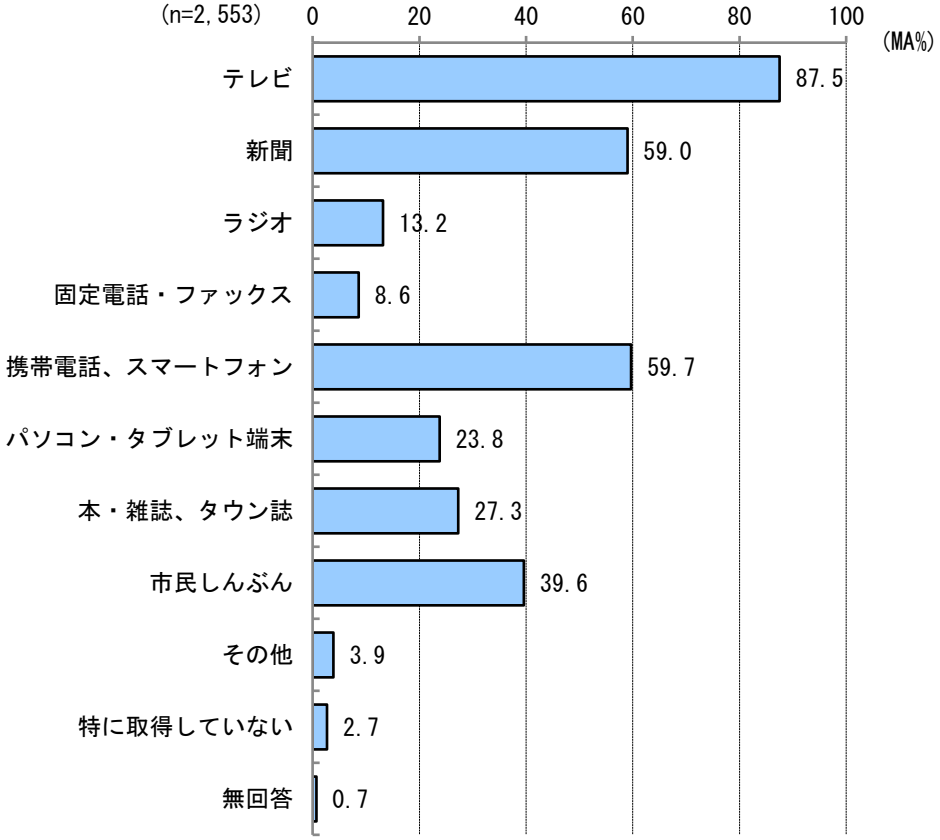


年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるかについては、「書ける」が86.9%、「書けない」が11.2%となっています。（図8-1）

（２）情報の取得方法

問33.　あなたは、自分の生活に必要な情報をどのように取得していますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

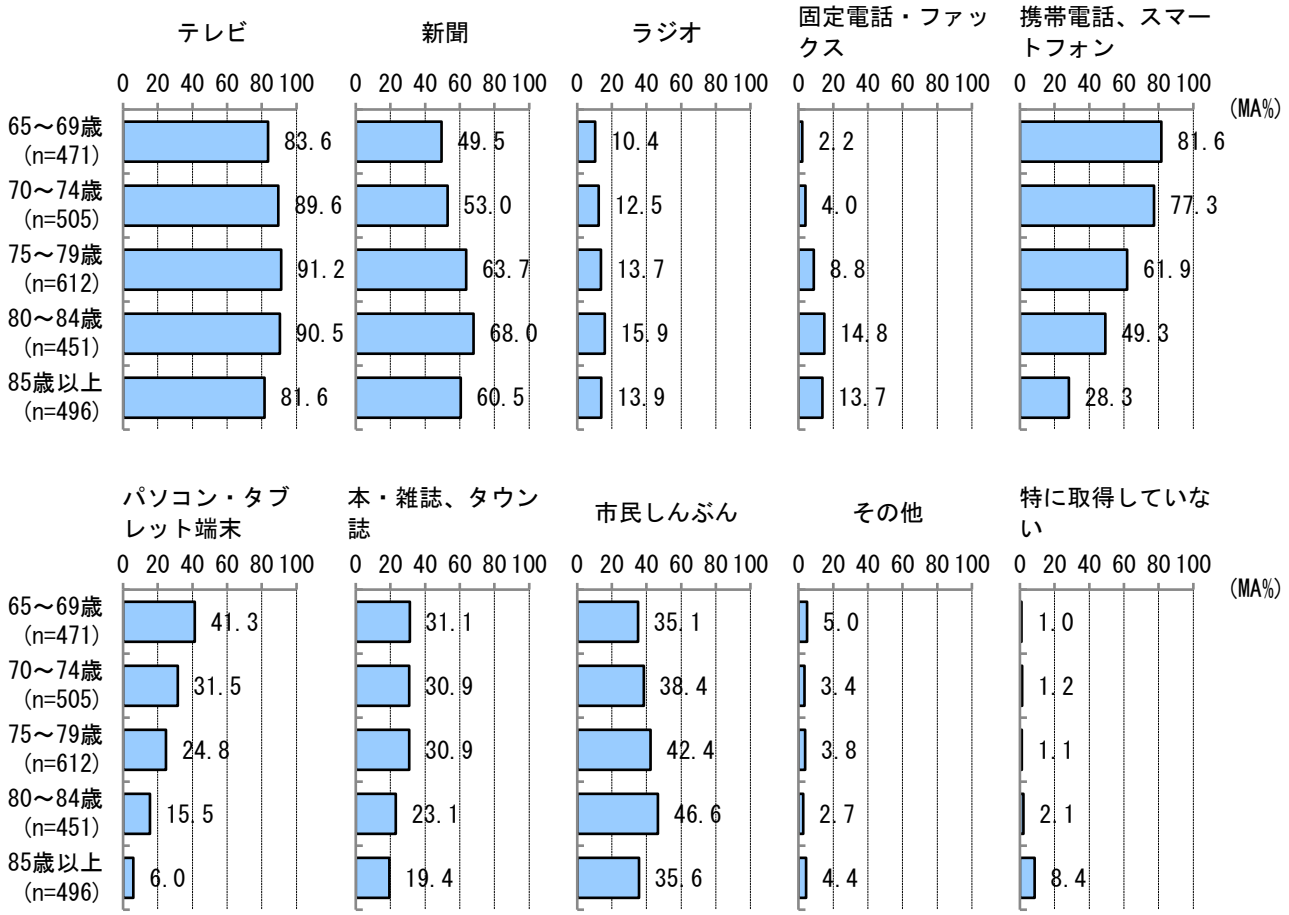
【図8-2　情報の取得方法】



情報の取得方法については、「テレビ」が87.5%で最も多く、次いで「携帯電話、スマートフォン」が59.7%、「新聞」が59.0%、「市民しんぶん」が39.6%となっています。（図8-2）

年齢別でみると、「携帯電話、スマートフォン」や「パソコン・タブレット端末」、「本・雑誌、タウン誌」は高齢になるほど割合が低くなっています。一方、「テレビ」は75～84歳の年代で９割を超えています。（図8-2-1）

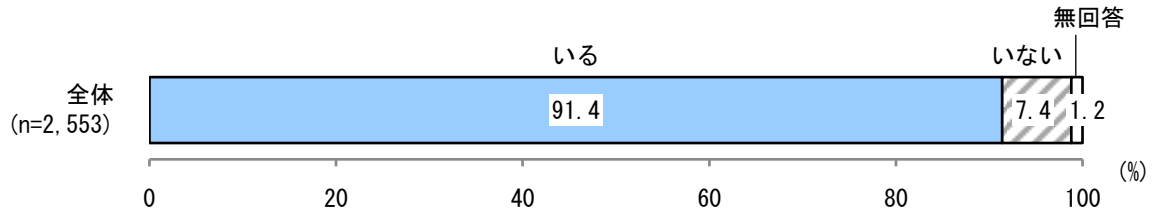
【図8-2-1　年齢別　情報の取得方法】



（３）いざという時に頼れる親族の有無

問34. あなたはいざという時に頼れる親族がいますか。＜○は１つ＞

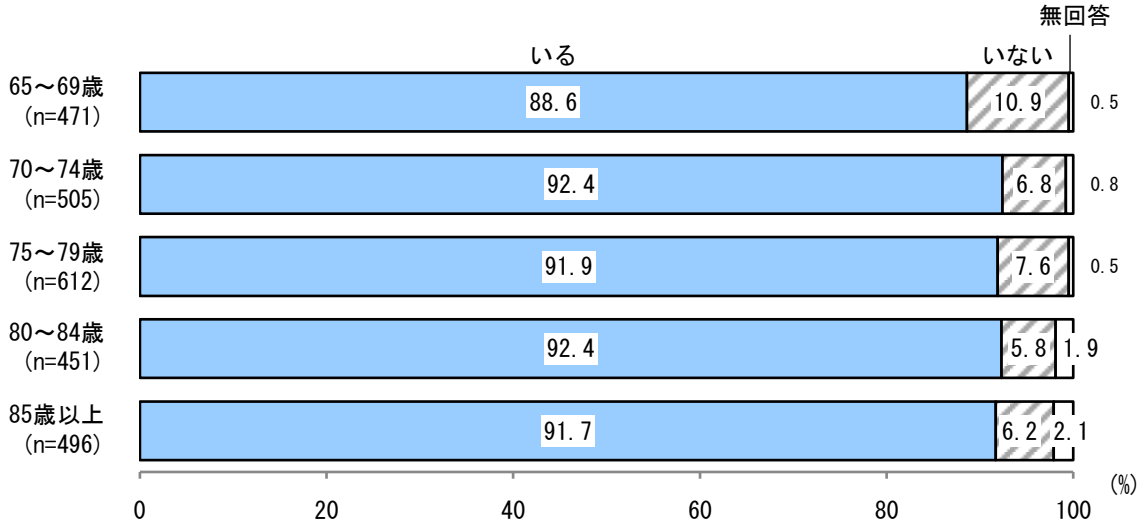
【図8-3　いざという時に頼れる親族の有無】



いざという時に頼れる親族の有無は、「いる」が91.4%、「いない」が7.4%となっています。（図8-3）

年齢別でみても、大きな差異はみられません。（図8-3-1）

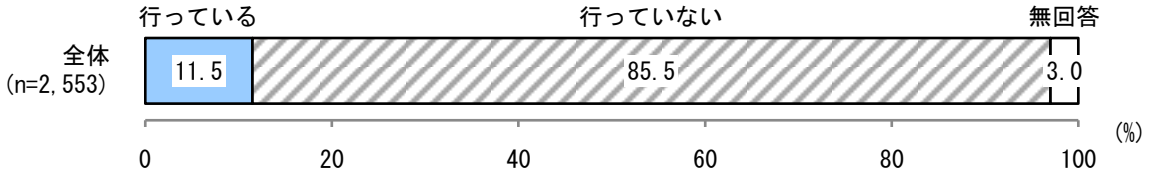
【図8-3-1　年齢別　いざという時に頼れる親族の有無】



（４）家族や親族の介護の状況

問35. あなたは現在、家族や親族の介護を行っていますか。<○は１つ>

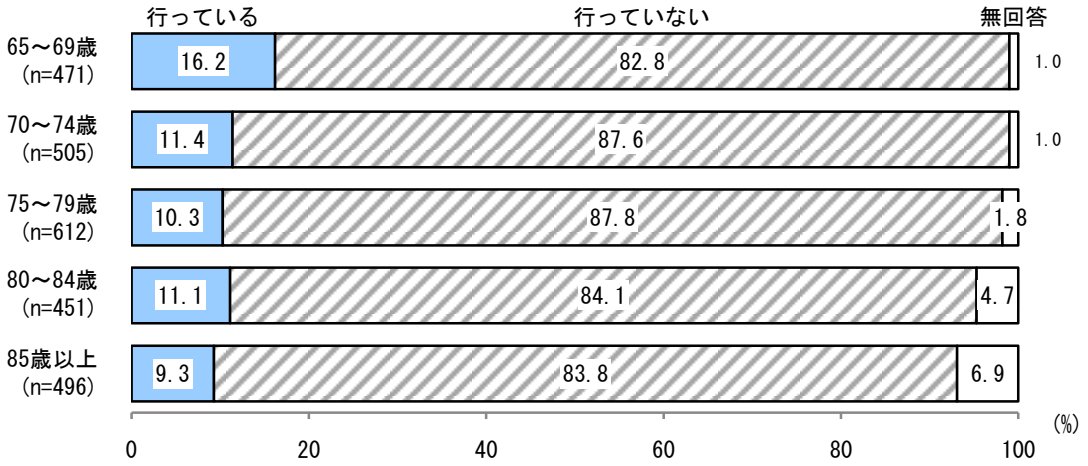
【図8-4　家族や親族の介護の状況】



家族や親族の介護を行っているかについては、「行っている」が11.5%、「行っていない」が85.5%となっています。(図8-4)

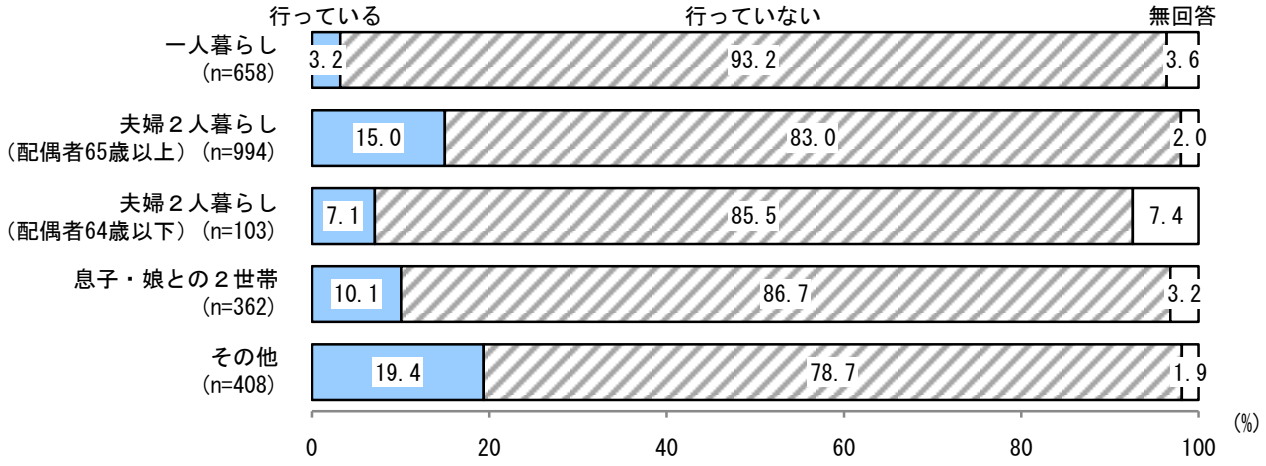
年齢別でみると、介護を「行っている」割合は65～69歳（16.2%）で最も高くなっています。(図8-4-1)

【図8-4-1　年齢別　家族や親族の介護の状況】



家族構成別でみると、介護を「行っている」割合はその他の世帯（19.4%）が最も高く、次いで夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）（15.0%）となっています。(図8-4-2)

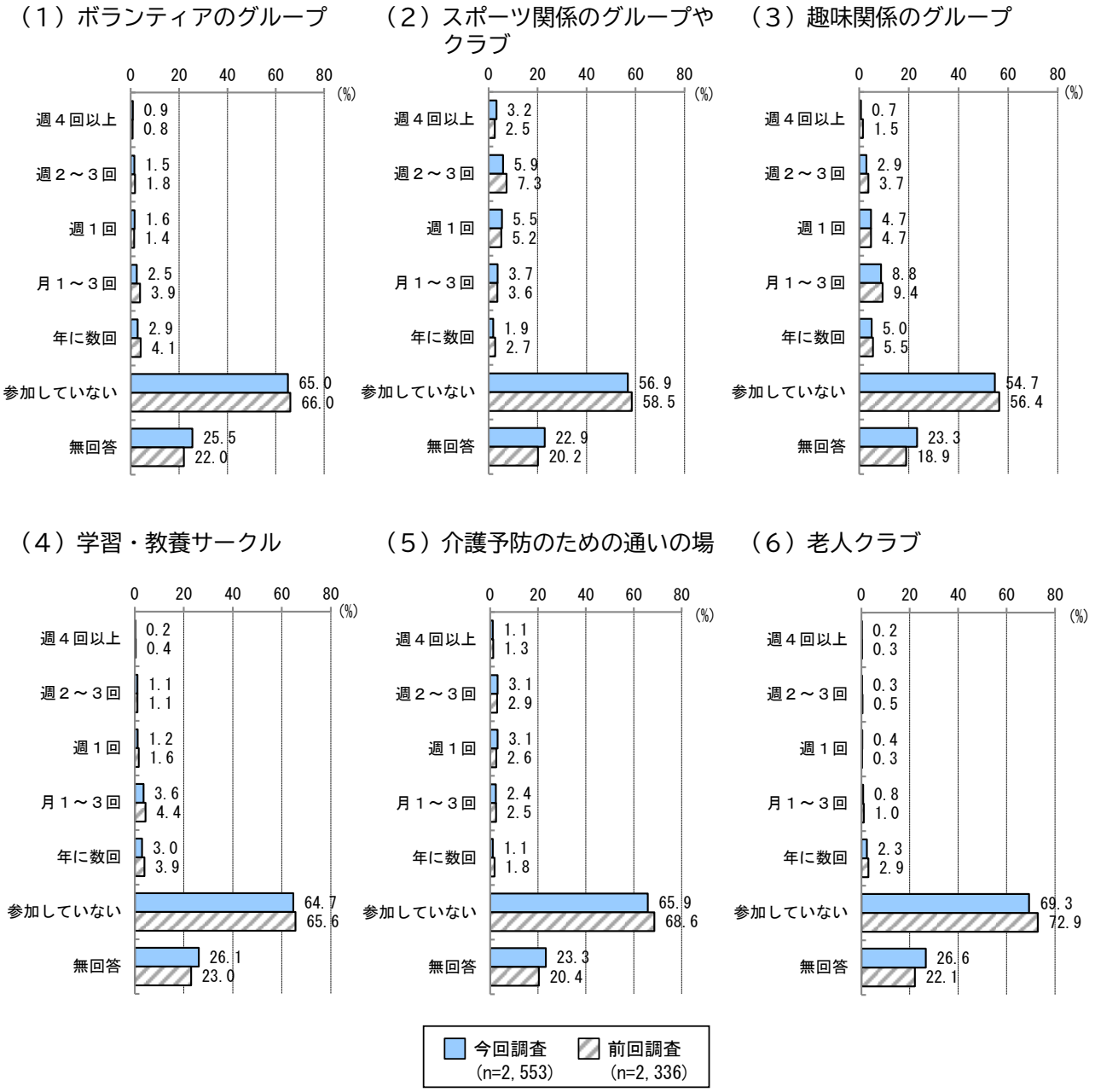
【図8-4-2　家族構成別　家族や親族の介護の状況】



（５）会・グループ等の参加頻度

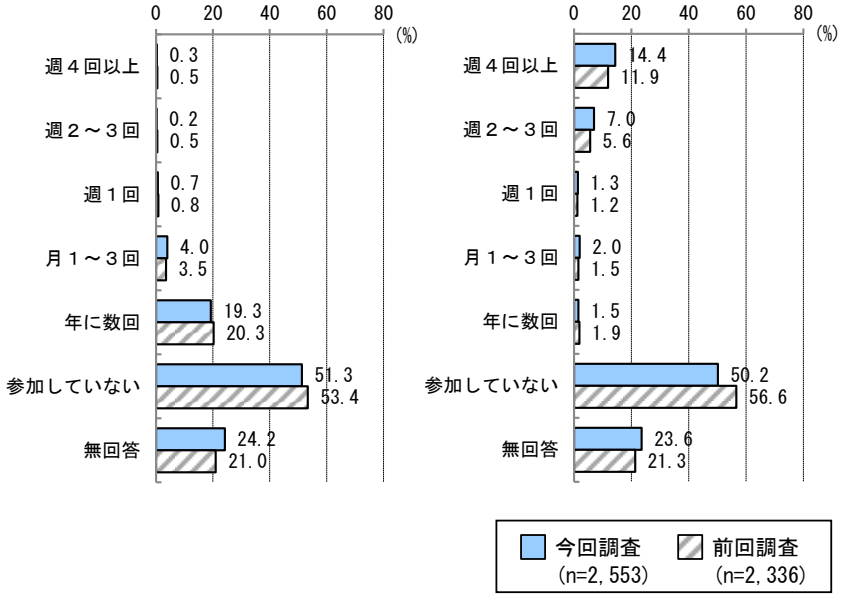
問36. あなたは以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
＜(1)から(8)までそれぞれ○は１つずつ＞

【図8-5　会・グループ等の参加頻度①】



【図8-5　会・グループ等の参加頻度②】

（７）町内会・自治会　　（８）収入のある仕事



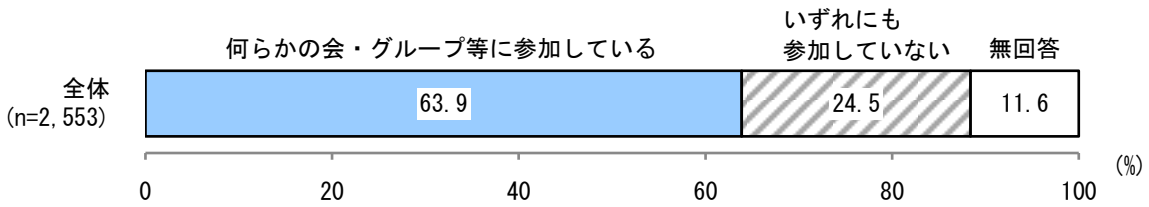
いずれの会・グループ等も「参加していない」が５割以上となっています。

参加している人では、ボランティアのグループが「年に数回」で2.9%、スポーツ関係のグループやクラブが「週２～３回」で5.9%、趣味関係のグループが「月１～３回」で8.8%、学習・教養サークルが「月１～３回」で3.6%、介護予防のための通いの場が「週２～３回」と「週１回」がそれぞれ3.1%、老人クラブが「年に数回」で2.3%、町内会・自治会が「年に数回」で19.3%、収入のある仕事が「週４回以上」で14.4%と、それぞれ最も多くなっています。

前回調査と比較すると、収入のある仕事は「週４回以上」が2.5ポイント高くなっています。（図8-5）

上記（１）～（８）の会・グループ等のうち、「何らかの会・グループ等に参加している」比率は63.9%となっています。（図8-5-1）

【図8-5-1　会・グループ等の参加比率】



年齢別でみると、「週４回以上」と「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『年に数回以上参加している』割合では、学習・教養サークルは70～74歳（11.4%）で最も高く、老人クラブは75～79歳（5.5%）が、それぞれ最も高くなっています。また、高齢になるほど、介護予防のための通いの場は高い割合になり、85歳以上で17.5%となっています。一方、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、収入のある仕事では、高齢になるほど割合は低くなっており、最も高い65～69歳の割合はスポーツ関係のグループやクラブで25.6%、趣味関係のグループで27.2%、収入のある仕事で53.1%となっています。（表8-5-2）

【表8-5-2　年齢別　会・グループ等の参加頻度】

（単位：%）

（1）ボランティアのグループ								（2）スポーツ関係のグループやクラブ						
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
1.0	1.7	2.2	3.7	4.5	78.1	8.7	65～69歳 (n=471)	3.2	7.0	5.7	6.2	3.5	66.4	8.0
0.8	1.8	2.2	2.6	3.6	73.3	15.7	70～74歳 (n=505)	4.0	6.4	8.2	3.6	2.2	60.6	15.1
1.2	1.7	2.0	4.0	2.9	64.1	24.2	75～79歳 (n=612)	3.3	6.5	6.5	4.3	2.3	56.7	20.4
0.4	1.2	1.6	2.1	2.3	55.5	36.9	80～84歳 (n=451)	2.3	6.8	3.9	3.1	1.2	50.3	32.4
0.8	1.0	0.2	0.0	1.6	54.2	42.3	85歳以上 (n=496)	2.7	3.1	2.7	1.4	0.4	50.3	39.4

（3）趣味関係のグループ								（4）学習・教養サークル						
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
0.5	3.0	6.0	12.2	5.5	64.2	8.7	65～69歳 (n=471)	0.0	1.2	1.7	3.2	4.5	78.6	10.7
0.6	2.8	4.2	11.2	5.6	61.4	14.3	70～74歳 (n=505)	0.0	1.4	1.8	5.0	3.2	72.3	16.3
1.4	2.6	5.6	8.7	5.9	54.4	21.4	75～79歳 (n=612)	0.6	1.2	0.6	4.3	2.7	65.7	24.9
0.6	5.4	4.5	7.2	4.7	43.9	33.6	80～84歳 (n=451)	0.2	0.8	0.8	3.9	1.9	54.6	37.7
0.2	1.2	3.1	4.9	2.7	49.1	38.8	85歳以上 (n=496)	0.0	1.0	1.0	1.7	2.9	52.3	41.1

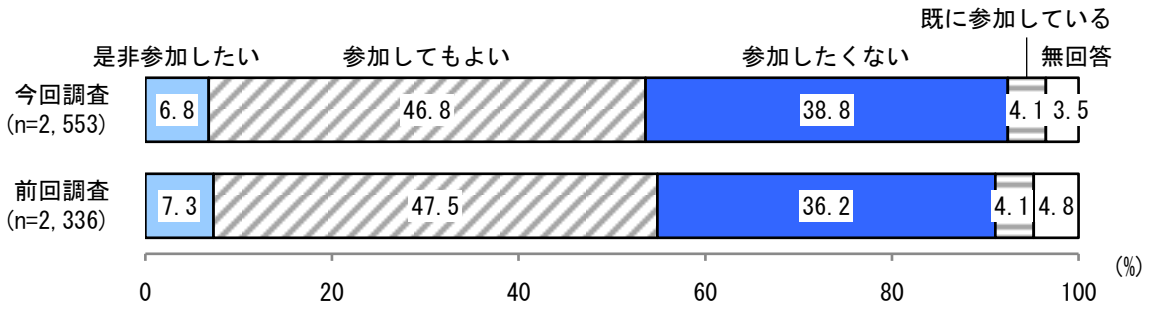
（5）介護予防のための通いの場								（6）老人クラブ						
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
0.2	0.7	1.0	2.5	1.2	85.1	9.2	65～69歳 (n=471)	0.0	0.0	0.0	0.2	1.5	87.8	10.4
0.6	1.0	2.2	2.6	0.6	77.3	15.7	70～74歳 (n=505)	0.0	0.4	0.0	0.2	1.8	80.3	17.3
0.6	2.0	2.1	2.1	1.1	68.1	24.0	75～79歳 (n=612)	0.2	0.2	0.9	0.9	3.3	69.3	25.2
1.2	4.7	5.4	2.9	2.1	50.9	32.8	80～84歳 (n=451)	0.0	0.6	0.6	1.6	2.5	55.7	39.0
2.7	6.9	5.4	2.1	0.4	48.1	34.4	85歳以上 (n=496)	1.0	0.2	0.6	1.2	2.1	53.4	41.5

（7）町内会・自治会								（8）収入のある仕事						
週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
0.5	0.0	0.5	4.2	26.4	59.5	9.0	65～69歳 (n=471)	36.3	11.9	2.0	1.7	1.2	41.0	5.7
0.8	0.2	0.4	5.6	22.3	55.8	14.9	70～74歳 (n=505)	18.1	13.9	2.4	3.4	1.6	49.0	11.6
0.2	0.3	1.1	4.7	23.9	47.9	22.0	75～79歳 (n=612)	13.8	6.1	1.2	2.4	3.0	52.0	21.4
0.0	0.0	1.0	2.9	15.5	44.5	36.1	80～84歳 (n=451)	4.1	1.9	1.0	1.6	1.0	53.6	36.7
0.2	0.4	0.4	2.5	7.8	49.1	39.6	85歳以上 (n=496)	0.4	1.4	0.0	0.8	0.0	54.6	42.9

（６）地域づくり活動の参加者としての参加意向

問37. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。＜○は１つ＞

【図8-6　地域づくり活動の参加者としての参加意向】

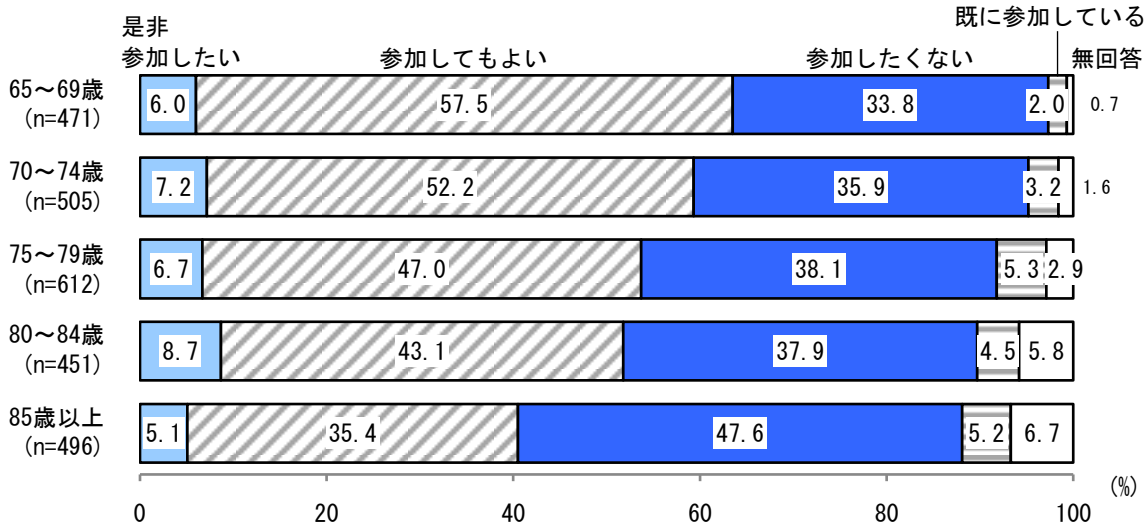


地域づくり活動の参加者としての参加意向については、「参加してもよい」が46.8%で最も多く、次いで「参加したくない」が38.8%、「是非参加したい」が6.8%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図8-6）

年齢別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」を合わせた『参加意向のある』割合は、84歳以下の各年代で５割以上となっていますが、高齢になるほど低くなる傾向がみられます。（図8-6-1）

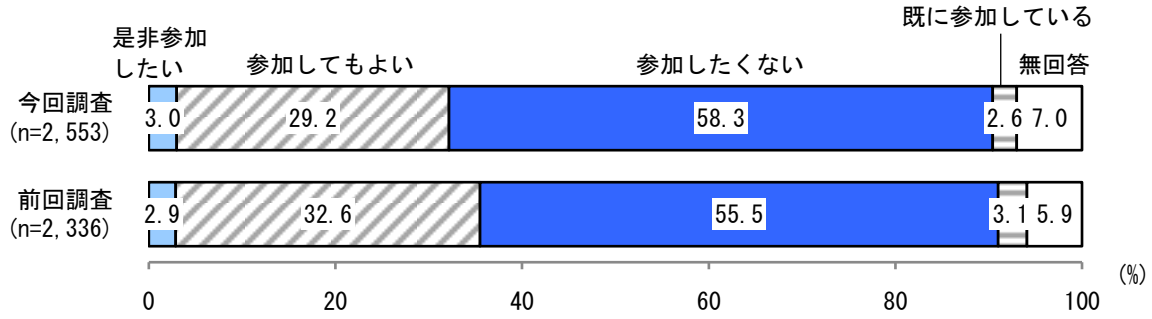
【図8-6-1　年齢別　地域づくり活動の参加者としての参加意向】



（７）地域づくり活動の企画・運営としての参加意向

問38. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。＜○は１つ＞

【図8-7　地域づくり活動の企画・運営としての参加意向】

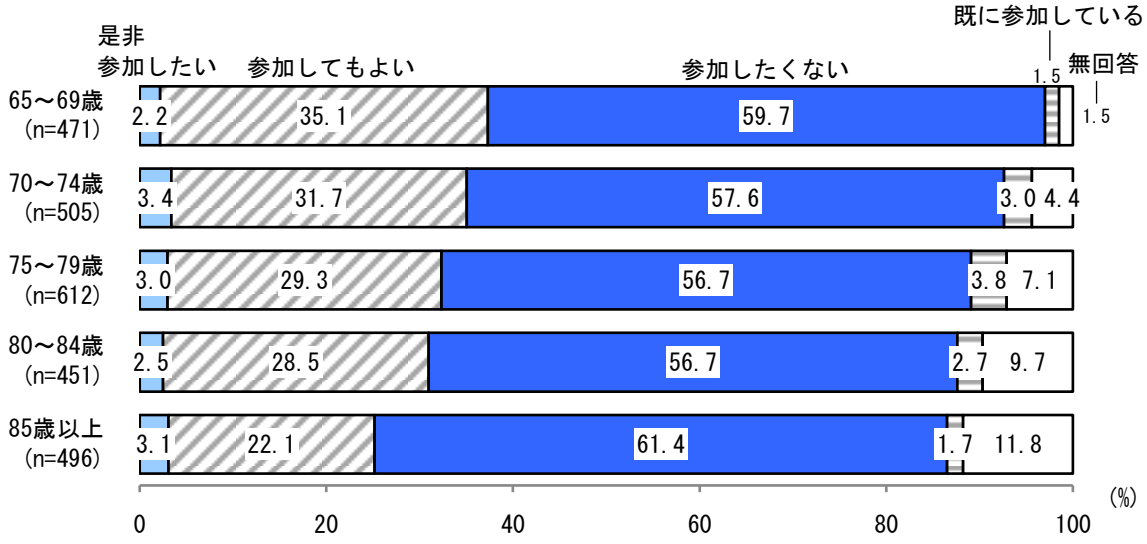


地域づくり活動の企画・運営としての参加意向については、「参加したくない」が58.3%で最も多く、次いで「参加してもよい」が29.2%、「是非参加したい」が3.0%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したくない」が2.8ポイント高くなっています。（図8-7）

年齢別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」を合わせた参加意向のある割合は、84歳以下の各年代で３割台となっていますが、85歳以上では２割台に低下しています。（図8-7-1）

【図8-7-1　年齢別　地域づくり活動の企画・運営としての参加意向】

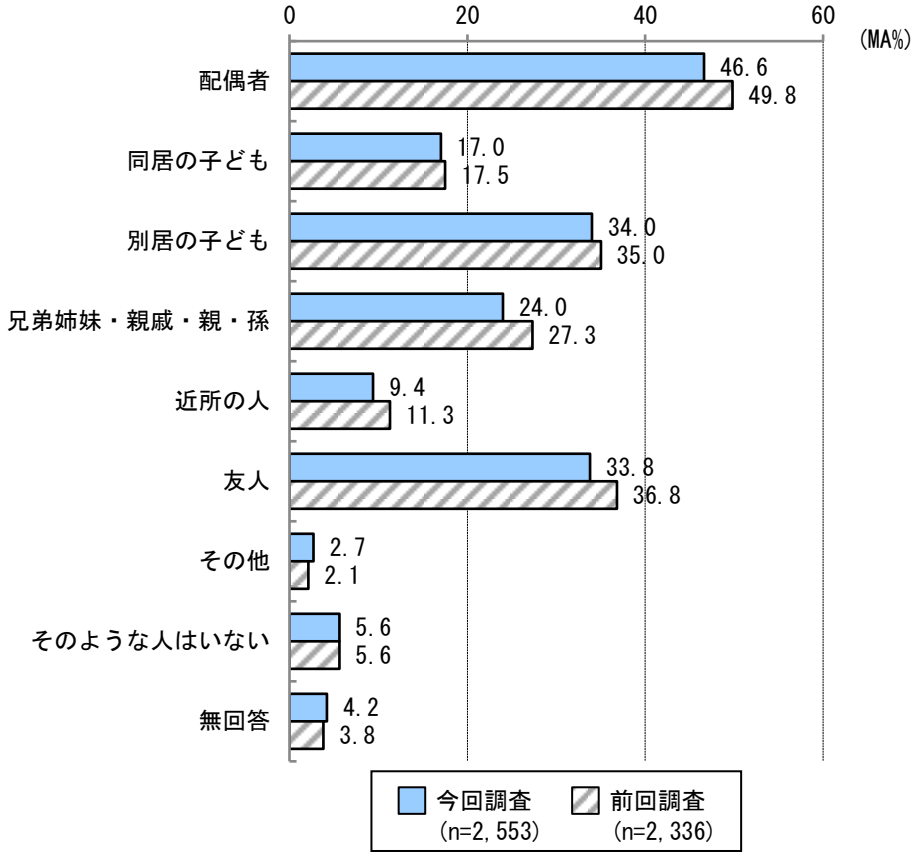


（８）たすけあいの状況

問39. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
＜(1)から(4)までそれぞれあてはまるものすべてに○＞

① あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

【図8-8-1　心配事や愚痴を聞いてくれる人】

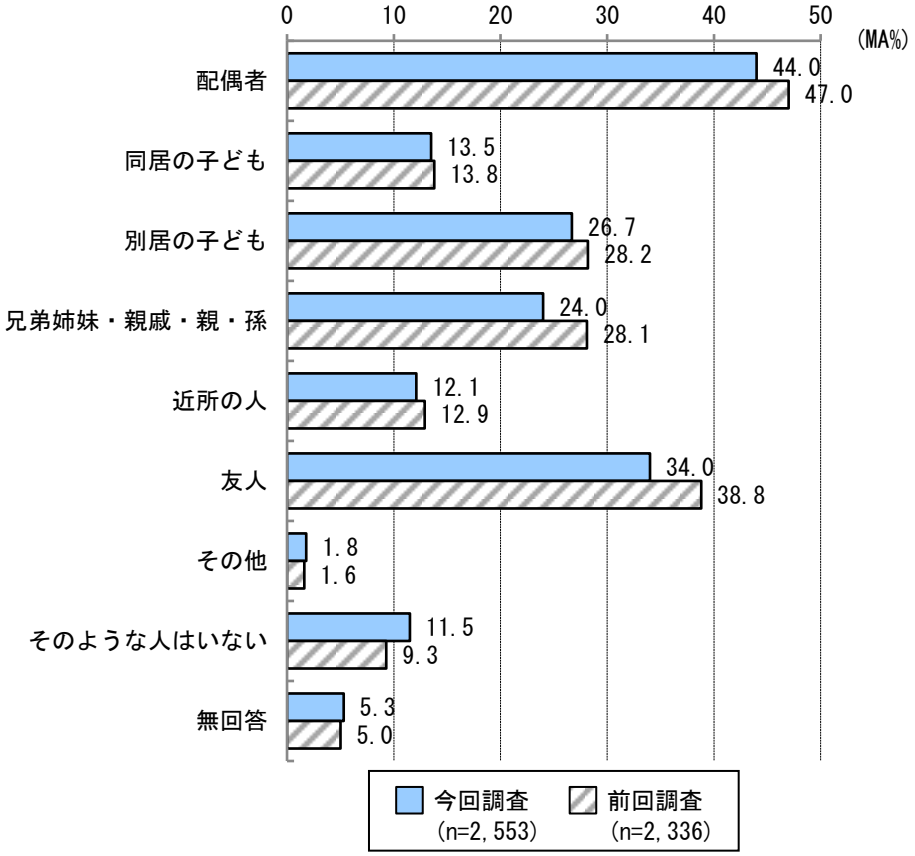


心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が46.6%で最も多く、次いで「別居の子ども」が34.0%、「友人」が33.8%となっています。

前回調査と比較すると、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が3.3ポイント、「配偶者」が3.2ポイント、それぞれ低くなっています。（図8-8-1）

② 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

【図8-8-2　心配事や愚痴を聞いてあげる人】

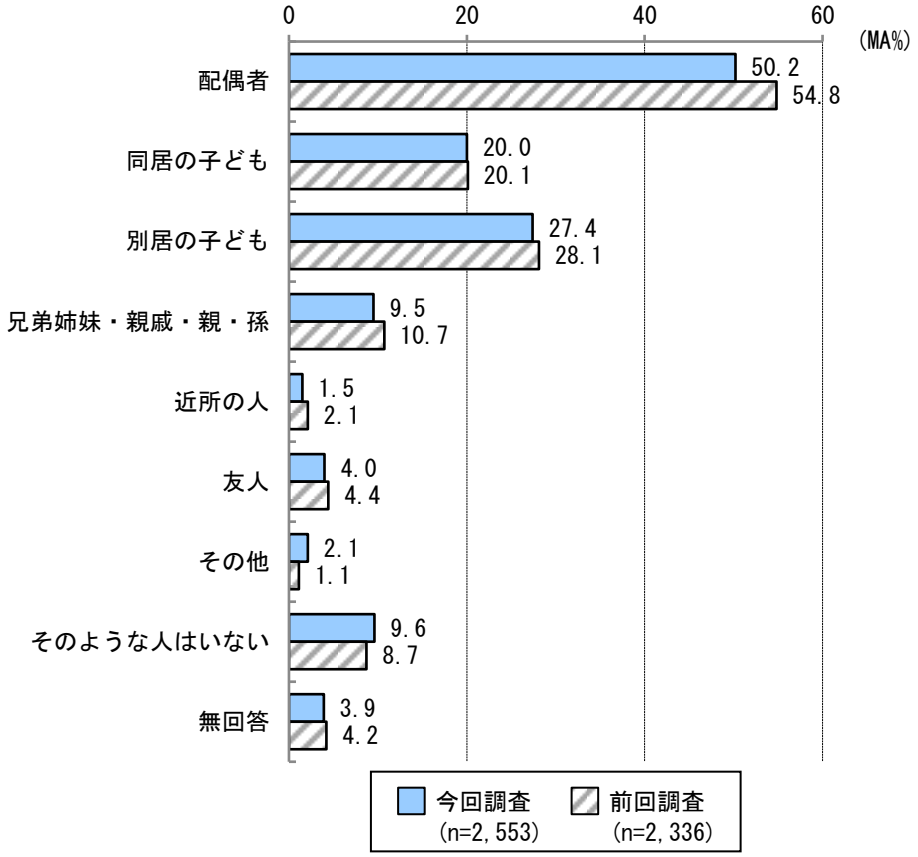


心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が44.0%で最も多く、次いで「友人」が34.0%、「別居の子ども」が26.7%となっています。

前回調査と比較すると、「友人」が4.8ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が4.1ポイント、それぞれ低くなっています。(図8-8-2)

③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

【図8-8-3　看病や世話をしてくれる人】

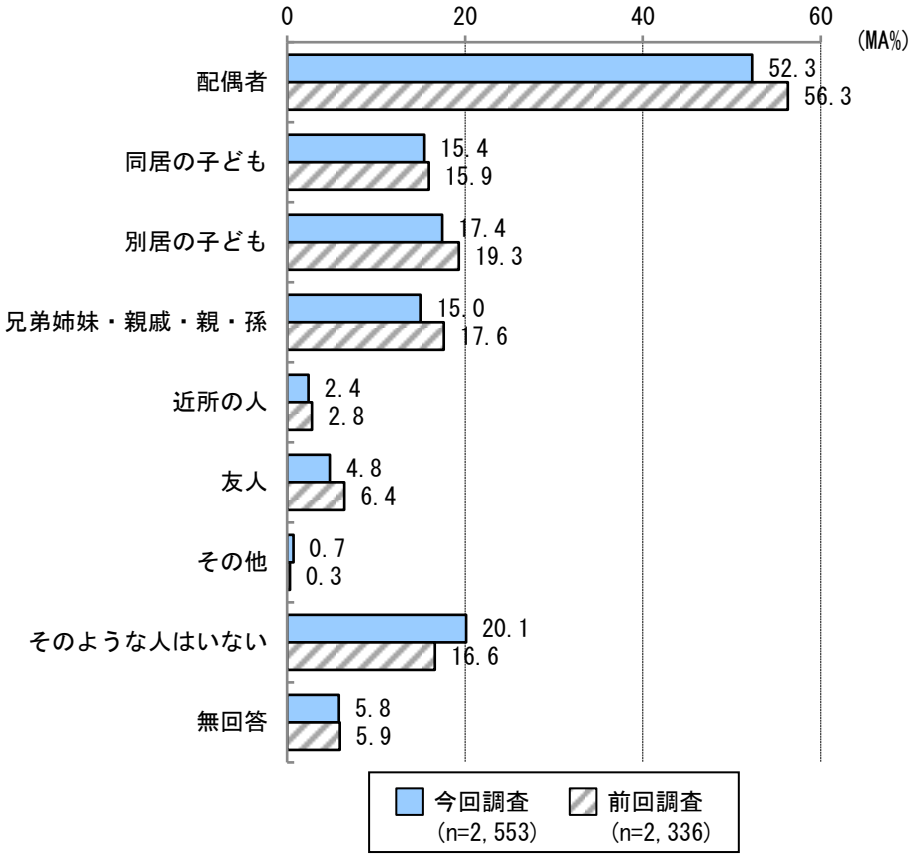


病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が50.2%で最も多く、次いで「別居の子ども」が27.4%、「同居の子ども」が20.0%となっています。

前回調査と比較すると、「配偶者」が4.6ポイント低くなっています。(図8-8-3)

④ 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人

【図8-8-4　看病や世話をしてあげる人】



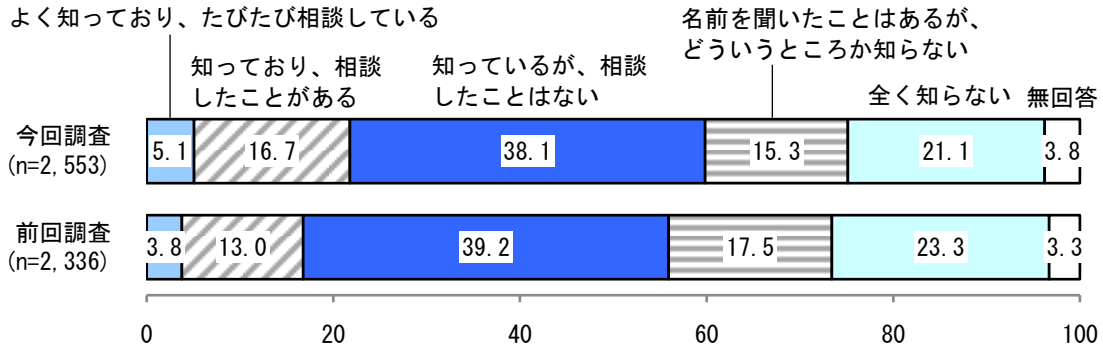
看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が52.3%で最も多く、次いで「別居の子ども」が17.4%、「同居の子ども」が15.4%となっています。

前回調査と比較すると、「そのような人はいない」が3.5ポイント高くなっています。(図8-8-4)

（９）地域包括支援センターの認知・利用状況

問40. あなたは地域包括支援センター（愛称：高齢サポート）を知っていますか。また、相談したことはありますか。＜○は１つ＞

【図8-9　地域包括支援センターの認知・利用状況】

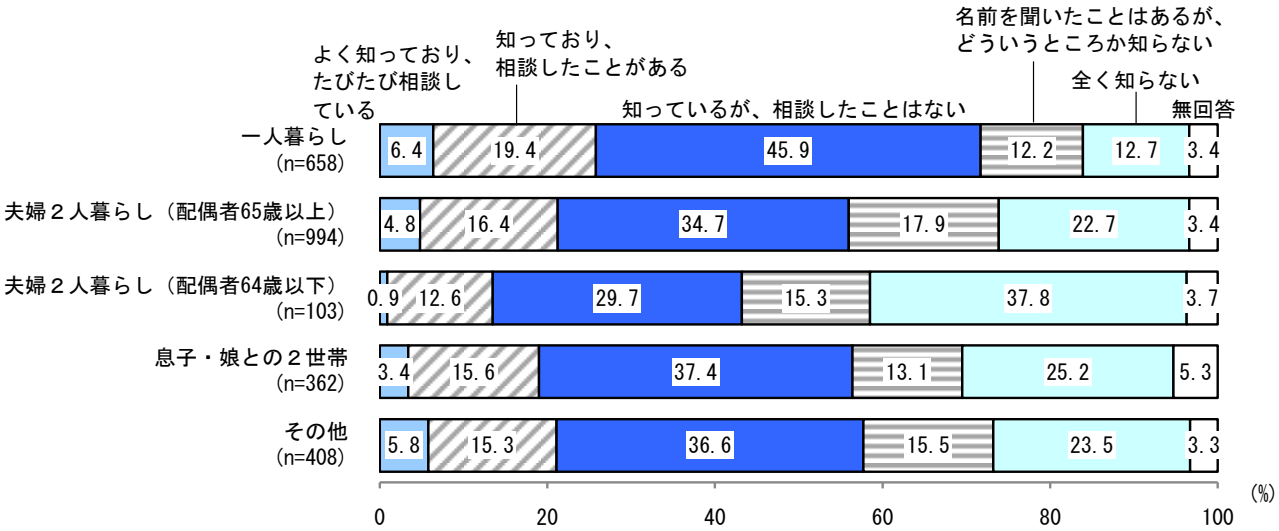


地域包括支援センターの認知・利用状況については、「知っているが、相談したことはない」が38.1%で最も多く、次いで「全く知らない」が21.1%、「知っており、相談したことがある」が16.7%となっています。

前回調査と比較すると、「知っており、相談したことがある」が3.7ポイント高くなっています。（図8-9）

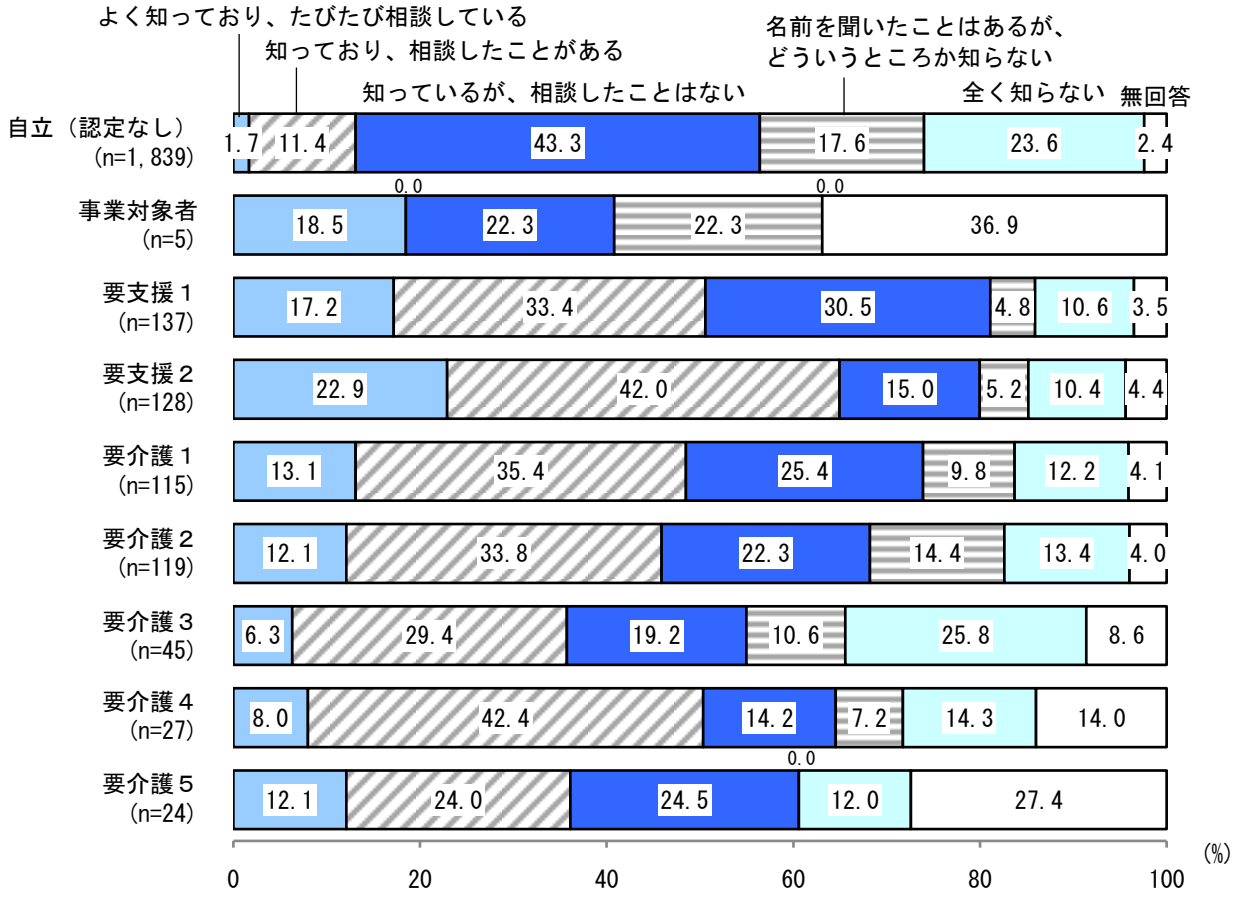
家族構成別でみると、「よく知っており、たびたび相談している」と「知っており、相談したことがある」を合わせた『相談経験のある』割合は、一人暮らし世帯が25.8%と他の世帯より高くなっています。また、『相談経験のある』割合に「知っているが、相談したことはない」を合わせた『知っている』割合も、一人暮らし世帯が71.7%と高く、夫婦２人暮らし世帯（配偶者65歳以上）や息子・娘との２世帯、その他世帯も５割台となっていますが、夫婦２人暮らし世帯（配偶者64歳以下）は43.2%と他の世帯と比べて低くなっています。（図8-9-1）

【図8-9-1　家族構成別　地域包括支援センターの認知・利用状況】



要介護認定区分別でみると、『相談経験のある』割合では、要支援２は64.9%で最も高く、次いで要支援１が50.6%、要介護４が50.4%で、それ以外の認定者は３～４割台となっています。なお、「よく知っており、たびたび相談している」割合は、要支援２が22.9%で最も高くなっています。また、『知っている』割合では、要支援１が81.1%で最も高く、自立（認定なし）の人でも56.4%を占めています。(図8-9-2)

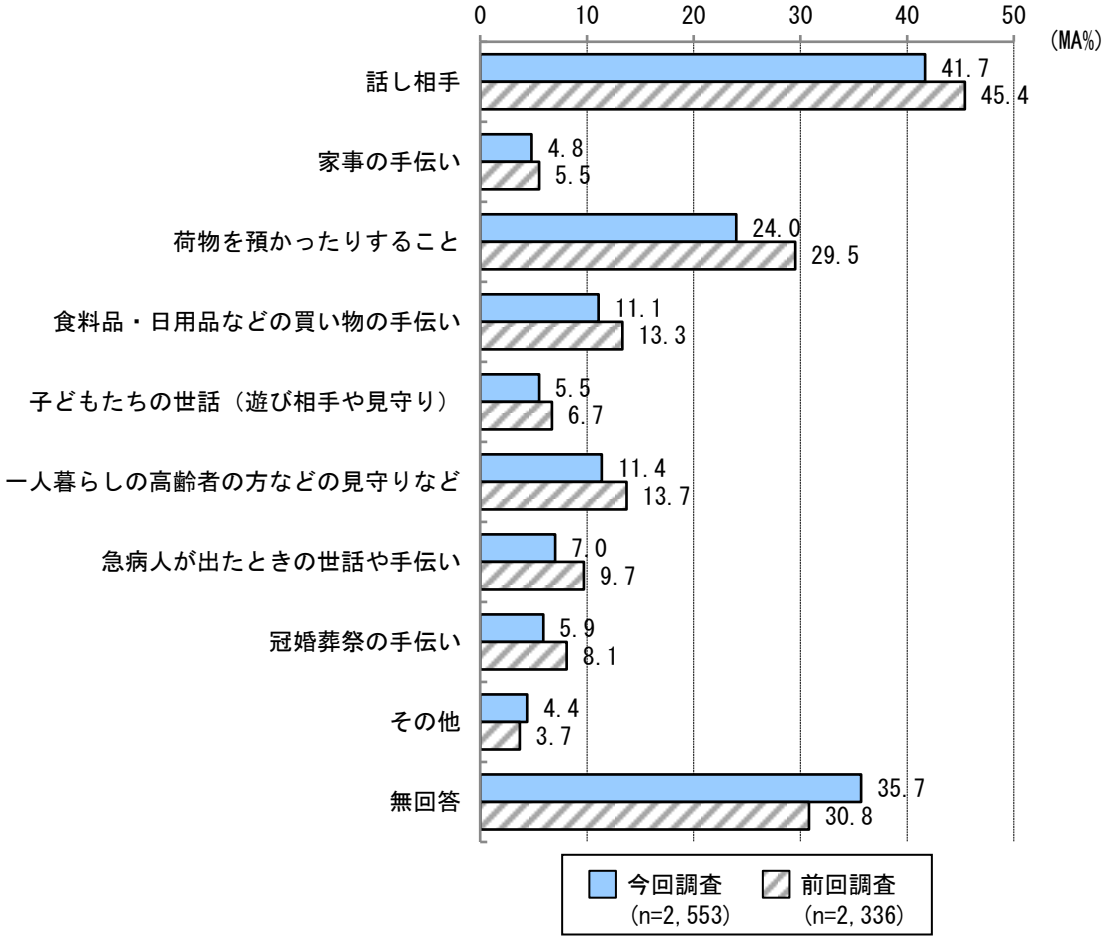
【図8-9-2　要介護認定区分別　地域包括支援センターの認知・利用状況】



（10）近所で手助けや協力ができること

問41. 近所づきあい・外出に関することについておうかがいします。
あなた自身が御近所で手助けや協力ができることがありますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

【図8-10　近所で手助けや協力ができること】



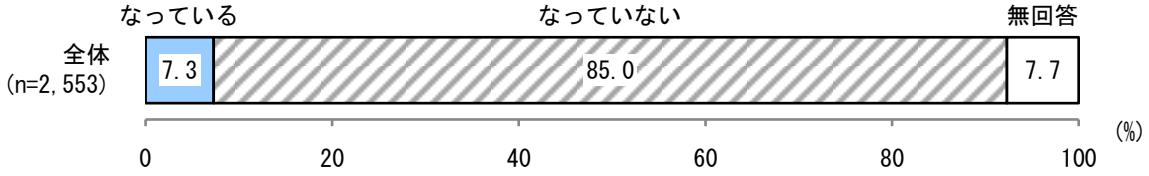
自身が近所で手助けや協力ができることについては、「話し相手」が41.7%で最も多く、次いで「荷物を預かったりすること」が24.0%、「一人暮らしの高齢者の方などの見守りなど」が11.4%となっています。

前回調査と比較すると、「荷物を預かったりすること」が5.5ポイント、「話し相手」が3.7ポイント、それぞれ低くなっています。（図8-10）

（11）会・グループ等の担い手

問42. あなたは現在、問36にあるような会・グループ等の担い手（参加者ではなく運営側）に既になっていますか。＜○は１つ＞

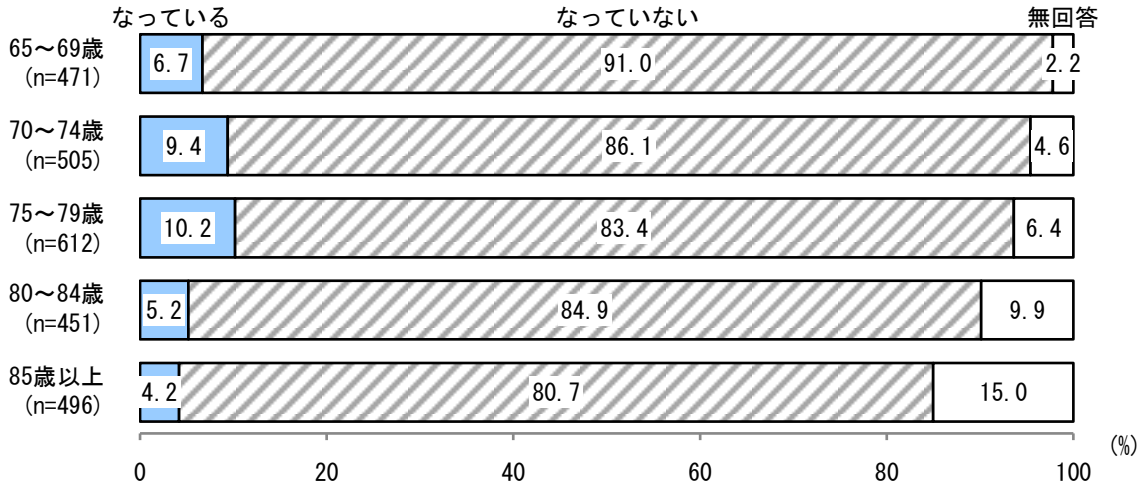
【図8-11　会・グループ等の担い手】



会・グループ等の担い手になっているかは、「なっている」が7.3%、「なっていない」が85.0%となっています。（図8-11）

年齢別でみると、「なっている」は75～79歳（10.2%）が最も高く、次いで70～74歳（9.4%）、65～69歳（6.7%）となっています。（図8-11-1）

【図8-11-1　年齢別　会・グループ等の担い手】



（12）会・グループ等の担い手となっている活動内容

問42－１．問42で「１．なっている」と回答した方にお聞きします。
それはどういった活動ですか。

【表8-12　会・グループ等の担い手となっている活動内容】

活動内容	件数
町内会・自治会・学区連合会	37
スポーツ・体操等	28
趣味の活動、サークル活動	22
老人クラブ	16
社協の活動	11
仕事	10
民生委員・児童委員、老人福祉員	10
地域活動	8
子どもに関する活動（見守り等）	8
各種法人・ボランティア団体	7
高齢者に関する活動	7
同窓会、会社・学校の OB,OG の会	7
地域安全活動（防災・防犯等）	6
宗教活動	5
女性会、厚生女性会自治会	5
介護予防のための通いの場（すこやか学級、公園体操等）	4
市政協力委員	4
学校関係	3
環境・美化活動	3
生協	2
ロータリークラブ	2
保護司	2
マンションの理事	2
少年補導委員	2
その他	10
延べ件数	221

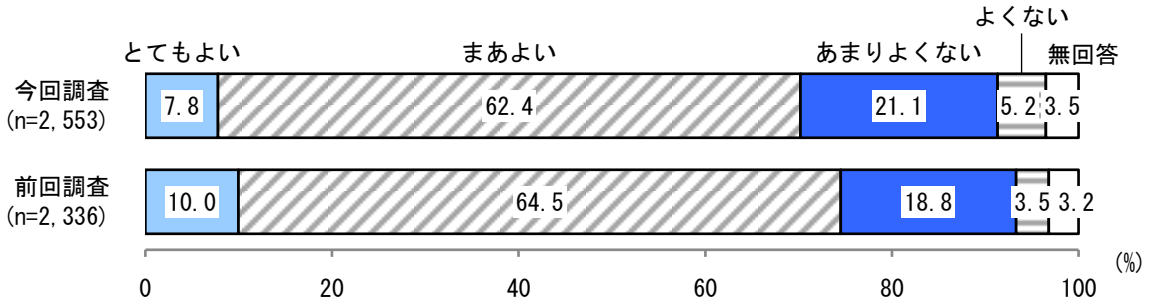
会・グループ等の担い手になっていると回答した人に、その活動内容について自由に記述していただいたところ、176人からのべ221件の回答が寄せられました。活動内容の分類ごとの件数は表8-12のとおりです。（表8-12）

9　健康について

（１）主観的健康観

問43. 現在のあなたの健康状態はいかがですか。＜○は１つ＞

【図9-1　主観的健康観】

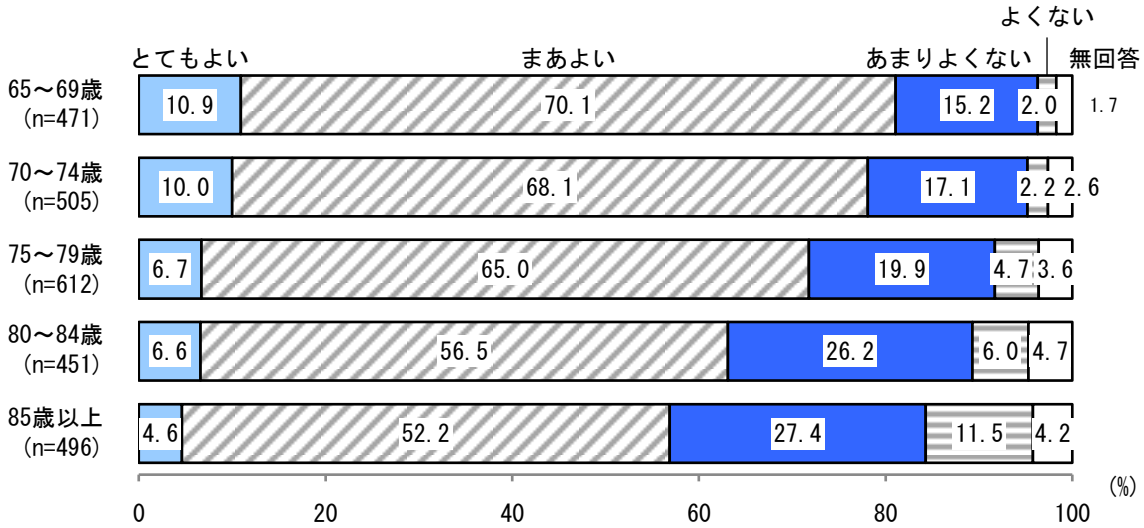


現在の健康状態については、「まあよい」が62.4%で最も多く、次いで「あまりよくない」が21.1%、「とてもよい」が7.8%となっています。また、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』割合は70.2%となっています。

前回調査と比較すると、『よい』割合は4.3ポイント低くなっています。（図9-1）

年齢別でみると、『よい』割合は、いずれの年代も５割以上となっていますが、高齢になるほど低くなっています。（図9-1-1）

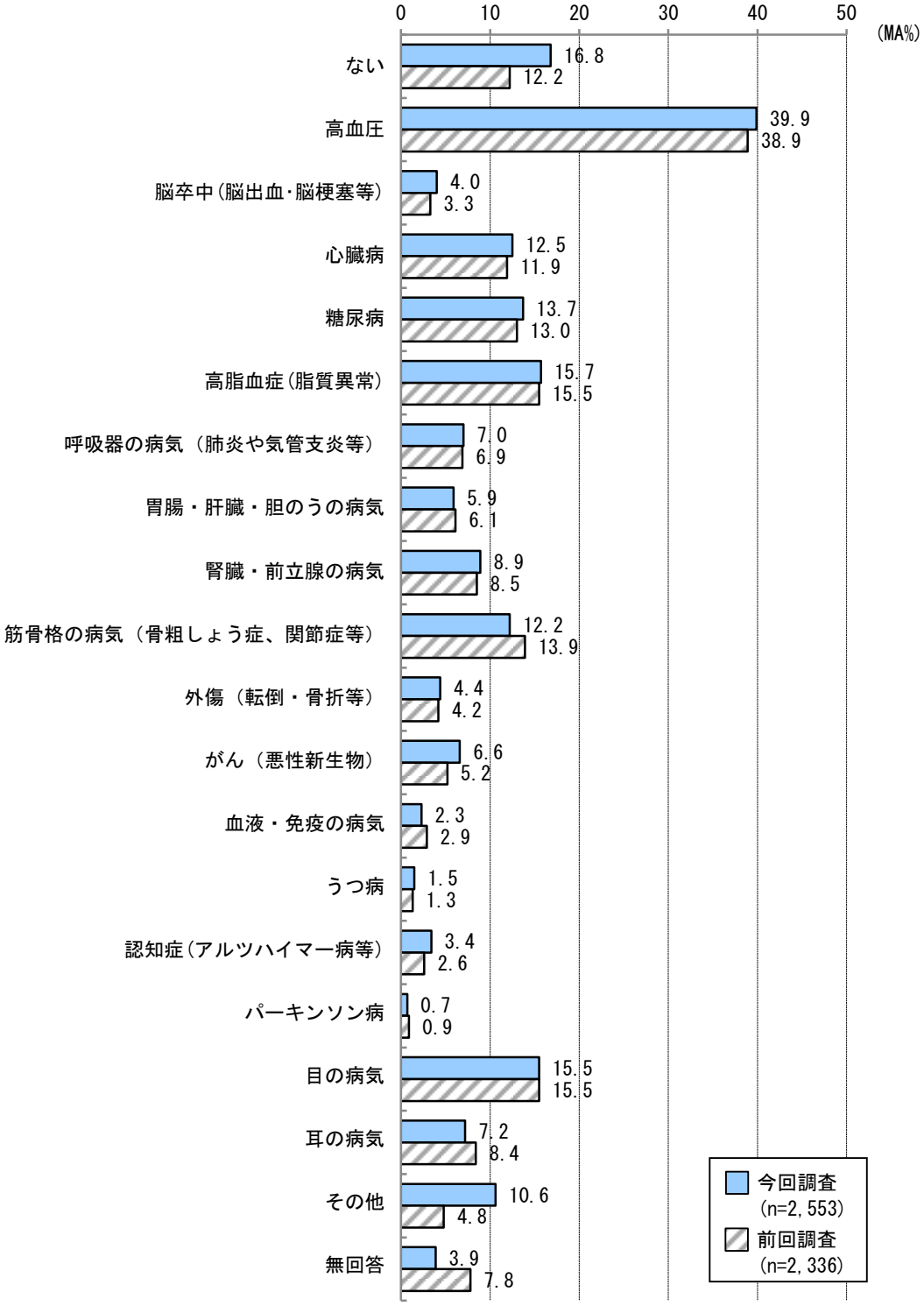
【図9-1-1　年齢別　主観的健康観】



（２）現在治療中又は後遺症のある病気

問44. あなたは現在治療中又は後遺症のある病気はありますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

【図9-2　現在治療中又は後遺症のある病気】

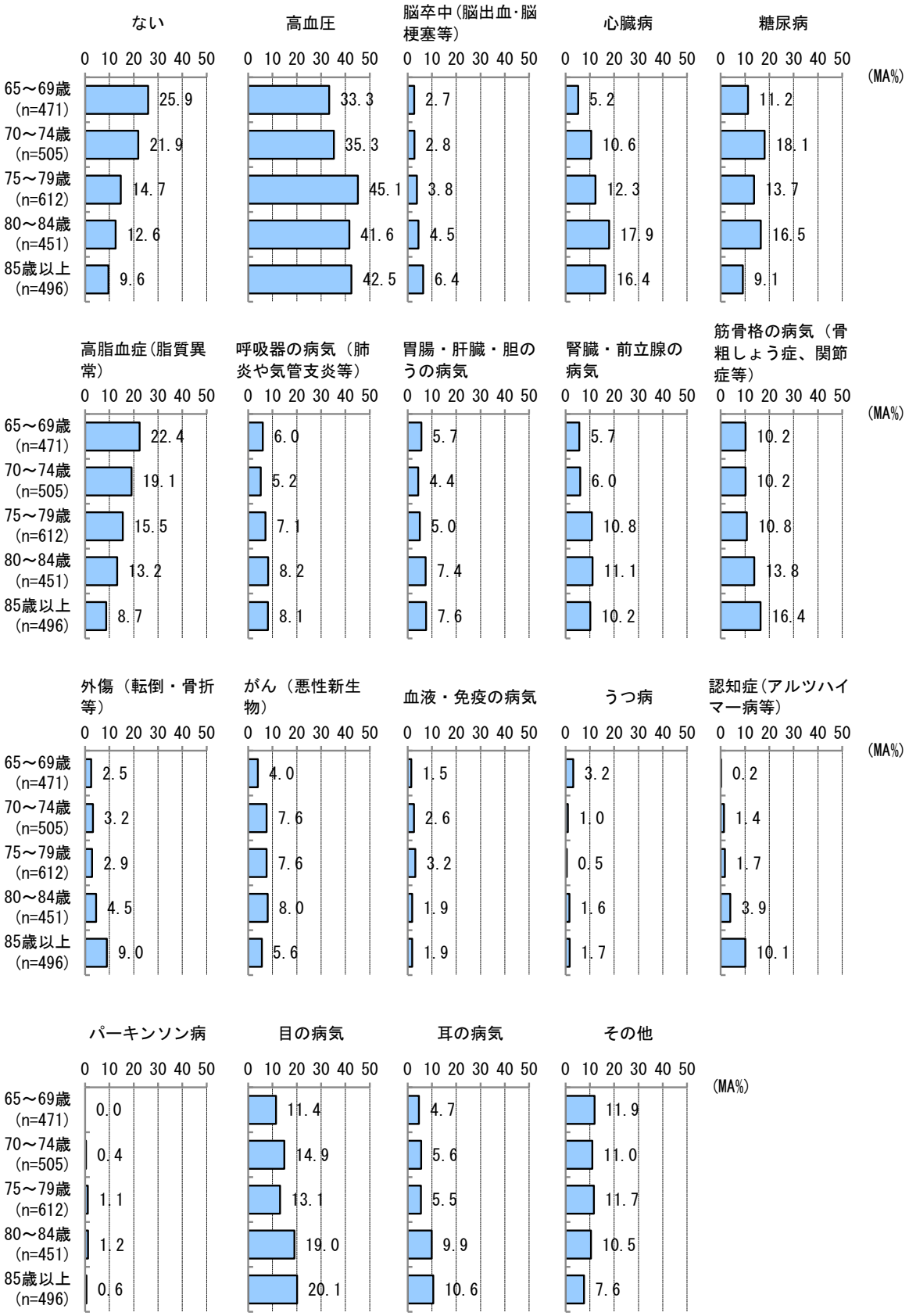


現在治療中又は後遺症のある病気については、「高血圧」が39.9%で最も多く、次いで「ない」が16.8%、「高脂血症(脂質異常)」が15.7%、「目の病気」が15.5%となっています。

前回調査と比較すると、「ない」が4.6ポイント高くなっています。(図9-2)

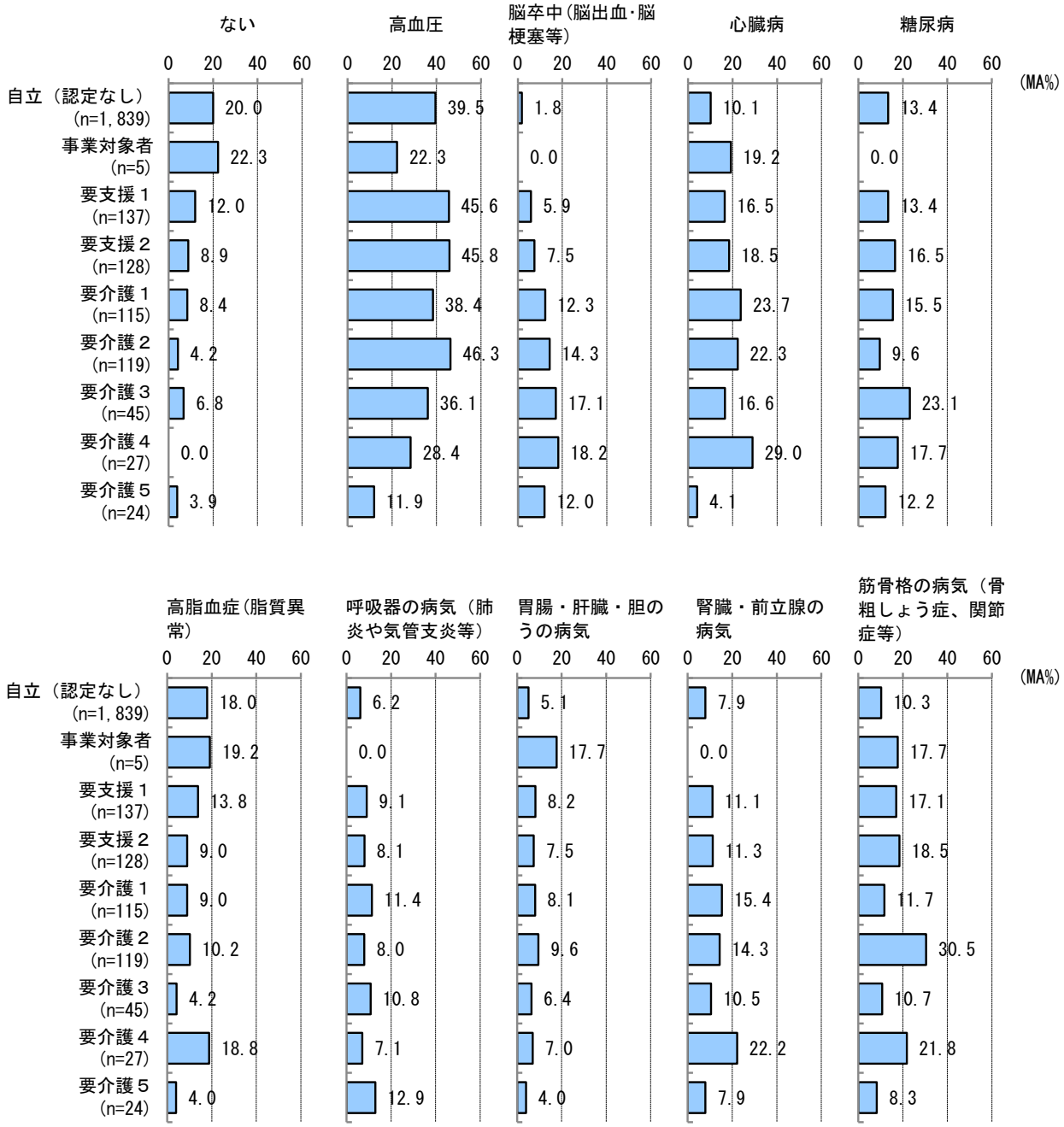
年齢別でみると、高齢になるほど、「高脂血症（脂質異常）」の割合は低くなっていますが、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「認知症（アルツハイマー病等）」の割合は高くなっています。（図9-2-1）

【図9-2-1　年齢別　現在治療中又は後遺症のある病気】

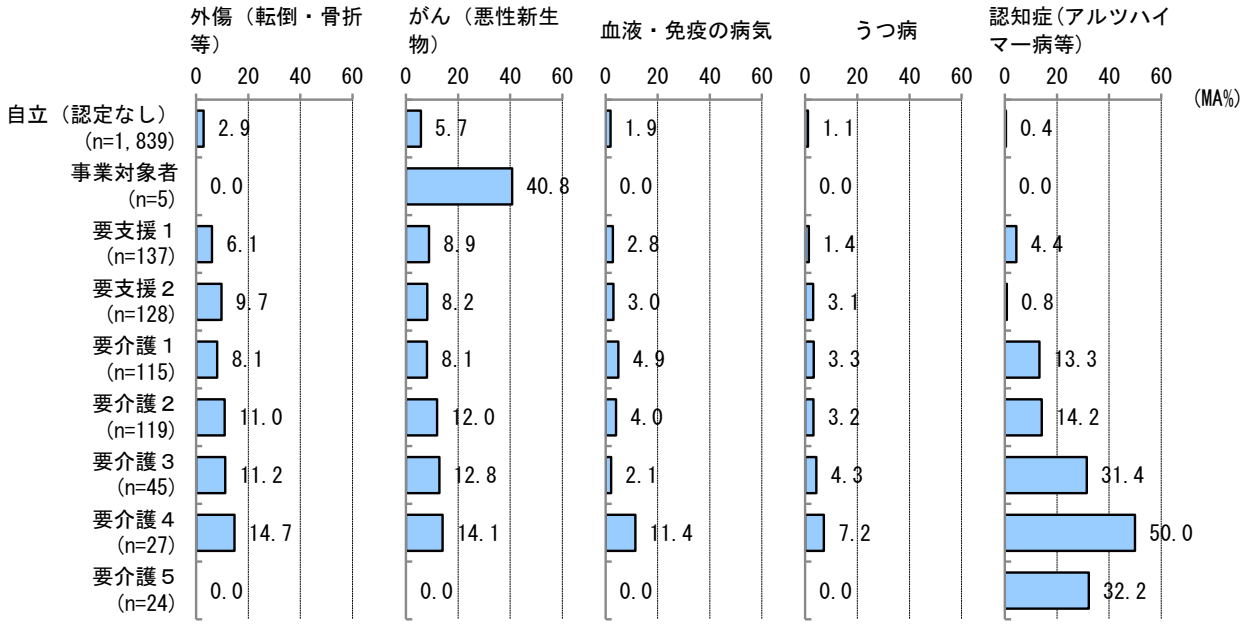


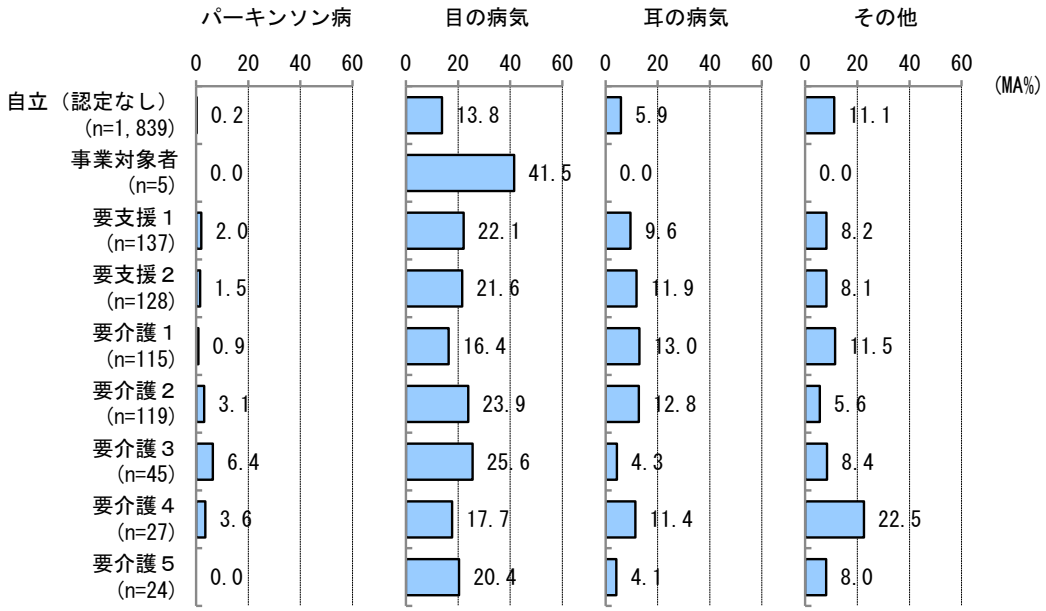
要介護認定区分別でみると、要支援１・２及び要介護１～３では「高血圧」が最も多く、次いで、要支援１・２は「目の病気」、要介護１は「心臓病」、要介護２は「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、要介護３は「認知症（アルツハイマー病等）」が、それぞれ多くなっています。要介護４・５では「認知症（アルツハイマー病等）」が最も多く、次いで要介護４は「心臓病」、要介護５は「目の病気」が続いています。（図9-2-2）

【図9-2-2　要介護認定区分別　現在治療中又は後遺症のある病気①】



【図9-2-2　要介護認定区分別　現在治療中又は後遺症のある病気②】





日常生活の中で不自由に感じていること別でみると、いずれの項目も「高血圧」が１番目に多くなっており、買い物や外出、通院など身体を動かすことに不自由を感じている人は「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が２番目に多くなっています。（表9-2-3）

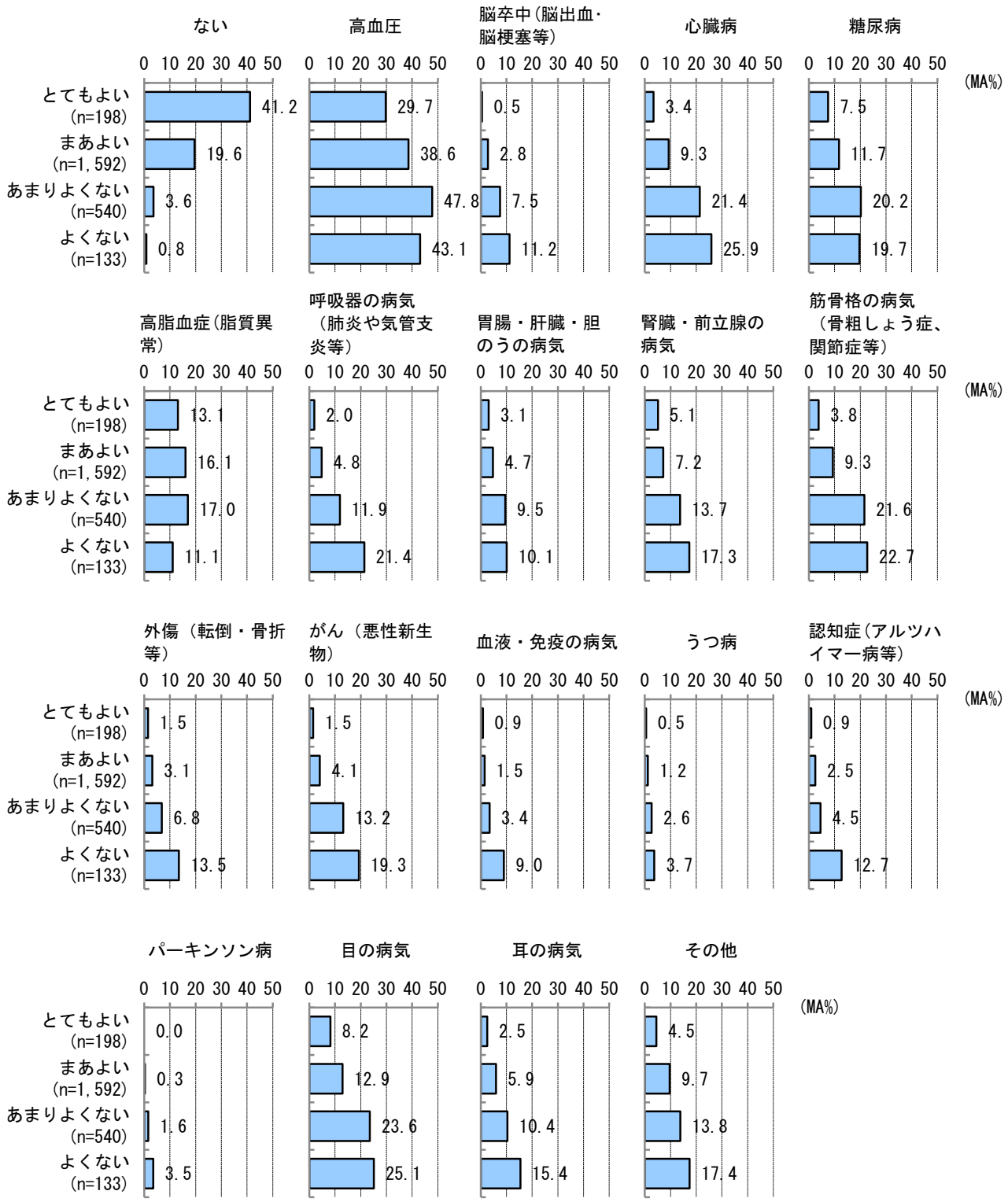
【表9-2-3　日常生活の中で不自由に感じていること別　現在治療中又は後遺症のある病気（上位５項目）】

（単位：MA%）

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
食事の準備・後片付けをすること (n=352)	高血圧 46.6	心臓病 21.7	目の病気 20.2	糖尿病 18.3	腎臓・前立腺の病気 14.0
掃除・ごみ出し・洗濯などの家事をすること (n=378)	高血圧 46.3	心臓病／目の病気 20.9		糖尿病 18.2	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 14.7
衣服の着脱・食事・入浴に関すること (n=197)	高血圧 43.7	糖尿病 20.6	認知症（アルツハイマー病等） 19.8	目の病気 19.4	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 18.8
身体機能の維持・向上のための運動教室を受ける場がないこと (n=269)	高血圧 44.5	高脂血症（脂質異常） 23.4	目の病気 20.4	糖尿病 17.9	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 15.4
段差や間取り、耐震など住まいの建物構造に関すること (n=322)	高血圧 42.0	目の病気 19.8	高脂血症（脂質異常） 17.1	心臓病 16.8	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 16.0
契約や財産管理の手続きをすること (n=264)	高血圧 36.4	高脂血症（脂質異常）／目の病気 18.5		ない 17.4	糖尿病 17.0
相談に乗ってもらえる人が身近にいないこと (n=187)	高血圧 43.9	高脂血症（脂質異常） 22.0	糖尿病 17.4	目の病気 17.1	心臓病 14.5
外出時の移動が負担であること (n=340)	高血圧 47.5	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 23.3	目の病気 21.6	心臓病 18.8	糖尿病 15.9
病院に通院すること (n=285)	高血圧 52.8	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 24.1	目の病気 23.8	心臓病 21.7	糖尿病 19.4
近くに話し相手がいないこと (n=218)	高血圧 39.7	高脂血症（脂質異常） 17.6	目の病気 16.6	糖尿病 16.1	ない 15.8
自分を介助する家族などの負担が大きいこと (n=119)	高血圧 41.6	目の病気 22.5	認知症（アルツハイマー病等） 19.9	脳卒中（脳出血･脳梗塞等） 19.1	糖尿病 17.6
買い物したり、荷物を持ち運ぶこと (n=429)	高血圧 44.9	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 20.5	目の病気 19.1	心臓病 18.9	糖尿病 16.5
高齢者どうし、また、高齢者と若者や子供との世代を超えた交流が行えるような居場所がないこと (n=198)	高血圧 42.1	高脂血症（脂質異常） 23.2	目の病気 21.0	糖尿病 19.1	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 13.6
住宅の軽微な修繕に関すること (n=466)	高血圧 38.8	目の病気 21.8	高脂血症（脂質異常） 18.9	糖尿病 15.8	ない 15.2
電球の交換、部屋の模様替え、庭木の手入れ等をすること (n=575)	高血圧 41.2	高脂血症（脂質異常） 19.3	目の病気 19.0	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 15.1	心臓病／糖尿病 14.4
その他 (n=133)	高血圧 27.9	ない 18.1	目の病気 15.8	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 15.1	糖尿病 14.7

主観的健康観別でみると、多くの項目で、健康状態がよくない人ほど割合が高くなる傾向がみられますが、「高脂血症（脂質異常）」では健康状態がよい人のほうが高い割合になっています。（図9-2-4）

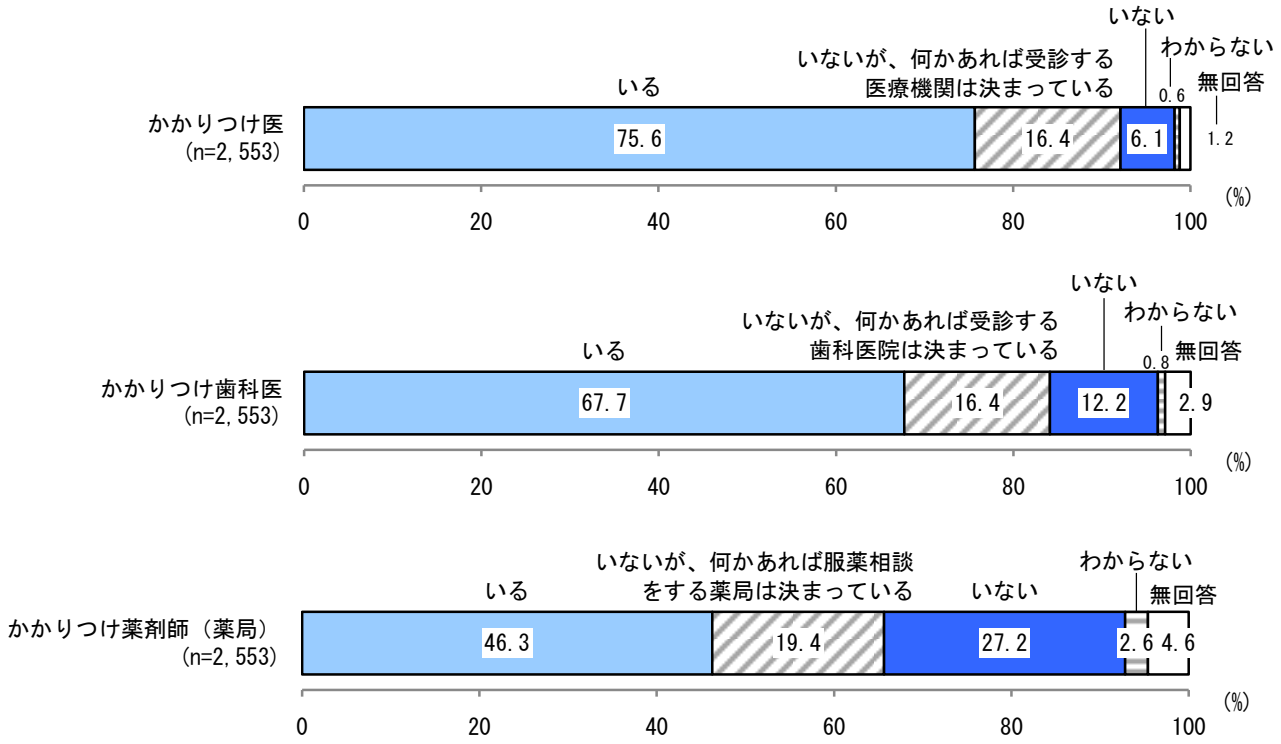
【図9-2-4　主観的健康観別　現在治療中又は後遺症のある病気】



（３）かかりつけ医等の有無

問45. あなたには、気軽に相談でき、何かあれば診療を受ける、決まった「(1) かかりつけ医」、「(2) かかりつけ歯科医」、「(3) かかりつけ薬剤師（薬局)」がいますか。
＜(1)から(3)までそれぞれ○は１つずつ＞

【図9-3　かかりつけ医等の有無】



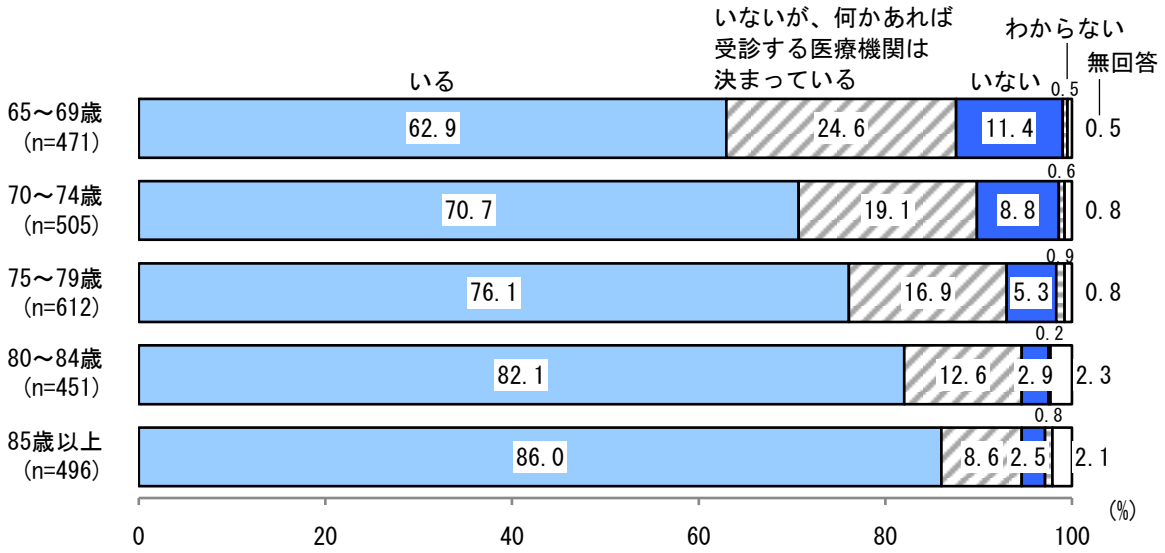
かかりつけ医の有無については、「いる」が75.6%で最も多く、次いで「いないが、何かあれば受診する医療機関は決まっている」が16.4%、「いない」が6.1%となっています。

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が67.7%で最も多く、次いで「いないが、何かあれば受診する歯科医院は決まっている」が16.4%、「いない」が12.2%となっています。

かかりつけ薬剤師（薬局）の有無については、「いる」が46.3%で最も多く、次いで「いない」が27.2%、「いないが、何かあれば服薬相談をする薬局は決まっている」が19.4%となっています。（図9-3）

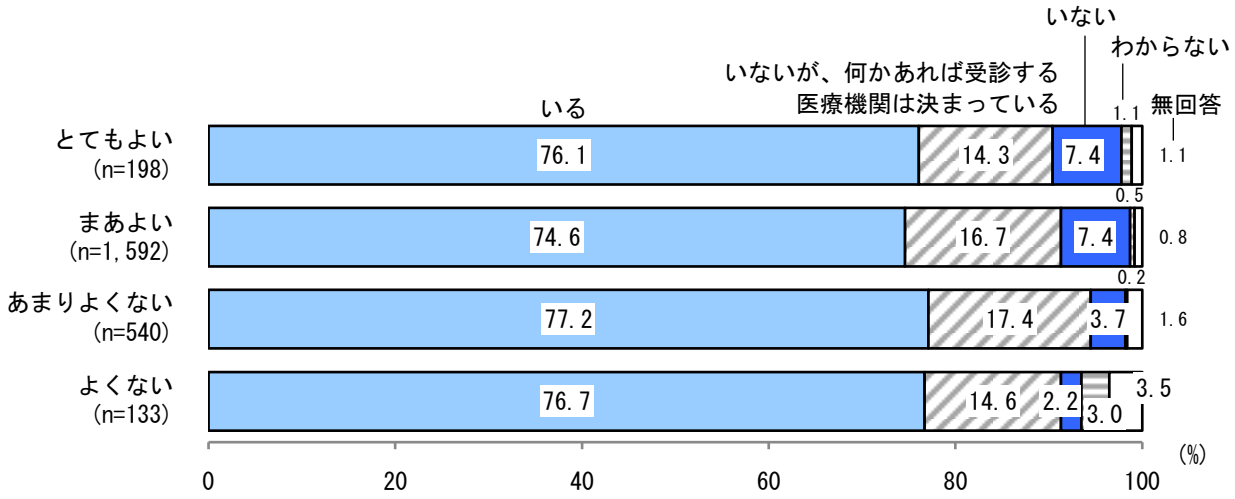
かかりつけ医の有無を、年齢別でみると、「いる」が、いずれの年代も６割以上となっており、高齢になるほど割合が高くなっています。一方、「いない」では、65～69歳が11.4%となっています。（図9-3-1）

【図9-3-1　年齢別　かかりつけ医の有無】



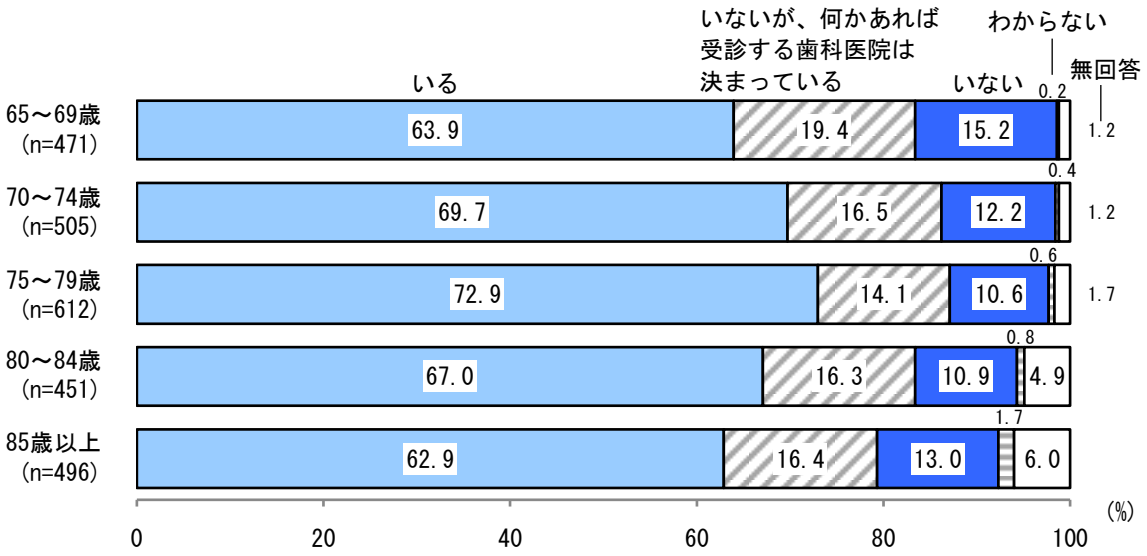
かかりつけ医の有無を、主観的健康観別でみると、「いる」は、健康状態にかかわらず７割以上となっており、健康状態があまりよくない人では77.2%と最も高くなっています。（図9-3-2）

【図9-3-2　主観的健康観別　かかりつけ医の有無】



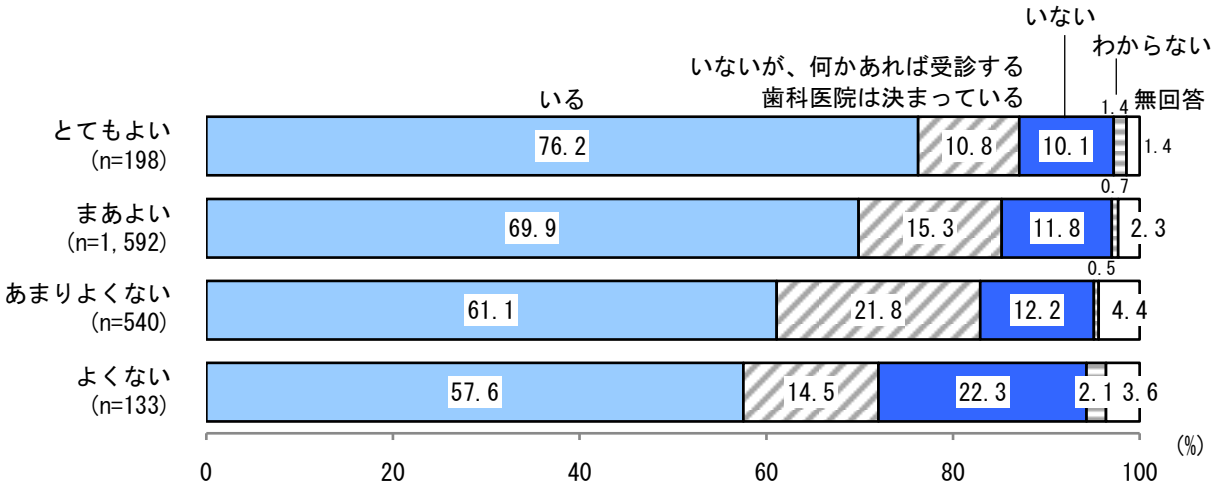
かかりつけ歯科医の有無を、年齢別でみると、「いる」は、いずれの年代も６割以上となっています。一方、「いない」では、65～69歳が15.2%、85歳以上が13.0%となっています。（図9-3-3）

【図9-3-3　年齢別　かかりつけ歯科医の有無】



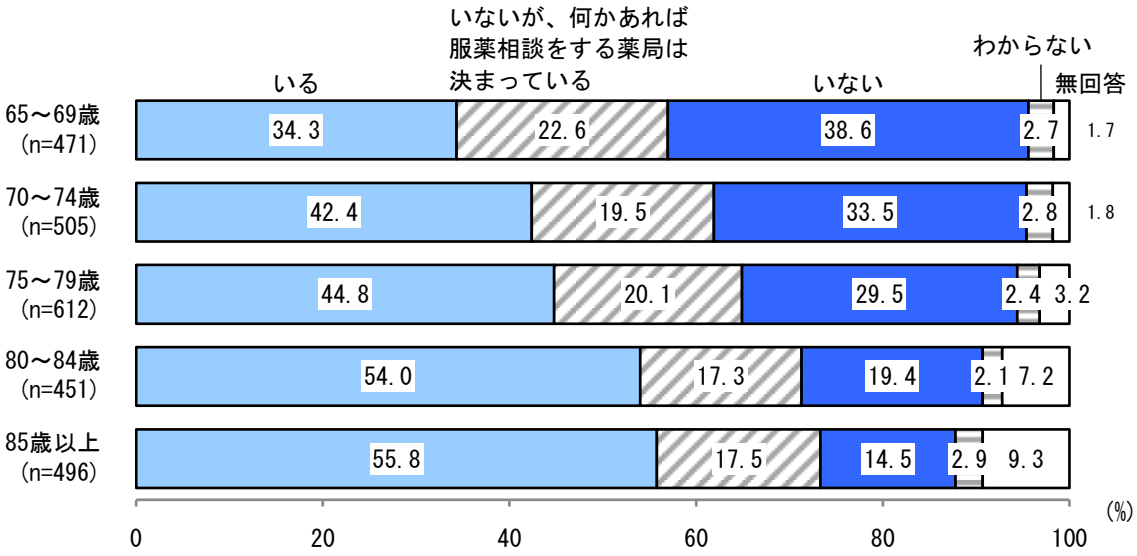
かかりつけ歯科医の有無を、主観的健康観別でみると、「いる」は、健康状態にかかわらず過半数を占めており、健康状態のよい人ほど高い割合となっています。（図9-3-4）

【図9-3-4　主観的健康観別　かかりつけ歯科医の有無】



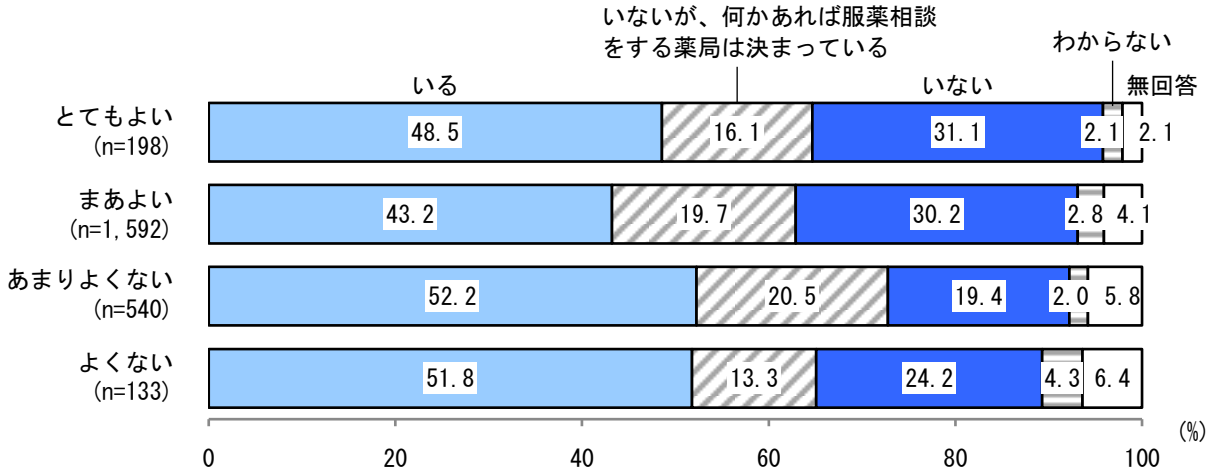
かかりつけ薬剤師（薬局）の有無を、年齢別でみると、「いる」は、高齢になるほど割合が高くなっており、80歳以降になると５割以上となります。（図9-3-5）

【図9-3-5　年齢別　かかりつけ薬剤師（薬局）の有無】



かかりつけ薬剤師（薬局）の有無を、主観的健康観別でみると、「いる」は、健康状態にかかわらず最も多くなっていますが、健康状態がまあよい人は43.2%と他の健康状態の人より低い割合になっています。（図9-3-6）

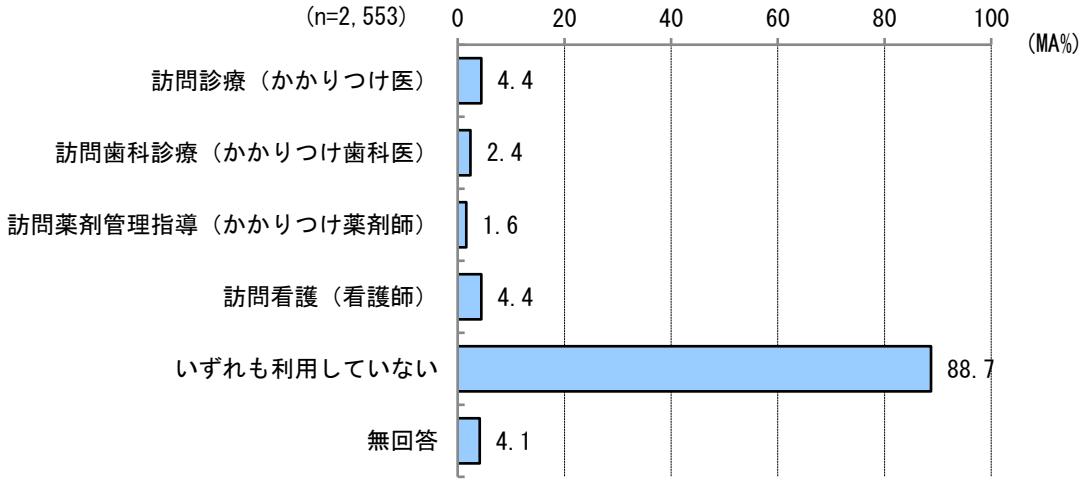
【図9-3-6　主観的健康観別　かかりつけ薬剤師（薬局）の有無】



（４）定期的に居宅訪問する医療サービスで利用しているもの

問46. あなたは、問45にあるような人々が行う、計画を立て定期的に居宅を訪問するようなサービスを利用していますか。＜あてはまるものすべてに○＞

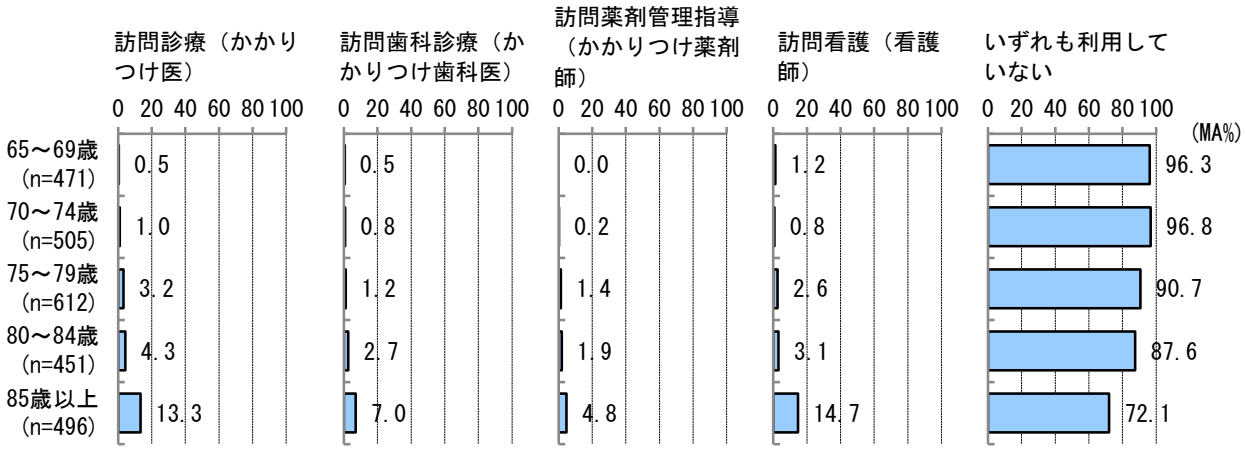
【図9-4　定期的に居宅訪問する医療サービスで利用しているもの】



定期的に居宅訪問する医療サービスで利用しているものについては、「いずれも利用していない」が88.7%で最も多く、次いで「訪問診療（かかりつけ医）」、「訪問看護（看護師）」がそれぞれ4.4%、「訪問歯科診療（かかりつけ歯科医）」が2.4%となっています。（図9-4）

年齢別でみると、いずれの医療サービスも85歳以上で最も高く、なかでも「訪問看護（看護師）」（14.7%）が高くなっています。（図9-4-1）

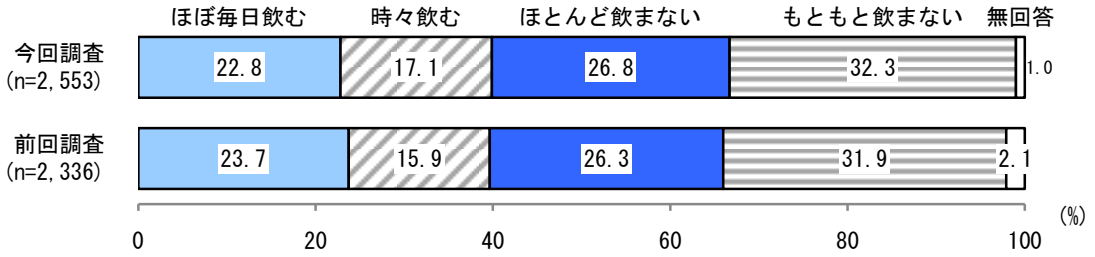
【図9-4-1　年齢別　定期的に居宅訪問する医療サービスで利用しているもの】



（５）飲酒習慣

問47. あなたはお酒を飲みますか。＜○は１つ＞

【図9-5　飲酒習慣】

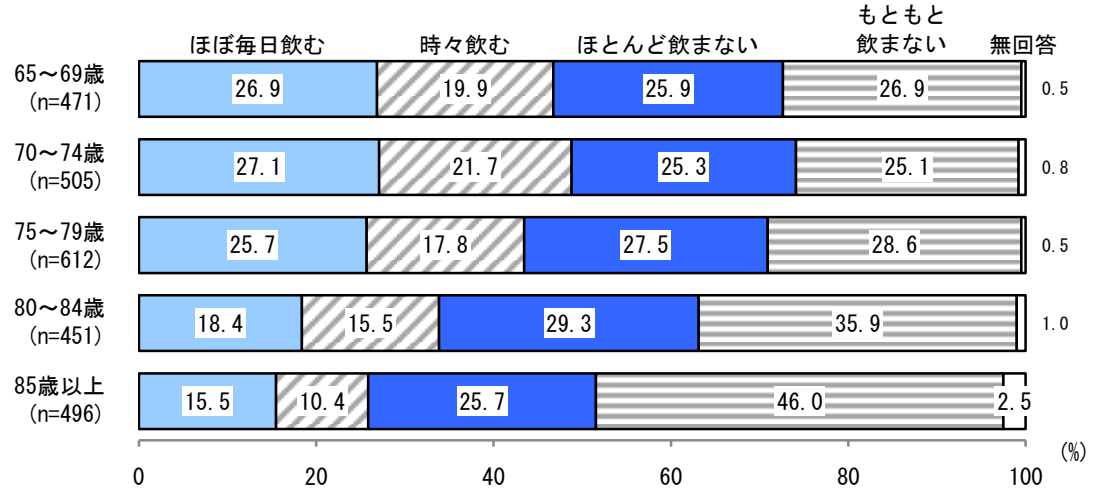


飲酒習慣については、「もともと飲まない」が32.3%で最も多く、次いで「ほとんど飲まない」が26.8%、「ほぼ毎日飲む」が22.8%となっています。「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』割合は39.9%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図9-5)

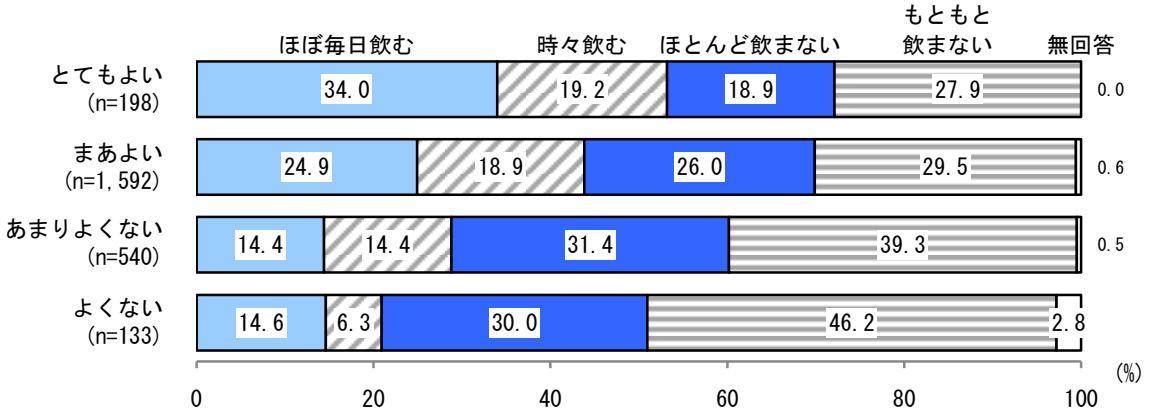
年齢別でみると、79歳以下の各年代で「ほぼ毎日飲む」が２割以上を占めていますが、高齢になるほど『飲む』割合が低くなっています。(図9-5-1)

【図9-5-1　年齢別　飲酒習慣】



主観的健康観別でみると、「ほぼ毎日飲む」及び『飲む』割合は、健康状態がよい人ほど高くなっています。(図9-5-2)

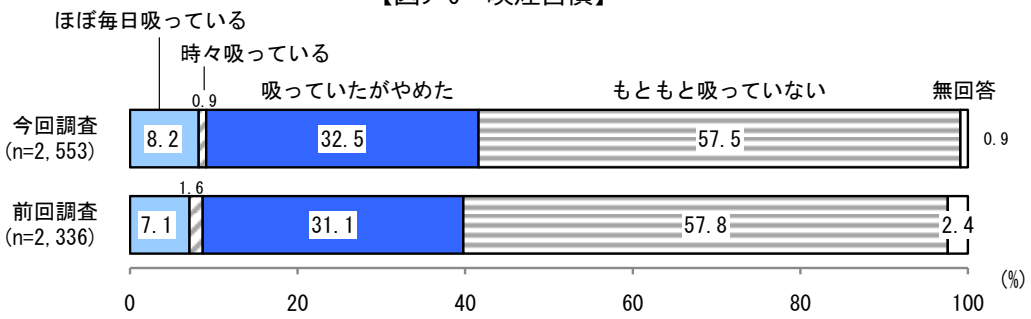
【図9-5-2　主観的健康観別　飲酒習慣】



（６）喫煙習慣

問48. あなたはタバコを吸っていますか。<○は１つ>

【図9-6　喫煙習慣】

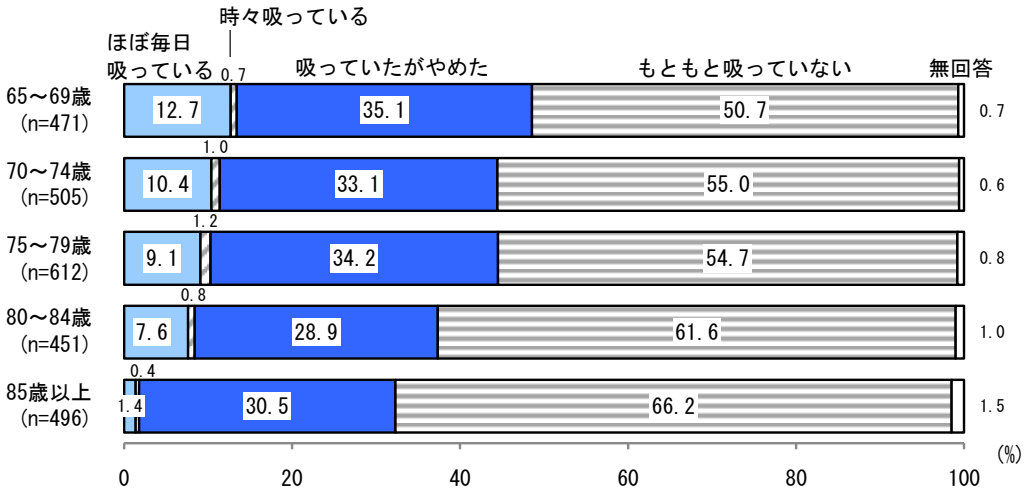


喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が57.5%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が32.5%、「ほぼ毎日吸っている」が8.2%となっています。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』割合は9.1%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図9-6）

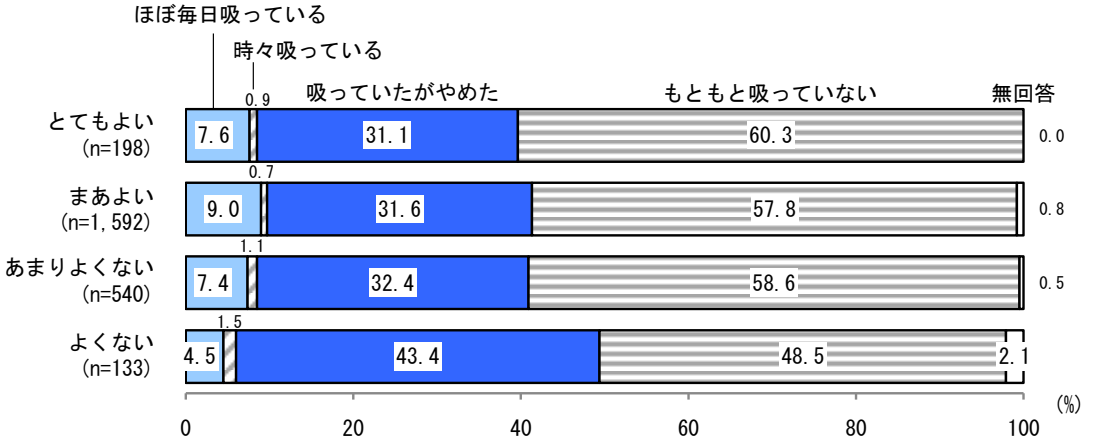
年齢別でみると、「ほぼ毎日吸っている」割合は、65～69歳で12.7%と最も高く、高齢になるほど低くなっています。（図9-6-1）

【図9-6-1　年齢別　喫煙習慣】



主観的健康観別でみると、「ほぼ毎日吸っている」割合は、健康状態がまあよい人が9.0%で最も高く、次いで、とてもよい人が7.6%となっています。（図9-6-2）

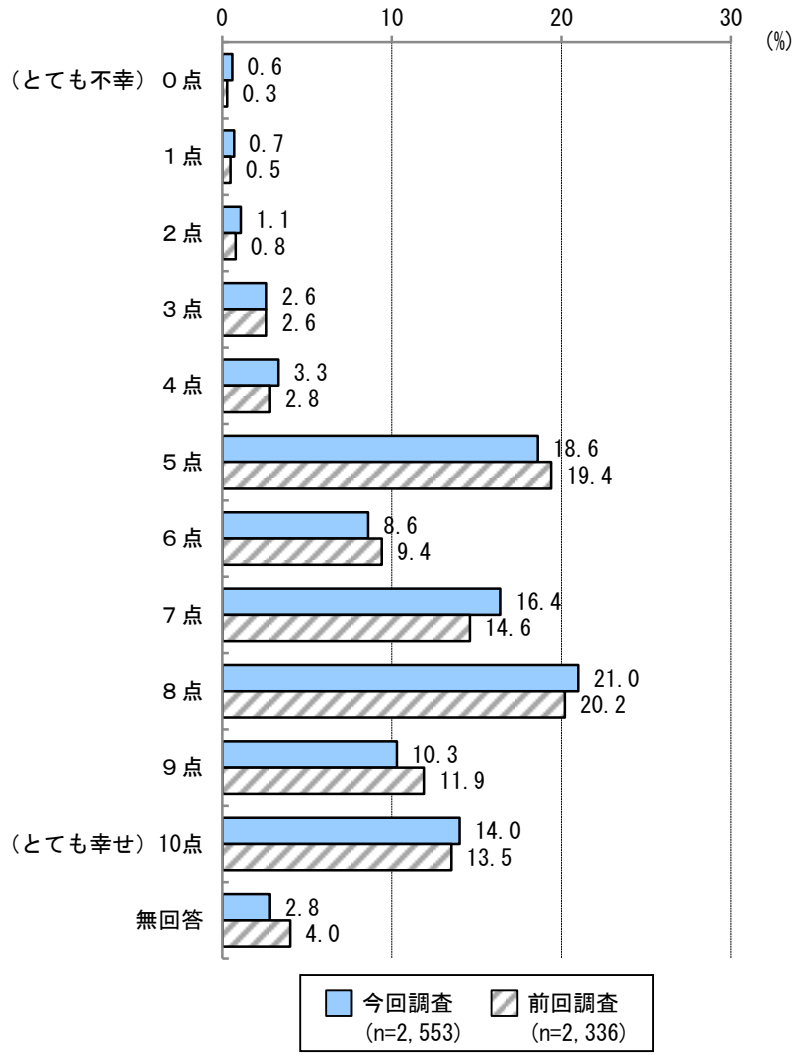
【図9-6-2　主観的健康観別　喫煙習慣】



（７）幸福度

問49. あなたは現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を１０点として、あてはまる点数に○印をおつけください。）。＜○は１つ＞

【図9-7　幸福度】



幸福度については、「８点」が21.0%で最も多く、次いで「５点」が18.6%、「７点」が16.4%となっており５点以上の割合は88.9%となっています。また、平均点は7.0点となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図9-7）

年齢別でみると、80～84歳を除く年代では平均点数が７点台となっています。（表9-7-1）

主観的健康観別でみると、健康状態がよい人ほど平均点数は高く、とてもよい人で8.5点となっています。（表9-7-2）

【表9-7-1　年齢別　幸福度】

	平均（点）
全　体	7.0
65～69歳	7.0
70～74歳	7.2
75～79歳	7.1
80～84歳	6.9
85歳以上	7.0

【表9-7-2　主観的健康観別　幸福度】

	平均（点）
全　体	7.0
とてもよい	8.5
まあよい	7.2
あまりよくない	6.3
よくない	5.2

（８）うつリスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問２問中１問以上に該当した場合にうつの「リスクあり」に該当します。

表　うつに関する設問（基本チェックリスト）

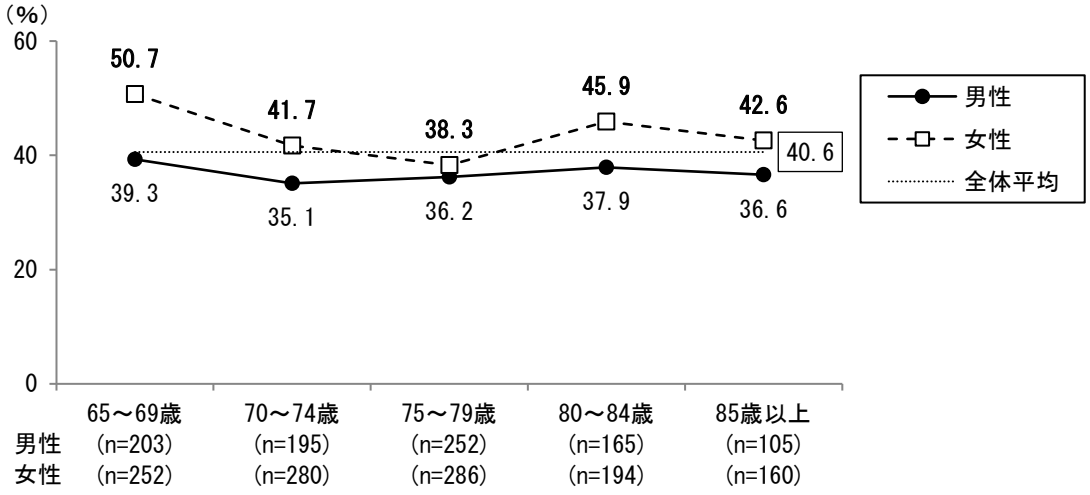
問番号	設問	該当する選択肢
問50（１）	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「あった」
問50（２）	この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「あった」

② 評価結果

評価結果をみると、要介護認定を受けていない回答者2,109人のうち、うつの「リスクあり」に該当する人の割合は全体平均で40.6%となっています。

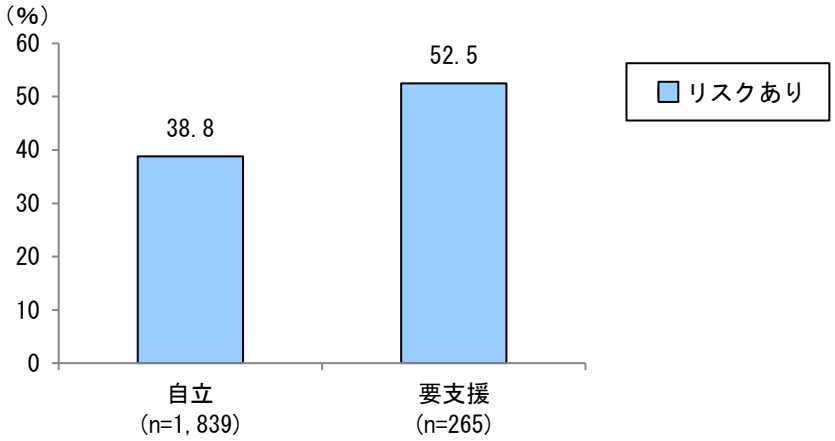
性・年齢別でみると、男性は65～69歳が39.3%で最も高くなっています。一方、女性はいずれの年代も男性より高く、65～69歳が50.7%で最も高くなっています。（図9-8-1）

【図9-8-1　性・年齢別　うつリスク】



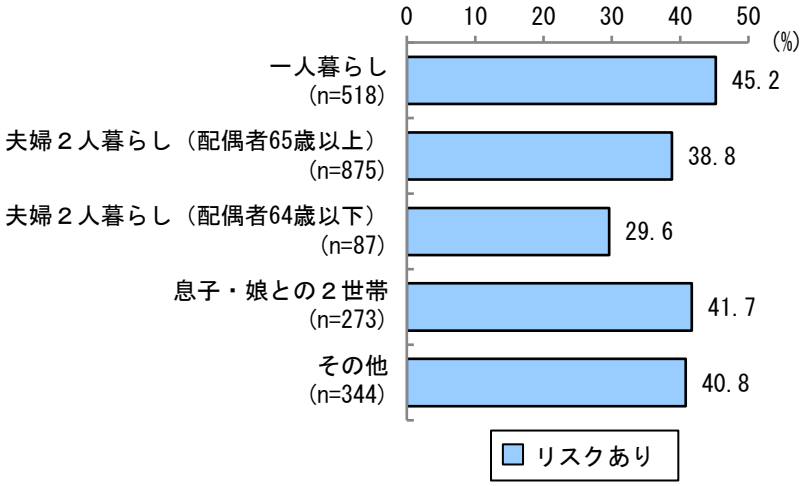
自立・要支援別でみると、自立が38.8%に対し、要支援者が52.5%と高くなっています。(図9-8-2)

【図9-8-2　自立・要支援別　うつリスク】



家族構成別でみると、一人暮らし世帯が45.2%で最も高く、次いで息子・娘との２世帯が41.7%となっています。また、夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）世帯は29.6%と他の世帯より低い割合となっています。(図9-8-3)

【図9-8-3　家族構成別　うつリスク】

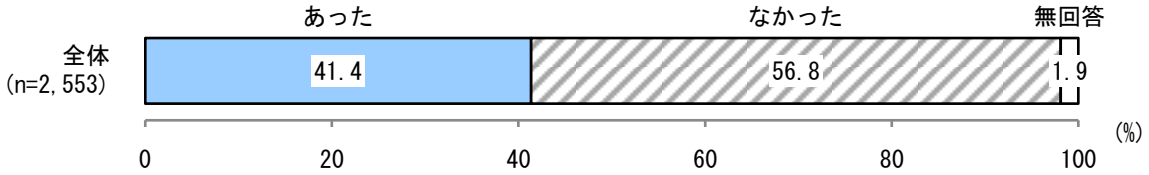


③ うつリスク判定に関係する項目の回答状況

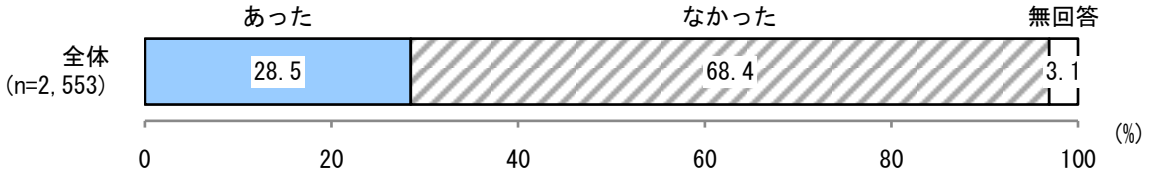
問50. あなたの心身の状況についておうかがいします。＜それぞれ○は１つ＞ （１）この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか （２）この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

【図9-8-4　うつリスク判定に関係する項目】

① この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったこと



② この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめないと感じたこと



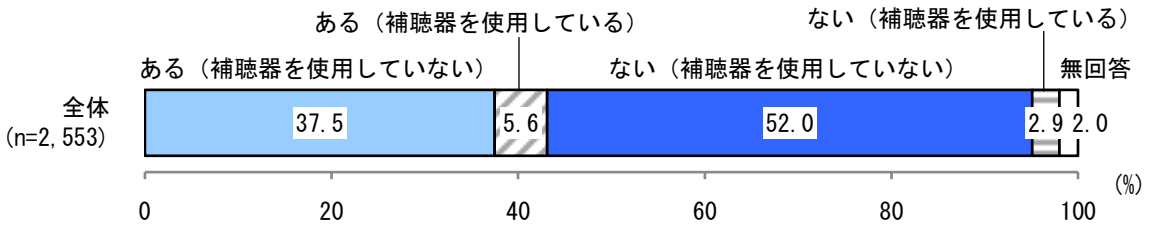
この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「あった」が41.4%、「なかった」が56.8%となっています。

この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかについては、「あった」が28.5%、「なかった」が68.4%となっています。（図9-8-4）

（９）聞こえにくいと感じること

問51. あなたは、会話をする時に聞き返すことがよくあるなど、聞こえにくいと感じることがありますか。<○は１つ>

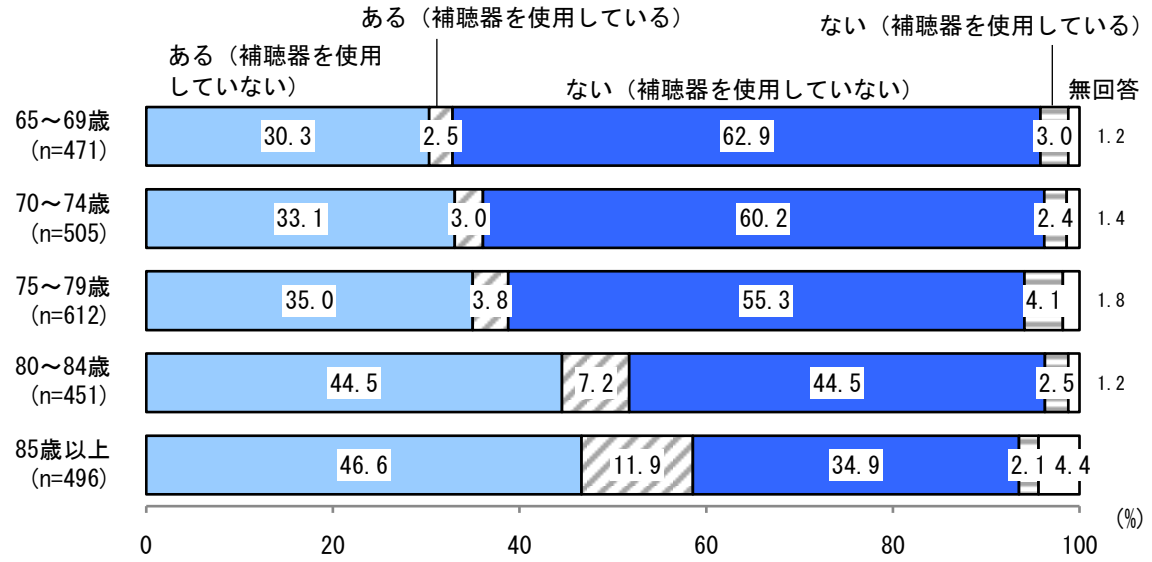
【図9-9　聞こえにくいと感じること】



聞こえにくいと感じることがあるかについては、「ない（補聴器を使用していない）」が52.0%で最も多く、次いで「ある（補聴器を使用していない）」が37.5%、「ある（補聴器を使用している）」が5.6%となっています。（図9-9）

年齢別でみると、「ある（補聴器を使用していない）」及び「ある（補聴器を使用している）」は高齢になるほど割合が高くなっており、両者をあわせた『ある』の割合は85歳以上（58.5%）が最も高くなっています。（図9-9-1）

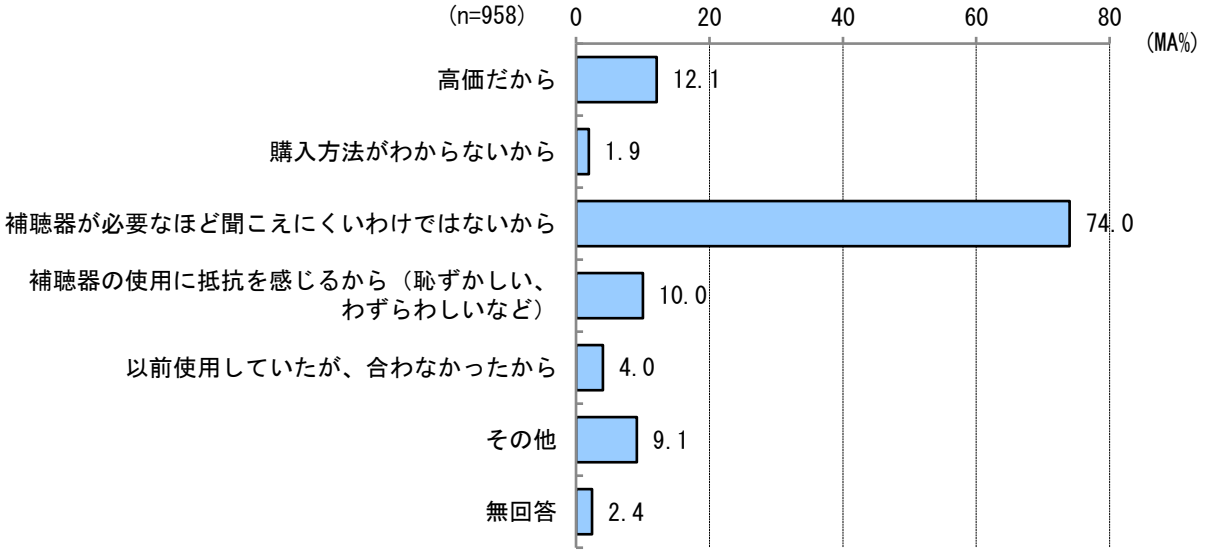
【図9-9-1　年齢別　聞こえにくいと感じること】



（10）補聴器を使用していない理由

問51－１．問51で「１．ある（補聴器を使用していない)」と回答した方にお聞きします。
補聴器を使用していない理由は何ですか。＜あてはまるものすべてに○＞

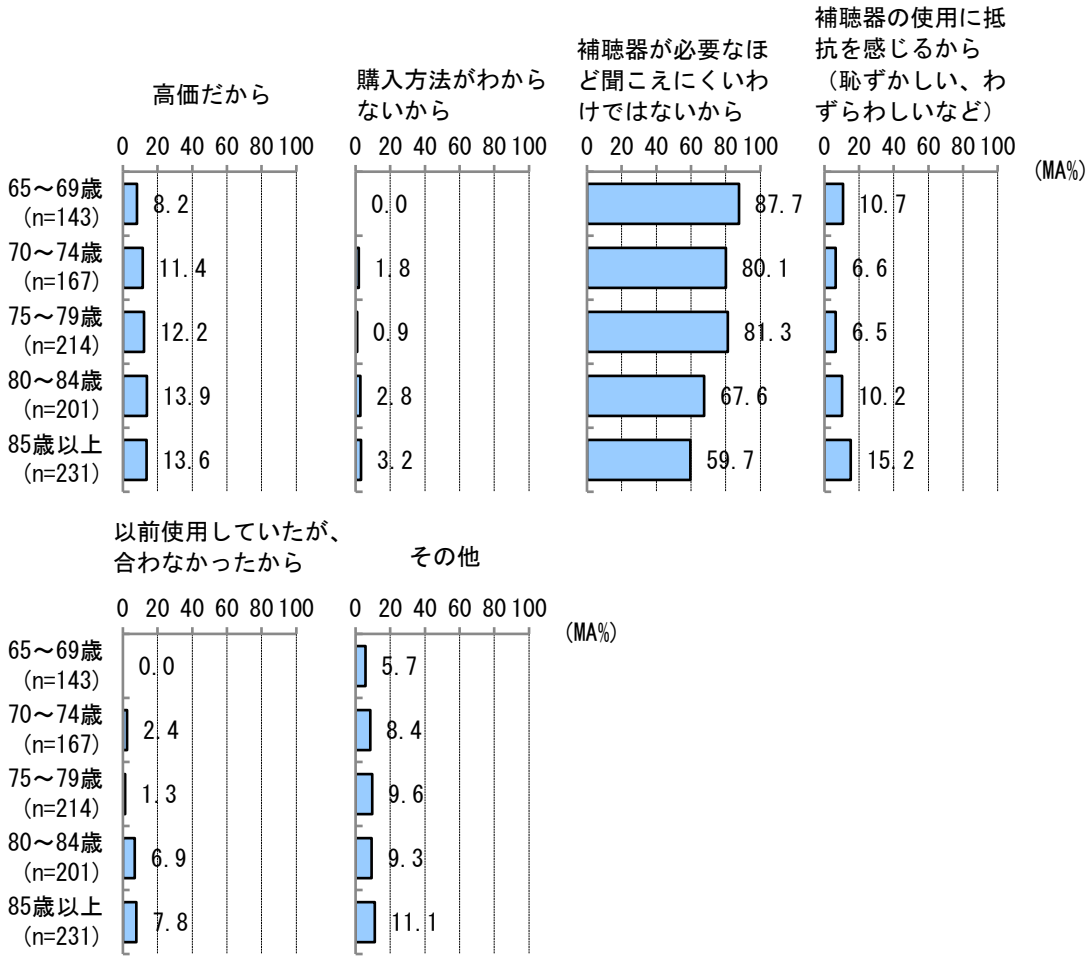
【図9-10　補聴器を使用していない理由】



聞こえにくいと感じたことがあり補聴器を使用していないと回答した人に、補聴器を使用していない理由についてたずねたところ、「補聴器が必要なほど聞こえにくいわけではないから」が74.0%で最も多く、次いで「高価だから」が12.1%、「補聴器の使用に抵抗を感じるから（恥ずかしい、わずらわしいなど)」が10.0%となっています。（図9-10）

年齢別でみると、いずれの年代も「補聴器が必要なほど聞こえにくいわけではないから」が最も多く、79歳以下の各年代で８割台となっています。次いで70～84歳の各年代では「高価だから」、65～69歳と85歳以上では「補聴器の使用に抵抗を感じるから（恥ずかしい、わずらわしいなど）」となっています。（図9-10-1）

【図9-10-1　年齢別　補聴器を使用していない理由】

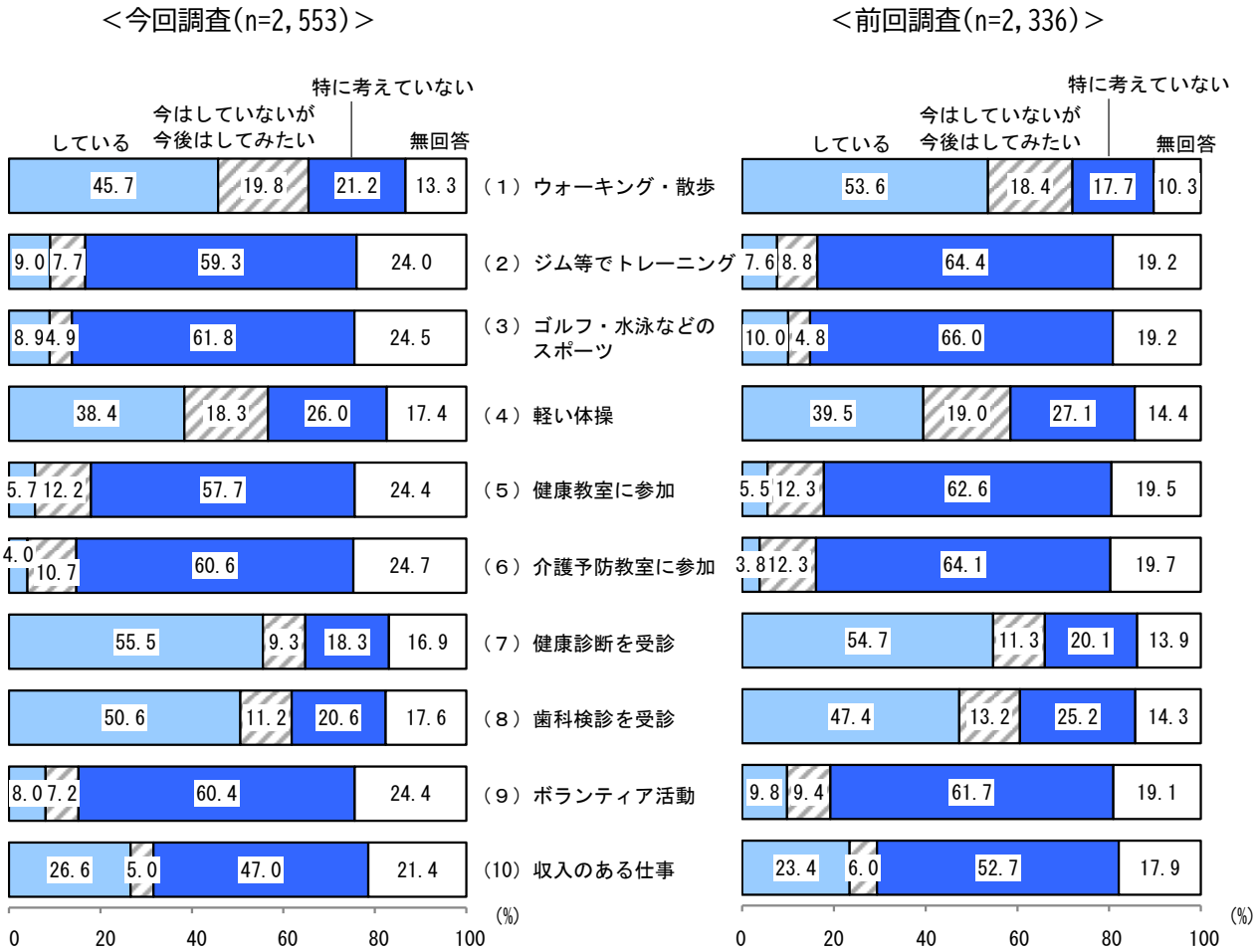


10　健康づくりや介護予防、見守りについて

（１）健康づくりや介護予防で取り組んでいること

問52.　あなたは、健康づくりや介護予防のために、どのようなことをしていますか。
＜(1)から(10)までそれぞれ○は１つずつ＞

【図10-1　健康づくりや介護予防で取り組んでいること】



健康づくりや介護予防で取り組んでいることについて、「している」割合では、“（７）健康診断を受診”が55.5%で最も高く、次いで“（８）歯科検診を受診”が50.6%、“（１）ウォーキング・散歩”が45.7%となっています。

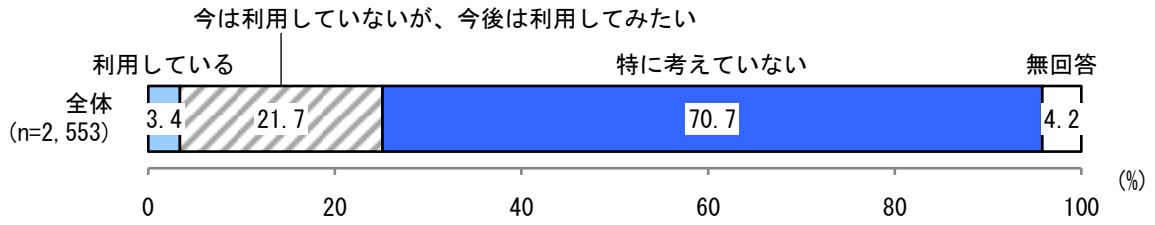
「今はしていないが今後はしてみたい」割合では、“（１）ウォーキング・散歩”が19.8%で最も高く、次いで“（４）軽い体操”が18.3%、“（５）健康教室に参加”が12.2%となっています。

前回調査と比較すると、「している」割合が高くなった取組は、“（８）歯科検診を受診”と“(10)収入のある仕事”がともに3.2ポイント高くなっています。（図10-1）

（２）緊急時の見守り・駆け付けサービスの利用状況

問53. あなたは、緊急時の見守り・駆け付けサービスを利用していますか。（京都市の緊急通報システム事業を除く）＜○は１つ＞

【図10-2　緊急時の見守り・駆け付けサービスの利用状況】



緊急時の見守り・駆け付けサービスを利用しているかについては、「特に考えていない」が70.7%で最も多く、次いで「今は利用していないが、今後は利用してみたい」が21.7%、「利用している」が3.4%となっています。（図10-2）

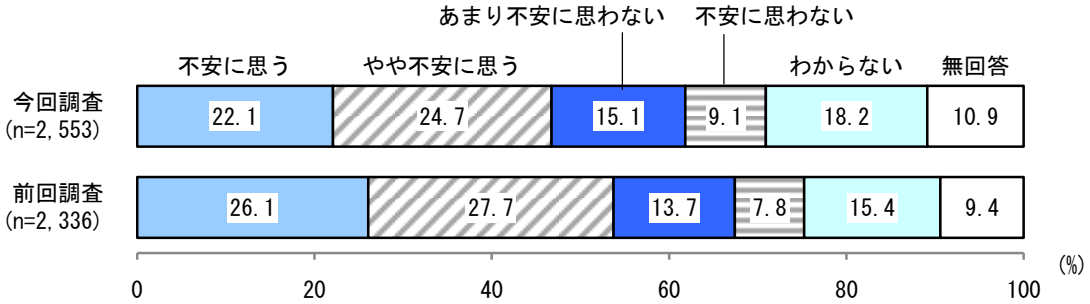
11　在宅療養について

（１）自宅での療養を検討する際に不安なこと

問54. もし、あなたが病気や老い等の理由で、自宅での療養を検討するとした場合、不安に思うことは何ですか。＜(1)から(6)までそれぞれ○は１つずつ＞

① 適切に自宅に訪問して対応してくれる医師・看護師がいるかどうか

【図11-1-1　適切に自宅に訪問して対応してくれる医師・看護師がいるかの不安】

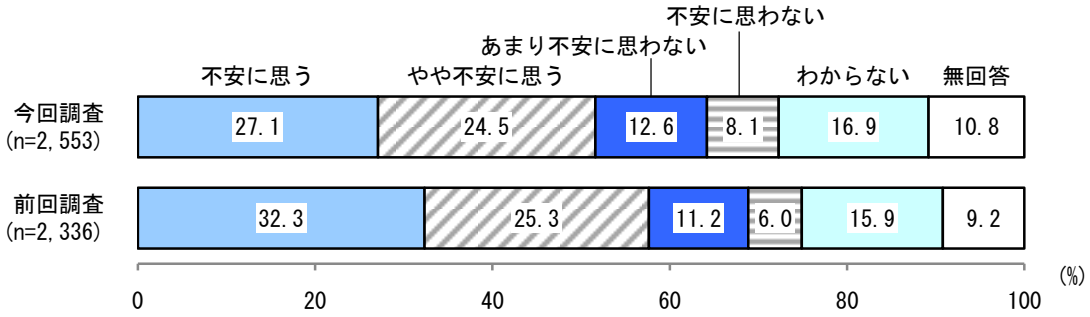


適切に自宅に訪問して対応してくれる医師・看護師がいるかどうかについては、「やや不安に思う」が24.7%で最も多く、次いで「不安に思う」が22.1%となっており、両者を合わせた『不安』割合は46.8%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合は7.0ポイント低くなっています。（図11-1-1）

② 夜間・緊急時に対応してくれる医師・看護師がいるかどうか

【図11-1-2　夜間・緊急時に対応してくれる医師・看護師がいるかの不安】

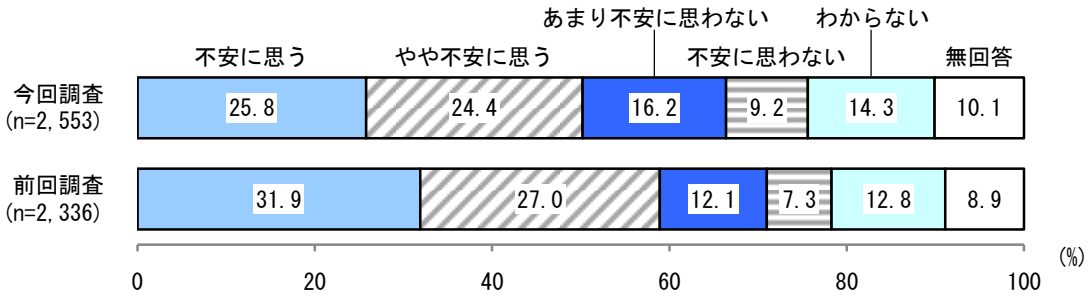


夜間・緊急時に対応してくれる医師・看護師がいるかどうかについては、「不安に思う」が27.1%で最も多く、次いで「やや不安に思う」が24.5%となっており、両者を合わせた『不安』割合は51.6%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合は6.0ポイント低くなっています。（図11-1-2）

③ 病状が急変した時に、すぐに一時的に入院できる病院があるかどうか

【図11-1-3　病状が急変した時に、すぐに一時的に入院できる病院があるかの不安】

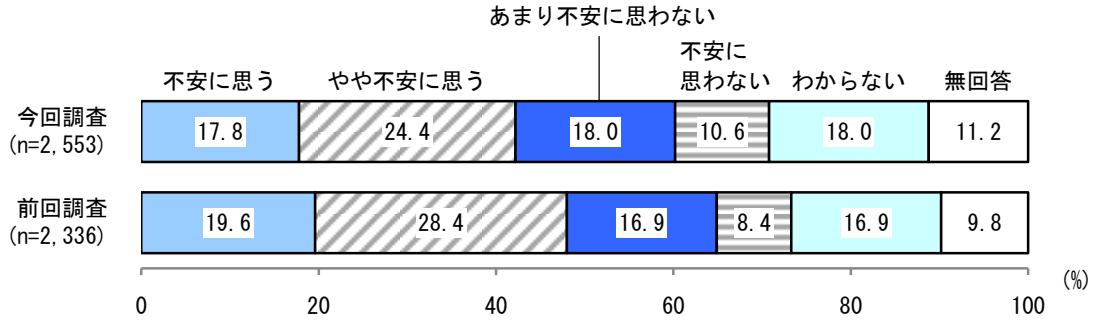


病状が急変した時に、すぐに一時的に入院できる病院があるかどうかについては、「不安に思う」が25.8%で最も多く、次いで「やや不安に思う」が24.4%となっており、両者を合わせた『不安』割合は50.2%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合は8.7ポイント低くなっています。（図11-1-3）

④ 適切に自宅に訪問してくれる介護サービスがあるかどうか

【図11-1-4　適切に自宅に訪問してくれる介護サービスがあるかの不安】

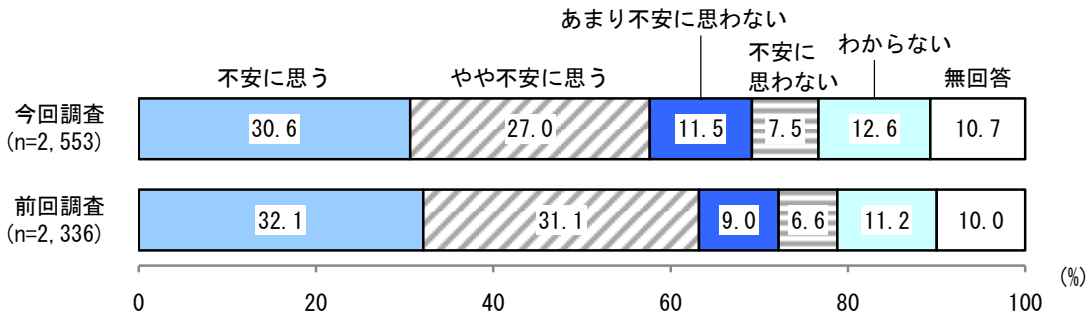


適切に自宅に訪問してくれる介護サービスがあるかどうかについては、「やや不安に思う」が24.4%で最も多く、次いで「あまり不安に思わない」が18.0%となっており、「不安に思う」と「やや不安に思う」を合わせた『不安』割合は42.2%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合が5.8ポイント低くなっています。（図11-1-4）

⑤ 介護してくれる家族等への負担

【図11-1-5　介護してくれる家族等への負担】

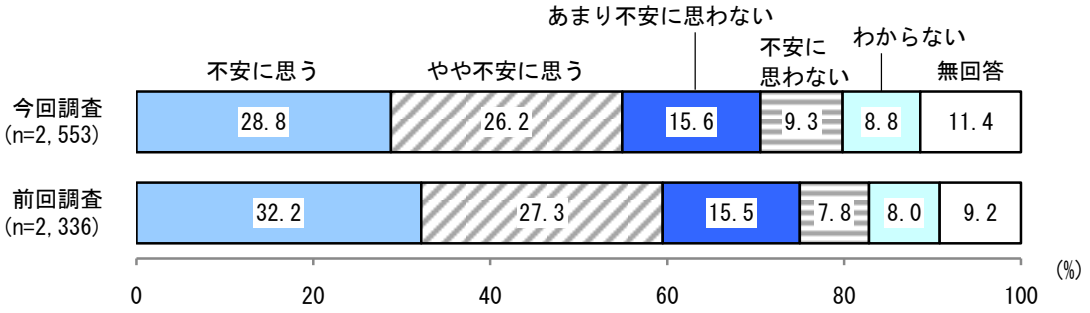


介護してくれる家族等への負担については、「不安に思う」が30.6%で最も多く、次いで「やや不安に思う」が27.0%となっており、両者を合わせた『不安』割合は57.6%となっています。

前回調査と比較すると、『不安』割合が5.6ポイント低くなっています。（図11-1-5）

⑥ 経済的な負担

【図11-1-6　経済的な負担】



経済的な負担については、「不安に思う」が28.8%で最も多く、次いで「やや不安に思う」が26.2%となっており、両者を合わせた『不安』割合は55.0%となっています。

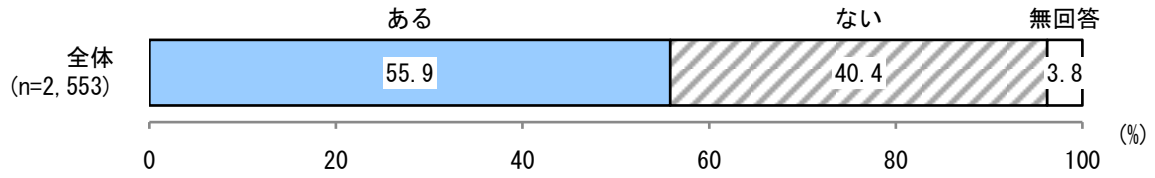
前回調査と比較すると、『不安』割合が4.5ポイント低くなっています。（図11-1-6）

12　人生の最期にむけた準備について

（１）死期が迫っていると診断された時にどうするか悩んだり、考えたりしたこと

問55. あなたは、将来治らない病気になったり、死期が迫っていると診断された時にどうするかについて悩んだり、考えたりしたことがありますか。＜○は１つ＞

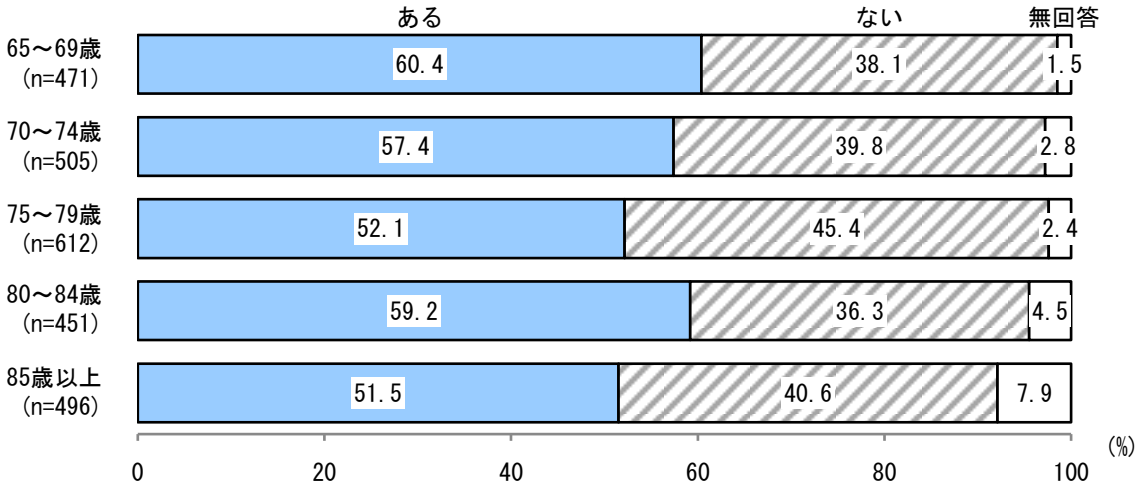
【図12-1　死期が迫っていると診断された時にどうするか悩んだり、考えたりしたこと】



死期が迫っていると診断された時にどうするか悩んだり、考えたりしたことについては、「ある」が55.9%、「ない」が40.4%となっています。（図12-1）

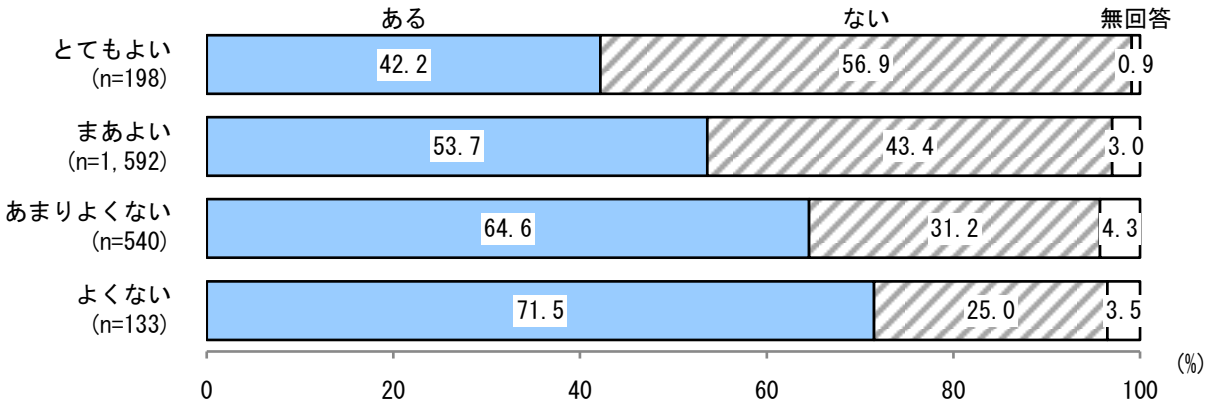
年齢別でみると、「ある」の割合は65～69歳（60.4%）で最も高く、次いで80～84歳（59.2%）となっています。（図12-1-1）

【図12-1-1　年齢別　死期が迫っていると診断された時にどうするか悩んだり、考えたりしたこと】



主観的健康観別でみると、「ある」の割合は健康状態がよくない人ほど高くなっています。（図12-1-2）

【図12-1-2　主観的健康観別　死期が迫っていると診断された時にどうするか悩んだり、考えたりしたこと】

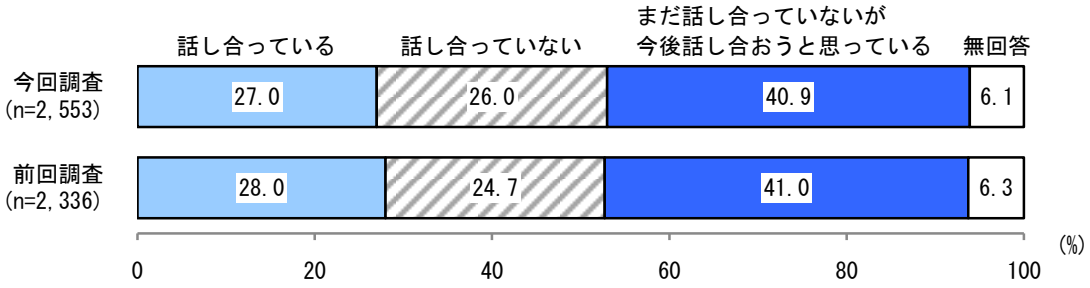


（２）人生の終い支度の状況

問56. もし、あなたが万一治らない病気になったり、死期が迫っていると診断された時に、どのような医療や介護が受けたいかや、財産の相続や葬儀等をどうして欲しいか、周囲の人と話し合っていますか。＜(1)から(3)までそれぞれ○は１つずつ＞

① 家族や親しい人と

【図12-2-1　家族や親しい人との話し合い】

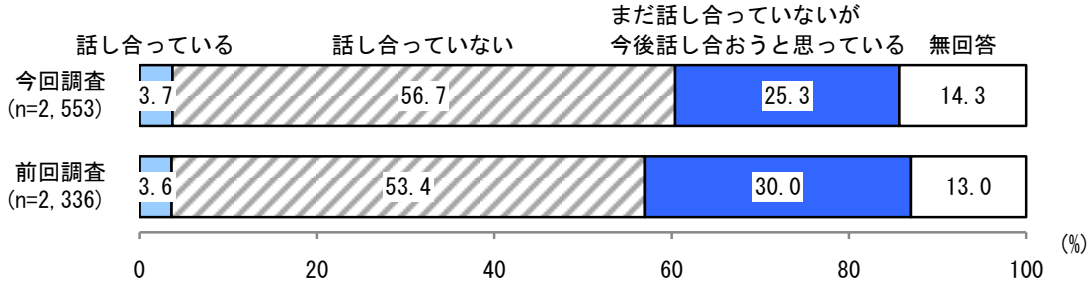


万一治らない病気になったり、死期が迫っていると診断された時に、どのような医療や介護が受けたいかや、財産の相続や葬儀等をどうして欲しいかについての、家族や親しい人との話し合いは、「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」が40.9%で最も多く、次いで「話し合っている」が27.0%、「話し合っていない」が26.0%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図12-2-1）

② 医療機関等や介護サービス事業者と

【図12-2-2　医療機関等や介護サービス事業者との話し合い】

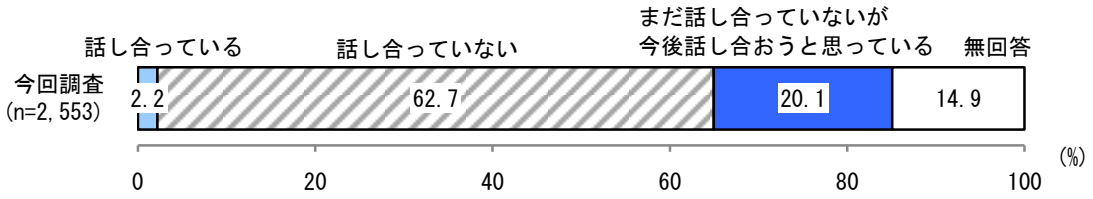


医療機関等や介護サービス事業者との話し合いは、「話し合っていない」が56.7%で最も多く、次いで「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」が25.3%、「話し合っている」が3.7%となっています。

前回調査と比較すると、「話し合っていない」が3.3ポイント高くなっており、「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」は4.7ポイント低くなっています。（図12-2-2）

③ 弁護士や葬儀会社などの専門家と

【図12-2-3　弁護士や葬儀会社などの専門家との話し合い】

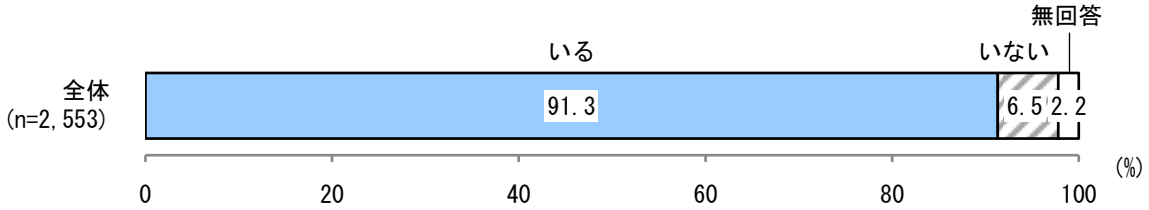


弁護士や葬儀会社などの専門家との話し合いは、「話し合っていない」が62.7%で最も多く、次いで「まだ話し合っていないが今後話し合おうと思っている」が20.1%、「話し合っている」が2.2%となっています。(図12-2-3)

（３）亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる人の有無

問57. あなたが亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる方はいますか。＜○は１つ＞

【図12-3　亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる人の有無】

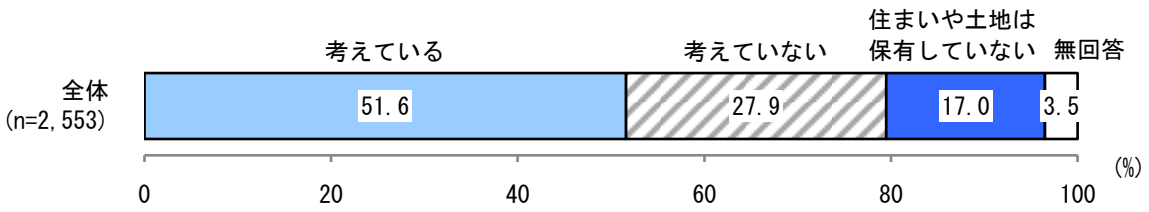


自分が亡くなった後の葬儀や家財の処分をしてくれる人がいるかについては、「いる」が91.3%、「いない」が6.5%となっています。(図12-3)

（４）亡くなった後の住まいや土地の処分に対する考え

問58. あなたが亡くなった後の住まいや土地についてどう処分するか考えていますか。
＜○は１つ＞

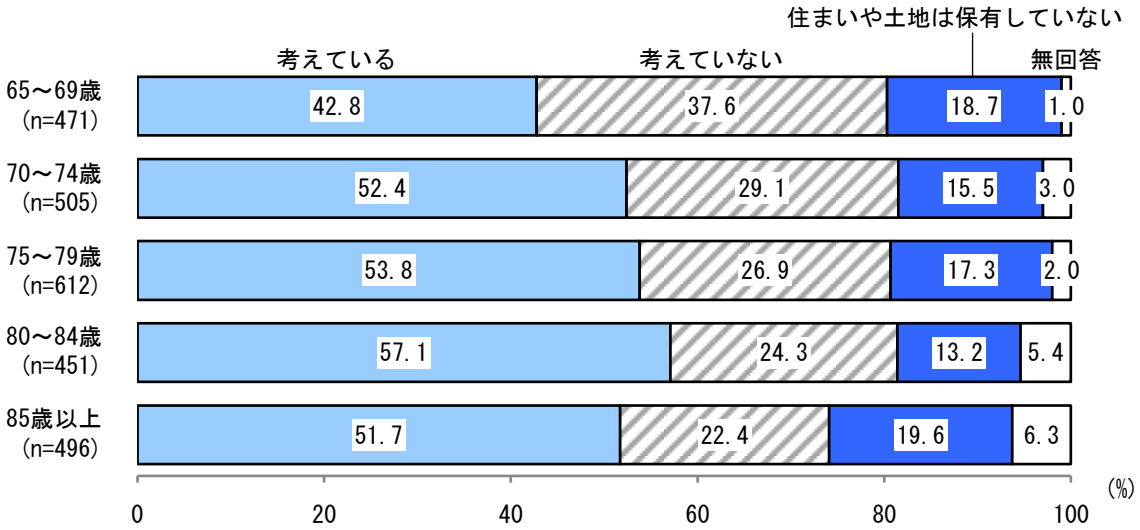
【図12-4　亡くなった後の住まいや土地の処分に対する考え】



自分が亡くなった後の住まいや土地の処分に対する考えについては、「考えている」が51.6%で最も多く、次いで「考えていない」が27.9%、「住まいや土地は保有していない」が17.0%となっています。(図12-4)

年齢別でみると、「考えている」の割合は80～84歳（57.1%）が最も高く、70歳以上の各年代で５割以上となっています。(図12-4-1)

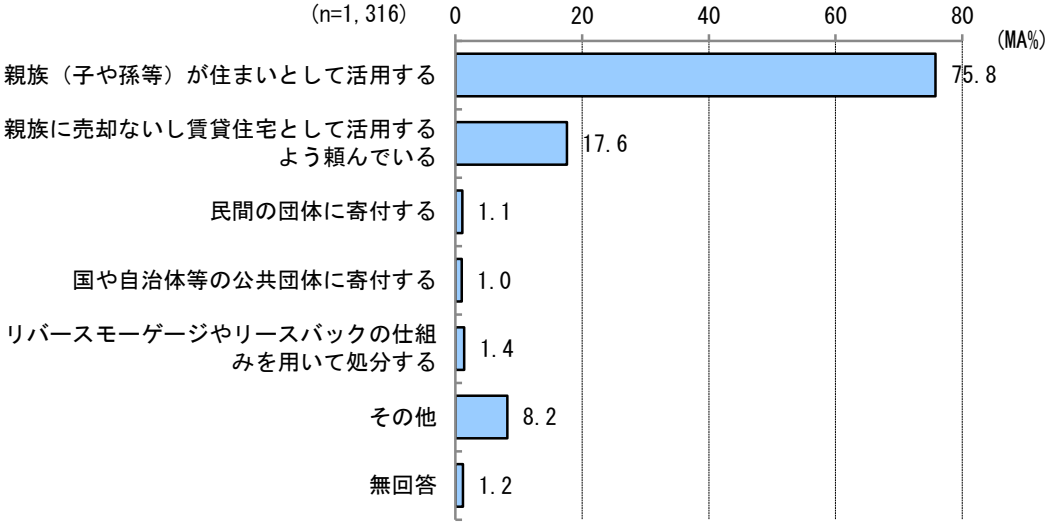
【図12-4-1　年齢別　亡くなった後の住まいや土地の処分に対する考え】



（５）住まいや土地の処分方法

問58－１．問58で「１．考えている」と回答した方にお聞きします。
どのようにして処分しようと考えていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

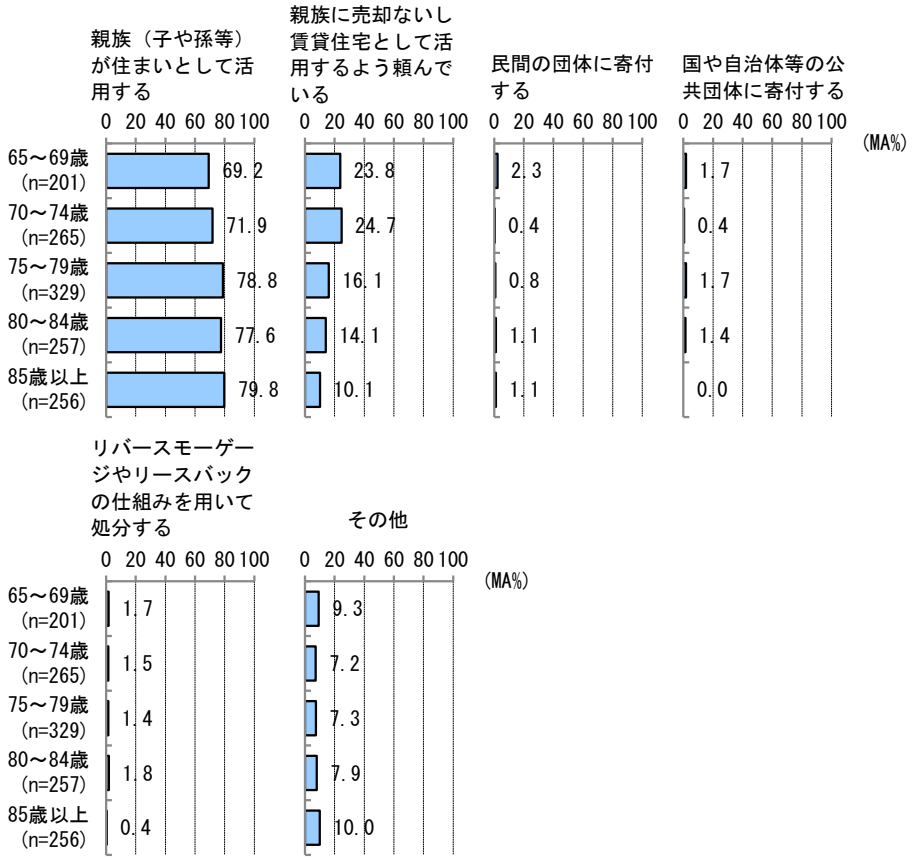
【図12-5　住まいや土地の処分方法】



自分が亡くなった後の住まいや土地の処分について考えていると回答した人に、その処分方法についてたずねたところ、「親族（子や孫等）が住まいとして活用する」が75.8%で最も多く、次いで「親族に売却ないし賃貸住宅として活用するよう頼んでいる」が17.6%となっています。（図12-5）

年齢別でみると、「親族（子や孫等）が住まいとして活用する」は70歳以上の各年代で７割以上を占めており、85歳以上（79.8%）が最も高くなっています。（図12-5-1）

【図12-5-1　年齢別　住まいや土地の処分方法】

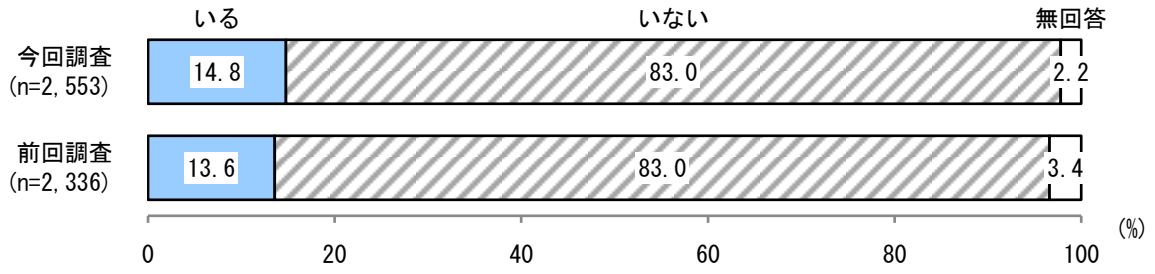


13　認知症について

（１）自身または家族の認知症の症状の有無

問59. あなたは認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいますか。＜○は１つ＞

【図13-1　自身または家族の認知症の症状の有無】



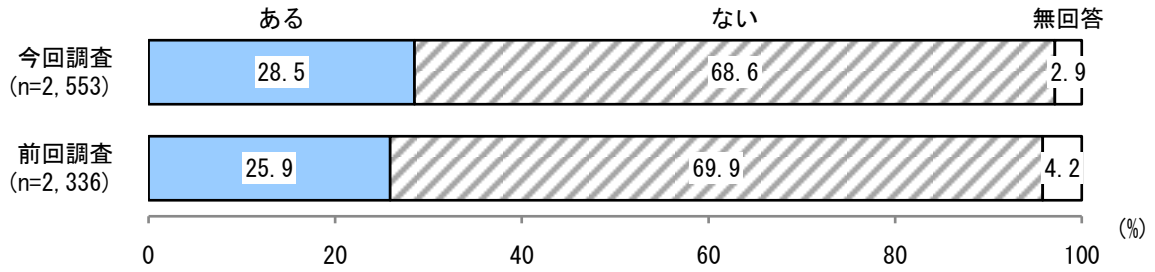
自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいるかについて、「いる」が14.8%、「いない」が83.0%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図13-1）

（２）認知症について症状や対応等を学んだ経験

問60. あなたは認知症の症状や認知症の方への対応等について学んだことはありますか。
＜○は１つ＞

【図13-2　認知症について症状や対応等を学んだ経験】



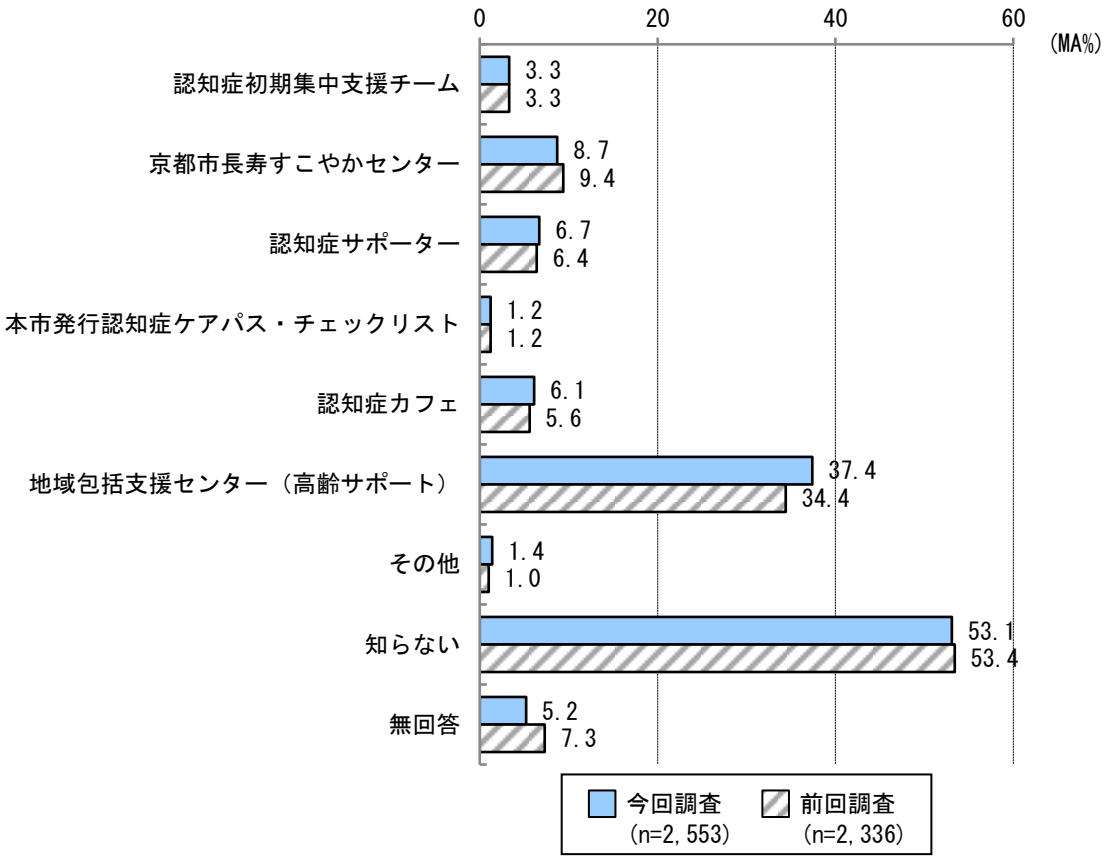
認知症の症状や認知症の人への対応等を学んだことはあるかについて、「ある」が28.5%、「ない」が68.6%となっています。

前回調査と比較すると、「ある」が2.6ポイント高くなっています。（図13-2）

（３）認知症の人を支援する機関や取組で知っているもの

問61. あなたは認知症の方を支援する機関や取組について知っていますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

【図13-3　認知症の人を支援する機関や取組で知っているもの】



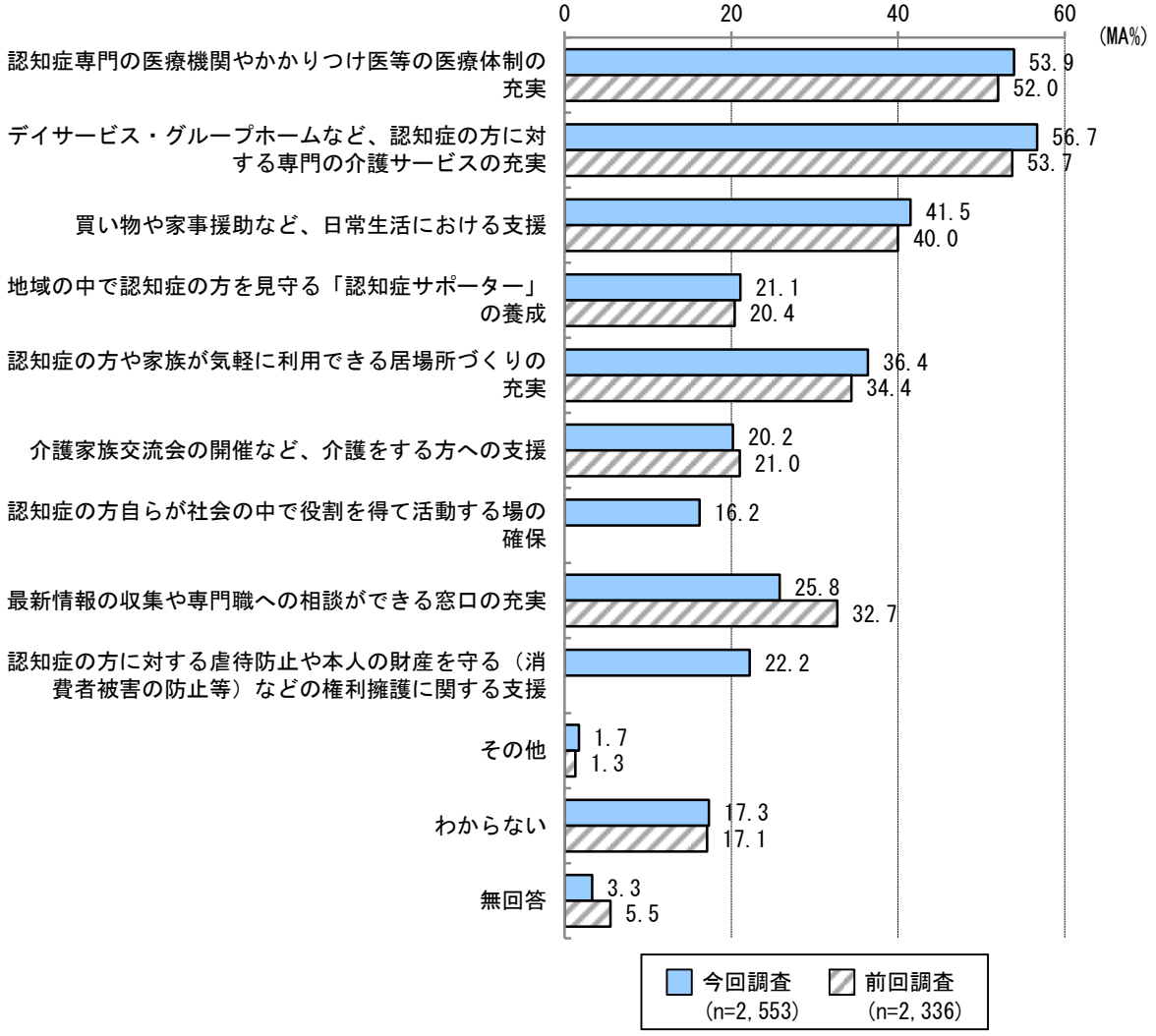
認知症の人を支援する機関や取組で知っているものについては、「知らない」が53.1%で最も多くなっています。一方、知っているものでは、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が37.4%で最も多く、次いで「京都市長寿すこやかセンター」が8.7%、「認知症サポーター」が6.7%となっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が3.0ポイント高くなっています。（図13-3）

（４）認知症になった場合にあればよいと思う支援

問62. あなたが認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。
＜あてはまるものすべてに○＞

【図13-4　認知症になった場合にあればよいと思う支援】



※今回調査の「認知症の方自らが社会の中で役割を得て活動する場の確保」と「認知症の方に対する虐待防止や本人の財産を守る（消費者被害の防止等）などの権利擁護に関する支援」は新規項目です。

自身が認知症になった場合にあればよいと思う支援については、「デイサービス・グループホームなど、認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が56.7%で最も多く、次いで「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が53.9%、「買い物や家事援助など、日常生活における支援」が41.5%となっています。

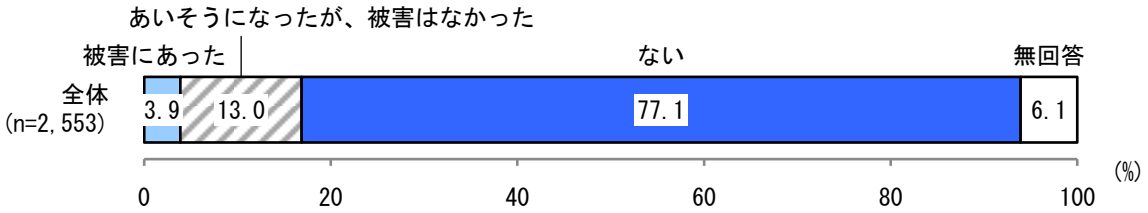
前回調査と比較すると、「デイサービス・グループホームなど、認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が3.0ポイント高く、「最新情報の収集や専門職への相談ができる窓口の充実」が6.9ポイント低くなっています。（図13-4）

14　消費者被害について

（１）消費者被害の経験の有無

問63. あなたは、これまでに消費者被害にあったことや、あいそうになったことはありますか。
＜○は１つ＞

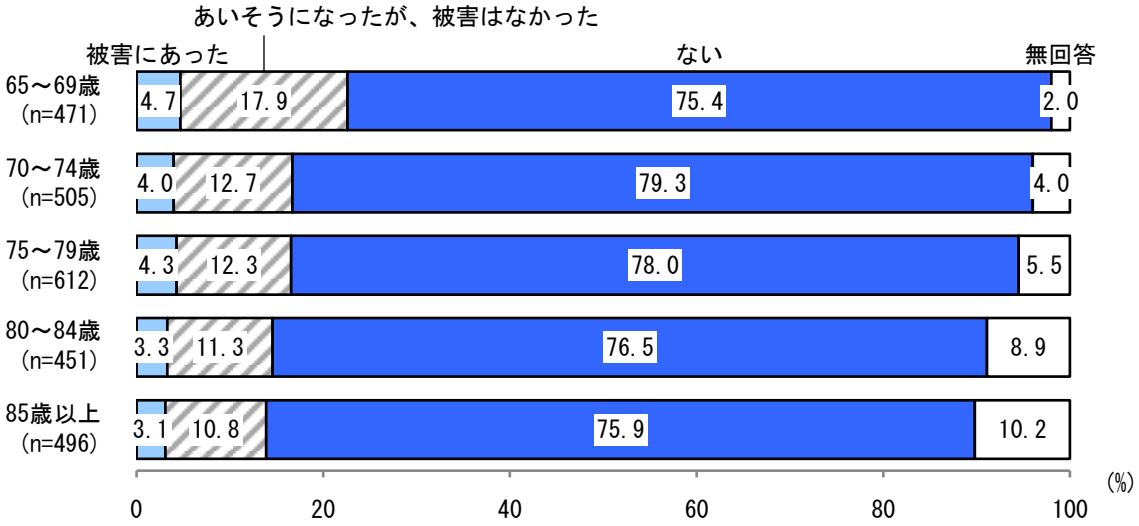
【図14-1　消費者被害の経験の有無】



消費者被害の経験の有無については、「ない」が77.1%で最も多く、次いで「あいそうになったが、被害はなかった」が13.0%、「被害にあった」が3.9%となっています。（図14-1）

年齢別でみると、「被害にあった」の割合は65～69歳（4.7%）が最も高く、「あいそうになったが、被害はなかった」の割合も65～69歳（17.9%）が最も高くなっています。（図14-1-1）

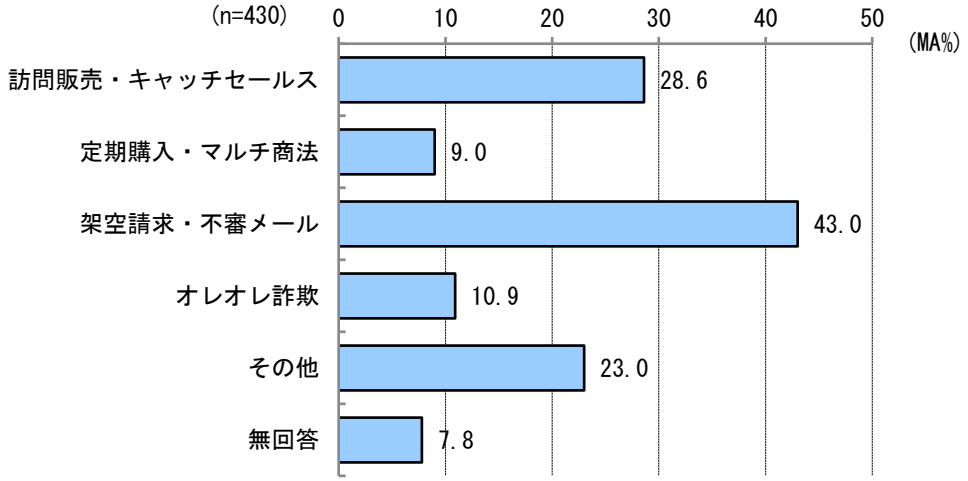
【図14-1-1　年齢別　消費者被害の経験の有無】



（２）経験した消費者被害

問63－１．問63で「１．被害にあった」又は「２．あいそうになったが、被害はなかった」と回答した方にお聞きします。
あなたが経験したものは以下のうちどれですか。＜あてはまるものすべてに○＞

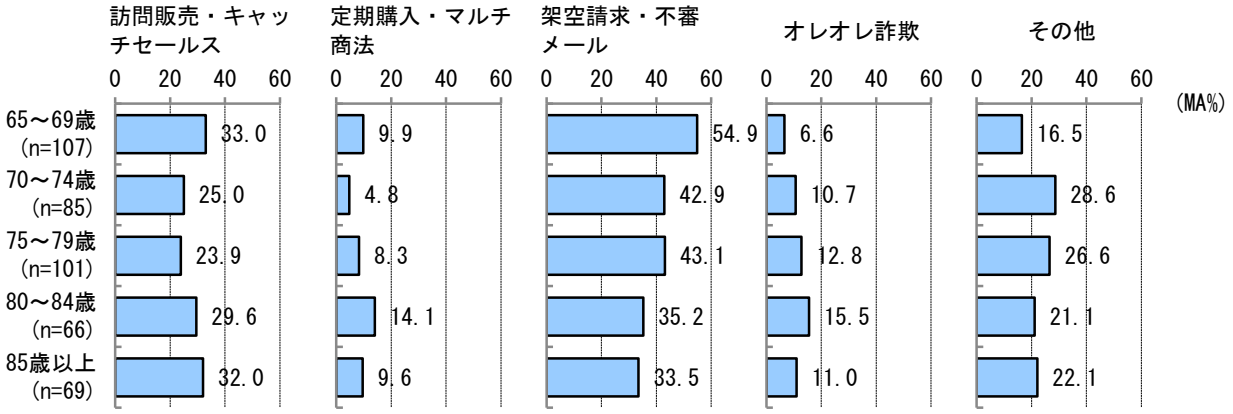
【図14-2　経験した消費者被害】



消費者被害にあった又はあいそうになったが被害はなかったと回答した人に、その消費者被害についてたずねたところ、「架空請求・不審メール」が43.0%で最も多く、次いで「訪問販売・キャッチセールス」が28.6%、「オレオレ詐欺」が10.9%となっています。(図14-2)

年齢別でみると、いずれの年代も「架空請求・不審メール」が最も多く、なかでも65～69歳（54.9%）が最も高くなっています。また、「訪問販売・キャッチセールス」の割合は65～69歳（33.0%）が最も高く、「定期購入・マルチ商法」及び「オレオレ詐欺」の割合は80～84歳で最も高くなっています。(図14-2-1)

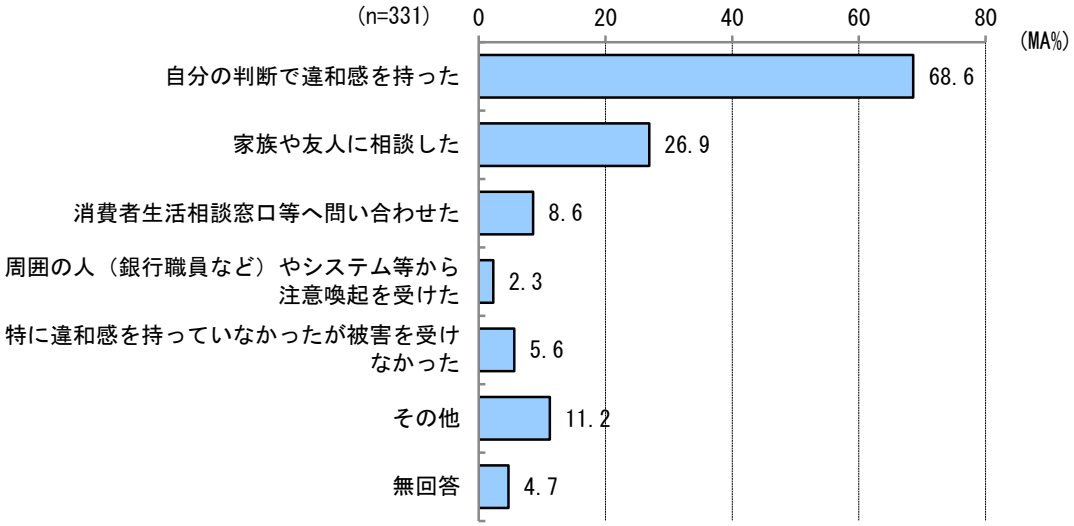
【図14-2-1　年齢別　経験した消費者被害】



（３）消費者被害を避けた方法

問63－２．問63で「２．あいそうになったが、被害はなかった」と回答した方にお聞きします。
どのようにして被害を避けることができましたか。<○は１つ>

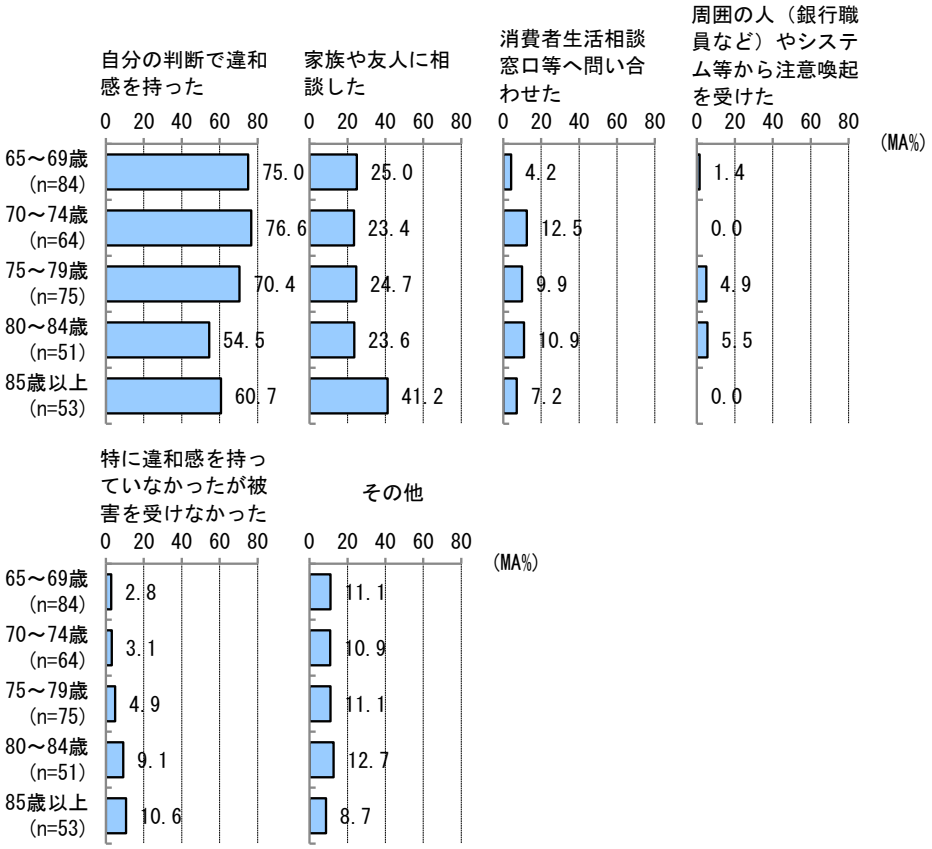
【図14-3　消費者被害を避けた方法】



消費者被害にあいそうになったが被害はなかったと回答した人に、被害を避けた方法についてたずねたところ、「自分の判断で違和感を持った」が68.6%で最も多く、次いで「家族や友人に相談した」が26.9%、「消費者生活相談窓口等へ問い合わせた」が8.6%となっています。（図14-3）

年齢別でみると、「自分の判断で違和感を持った」の割合は79歳以下の各年代で７割台と高く、「家族や友人に相談した」の割合は85歳以上が41.2%で最も高くなっています。（図14-3-1）

【図14-3-1　年齢別　消費者被害を避けた方法】

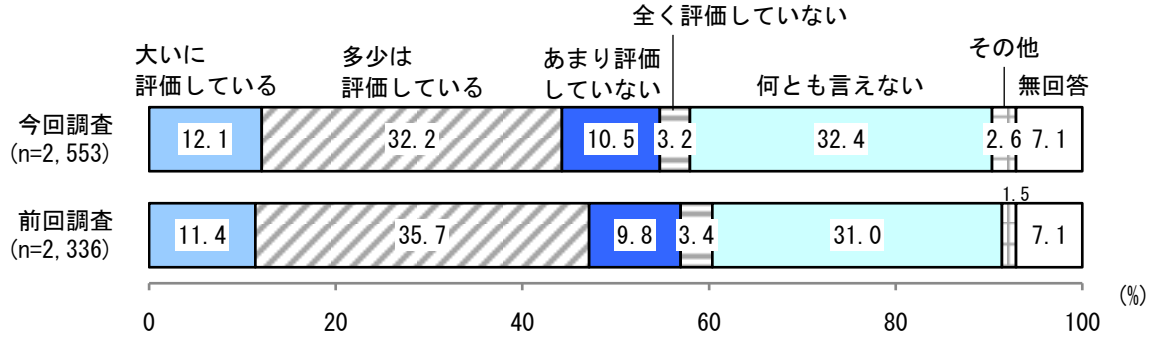


15　介護保険制度等について

（１）介護保険制度への評価

問64.　あなたの介護保険制度への評価として、御自身の考えに近いものは次のどれですか。
＜○は１つ＞

【図15-1　介護保険制度への評価】

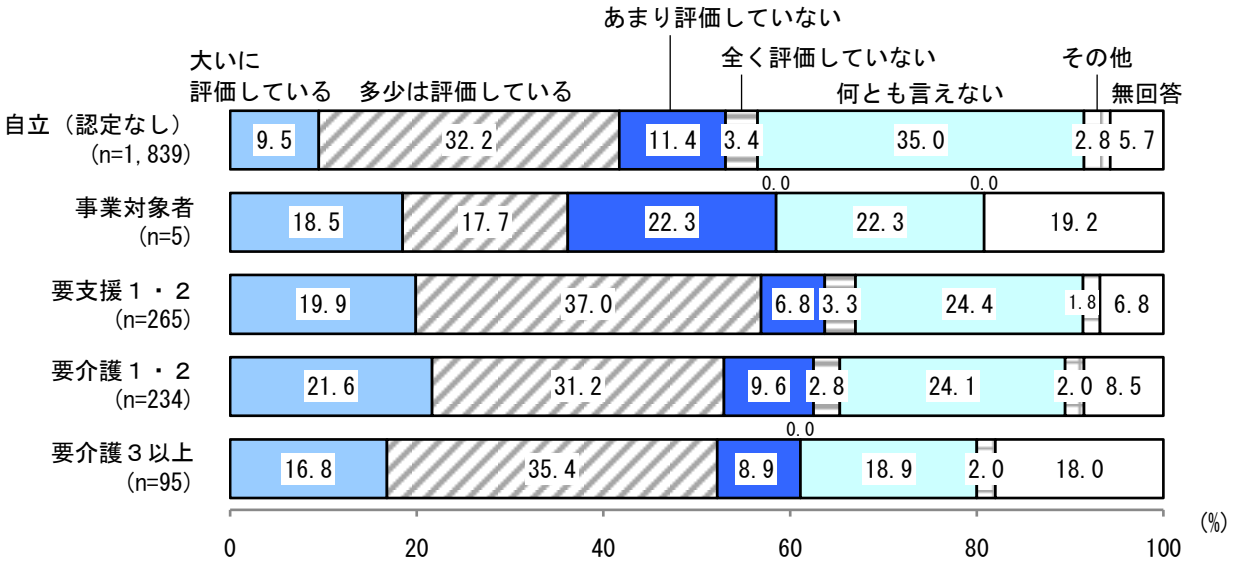


介護保険制度への評価については、「何とも言えない」が32.4%で最も多く、次いで「多少は評価している」が32.2%、「大いに評価している」が12.1%となっています。「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた『評価している』割合は44.3%となっています。

前回調査と比較すると、『評価している』割合が2.8ポイント低くなっています。（図15-1）

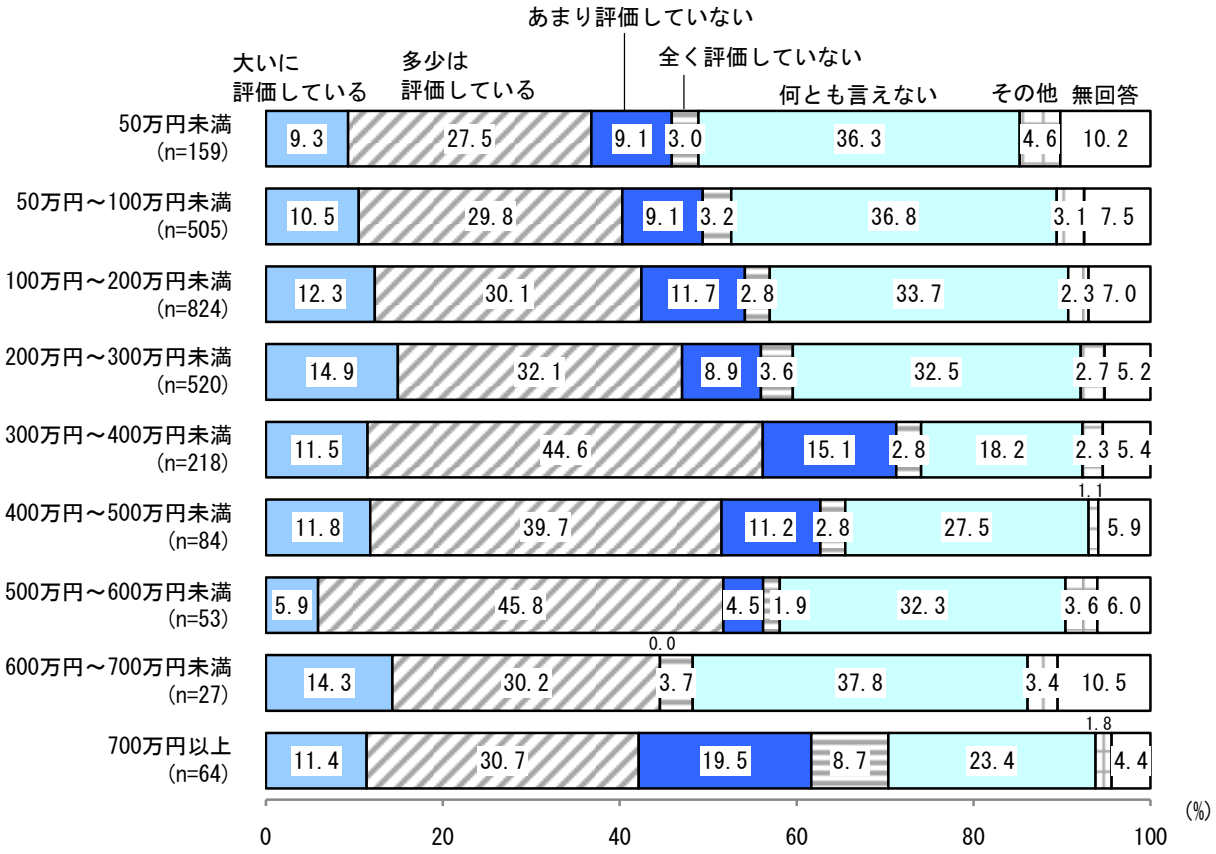
要介護認定区分（５区分）別でみると、自立の人と比べて、要支援・要介護に認定された人のほうが『評価している』割合が高く、要支援１・２の人（56.9%）が最も高くなっています。（図15-1-1）

【図15-1-1　要介護認定区分（５区分）別　介護保険制度への評価】



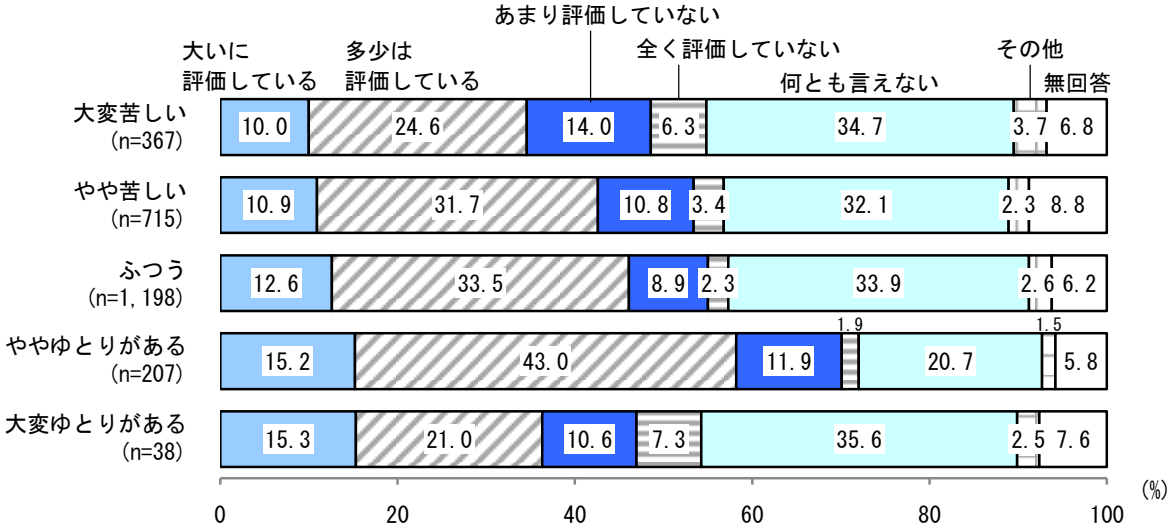
個人の年間総収入別でみると、『評価している』割合は300万円～400万円未満（56.1%）が最も高く、300万円～600万円未満の人で５割台と高くなっています。なお、「あまり評価していない」と「全く評価していない」を合わせた『評価していない』割合では、700万円以上の人が28.2%、300万円～400万円未満の人が17.9%と高くなっています。（図15-1-2）

【図15-1-2　個人の年間総収入別　介護保険制度への評価】



経済状況別でみると、「大いに評価している」は、経済的にゆとりがある人ほど割合が高くなる傾向がみられます。なお、『評価している』割合は、ややゆとりのある人で58.2%と高くなっています。（図15-1-3）

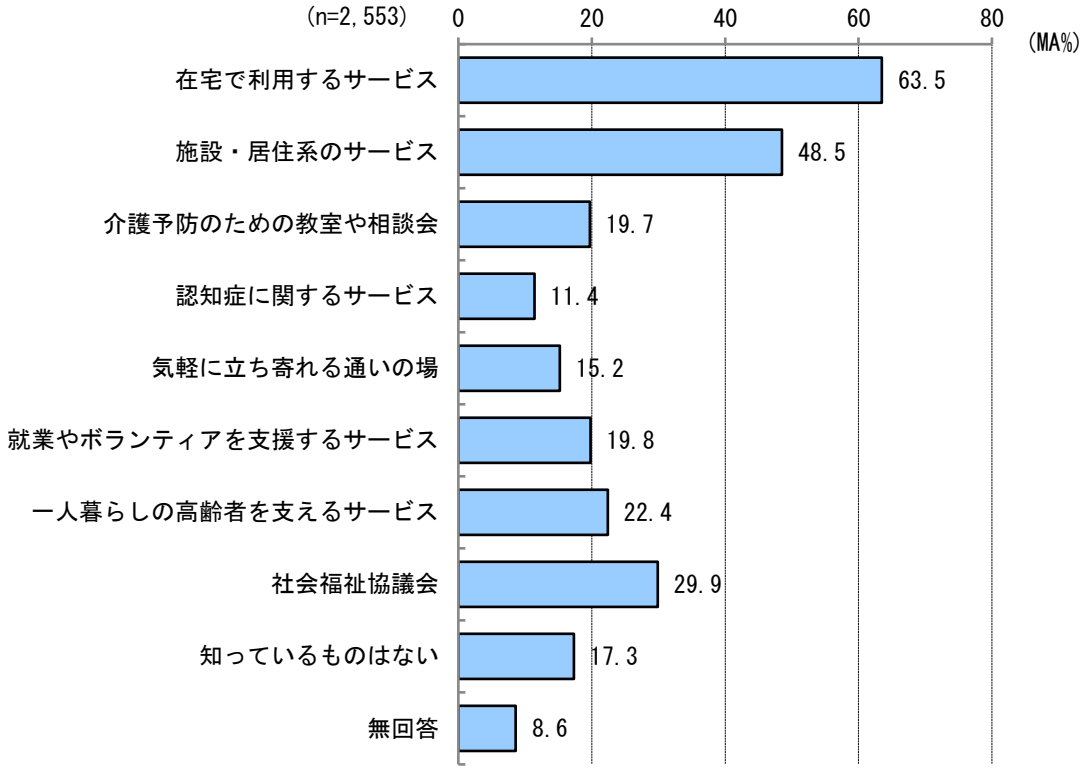
【図15-1-3　経済状況別　介護保険制度への評価】



（２）身近な地域で知っているサービス

問65. あなたは、あなたの身近な地域にどのようなサービスがあるか御存知ですか。
＜あてはまるものすべてに○＞

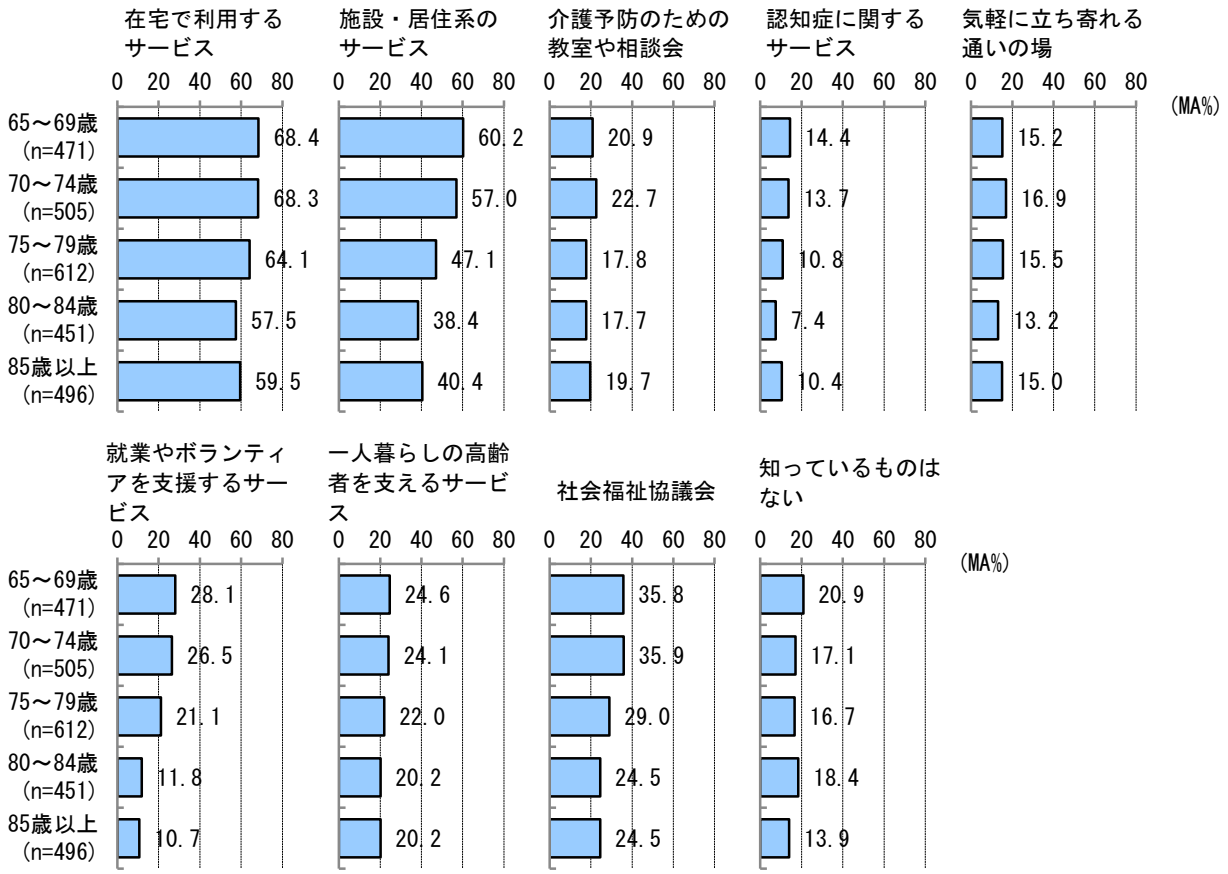
【図15-2　身近な地域で知っているサービス】



身近な地域で知っているサービスについては、「在宅で利用するサービス」が63.5%で最も多く、次いで「施設・居住系のサービス」が48.5%、「社会福祉協議会」が29.9%となっています。（図15-2）

年齢別でみると、「在宅で利用するサービス」、「施設・居住系のサービス」、「就業やボランティアを支援するサービス」、「一人暮らしの高齢者を支えるサービス」の割合はいずれも65～69歳が最も高く、概ね高齢になるほど割合が低くなる傾向にあります。（図15-2-1）

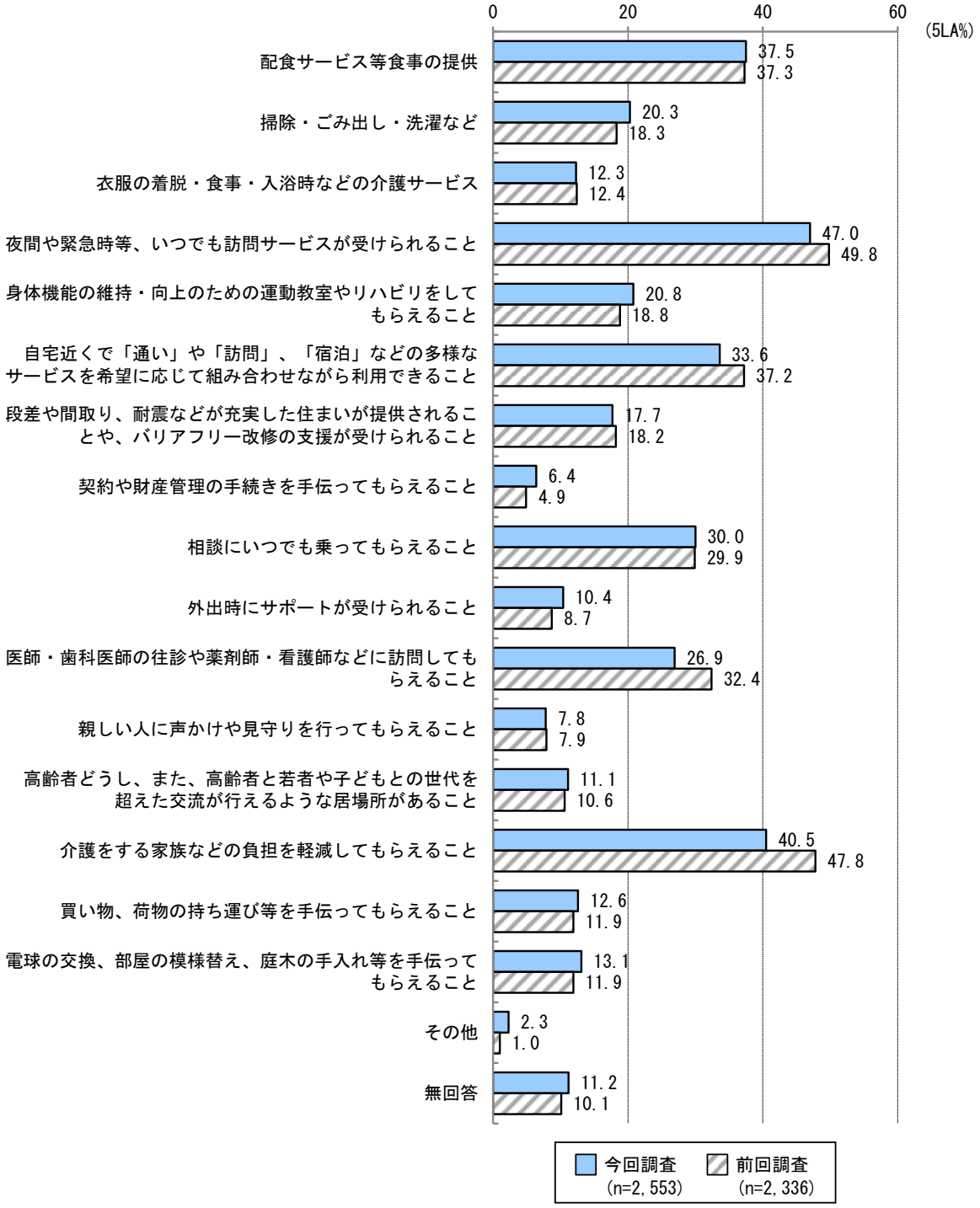
【図15-2-1　年齢別　身近な地域で知っているサービス】



（３）住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援

問66. あなたは、今後も住み慣れた地域で生活を続けるには、どのような支援を充実すべきだと思いますか。<○は５つまで。うち最もそう感じるものに◎>

【図15-3　住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援】



住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援については、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が47.0%で最も多く、次いで「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が40.5%、「配食サービス等食事の提供」が37.5%となっています。

前回調査と比較すると、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が7.3ポイント、「医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること」が5.5ポイント、それぞ

れ低くなっています。(図15-3)

年齢別でみると、70～74歳は「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が第１位となっていますが、それ以外の年代では「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が第１位となっています。次いで65～69歳と85歳以上は「配食サービス等食事の提供」が第２位となっています。(表15-3-1)

【表15-3-1　年齢別　住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援（上位５項目)】

（単位：5LA%）

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
65～69歳 (n=471)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 53.7	配食サービス等食事の提供 42.0	相談にいつでも乗ってもらえること 41.8	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 41.3	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 37.6
70～74歳 (n=505)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 47.0	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 46.6	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 40.2	配食サービス等食事の提供 35.9	相談にいつでも乗ってもらえること 31.9
75～79歳 (n=612)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 47.1	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 42.6	配食サービス等食事の提供 36.6	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 33.3	相談にいつでも乗ってもらえること 31.5
80～84歳 (n=451)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 42.7	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 38.1	配食サービス等食事の提供 36.7	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 31.8	相談にいつでも乗ってもらえること 25.6
85歳以上 (n=496)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 44.1	配食サービス等食事の提供 36.3	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 33.2	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 28.8	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 25.2

家族構成別でみると、一人暮らし世帯及び夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上・64歳以下とも）では、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が第１位となっています。息子・娘との２世帯とその他の世帯では「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が第１位であり、次いで「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」となっています。（表15-3-2）

【表15-3-2　家族構成別　住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援（上位５項目）】

（単位：5LA%）

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
一人暮らし (n=658)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 50.0	配食サービス等食事の提供 37.2	相談にいつでも乗ってもらえること 31.5	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 28.4	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 23.5
夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上） (n=994)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 45.9	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 45.2	配食サービス等食事の提供 42.3	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 35.9	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 30.3
夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下） (n=103)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 53.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 51.1	配食サービス等食事の提供 37.2	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 34.3	相談にいつでも乗ってもらえること 26.0
息子・娘との２世帯 (n=362)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 53.2	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 46.5	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 34.3	配食サービス等食事の提供 31.3	相談にいつでも乗ってもらえること 28.1
その他 (n=408)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 47.7	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 43.3	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 36.3	相談にいつでも乗ってもらえること 33.0	配食サービス等食事の提供 31.7

要介護認定区分別でみると、要介護４を除く全ての区分で「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が第１位（要介護４では第２位）となっています。（表15-3-3）

【表15-3-3　要介護認定区分別　住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援（上位５項目）】

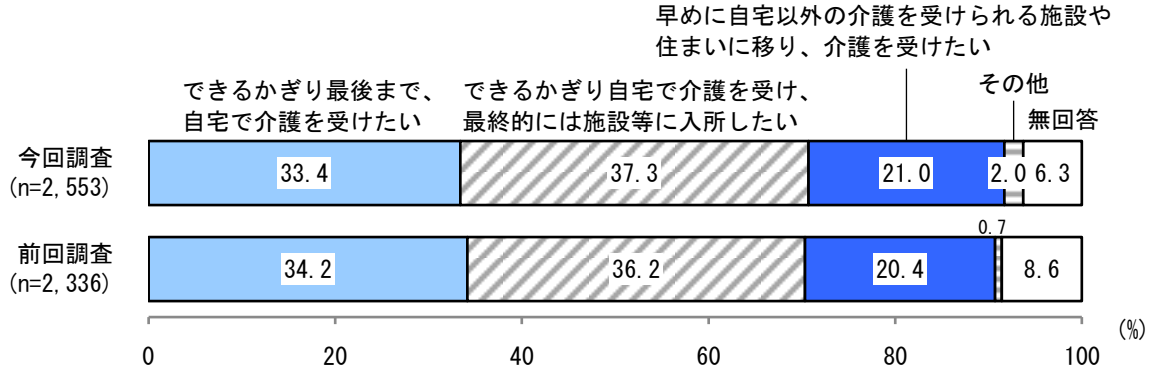
（単位：5LA%）

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
自立（認定なし） (n=1,839)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 47.4	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 42.7	配食サービス等食事の提供 38.6	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 36.5	相談にいつでも乗ってもらえること 32.8
事業対象者 (n=5)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 62.3	配食サービス等食事の提供 58.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 44.6	相談にいつでも乗ってもらえること 40.8	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス／自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 36.2
要支援１ (n=137)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 43.5	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 34.9	配食サービス等食事の提供 34.5	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 29.7	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 29.0
要支援２ (n=128)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 47.8	配食サービス等食事の提供 38.0	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 36.0	掃除・ごみ出し・洗濯など 24.5	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 24.4
要介護１ (n=115)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 48.7	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 35.3	配食サービス等食事の提供 35.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 33.7	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 30.4
要介護２ (n=119)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 49.4	配食サービス等食事の提供 38.2	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 31.9	掃除・ごみ出し・洗濯など 29.6	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 28.7
要介護３ (n=45)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 46.7	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 40.1	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 37.7	配食サービス等食事の提供 32.1	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 27.7
要介護４ (n=27)	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 53.1	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 38.9	医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること 35.0	相談にいつでも乗ってもらえること 28.8	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス 25.5
要介護５ (n=24)	夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること 37.0	衣服の着脱・食事・入浴時などの介護サービス 36.0	介護をする家族などの負担を軽減してもらえること 32.8	自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること 28.2	配食サービス等食事の提供 28.0

（４）介護が必要になった場合に介護を受けたい場所

問67. あなたはもし、御自身に介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか。
＜○は１つ＞

【図15-4　介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

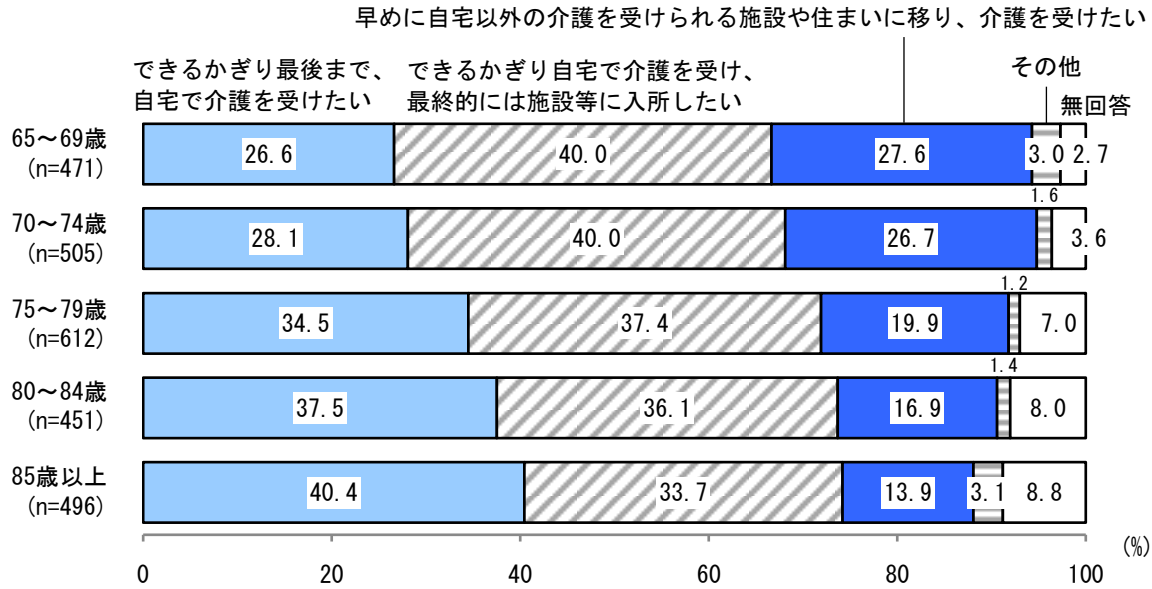


自身に介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいかについては、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が37.3%で最も多く、次いで「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が33.4%、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が21.0%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図15-4）

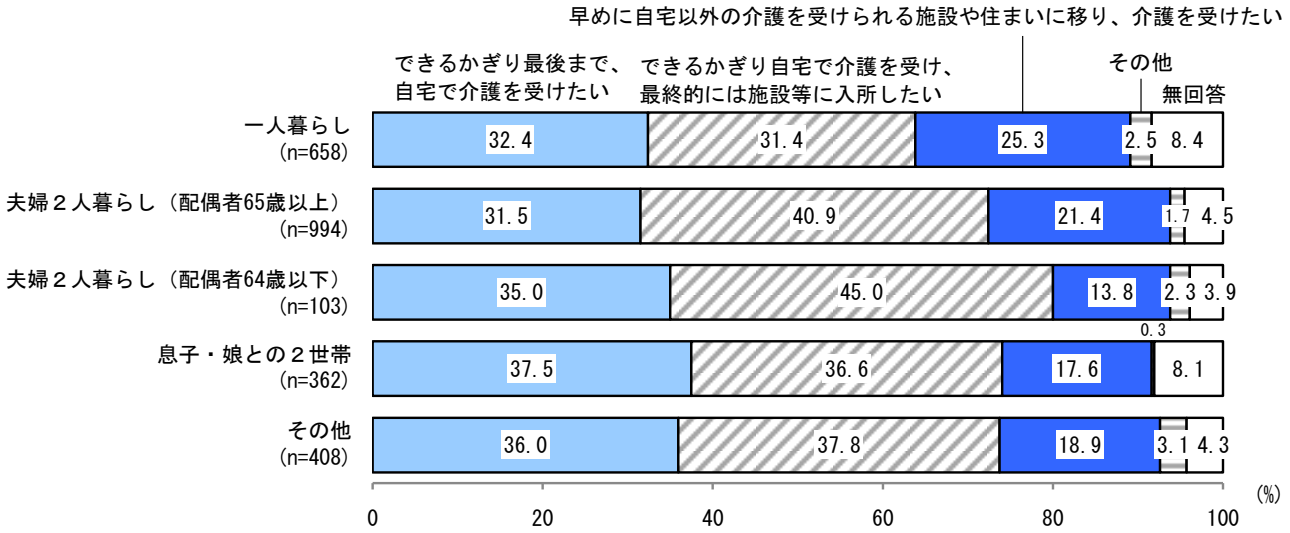
年齢別でみると、高齢になるほど、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」割合が高くなっており、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」割合は低くなる傾向がみられます。また、79歳以下の各年代では「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多い回答となっています。（図15-4-1）

【図15-4-1　年齢別　介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



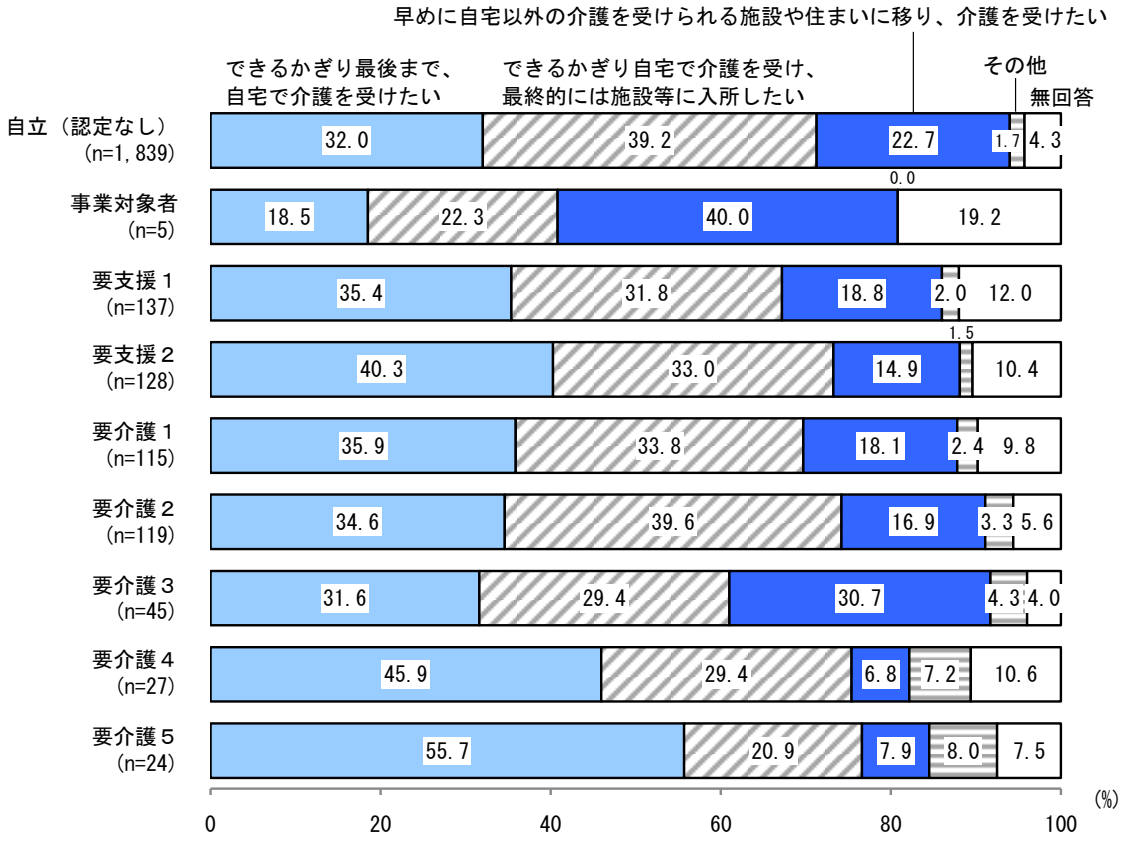
家族構成別でみると、一人暮らし世帯と息子・娘との２世帯は「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が最も多く、夫婦２人暮らし世帯（配偶者65歳以上・64歳以下とも）とその他の世帯は「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっています。（図15-4-2）

【図15-4-2　家族構成別　介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



要介護認定区分別でみると、要介護２は「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっていますが、要支援１・２及び要介護１、要介護３以上では「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が最も多くなっています。（図15-4-3）

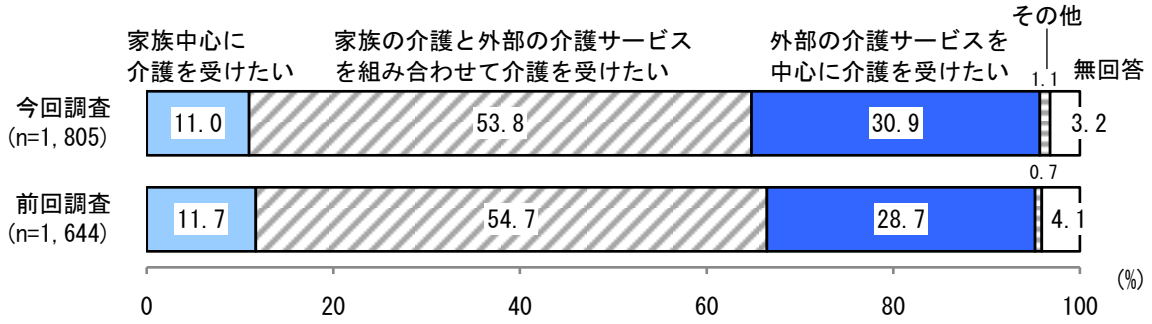
【図15-4-3　要介護認定区分別　介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



（５）希望する在宅の介護方法

問67－１．問67で「１．できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」又は「２．できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」と回答した方にお聞きします。どのような介護を希望しますか。＜○は１つ＞

【図15-5　希望する在宅の介護方法】

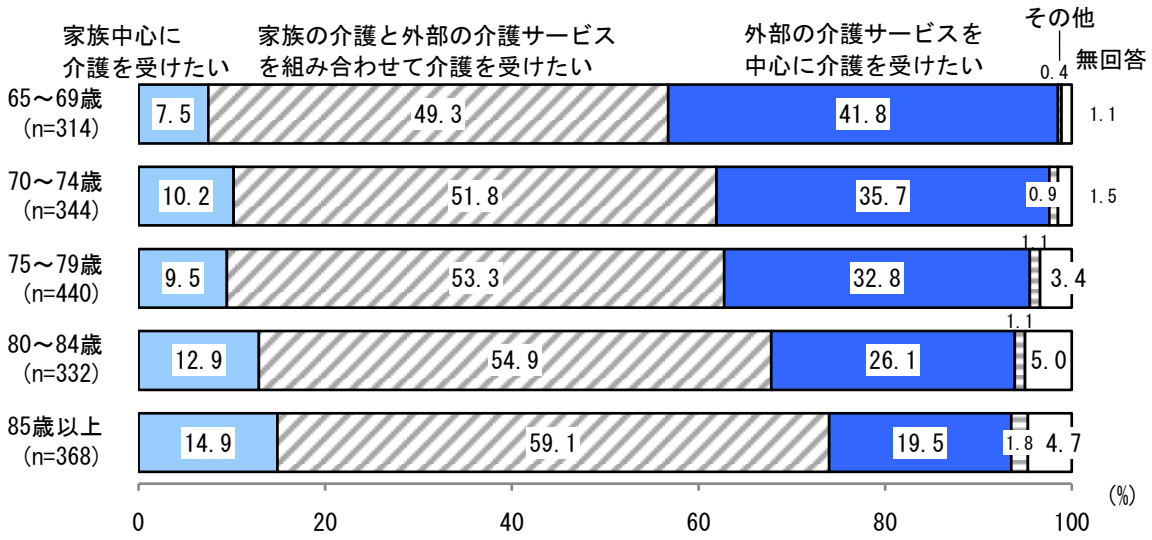


できるかぎり自宅で介護を受けたいと回答した人に、希望する在宅の介護方法をたずねたところ、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が53.8%で最も多く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が30.9%、「家族中心に介護を受けたい」が11.0%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図15-5）

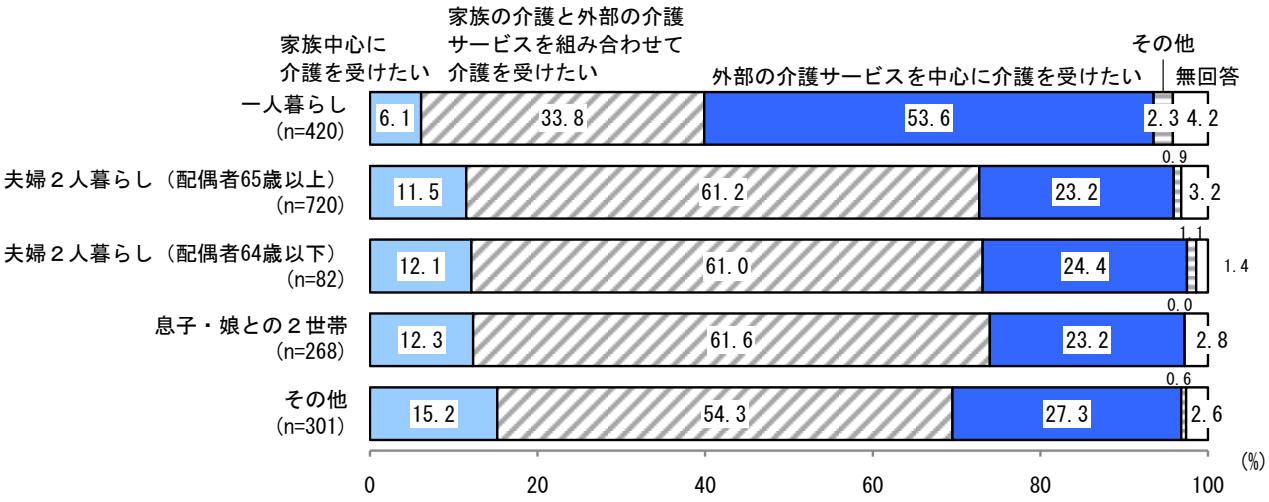
年齢別でみると、高齢になるほど、「家族中心に介護を受けたい」や「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」の割合が高くなる一方、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」割合は低くなる傾向にあります。（図15-5-1）

【図15-5-1　年齢別　希望する在宅の介護方法】



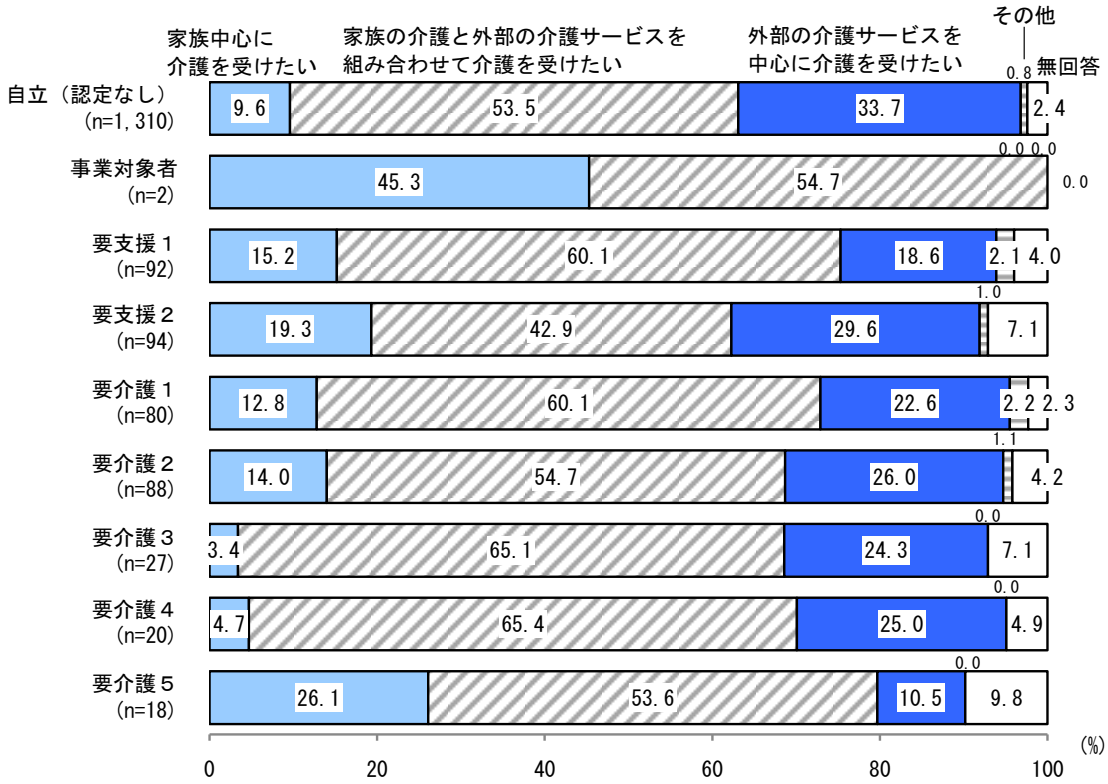
家族構成別でみると、一人暮らし世帯は「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が53.6%と最も多く、他の世帯と比べて20ポイント以上高い割合になっています。一方、同居者のいる世帯では「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が最も多く、夫婦２人暮らし世帯（配偶者65歳以上・64歳以下とも）や息子・娘との２世帯では６割台と高くなっています。（図15-5-2）

【図15-5-2　家族構成別　希望する在宅の介護方法】



要介護認定区分別でみると、認定者では母数が少ないので一概にはいえませんが、要介護５は「家族中心に介護を受けたい」が26.1%となっており、割合が高くなっています。また、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」の割合では、自立（認定なし）が33.7%で最も高く、次いで要支援２が29.6%となっており、要支援２～要介護４までは２割台となっています。（図15-5-3）

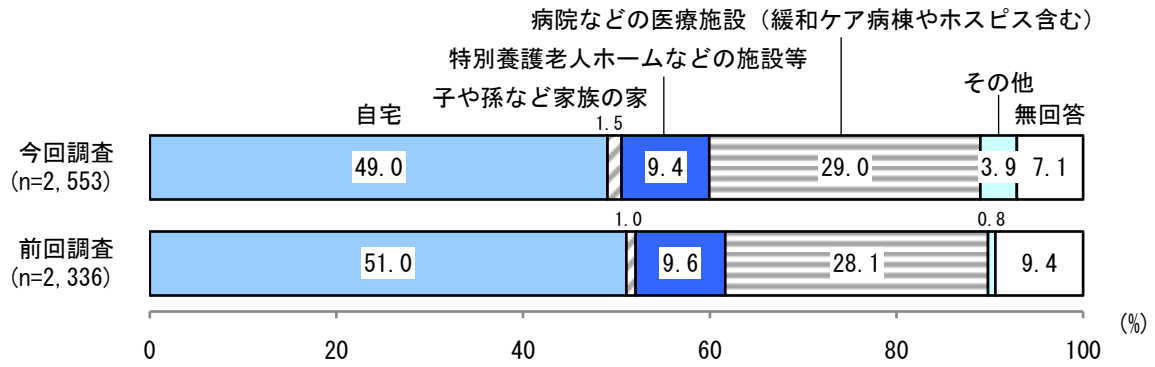
【図15-5-3　要介護認定区分別　希望する在宅の介護方法】



（６）人生の終末を迎えたい場所

問68. あなたは、どこで人生の終末を迎えたいですか。<○は１つ>

【図15-6　人生の終末を迎えたい場所】

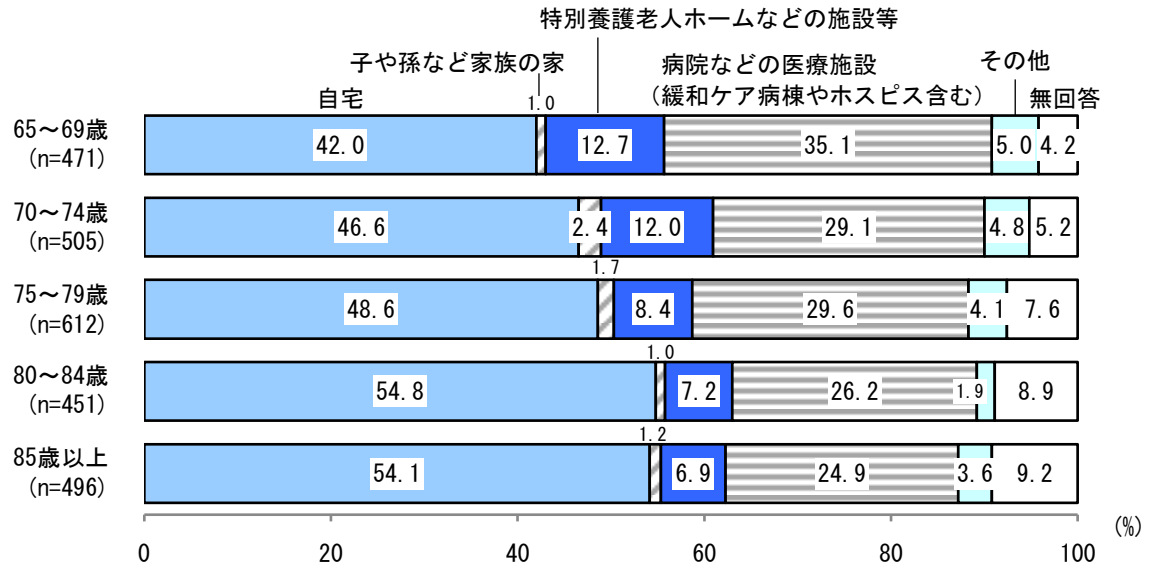


どこで人生の終末を迎えたいかについては、「自宅」が49.0%で最も多く、次いで「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」が29.0%、「特別養護老人ホームなどの施設等」が9.4%となっています。

前回調査と比較すると、「自宅」が2.0ポイント低くなっています。(図15-6)

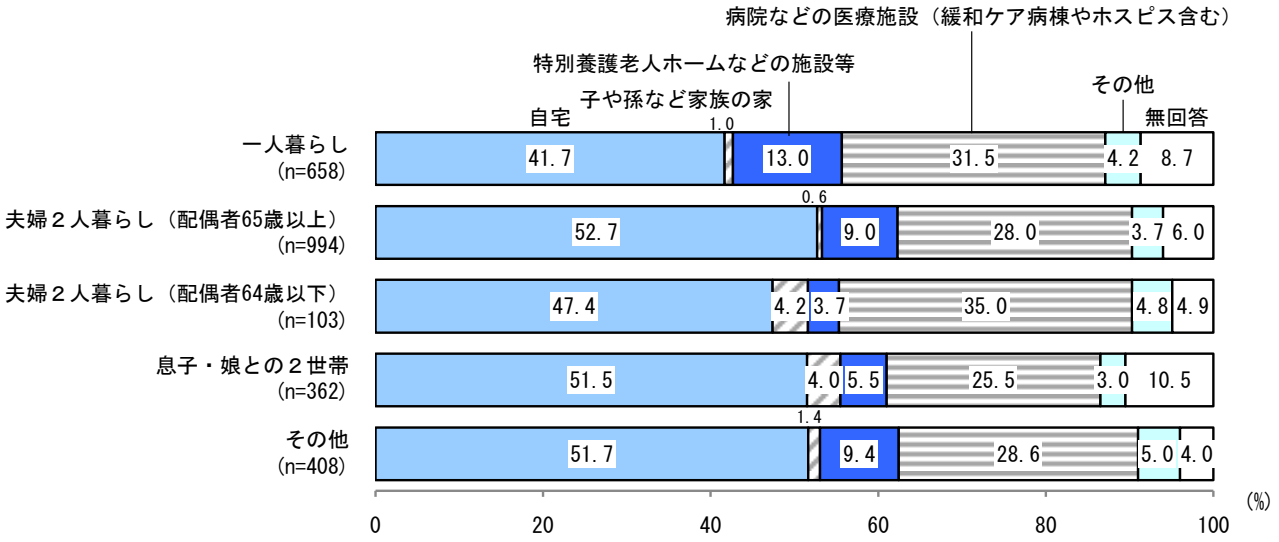
年齢別でみると、いずれの年代も「自宅」が最も多く、80歳以降になると５割台となっています。一方、「特別養護老人ホームなどの施設等」と「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む)」は、65～69歳（特養等　12.7%、病院等　35.1%）が比較的高い割合になっています。（図15-6-1）

【図15-6-1　年齢別　人生の終末を迎えたい場所】



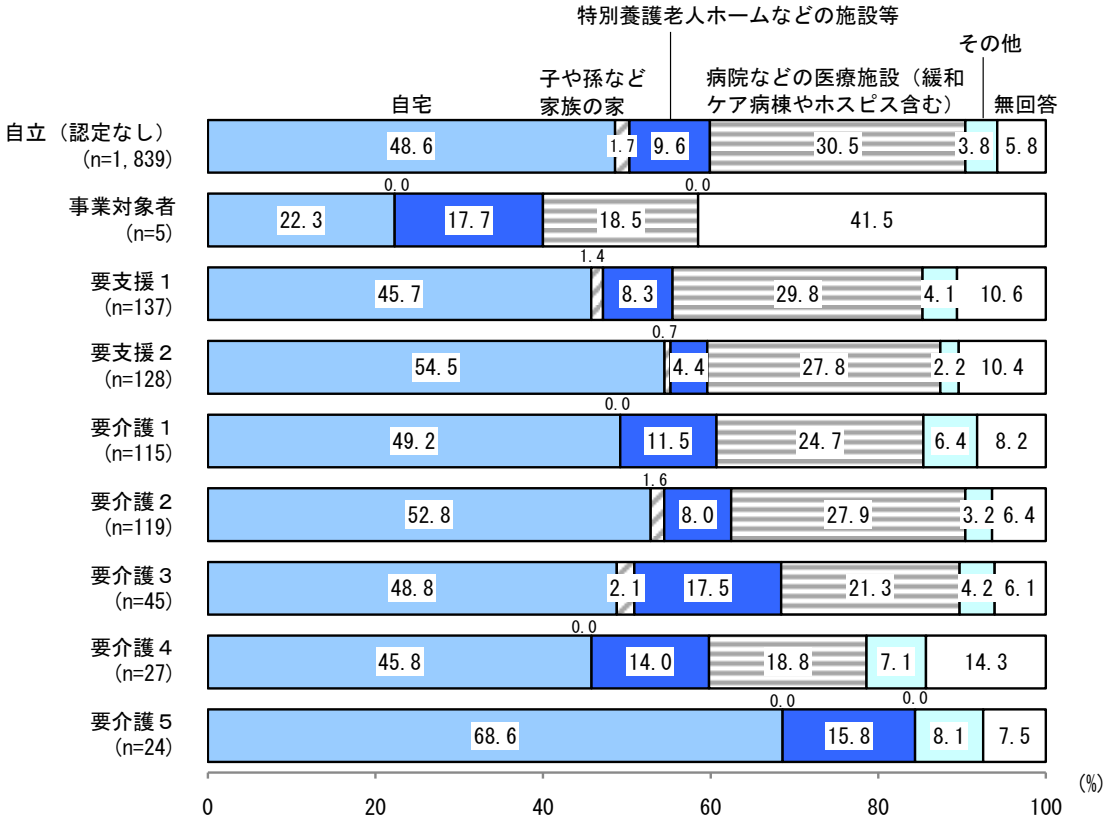
家族構成別でみると、いずれの世帯も「自宅」が最も多くなっていますが、一人暮らし世帯は同居者のいる世帯と比べて低い割合になっています。一方、「特別養護老人ホームなどの施設等」は、一人暮らし世帯が比較的高い割合になっています。（図15-6-2）

【図15-6-2　家族構成別　人生の終末を迎えたい場所】



要介護認定区分別でみると、要介護認定の有無などにかかわらず「自宅」が最も多くなっています。自立（認定なし）は「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」が30.5%となっており、要介護認定を受けている人より比較的高い割合になっています。（図15-6-3）

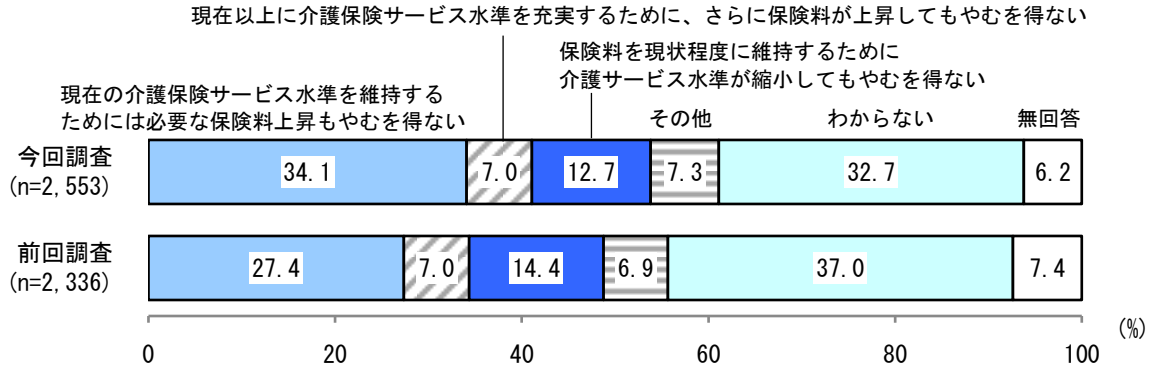
【図15-6-3　要介護認定区分別　人生の終末を迎えたい場所】



（７）介護保険料と介護サービスのあり方について

問69. 介護保険料は、介護サービス等の利用に必要な費用を基に算定しています。一人当たりが使う介護サービスが同じであっても、介護サービスを利用する高齢者数が増加すると、介護保険事業全体の総費用は増加し、保険料が上昇することとなります。あなたは、今後の介護保険料と介護サービスのあり方について、御自身の考え方に近いものは次のどれですか。＜○は１つ＞

【図15-7　介護保険料と介護サービスのあり方について】

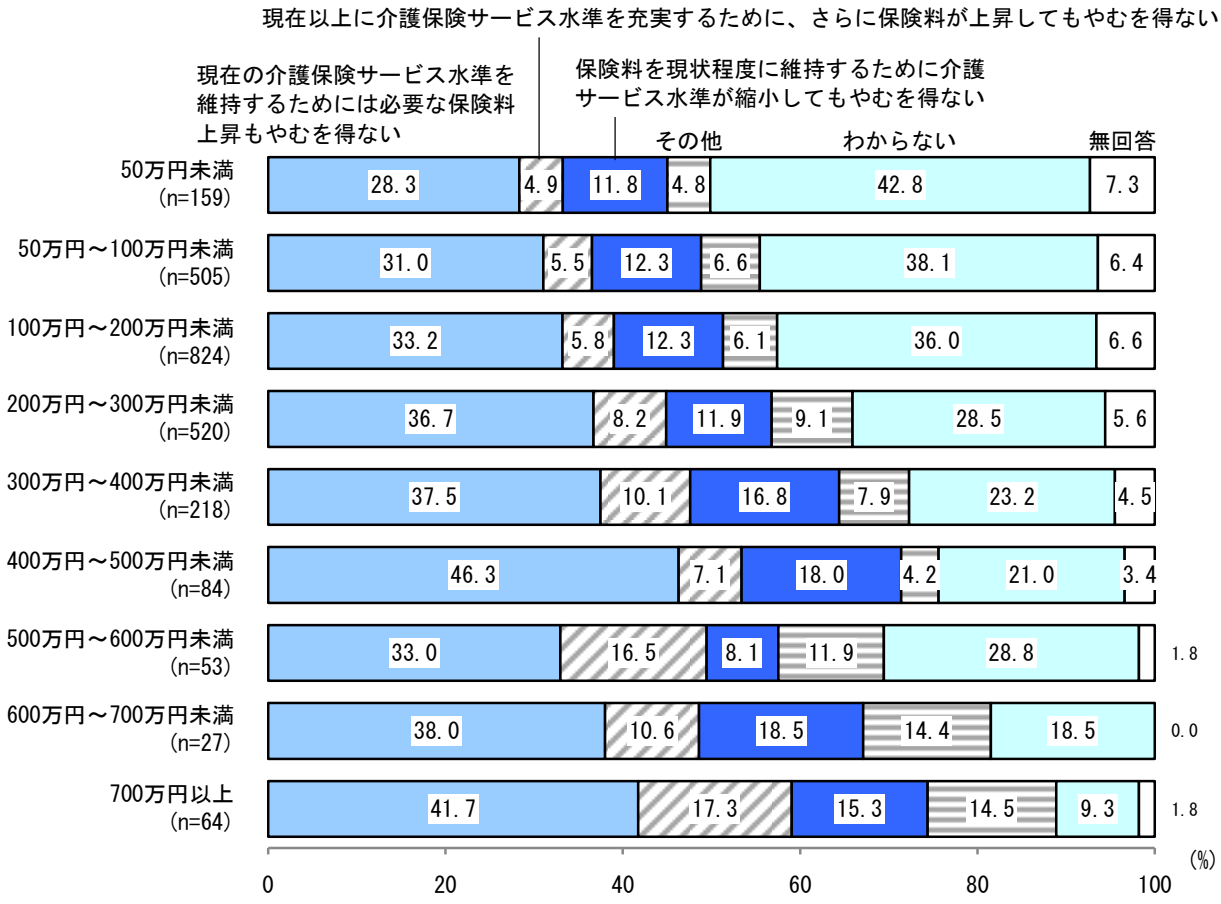


今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方については、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」が34.1%で最も多く、次いで「わからない」が32.7%、「保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」が12.7%となっています。

前回調査と比較すると、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」が6.7ポイント高くなっています。（図15-7）

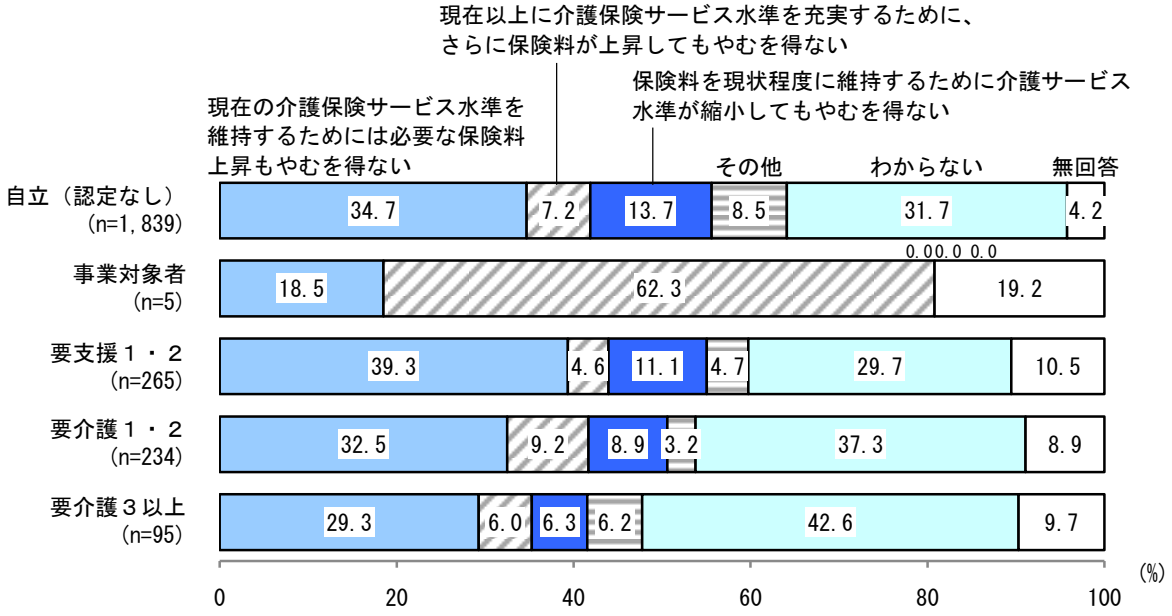
個人の年間総収入別でみると、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」割合は400万円～500万円未満（46.3%）と700万円以上（41.7%）で４割台と高く、「保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」の割合は600万円～700万円未満（18.5%）が最も高くなっています。（図15-7-1）

【図15-7-1　個人の年間総収入別　介護保険料と介護サービスのあり方について】



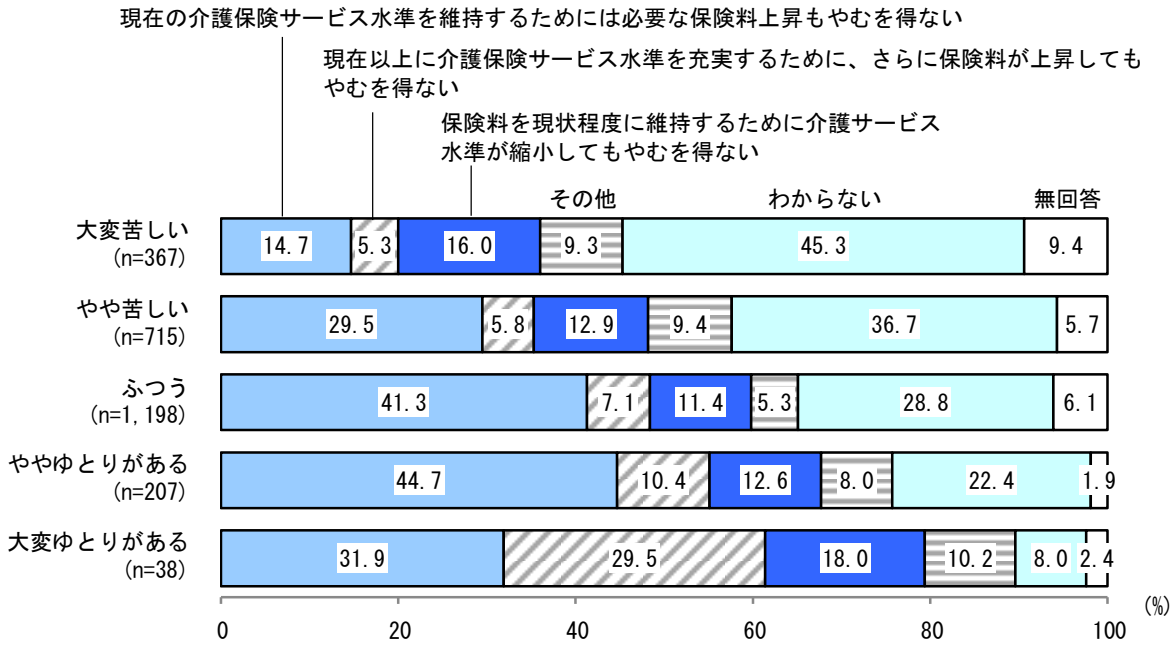
要介護認定区分（５区分）別でみると、認定者に比べて自立の人では「保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」の割合が高くなっていますが、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」の割合は要支援１・２（39.3%）が最も高くなっています。（図15-7-2）

【図15-7-2　要介護認定区分（５区分）別　介護保険料と介護サービスのあり方について】



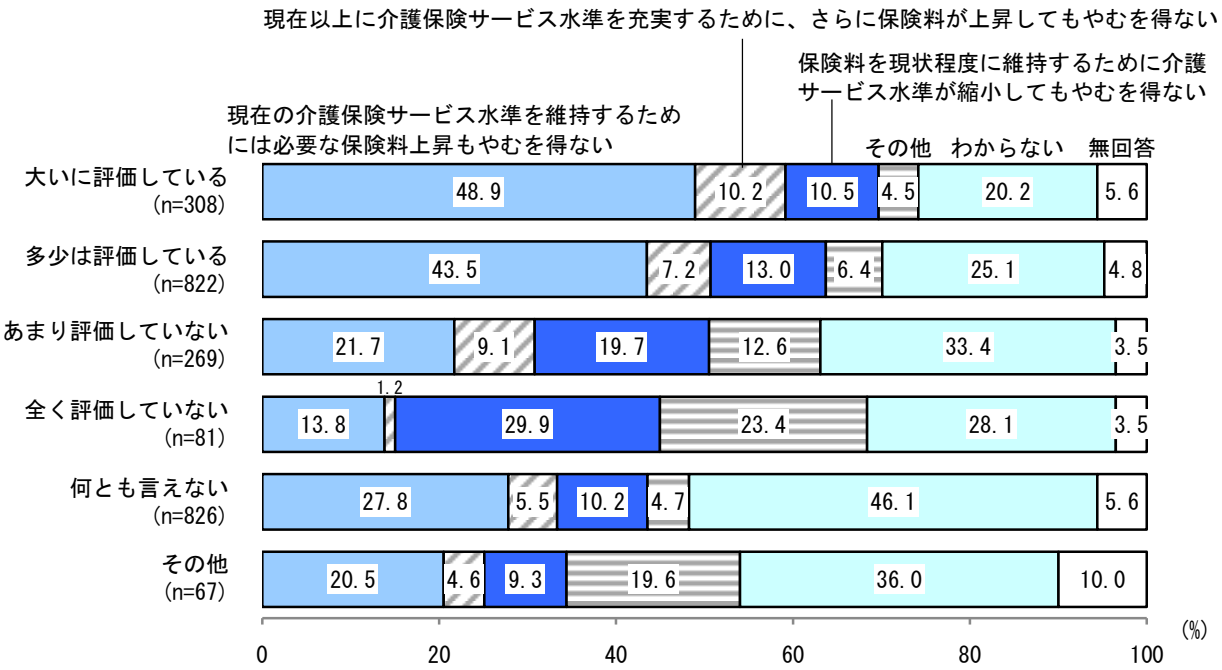
経済状況別でみると、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」割合は経済的にややゆとりのある人（44.7%）で最も高いですが、「保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」の割合は大変ゆとりがある人（18.0%）で最も高くなっています。（図15-7-3）

【図15-7-3　経済状況別　介護保険料と介護サービスのあり方について】



介護保険制度への評価別でみると、評価が高い人ほど「現在の介護保険サービス水準を維持するためには必要な保険料上昇もやむを得ない」と「現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、さらに保険料が上昇してもやむを得ない」の割合が高くなっています。一方、評価が低い人では、保険料の上昇する考え方より、「保険料を現状程度に維持するために介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」のほうが多くなっています。（図15-7-4）

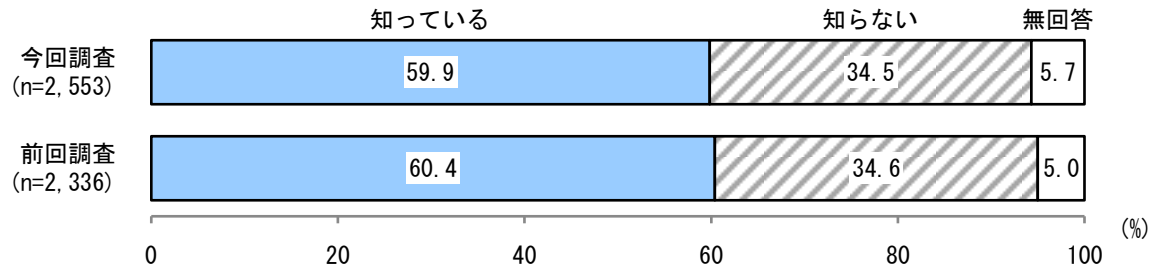
【図15-7-4　介護保険制度への評価別　介護保険料と介護サービスのあり方について】



（８）成年後見制度の認知有無

問70. 成年後見制度とは、認知症や障害などの理由で判断能力の不十分な人に代わり、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりする支援を行う制度です。あなたは成年後見制度を知っていますか。＜○は１つ＞

【図15-8　成年後見制度の認知有無】

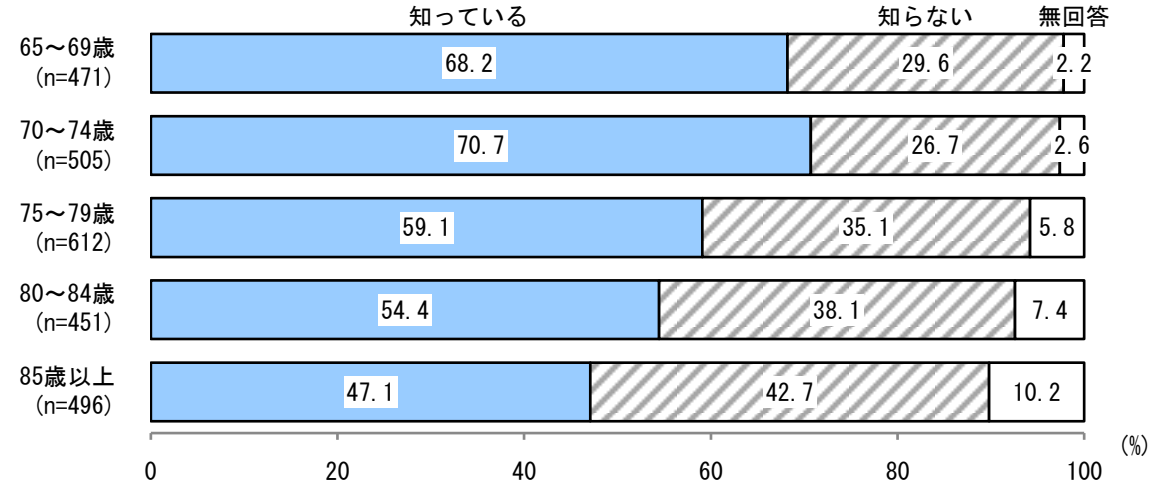


成年後見制度を知っているかについては、「知っている」が59.9%、「知らない」が34.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。（図15-8）

年齢別でみると、「知っている」割合は70～74歳（70.7%）が最も高く、75歳以降の年代では高齢になるほど割合が低くなっています。（図15-8-1）

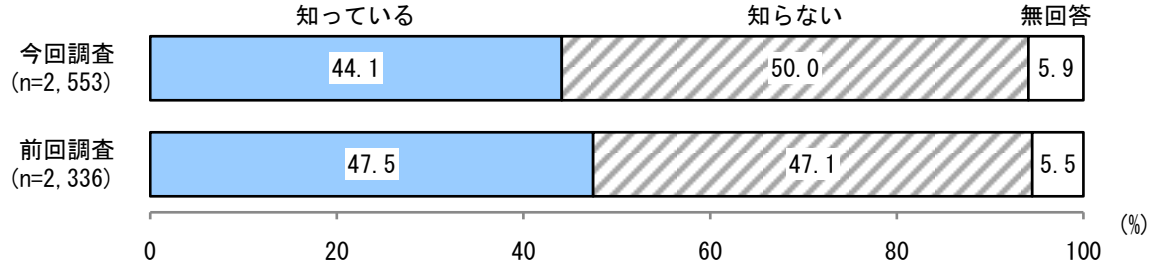
【図15-8-1　年齢別　成年後見制度の認知有無】



（９）任意後見制度の認知有無

問71. 任意後見制度とは、成年後見制度の１つで、判断能力がある間に、本人が選んだ任意後見人と公正証書で契約しておき、本人の判断能力が低下した後、契約に基づき、本人の契約行為や財産管理を支援する制度です。あなたは任意後見制度を知っていますか。
＜○は１つ＞

【図15-9　任意後見制度の認知有無】

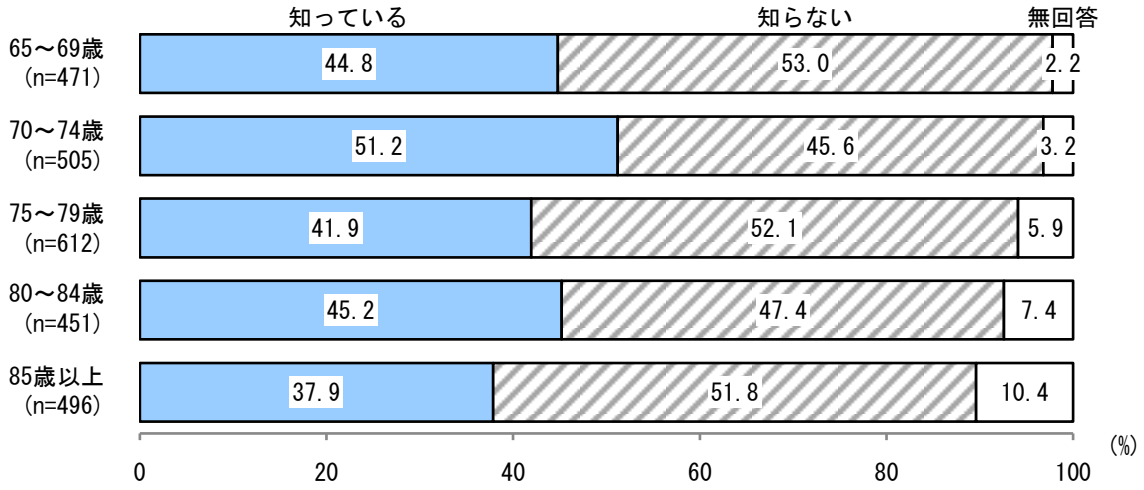


任意後見制度を知っているかについては、「知っている」が44.1%、「知らない」が50.0%となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」割合が3.4ポイント低くなっています。（図15-9）

年齢別でみると、「知っている」割合は70～74歳（51.2%）で最も高く、それ以外の年代ではいずれも「知らない」割合のほうが高くなっています。（図15-9-1）

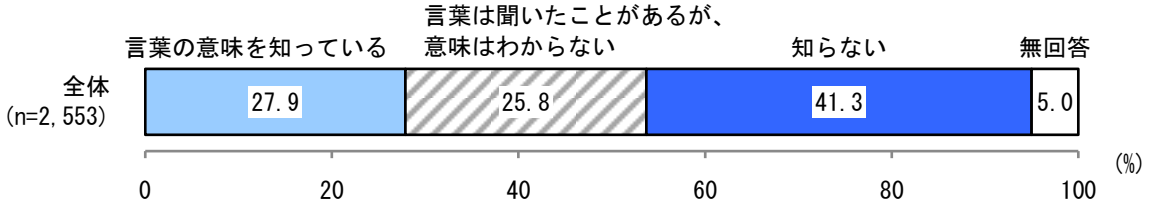
【図15-9-1　年齢別　任意後見制度の認知有無】



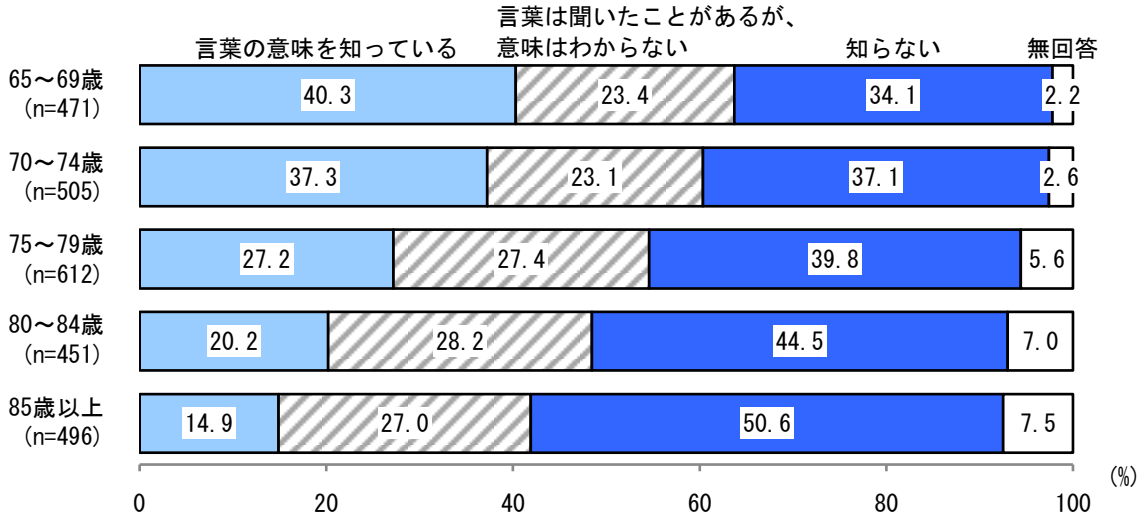
（10）ケアラーという言葉の認知度

問72. 本市では、令和６年１１月に「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」（ケアラー支援条例）を制定しました。あなたは「ケアラー」という言葉を知っていますか。
＜○は１つ＞

【図15-10　ケアラーという言葉の認知度】



ケアラーという言葉の認知度については、「知らない」が41.3%で最も多く、次いで「言葉の意味を知っている」が27.9%、「言葉は聞いたことがあるが、意味はわからない」が25.8%となっています。（図15-10）

年齢別でみると、「言葉の意味を知っている」割合は高齢になるほど低くなり、「知らない」の割合が高齢になるほど高くなっています。（図15-10-1）

【図15-10-1　年齢別　ケアラーという言葉の認知度】